人、印度人、支那人までも自分の事の様に快哉を叫んで、現に吉隆坡の如き鳳凰城陥落と聞いて日支人聯合の提灯行列すら決行された程であつたのである。日英同盟と云つても本當は極東の小弱國と輕蔑し切つてゐた、此處らの白人も遽に日本に對する認識を新たにした。印度人、支那人と同列にしか待遇されてゐなかつた在留邦人が始めて世界の一等國民として優遇され、殊に一般有色人種の敬慕の的となつて、カーキ服を着た華屋さんが鉄力製の駄章を胸に光らせて瓜哇から蘭領の島々を濶歩し、吹矢が非常な勢で南洋一帯の海邊山の奥まで入込んで、盛んに一握千金的の奇利を博したのも其頃であつた。日清戰爭後の發展は寧ろ聲のみ徒らに大にして實力殆んど伴はざりし結果、全く線香花火みたいなもので一時に開店した卸店も大概瞬く間に沒落して仕舞ふたのであつたが、今度は所謂有識者と稱する連中や虚業家の容想的發展でなくして國民自身の遠征であつたから、來るは〳〵裸體一貫南溟に遺利を拾はんとする無謀な男子が續々潮の如くに渡航し來つたのみならず、娘子軍の全盛時代も恐らく其頃が絶頂であつたらしく思はれるのである。明治卅九年華民保護局への登録數實に六百二十人に達し、まだその外に登録洩れの所謂モグリが相當ゐたのであるから、花街と女郎屋の繁昌振りの如何に物騒いものであつたかゞ想像されるだらうと思ふのだ。

9、其頃の在留邦商

娘子軍に寄生して南洋の邦人商店が發展したと云ふのは餘りに氣の毒な樣であるが、全く事實であつたから仕方がない。三井物産の新嘉坡支店が朝日麥酒の賣捌きを始めると矢ケ部商會も日の出麥酒や紙巻煙草ライトの東洋一手販賣を開始した。少し時代が遲れるが試みに四十四年頃各地にあつた邦人雜貨店を擧げて見る。新嘉坡に越後屋呉服店と小山同新店、日本商行、丸ト、長久、庄司、水野、福田、村上等の雜貨店と日本酒店あり、吉隆坡に松田、富木、長久支店コーラクブに森川、坂井及び長久支店、一保に朝日商會、市川、加納の諸店、彼南に山田、新田雜貨店あり其他馬拉加

芙蓉、カラン等苟くも日本娼妓の部落をなせる處雜貨或は呉服を鬻ぐ者之れ無きはなく、更に娘等の需要に應ずべく至る所に行商が入込んでゐたのである。而して更に技術を以て顯著なる發展をなせるものに寫眞業あり、新嘉坡に東郷、大坪、東洋の三館、マラツカに石井、スレンバンに栗田、吉隆坡に中島、中馬、一保に三笠、伊藤、奈良の三軒、太平に内田、彼南に岡庭寫眞館あり、特に中島、三笠、岡庭等は既に其頃相應外人間にも認められてゐたのである。其他時計修繕業として新嘉坡に副島、鈴木の兩店あり、賀川鼈甲細工店も亦一特色ある店であつた。尚一保に中村洋服店があつたし殊に日本人の職業として有望視されてゐた理髪業は當時既に開業十五六年の歴史を持つてゐた北見床を始め、松尾、高木、福田の諸店があつた。洗濯業も亦徒手空拳の渡南者にとつて有望な職業の一であつて、當時新嘉坡に小林、石井、森本、永田等の洗濯店があり吉隆坡、一保、彼南等にも邦人の此の職業に從事してる者があつた。

それからズツト以前はホテルと云ふ程の物はなかつたが安下宿の樣なものは隨分古くからあつた。馬來場には廿九年頃石原と云ふ宿屋があつて大井馬城が宿つてゐたし、康有爲に逢ふて宮崎滔天等が捕つたのは矢張り花街の中にあつた松尾旅館であつた。其後ミツドル路に密航宿として有名だつた鈴木の南洋館と云ふのがあり、北橋路に丸山の大和旅館があつたが、卅二年に本間旅館が出來、卅五年に今の碩田館が開業し、續いてネービホテルや都ホテル、播磨ホテル、高山ホテル等が海岸に出來たのであつた。半島には吉隆坡に敷島旅館と桝屋があり、カランに川原、一保にかえた、原田、タイピンに八幡旅館、彼南に田中、松尾の二軒があつた。

更に變つた營業としては播磨勝太郎氏の活動寫眞館と原田寅吉氏の櫻商會と云ふ一保の乘合自動車業及び米井虎一郎氏のメグイ島に於ける眞珠採集業あり、護謨園の勃興に伴ふて建築請負業が起り新嘉坡に渡邊庄七、吉隆坡に江頭又一などゝいふのがあつた。

ドクトルは中野氏を始め新嘉坡に西村竹四郎、佐藤有太、醫學士安達昌平、大貫公光の數氏あり、吉隆坡に佐竹逸藏

市原雲新、宇野瀧之助、スレンバンに高木龜太郎、一保に松竹勝次彼南に石井六郎氏がゐた。更に齒科醫は山本氏が始め新嘉坡に今岡豐三、古本豐之、平野艶藏、蔦田顯理、岩坪純太郎、本多助次の諸氏あり、吉隆坡に大河慶助、一保に浦田至德、サラワクに宇田重治氏が居り、藥房としては既に日本賣藥の支店があつたし、其他新嘉坡に回生藥房、江尻隆弘藥房、吉隆坡に良久藥房、トレンシンに諸戸藥房、ゴービンに坂本藥房、タイピンに藤井藥房があつた。

そして新嘉坡に共濟會や青年會があつた如く半島各地に夫々日本人の公共團體あり、彼南は青年會と稱し石井六郎氏會長たり、一保は弘隆會と云ふて松竹勝次氏が會長、スレンバンには弘道會があつて笠田直吉氏會長たり、吉隆坡にも厚德會と云ふ團體があつて各地と等しく同胞の共濟と葬祭の庶事を遣つてゐたのであつたが登錄を怠つてゐた爲め地方官憲から解散を命ぜられて終ふた。更に當時各地の中心人物と認められ勢力のあつた面々を擧げれば新嘉坡に三木多賀次郎、播磨勝太郎、小林千代吉、矢ケ部倉吉、高橋忠平、加藤鉦太郎の諸氏あり少壯中川菊三氏の如きは尤も將來を囑望されてゐたのだつた。それから當時女流の群をぬいで社會事業に熱心なりし東境せい子さんがゐたし、吉隆坡に松田三次郎、井上勝榮の二氏あり、芙蓉には謹厚なる笠田氏を助ける壯年敏腕の朝永誠三氏あり、カテンに木下彌一郎、西依德次郎兩氏、コーラクブに永田彌八郎、アンパンに大隅直太郎、一保には有名な山田豐三郎氏を初め市川鐵雄、加納信孝氏あり、彼南に山田末次郎、田中米五郎の諸君がゐた。

10、娘子軍時代の末路

然も流石に我世の春と全盛を旺歌してゐた娘子軍時代にも漸く衰調が明かに見えて來た。大正二年暮れ白人娼婦一齊に退去を命ぜられ、夫々尤も近い領事館の所在地まで送還されて、晝をあざむく軒燈に不夜城の榮華を誇つてゐた花街にも時ならざる暴風の襲來を思はすものがあつたのである。斯くて愈〳〵大飛躍の氣運に遭遇した我南洋在留同胞社會は

先づ其腐爛した毒血を絞り出して、愈〳〵眞劍に戰鬪準備を整へる爲めに突如一種の血淸療法を受けねばならぬのであつた。それは時の領事藤井實氏の英斷と政廳當局の荒療治に依つてゞあつた。アンシヤマトワンだとかニーサンなぞ云ふ聞きづらひ稱呼を半島の山奥、蘭領の島々のはてに至るまで聽かされねばならなんだ當時の有樣で、何うして在南邦人は世界大戰と云ふ千歲一遇の大舞臺に乘り出す事が出來たゞらうか。開國五十年に近き努力を以てして尙且つ婦女子を海外に輸出し、甘んじて賤業に從事せしむる以外殖産工業を以て世界人類の生活を向上せしむることに資すべき何物も無いとすれば、寧ろ日本人の存在は呪ふ可きであつたかも知れないのである。然も難きを避けて易きに就くのが人情の常である。まさか可愛い自分の娘を南溟の瘴癘に苦しませ肉を鬻ぎ血の涙を絞らせて唯一身の安逸を貪らんとする程の極惡無道の親も無かつたらうが、田舍娘の無智を喰物として比較的道義感念の薄い海外殖民地の不義の享樂にふけらうとするが如き者は少なくなかつたのだ。先づ內に之等徒輩を殲滅し努力奮鬪自らの汗に依つて新天地を開拓して行かふと云ふ元氣ある者ばかりにならねば、折角の機運をとらえても眞に日本の南洋發展は確實な基礎を築く事は出來なんだのである。況んや全盛を極めて醒むる事を知らない歡樂に醉ふてゐた花街にも裏面の暗鬪は絕ゆる事なく、二三有力者が新たに手を染め出した護謨栽培事業に投下された資本に對しても怪しむ可き風聞が切りに傳へられ、在留同胞の親睦和衷を標榜して廿年の歷史を有する共濟會の內部も腐敗し切つて、最早や表面の糊途ではどうにも遣つて行けない處まで形勢は切迫しつゝあつたのだつた。而して卅五六年頃から既に其落伍者や不平黨に依つて如何はしい珈琲店等云ふものが營まれ、當時北橋路にあつた五六軒のそれ等の店を壓倒し盡さんとした事が動機となり、此處に嬪夫狩りの大活劇が商賣がたきの密告猜排に胚胎して突如颶風の如くに所謂密航者の頭上に襲來したのであつた。暗闇の耻をさらけ出す事位はものかは降りかゝる火の子は何しても拂はずには居られないと互ひに訴へ、陷入れんとして藤井領事の大英斷により大正三年の春から五月頃までに追放された者、海峽殖民地と馬來半島を通じて殆んど百に近かつたらう。然も身

の程を辨へずに何處へでも出娑張るそれらの男は斯くて一擧に驅逐されて仕舞ふたのであつた。そしてラヽンが刈取られてから護謨の若樹がスク〳〵と延び育つた樣に、花街方面から如何はしい男が影を消して同時に堅實な在留邦人の發展が眞に目覺しい程の活躍を見せて來たのだつた。

11、藤井領事嬪夫追放

英領の法規は男子の女郎屋營業を禁じて居る。敢て表面のみならず裏面に於ける關係も許さない。然も日本人と云へば昔は直ちに賣笑婦を聯想せしめ帝國領事をすらアニシヤ・トワンと呼んだ者さへあるのである。隨つて當時妓樓に男子の寄生を已むを得ずと看過し嬪夫も亦怖るゝ政廳當局の寬大に狎れて終に世上に跳梁跋扈するに至つたのである。然し在留邦人の素質も變り地位向上して政治的にも商業的にも果た栽培事業方面にも目立つて發展して來て國違ひから邦人男子の總てが女郎屋のアニシヤマと思はるゝ如きは到底忍ぶことの出來ない侮辱であり、甚だしく邦人活動の支障となるものと認められ彼等の一掃が焦眉の急となつて來たのである。

大正三年四月或日の早朝特別命令を帶べる數名の刑事は靑天の霹靂的に邦人遊廓を襲撃して嬪夫の頭目四名を捕縛せんとした、內一名は早くも風を喰つて逃走せしも三名は逮捕されて監獄にぶち込れて仕舞ふた。彼等は護謨園主、齒科醫、雜貨店主と表面を繕ふてゐたが政廳のこの英斷に全く手も足も出す事が出來ないのであつた。遊廓は上を下への騷動で當の嬪夫はいふ迄もなく多少の關係を妓樓に有する者は蒼くなつて倉皇行李を收めて縄目を避け姿を隱して仕舞ふた。有志の奔走となり領事の活動となり遂に政廳當局をして「彼等が確に退去するならば强ひて投獄せずといふことになり一々寫眞（正面、橫、背面の三面撮影）を警察に殘して英領土を追放されたのであつて其數四十餘名に及んだ。

新嘉坡嬪夫退治の報四方に傳はるや半島各地の恐怖一方ならず、良心のまだ麻痺せざる者は直ちに業態を改め、逃げ足の早き者は何處へか姿を晦まして仕舞ふた。更にこの嬪夫征伐と同時に新嘉坡では以後新に娼妓の鑑札を下附せざる方針を決したのであつた。

12、廢娼問題斷行

邦人の護謨栽培事業勃興、歐洲大戰開始と南洋の天地にも時代の變調は滔々として押寄せて來つゝあつた。如何に女ならでは夜の明けぬ植民地と雖も、財產が出來れば體裁を飾り度くなるのである。大戰好況の絕頂時一夜に千金を蕩盡する遊興子もあつたが、既にそれは女郎屋でなくして料理屋の二階で藝者を揚げての散財であつた。然も大正八年の暮れ頃から景氣逆轉の兆候漸次歷然たるものがあつたが、よもや急轉直下全盛を極めてゐた日本の南洋發展が根底から覆へされ樣と誰が果して豫感し得たであらうか。戰後愈々堅實なる在留民の發展を期する爲めに九年正月、新嘉坡總領事館管下各地の在留民代表は山崎總領事代理より招集されて新嘉坡に集まり、斷乎年內に自發的廢娼を實行することを決議したのであつた。三十年の歷史と猛烈なる彼等の活躍は到底容易に其絕滅を强ふ可くもあらずと、ツイ數年前までは思はれてゐたのであつたが、歐洲大戰に依る堅實なる在留同胞の發展は內容の改善と面目の向上を痛感する事一層痛切なるものあり、到底彼等の存在に依つて受くる輕侮に甘んじ、爲めに着實なる發展がともすれば動搖せしめらるゝ如き事あるを忍ぶ能はざるに至つた結果であつたに相違ない。各地代表は當時進んで此至難なる事業に當らん事を何れも欣然として決議したのであつた。尤も彼南は旣に其前年度末廢娼を斷行して居り、新嘉坡も亦各地に先達ち同年六月一杯で斷然廢娼を決行する事を聲明し兎も角も二百有餘の公娼を全部撤退せしめたのであつたが、支那人の排日貨運動に依つて慘憺たる悲境に陷入れられた上、護謨價無前の暴落に逢ふて極度の不景氣に襲はれつゝあつた半島各地の實情は、斷乎たる態度に出でし約束の廢娼を決行するには餘りに甚しい慘狀を呈してゐたのだつた。

新嘉坡と彼南は開戰と同時に白人娼婦の撤退に連れて一切新規の開業を承認しなかつたのであるから、さしも全盛を極めてゐた其醜業區も漸次衰運の顯著なるものあり、殊に在留同胞の財力が充實してゐたから比較的絶滅は容易であつたが、何しろ尚千五百に餘る娼婦を擁してゐた馬來半島では斯如簡單に一擧解決すると云ふ譯には行かなんだ事情があつたのである。娘子軍の全盛を極めてゐた頃は蘭領スマトラのメダン附近等を加へて、當方面一帶に活躍しつゝあつた彼等の實數は六千に餘り、年優に一千萬弗からの稼ぎがあつたのであるから其財的勢力侮る可からざるものあり、殊に四十年近い歴史を有して居るのだから經濟關係の錯綜せる事實殆んど想像以上であつたのである。然も彼等の奮闘は要するに不健全であり、收入の大部分は當然浪費さる可き性質のものであつたから、其目覺ましい活躍に顧みて何等殘さ れた事業の無かつたのみならず、寧ろ莫大な債務を彼等は所謂チッテなる印度人の金貸業者等から負はされてゐたのであつて、容易に動かれない內情がそんな處にもあつたのである。だから醜業婦其者の驅逐は單に在留民の態面を修飾すると云ふに止まらず、經濟方面にも直接痛痒を感ずることとさして深くはなかつた筈であつたが、間接に其收入を融通して貰ふてゐた方面——殆んど半島在留邦人の大部分が爲めに蒙むる影響は實に甚大なものがあつたのである。支那人のボキコツト、護謨價の暴落、極端な不景氣にかて、加へて廢娼の斷行と來たのであるから、將に半島在留同胞の多數は全滅の悲況に直面させられてゐたのだつた。

廢娼斷行代表會の出席者

大正九年一月四日山崎總領事代理の招請に應じ、廢娼問題を協議すべく新嘉坡に集つた各地日本人會代表は廿九名で

彼南　會長　岡庭喜惣治　副會長　長田利明　理事　荒木竹三
マラツカ　會長　彦坂正義　理事　筒井信吉
ケダ州アロスター　會長　田邊吾一　理事　佐藤源次郎
ペラ州タイピン　會長　內田鐵吉　副會長　下山均　理事　遠藤良助
同　一保　會長　水上庄太郎　理事　山田政記　理事　小岩井靖
同　テラカンソン　代表　諸戸末松　支部長　桑山定省
同　チツテワン　代表　川原忠吉　副會長　朝永誠三
セランゴール州吉隆坡　會長　佐竹逸藏　支部長　松永麟五郎
同　コーラクベ　支部長　長谷川義男　會長　野村勇
同　カラン　支部長　桑山定省　理事　明坂安治　理事　濱口友彦
ネグリスミラン州芙蓉　副會長　朝永誠三　支部長　松永麟五郎　會長　野村勇　理事　明坂安治　理事　濱口友彦
同コーラピラ　支部長　松永麟五郎　會長　野村勇　理事　安田隆治
柔佛バル　會長　野村勇　理事　安田隆治
同　バトバハ　會長　佐々木亦二　代表　山崎政吉
同　モア　代表　谷由輔　代表　山崎政吉

新嘉坡側は同會長宮下龍藏、副會長中川菊三、理事大塚伸二郎、古藤秀三、高木復亨、竹內精一、木村增太郎、星崎猛夫及び佐藤栽培協會幹事の九名でバトバハの佐々木氏を座長とし四日に亘る論議の結果尤も圓滿に自發的廢業を決議したものであつた。

13、新嘉坡の女郎屋と孃夫の引揚を送る

南洋娘子軍なる名を何時の頃誰が稱へ出したかを知らないが、二六新報に黑龍會や參謀本部や洲崎の大八幡樓の主人

公であつた中村傳藏氏等から材料を貰ふて「南洋娘子軍」なる題目で當方面の娘さんの事を連載してゐたのは明治三十三年秋から三十四年の夏頃までの事であつた。當時既に馬來半島からメダン地方にかけて約四千の娘子軍あり、年々五百以上の補充が何うしても必要であると云ふ樣な事まで書いたと覺へてゐる。殊に其頃は南海先生の康有爲が新嘉坡に抑留されてゐた爲に宮崎滔天が態々逢ひに行く、福本日南も亦出掛けると云ふ騷ぎで、私の若い血汐を沸き立たせた事は頗る非常なものであつた。遂に孫逸仙の擧兵に參加すべく用意をしてゐたのであつたが目的を達しなんだ等が原因で結局今日までブラ〳〵浪人生活をする事にもなつたのだけに、私の方から云ふと隨分久しい南洋娘子軍とは馴染であつたのである。其後更に長崎の出雲町にゐた俠客丹波屋の親分と懇意になり、益々當方面の詳細な實況を親しく聞く事を得て愈々一度は自分も渡南して見やうと云ふ氣になつてゐた折りから、妙な事で此處とは特殊な關係を持つてる岩本千綱氏や宇都宮太郎中將や梅屋庄吉氏等と交際する樣になつて、遂に大正四年の春南洋まで流れて來る事になつたのであつた。

然し私の新嘉坡に來た時は既に娘子軍の勢威はとくに盛りを過ぎてゐたのだつた。最も前年所謂ピンプ退治があり、醜業關係の男が全部逃出した爲に殘つた女將は勢ひ途方に暮れて居ると云ふ有樣で、澁谷や二木等云ふ頭株は死んでゐたし、十三軒からの女郎屋を持ち百人も娘を抱へてゐたと云ふ一保の山田すらもう見る影もない程寂漠に歸してゐたのであつた。然し外觀から見る景氣はまだ〳〵素晴しいもので、晝を欺くナンバー入りの軒燈輝くカキリマに友仙モスの派手な店晴着の胸を張り、黃い聲を振絞つて盛んに通りすがりの漂客を呼立てゐたのであつて、勿論其時はまだ白人の娼家も軒を列べてゐたし、其繁昌振りは確かに新渡航者の目を驚異せしむるに十分であつた。然し事實はもう其頃から花街は既に魂を拔かれた拔殼であつたのだ。私に云はすれば藤井領事のピンプ退治其場が既に南洋一帶の娘子軍をまとめて行く事が出來る人間を失ふた結果であつたのである。丹波屋が死んでも多田龜が生て居りさえすれば勿論南洋娘

子軍は一糸亂れず勢威を失墜する事なくして今暫くは繁昌を續けて行くことが出來たかも知れないのであつた。然し時勢をどうする事も出來ないのだ。丹波屋死んで一年もたゝない中に多田龜が西伯利亞で非業の最後を遂げたのは結局運命であつたらう。多田が死んではもう丹波屋の後を繼ぐべき腕のある者は何處にもゐなかつた。喧嘩力の強いのや相當理屈の言へるのならゐない事もなかつたらうが、前途が見へて居るのであるから目先きの見へる者は來はしない。隨つて私は現在殘つて居る女將や蔭に隱れて居る二三の男を知らぬでもなかつたが、心密かに撒廢が何時誰の口から呼ばれるかを待つてゐた、然も其時は思ふたよりも案外早くやつて來た、誰の力と云ふよりも私は時勢の力——歐洲大戰に影響された日本の南洋發展がこの要求を齎したのだと信じて居る。同時に山崎總領事代理が機運の熟した事を鋭敏に觀取して機會を失する事なく、各地代表會議を召集して一氣に自廢決議をさせて終ふた果斷を心から讃仰せないで居られないのであつた。或は其遣り方に就いて異論をはさむ者があつたかも知れぬが、大勢には抗す可からず、內輪を云へば苦しい事は各地とも山程有つたに相違ないが、一言半句も代表者會議席上では不贊成を唱へ得る者はなかつたのであつた。女郎屋の存廢を道德問題や國家の體面から論ずるのは野暮の骨頂である。現代は何事でも先づ資本家の利害關係を基として計算されねばならないのだ。日本が一等國民として堂々土庫に事務所を開設し馬來半島でドシ〳〵護謨園を經營して居るのに、同胞である女が素足で通ふ國違ひの玩弄物となつて居るのを其儘に放置して居る事は出來なかつたに相違ない。今引揚げて行く女將とそして抱へ娘に對して私は萬斛の同情を持つて居る。諸君多年の營業が奪はれ世智辛い日本に歸つて行かねばならぬのは全く情ない事であらうが、國家の發展に伴ふ必然的結果であるとあきらめて欲しいと思ふのだ、御國の爲めだ諸君はしほ〳〵と追はるゝ者の如くに歸つて行く事は無いのである。過剩な國民は何れ何處かに掃き出されねばならないだらうから、例へ南洋一帶が諸君の生存を拒絶しても人間至る處に青山あり、自分がゐた土地が益々同胞の活躍に依つて繁昌して行く爲めであるから諸君も勇み喜んで引揚げて貰はなければならないだらうと

思ふのである。（大正九年六月記）

南洋情緒

雨にしめつた廓の跡を淋しがらせる晝稽古
通る人さへ昨日に變る堅氣作りの銀杏返へし
店を照らした灯りも消へて宵を淋しく鳴く守宮
歸る娘と見送る女將汗を流して泣くデツキ
日本歸へりを悲しく送る今日の出船を蒸す暑さ

月に忍んで主追ふ樹蔭露のしたゝる緋縮緬
醉はにや寢られぬ淋しい心醉へば泣きたい夜の雨
晴れぬ思ひに時雨るゝ空を何處へ行くや燕
戀の古疵秋めく雨にうづく思ひも懷しい

按摩から聞く南洋情話花街なごりの馬來唄
年增藝者と內地の戀を昔語りに飮むカトン
燃へて見へても淋しい夕陽いつか淚に暮るゝ磯
上の空飛ぶ雁待つ便り千里距てちや夢も見ぬ

花藻くづしの夏帶涼し浴衣水色伊達に着て
草の夜露に鳴く虫の音に思ひ出される秋の雨
露を抱寢の草花憎やゝもめ暮のわび住居
ほそる思ひに夜を鳴く虫に聞かせて遣り度いわしの胸
雨に滲んだやさしい文字の紅の封じ目とけた文
虫を聞きつゝ葉越の月に思ひ出される戀もある
思ひ出さじとまぎらす酒も醉が云はせる愚痴な戀
靡く心か月夜の椰子が濡れて芽に持つ露の玉
ほろりこぼした葉末の露も夢の涙にや滲む紅
おぼろ滲んだ月夜の椰子をちらすつもりか鳴く千鳥
ジョゲの鉦なる椰子林遠く波に唄聲きえ勝ちに
誰を松虫ふけたる月に夜長寢られぬ蚊帳のしみ
月の椰子林凉しく越せば戀のタナメラ灯がゆらぐ
月のケイロン舟の灯ゆれて朧繪のよにかすむ島
カツチ砧に月夜の磯は唄もはずめば氣もはずむ

千鳥はぐれて月なき海を何處へ歸るか泣いて行く
薄い桃色カパヤの下に紅の滲んだ瓜哇サロン
思ひとぐいた初夢嬉し人にや云はれぬ胸の內
樣に似顏の羽子板抱いて可愛や舞子の屠蘇機嫌

一九、花街の思ひ出

歐洲戰爭前には南洋で女郎や旦那持ち（洋妾）と云つた所謂醜業に從事してゐた日本娘がザツと四千人程もゐたであらう。新嘉坡の花街（マテイ街、マラバ街、ハイナム街）及びバンダだけでも四百以上の娘がゐた。殊にスマトラの煙草耕地として有名なデリー地方には千近い旦那持ちが婉然女護の島の觀を呈しつゝ肉に飢えた外人の要求に應じて其貞操を切賣し、或は年期をきめて仕切られてゐたのである。其他馬來半島各地は勿論の事、蘭領の島々から蘭貢、盤谷、西貢、トンキン、マニラと殆んど彼等の影を見ない處なく南洋の至る處に日本人の女郎屋町が立派に出來てゐた。そして長崎の丹波屋とか長田龜なぞ云ふ親分に依つて統卒され年々五六百人も新しい娘が補充としてロの津や門司の港から香港、新嘉坡へ誘拐されて行きつゝあつたのであつた。

香港渡し二百五十弗、新嘉坡渡し三百弗乃至三百五十弗が相場で、旅費雜用一切を差引いて一人頭二百弗近く儲かつたと云ふから少くとも十萬內外の金が年々誘拐者の懷中に這入つた勘定だから、當時彼等の仲間が如何に活躍してゐたかは蓋し想像に難くないだらう、のみならず長崎郵便局が取扱ふ南洋から彼女等が鄕里へ仕送る金だけでも年額二十萬圓以上に達してゐたと云ふから其全額に至つて必ず更に幾倍したに相違なく、その大部分を送り出してゐた島原、天草がためにどれ程富はされてゐたかは中々今頃話しても一寸眞實とは思へぬ程であつたのだ。

手鞠お花可愛やまだ十五
色で綾なすてん〳〵
屠蘇の機嫌の初失策におかし醉初め笑ひ初め
化粧くづれも艶めく酒宴汗の眼にしむ松の內

隨つて誘拐とは云ふものゝ、娘自身も親達も寧ろ進んで南洋へ連れて行つて貰ふことを彼等に懇願してゐた程だつた。殊に旦那に死別れたとか或は萬以上の纏まつた手切金を貰ふた彼女等の成功者が光り輝くダイヤやルビーの指輪を五六本も欲て突然歸つて來る様な事實が時にはあつたのであるから、其評判は忽ち狹い部落の空氣を極度に昂奮させて我れも我れもと南洋行きを若い娘に志願させる様になるのだつた。

勿論可愛い娘を遠い南洋へ身賣りさせる彼等の家庭が物質的にも精神的にも惠まれてゐよう筈はなかつた。天草の或る村で大膽にも公然娘の旅券下附を警察へ出願した者があつた。吃驚して懇々その不心得を說諭させようと態々巡査をやつたのだが、餘りに慘憺たる其家庭の實狀を見ては流石に巡査も同情に耐へず、却つて自身南洋行を世話して遣らねばならなんだと言ふ話さへあつたのだ。

何しろ兩親とも病身で思ふ様に働けない上、ヤツと十八になつた其娘を頭に七人の弟妹が破れ果てゝ雨露をしのぐことさへ出來ない小屋に飢えと寒さに顫へつゝ辛うして生てると云ふ有様だつたのだ。紡績女工等ではとても追着かない內地の女郎屋へ身賣したつて果して半年支へることが出來たらうか。恥や外聞なぞ云つて居られる場合でなかつた。巡査が同情して南洋行の世話をしたと云ふのだから餘程慘憺たるものであつたに相違ない。然も其娘は間もなく新嘉坡のステッツ花街で全盛を唄はれ月々缺かさず七十弗からの仕送りを六年も續け、スグの弟は汽船に乘つて運轉手の免狀を取つた其次の弟も電氣學校を出て相應の給料を貰ふまでになつたのだつた。

然しこんなのは勿論南洋でも珍らしい事で、出稼の娘は寧ろ一時の虛榮心に煽られ浮々誘拐的の口車に乘せられて來たと云ふのが多かつた。だから中には相應な家に生れた娘もゐたし、女學校の卒業近くまで行つた者さへ間々あつた。現に彼南には貴族院議員の妻君だつた人が女將をしてゐたし、假名書の名家として有名な〇〇氏の姪が馬來〇〇番のお職で特に海軍の將校連に持囃されてゐたなぞ云ふ話は恐らく今でもまだ忘れてゐない人が居るだらう。

斯くて新嘉坡を中心として南洋の島々、山の奥まで入込んで素足の馬來や不潔極まる支那苦力、さては眞黑な印度人さへ相手にさせて若い娘に血の涙を絞らせつゝ不義の榮華に耽つてゐた。日本人の女郎屋稼業も遂に大正九年の正月、時の總領事代理山崎平吉氏の勇斷で新嘉坡に召集された在留民代表者會議の協議に依つて、斷然自發的に撤廢することに決定した。そして彼南は其前年十二月限り、新嘉坡は其年の六月、馬來半島と英領ボルネオ一帶は同年一杯で兎も角も表面同胞の公娼は全部南洋から影を沒して仕舞ふた筈だつた。

猶蘭領では大戰の前年既に公娼は全然禁絶され、其後更に私娼の取締を嚴重にし、特に日本婦人の渡航を監視することになつてゐたので僅かにメダンやパレンバンやボンテアナ等に昔の名殘を辛うじて存する位に過ぎなんだ。然し國家の體面とか人道上から論ずればもとより問題にはならないが、端的幾千と云ふ醜業婦を一時に內地へ追返すと云ふことは到底經濟上不可能な事だつた。例へ自發的に公娼は廢業させても生るために或は性の必然的要求に餘儀なくされて、遂に私娼の跋扈を如何ともする譯には行かなんだ。況んや旦那の名で彼等が國違ひについてる者を今更ら引離して追歸すと云ふことは到底出來ない相談でなければならなんだ。

出稼女の草分

維新以降我國の海外發展が纖弱い女を先驅としてゐた事實は、甚だ日本男子に取つて殘念千萬だつたが今更ら幾ら悔んだ處が追着かない、淡路藩の稻田新之助は家老職の家柄に生れながら身を持ちくづしてマドロスの群に入り、御維新前亞米利加へ渡つて探索方等になつてゐたこともあつたが、後厦門を經て新嘉坡へ流れ込み一かどの顏役となつて神戶の名を賣り七十四まで長らへてゐた。

「先で俺等が日本人の草分けさ、御維新前にも一度新嘉坡に來た事があつた、其時分は毛唐だつて今の様に偉張つち

やねなんだぜ」

と老人よく自慢話をして居つた、神戸新が實際腰をすえて新嘉坡に落着いたのは何でも明治十六七年頃のことであつたらう、彼は井上外務卿の發給した旅券を持つて居た。

古い仲間の太神樂一座で居殘つた博多の婆さんもだから恐らく同時代であつたらう、サンダカンの名物女と有名だつた木下くに婆さんが始めて南洋へ渡航したのも女盛りの二十八だつたと云ふから、今から數へて四十七年前、矢張り其の頃であつた筈である、更に馬來のお豐婆さんなぞと現存してる連中がまだ二三人は確に居るであらうからとても男は偉張れない。

然し新嘉坡に初めて日本娘が出現したのはまだそれよりも一昔前だつたらしい、新嘉坡の丸の内とも云ふ可き土庫に近いジヤパンステレツは彼處で後年澁谷銀次の妻君になつたお安さんが芭蕉果を大道で賣つてゐたから出來た名だと傳へられて居る。だから日本婦人がそんな古くから新嘉坡へ渡航してゐたとしても彼等は決して最初から醜業を目的で來てゐたのでない事だけは確かに想像されるのだ、つまりは弱い女の境遇が餘儀なく肉を切賣りせねば生ては行かれなんだがためであつたに相違ない。

娘子軍の草分け横濱のお安が後年澁谷の妻君となつたお安と同人なのか或は全く別人だつたのか甚だそこらは朦朧たるものである。

祖國を去つて三千浬、東西全く知らぬ者ばかりの異鄉に來て賴む良人に死に別れた若い未亡人が遂に陋劣な男子の誘惑に引摺込まれて醜業婦の群れに陷ると云ふ事實は、必ずしも今でも珍らしいことではない。斯くして弱い女は外に生て行く方法が無いために遂に餘儀なく貞操を賣つて慘忍な男子の玩弄物たる事を甘んじて居たのだつた、況んや顚來同胞の誘拐師や嬪夫を生じて愈〻浮ぶ瀨の無い淪落の深淵に幾萬といふ哀れな娘が突落されてゐたのだつた。而して、今や

國威の宣揚と資本家の活躍に彼等の存在が甚だしく差障へるといふ、酷薄極まる理由に依つて犬の子の如くに南洋から追拂はれて仕舞ふたのだ。

何れは弱き者、汝の名は女である、せめて蹂躙られた彼等の遺體に一片の香華を手向けてやるだけの同情があつても好いだらうと思ふのだ。人間の運命は境遇に左右される場合が多いのだ、善惡を論ずる前に我々は更に一層運命に柔順であらねばならぬだらう。

我南洋娘子軍も斯くて五十年の歷史を殘して淋しく消えて仕舞ふたのであつた、枯骨空しく既に苔蒸して餘りに古い話は今更ら尋ねるよすがもない、明治十七年の朝鮮事變に遲るゝこと二年、新造軍艦浪花、高千穗が堂々旭日旗を檣頭高く飜へして英國から回航の途、新嘉坡に寄港した頃にはもとより日本人街なぞ稱すべき處はまだなかつたが、紀州沖で難破した土耳古軍艦の遭難者を乘せて軍艦金剛、比叡が寄港した時には既に五六軒の女郎屋がかたまつてゐたと傳へられて居る。

時の金剛副長上村大尉が後年日露戰爭で浦鹽艦隊を擊滅して威名を轟かせた提督が、當時一夜の契りを惜しんで態々彦之亟と署名した寫眞を置いて行つたのを、後生大事と持てる古い〳〵娘がスマトラの田舍にゐたそうだ。巴里の平和會議に特派されれ西園寺老公についで行かれた若い近衞公爵がつたのと好一對、無智で世間知らずの娘氣質は何十年といふ時の流れを超越して少しも變らず保持れてゐたのだつた、だが王公大將の尊貴さへ知られない天草や島原の百姓娘をして、誰でも男は卑しいもの、女の一顰一笑に靡かぬ者は無い筈だと自惚れさせるに至つたのは抑々誰の罪だつたらう、其處にすさみ切つた男の植民地氣質の一片があり〳〵と暴露されて居る樣にも思はれるのであつた、結局廢娼問題の根本は若い女の渡南禁絕に非ずして、男自身の覺醒に待たねばならないのだ、根本から新規蒔直しの南洋發展も確かりせねば危い。

花街の全盛時代

何と云つても花街の全盛は日露戰爭直後であつたらう、新嘉坡のハイナム、マレー、マラバの三街とバンダを加へて七百人に近い娘が店張着の晴手を競ひ、軒燈輝やくカキリマルバンコを持出し黃色い聲を振り絞つて盛んに客を呼び込んでゐたものだつた、勿論白人娼家も軒をつらね卑俗な手風琴の騷音に足どりたど〳〵しく夜の更けるまでマドロス連の唄聲とダンスの音で賑ふてゐたのである。

そして蘭領も其頃は爪哇、スマトラ、ボルネオと到る處に邦人の女郎屋が公許されてゐて等しく全盛を極めてゐたから幾ら娘を連れて來ても足らない程で西は蘭貢、カルカツタ、暹羅の盤谷から佛領印度支那の西貢、トンキン、ハイホンそれに新たに米領となつたマニラが又盛んに日本娘を歡迎する、濠洲のブルームまでも遙々乘込んで行つたのであつたから如何に當時誘拐團が活躍してゐたかは想像するのに難くないのである。

戰勝氣分に醉ふてゐた同胞は隨分山奥の片田舍にまで賣藥や雜貨の行商に出懸けたし、吹矢と云ふのが非常に流行つてボロイ儲けもあつたのだが、やつ張り女郎屋の景氣には到底勝つことが出來なんだ、スマトラのジヤンビは漸く叛亂平定して討伐軍の將士續々引揚げつゝあつたからでもあつたらうが、アタツプ葺の掘立て小屋に過ぎなんだ邦人の女郎屋が順番の來るのを待切らない兵隊の群に遂々引ツ繰り返へされて仕舞ふ程だつた、一晩に一人で五十人六十人と云ふとても信ぜられない程の客を取つた當時の全盛振りを未だに忘れ得ない古い娘だつて或は居るかも知れないのだ。

馬來半島でも錫で賑はふ一保附近の好景氣時代と來たら全く凄じいものだつた。

殊にメダンの煙草園が榮え石油坑が續々開發された當時の景氣と云つたら實に素晴しいものだつた。ロマテン氏の繁昌のみならず、若い白人に仕切られる彼の界隈一帶に所謂旦那持ちが瞬く內に千人を突破したのであるから、其等を顧

客とするメダン在留邦商の鼻息と云つたらなかつたのだ。だから女郎と云つても馬鹿にはされない、彼等娘が直接需要し或は客や旦那にすゝめて買はせる日本雜貨が卽ち當時の對南洋貿易で、九州の或村の如きは全く南洋へ送る櫻紙ばかりを年中漉てゐたのだつた。

然し全盛時代の馬鹿々々しいまでに榮えた景氣のことを回顧して見ると全く夢の樣な氣がするのだ、スエズを越え印度洋を乘り切つて幾週間振りかで新嘉坡に上陸したマドロスの群がすはるゝ樣に花街の紅い灯に引付けられたのは決して無理ではなかつたらう、然も彼等は殆んど一度や二度の登樓で其目的を達することは出來なんだ、それ程當時は客も詰掛けたし娘氣質も荒かつた、五弗の揚代金は必ず段階梯を上る前に取られるのだ、而して漸く寢かされたと思ふと大概は林檎の一個も食はされたばかりで追拂はれるのが常だつた。だからたまさか洋袴のポケツトから光りまばゆい金貨でもつまみ出して見せ樣ものなら態々朋輩女郎まで呼んで來る。女將までが乘出して卓子の下にバケツを忍ばせ片ツ端から麥酒をあけてはグデン〳〵に盛り潰す位は何處でも普通にやつてゐた。揚代金は娘と山分で飮物の利益は總て樓主が取るのであつたから、勢ひ客に澤山飮ませる娘が働き者として可愛がられてゐたのである。

又彼れ程金錢に穢い南京も女にかけてはのろいもので、幾ら到る處の花街が彼等支那人から多額な金錢を絞り上げたか殆んど想像すらもされぬ程であつたに相違ない。聽ては身受けの金を存分捲上げるのみならず、せつせと通ふ間でも結局娘の身のためには東家が一番好い客であつたのだ。

馬來人は持つてるだけをパツパと使ふ性質だけに田舍の客としては寧ろ日本娘に比較的好かれる素質を持て居るのだが、例の恐ろしい惚藥を使用すると云ふので兎もすると危險がられてゐた樣だ、特にパレンバン人は尤も物騷千萬で、先年三人も同地の花街で日本娘が殺害されたが遂に犯人は逮捕されず其儘になつて仕舞ふたのである。それから一番嫌がられてゐたのは體格の圖拔けて大きいバンガリー、裸足のキリンを客に取るのも最初はツク〳〵情けなく思はれたと

云ふのは蓋し僞らさる告白であつたに相違ない。

日露戰爭の結果浦鹽から西伯利亞の奥深く入込んでゐた娘が全部內地に引揚げたのであつたが、南洋の景氣を耳にしチツと田舍にくすぼつて居ることが出來ず、今度は熱い南洋へと河岸を變へて流れ込んだのも澤山ゐた。然も煙管一本あればどんな荒くれのロスケが醉ツ拂つてもビクともしなかつたと云ふ。胡沙吹く風に鍛え上げられ火の樣に强烈なウオツカでたゞれ切つてる彼等の侵入した事は、確かに素朴その物で溫順しかつた南洋の娘氣質に大なるショックを與へないでは置かなんだ。然もこの暴君にも等しいアバズレの侵入がいやが上にも新嘉坡花街の景氣を引立て番號入りの軒燈にどれ程光彩を加へたかも知れなんだ。白馬や三ツ星印のブランデーをあほつては腰つき怪しい露西亞ダンスを踊る日本娘の狂態を、印度洋の怒濤にもまれ抜いて來たマドロスが如何に喜び迎へたかは、想像するだに笑止千萬の沙汰だつた。

一人の客で一晩に四打の麥酒をあける位は珍らしからず、揚代以外に十弗や廿弗の小使を娘に呉れて行くのも少なくなかつたから、月々鄉里へ七八十圓づゝ送る娘はザラだつた。斯くて南洋へ南洋へと島原、天草邊の娘等の心をあほり立てたのも思へば悲しい昔語りとなつて仕舞ふた。

娘氣質と女郎屋の內輪

英領では華民保護局、蘭領でもスカオと云つて極く下層賤民の營業を取扱つてる役人に依て日本の女郎屋も亦取締られてゐたのだつた。だから花街卽ち在留邦人の全部だつた時代には一等國民だなぞと威張つた處で追着かなんだ。花街には一切電話を引かせない。若しも彼の界隈で暴漢に襲はれ負傷した處で、卑しくも紳士たる者が立入る可き處でないと云ふので警察は取上げないのである。それ程英領では醜業婦を公許してゐても特殊部落とみなして居たのであ

るから、日本人街卽ち花街と云はれた時代は情なかつた。然し流石に蔑視されつゝも衞生狀態は勿論のこと家の廻りに到るまで邦人街は何時も掃除が行屆いてゐたのを保護局の役員も認めてゐた。

黑繻子の襟の掛つた半纏を羽織、下はサロンをはつたゞ一種珍奇な風俗をした娘等自身が往來の溝まで每朝掃除してゐたのだつた。一體に南洋の邦人女郎屋は娘の稼高の半分を每日〳〵取上げるだけで、後は殆んど何等の干涉もせなかつた。外出も勿論自由、食事は大概五六人で一人の南京やつ張り自辨で、それは花街全體が共同して經費を負擔し、一人の外人ドクトルに委頼し一週二回づゝ診察を受け、必ず其證明書を所持して居らねばならぬことになつてゐた。

其上在留邦商と樓主の關係上絶えず着物や化粧品等も無理に買はされるのだから娘は中々〳〵小使がかさむのだつた。殊に田舍に行けば隨分法外な値段で押付けられるのであるから耐らない。先づ三年で前借を皆濟して自前になるのが普通だつたが、必ずしも男に入揚げずとも病氣にかゝれば到底借金は拔けなんだ。而して前借と云ふのは誘拐師へ支拂ふた以外、店張着はもとよりベツドから室の道具一揃ひも必ず買はされたのであるから、初店のそもくしから旣に千弗近い借金を全部の娘が背負はされてゐた勘定であつたのだ。それにしてもまだ其前借を返すのに三年が普通だつたと云ふのが不思議がられてゐたのである。

隨つて南洋の女郎屋稼業ほど呑氣で儲けの荒い商賣は一寸外には類がなかつた。それだから例へ國賊と呼ばれても惡魔外道と罵られても一度手を染めたが最後もう決して泥田から足を引拔かうとはせなかつた。

嬪夫と睨まれたら直ちに退去を命ぜられた。更に政廳の目をかすめて舞戻つてると知れたら有無を云はさず終身懲役と云ふ峻烈極まる法律がある事を承知で、彼等は圖々しくも可憐な娘の生血をすゝつて果敢ない榮華の夢を貪りつゝあつたのだ。領事夫人に向ふてさへ姉さん幾らかと冷かした土人があつたと、醜業婦問題を口にする人の總ては憤慨する

が、それよりも太い金鎖をこれ見よがしにダラリとさせ、大巾縮緬の帶をゆるく腰に卷きつけた嬉夫野郎が豪然一等車内にフンぞり返つてゐた當時の事を思へば冷汗覺えず背中を霑すものがあつたのだ。無智文盲な彼等に良心の有りや無しやを問ふのは或は無理であつたかも知れないが、尤も國家の威信を傷つけたのは哀れむ可き娘等にあらずして、實に是等女郎屋の寄生虫であつたのである。

然し幾ら田舍娘だと云つても餘りに物がわからな過ぎると確かに涙が出るほど腹立たしい事實もあつたのである。親の貧苦を救ふ可く吉原へ身賣りするのを孝行だと教へ込まれた德川時代の考へが何時になつたら果して拭ひ洗されることだらう。踏まれても蹴られても主人に對する義理だけは斷じてそむく事が出來ないと思ひ込んでる奴隷根生から解放されねば日本に遊廓制度はなくならないのである。英國の法律は醜業婦中の借金は總て足を洗へば消滅すると規定されて居るのである。然も誘拐されて來た上に不條理極まる借金を背負はされ、泣いて其日を暮しつゝ猶且つ政廳吏員を僞つても偏に樓主に對して義理立てをせねばならぬと思ひ込んでゐたとはよく〳〵南洋女郎は因果な生れつきであつたのだらう。

モアの或る女將は死んだ良人の兩親へ十何年も仕送りを續けてゐた。實に感心な婦人であると寫眞まで掲げて鄕里の靜岡新聞が書立てゝゐた程であつた。處で愈々廢娼斷行の時期も到來したから店をたゝみ娘等も連れて一所に引揚げたらと勸めたが、女將は怎うしても聞かなんだ。女郎屋を廢めたら老先き短かい兩親を誰が果して養ふて行くだらう。死んだ良人に對しても廢めて歸る事は出來ません。殊に良人の鄕里では眞逆女郎屋をして、金を送つてるとは知るまいから、愈々以て今の場合は歸れない怎うかも少し見逃して呉れと云ふて聞かなんだそうである。節婦か妖婦か、寧ろ記者は彼等を生んだ社會を呪ひ度くならざるを得ぬのである。

一保の佛人技師に仕切られ何不自由もなく暮してゐたみさをと云ふ美人、彼南から遊びに來た柔道教師に口說かれ、無理に主人に暇を貰ふて男の道場へ行つて見たらチヤンと妻君が控へてゐたので、ツク〳〵日本人の輕薄さに愛想を盡かし、折柄廢娼斷行で朋輩の多くが引揚げるのを幸ひと一所に鄕里の天草へ歸つた。處が兩親は非常に怒つてまだ幾らでも稼げる身體を持ちながら何のために今頃歸つて來た。そんな不孝者は家へ入れない。殊に女郎屋が無くなつたとすれば是れから月々仕送る事も出來ぬだらうから、一度に纏めて三千圓だけ工面して送らねば承知しないと怒鳴りつけたそうである。

仕方がないからみさをは又一保に舞戻り、親切な旦那の家へ歸つたのであつたが、然し三千圓をすぐ送る工面は怎うしてもつかなんだ。怎うなるものかと遂に心を鬼にして恩義ある旦那にピストルを差つけ自棄糞になつて三千弗を强奪して國へ送り、捨鉢になつて馬來の遊び人と一所になり、姉御氣取りで果敢ない其日を送つて居るのだつた。一途に醜業婦をのみ國辱だ、同胞の態面に泥を塗るものだと罵る前に記者は其親、其男の面皮をひんめくつて遣り度いと思はずに居られないのであつた。

女郎屋に殘る怪談

春秋二度の競馬に花街の娘が舞込んで出掛けるなぞ云ふことは殆んど昔はなかつたのだ。琵琶とか義太夫とか浪花節とかたまには遙々旅藝人が廻つて來る樣なこともあつたが、それも到つて珍らしい事だつた。だから三味線、生花扱は習字の師匠まで相應繁昌して退屈な暇潰しにあらゆる藝事を習ふことが流行つたが、そら猪鹿ですばい。にむろですたいと俗に六百券と云はるゝ長崎花をやるのが彼女等にとつては何よりの樂しみであり、又憂さ晴しでもあつたのだ。實に南洋各地邦人の居るところ英蘭領何處へ行つても六百券はよく流行つた。必ずしも花街ばかりでなく雜貨店や散髮店等の二階でも夜のふけるを忘れて每夜の如くに戰はれてゐたのである。然し娘の部屋で器用に卷て呉れる象印の煙草の

煙を濛々と立籠らせつゝ、ビールを煽り男も女も無中になつてそら小三光だ。鐵砲だと一生懸命になることが如何に常夏の南洋に相應しい樂しみであつたかは、親しく其場に臨んだことのない人には話した處が到底判らう筈はないのだつた。

還境其物が非常に單調であつたのみならず、何時も變らぬ氣候では自然と人の心も苛つかさるを得ぬのである。だから花街の娘はだらし無い生活に飽き果てゝ絶へず戀の相手を漁つて居るのだつた。然し初手から馬鹿にし切つてる南京や印度人では物足らない。例へ若くて金使の綺麗な白人でも種族的障壁は怎うしても撤廢することが出來なんだ。だから樓主が特に日本人の客を警戒すればする程娘等は一層勤氣はなれて持てなす樣になるのだつた。尤も古い時代には男の數も少かつたし花街關係以外と云つては殆んど居らなんだのであるから客として上る樣な者もなかつたであらう。唯除外例として寧ろ却つて歡迎されてゐた寄港船舶の乘組員が特に新嘉坡の花街に尤も濃厚な印象を殘してゐた所以も或は卽ち其爲めであつたらう。

實際お客として彼女等が同胞に接することが珍らしく思はぬ樣になつたのは、邦人の護謨栽培事業が漸く盛んになつて以來のことであつた。而して歐洲大戰で若い白人は殆んど引揚げる。寄港する遠洋航路船の大部分が日本船ばかりと云ふ樣になつて、新嘉坡花街の樣子はガラリと變つて仕舞ふた。それまでは全く日本人のお客の前に出ることをすら非常に恥かしがつて居たのである。でも弱き者よ汝の名は女なり。國違ひに惚れるもんへと大概は強そうなことを云つてゐながら何時ともなく國別を超絶して情人の一人や二人は必ず出來てゐたのだつた。だから日本人同士の心中と云ふことを南洋では殆んど聞かなんだが、支那人と死んだ娘は幾人かあつた。

斯くて色町らしい艶ツぽいローマンスが廣い世界を背景として椰子の葉茂る南洋の舞臺に數限りもなく實演されたのであつた。逢はねばつのるが戀の情である。ぞめきの聲も漸々薄らぎ天井に寫る自分の影が殊更淋しく思はるゝ頃、遠

さかり行く悲しいオチヤホイ賣の聲を聞きつゝ店先きの卓子にもたれて、來るか來ぬかの運氣見に友染モスの晴手な店張着の肩を落してションぼりと一人淋しくトランプの札合せをしてや雨にしめつた花街の軒燈にじむひけ過ぎを、ぼんやりと誰待つあても無い娘に守宮の聲はさぞやつらうも聞かれたことであつたらふ。シク〳〵と痛む胸先きをジツと押へてホロリと落す一しづくに南洋情話の第一頁がつゞり出されるのであつた。

それから更にいたましい事はお互ひ遙々三千浬も遠く故國を離れて來て居りながら特殊部落民に對する差別的感念の餘りに熾烈なことであつた。長崎の浦上から南洋の或る方面へ融通されてゐた資金は決して少くない額ではなかつたのだ。隨分古いことだが同村の收入役が態々利子の取立て年々廻つて來たことすらある程だから相應纏まつた額に達してゐたのは確かだつた。隨つて部落民も必ず多數來てゐたに相違ない筈なのにあんなに娘連中が大騷ぎをしてゐたのは却つて遖宣傳ではなかつたであらうか。

現に暫らくポンテアナに行つてゐたこともある馬來の角の廿五番にゐた年增美人の〇〇〇は姫路在の部落民、藝者で非常に賣れた若い〇〇も伊勢生れの部落民であつたに拘らず、誰も素情を知らねばすまして全盛を極めてゐたのに、中には詰らぬ噂を立てられて泣かされた娘が各地に相應あつたのだ者さへあつたと云ふのは何たる慘虐極まる話であつたらう。

だから各地の邦人女郎屋に聞くも悲しい因緣話が幾らも傳へられてゐたのである。殊には廓に迷信はつき物だつた。新嘉坡の女郎屋には更に家の主だと云はれるバンがりの幽靈がよく出るものであつた。マラバ〇〇番の娘が主人の虐待に耐えず病みほつけた身體を無理に下りて、來て出入りの磨屋から剃刀を借りて自殺をはかつた其晩も便所へ下りる裏階段の下にションボリと蹲んだ眼を光らせながら其バンガリが立つてゐたそうだ。そして〇〇番は間もなく女將も狂ひ

死んで一家殘らず死絶へて仕舞ふた。

全く恐ろしい娘の執念であつたのだらう。然もこんな涙を誘ふような悲しい話は各地の花街に澤山傳はつて居たのである。更に怪奇極まる惚藥に關する哀話を書いてゐたら切りがないからやめて置く。

メリケンお花

常夏の爛れる樣な太陽も海の彼方に沈まんとして、そよ〳〵とエスペラネードの青龍樹並樹に涼しい風が吹きそめて、納涼の馬車が一杯あの界隈に集る前、態とらしく洗髪を汐風になぶらせながら、浴衣の晴手をこれ見よがしに閃めかし相乘車を急がせて、歐羅巴ホテルの前通りをグルリと廻つて來ることが中々流行つたものだつた。

若い駐在武官の某少佐が英國支那艦隊の參謀と恰もホテルのベランダで、靜かにコクテルの盃を舐めつゝ用談を濟まして雜談に耽つてゐた時だ。例の散歩の連中が切りに意味あり氣に笑顔を向けては通り過ぎるので全く面喰はざるを得なかつたと云ふてゐた。然しそれが必ずしも動機だつたとは云はないが、怎うも彼れには困る、國家の體面上實に怪しからんと土庫のお歴々扨は領事館方面からもそんな話が持出されて、花街撲滅の火の手が一層盛んに揚げられる樣になつたのだ。

それ程に娘等の散歩姿は確に頗る跳發的なもので、花街情緒を懷しみつゝある連中には今も眼先に猶チラついてゐる光景であらうが、然もあれが凄い程美しかつたメリケンお花の全盛にあやかる一種の流行から始まつたと知つてる人はもう殆んどないだらう。

お花ほど豪奢を極め花々しい噂を殘しつゝ何處へか突然風の如くに消へ去つた女は恐らく南洋幾萬の娘子軍中外に一人もなかつたらう。亞米利加の東部海岸を食詰てお花が飄然新嘉坡に遣つて來たのは、油の乘切つた女盛りの廿四だつ

た。

もとより知つた者なぞ一人も無い。紹介狀と云つた樣な物も持たずにお花はズカ〳〵二十番に行つて女將にいきなり自分を千弗で抱へて呉れないかと直接談判したのだつた。玉も上等だし、氣性も中々確つかりしてゐるらしいから惜しいものだと思つたが、千弗は當時の相場として餘り不當の樣に思はれて流石の女將も尻込みせざるを得なかつた。

處が其處へ來合せた二木の店を預つてる鼻赤の婆さんが、そんなら家へ來まつせと如何にも無雜作に彼女の要求全部を受入れて、其儘廿五番へ連れて歸つたのだつたが、流石に千弗と吹掛けたゞけの腕は確に凄かつた。

またゝく内に花街中の人氣を浚つて素晴しい全勢振りを續けたのであつた。亞米利加で稼いでゐたゞけに彼女は洋服が如何にもシツクリ似合ふてゐた。其頃はまだ花街の娘が競馬に公然行く樣なことは絶對になかつたのだが、お花は馬車で堂々出掛けて行つたものだ。そして隨分思ひ切つた馬券も買ふのでターフ倶樂部の連中も彼女ばかりは素情を知りつゝ少しも咎めなんだ。のみならず彼女は場所柄鼻の下の長そうな毛唐で懷中の溫暖そうな奴を見逃さず、手當り次第に資金を卷上げる。歸るには必然しこたま儲けたのを啣へ込んで來て尻の穴の毛まで引ツこ拔かねば歸さなんだ。

一體が大柄で眼のパツチリした、色の白いお花の浴衣姿は亦非常に仇ツぽいものだつた。だから丈に餘る黑髪を態と夕風になぶらせつゝ、人の出盛る海岸を散歩する姿は頗る妖艶で若い男の魂を誘惑せずには置かなんだ。

ホテルの前を通つてこれと見當をつけた男にニツコリとあの魅力ある眼で笑ふて見せれば、殆んど其晩彼女の家へ來ぬ樣な者はなかつたそうである。だからそれ程にも有力であつたメリケンお花のデモンストレーションを見習ふて、軈ては猫も杓子も海岸の散歩を日課の如くにする樣になつたのであつた。

然もお花の全盛は線光花火の樣にみじかくアツケないものであつた。或は彼女にとつてそれが最初からの計畫であつたかも知れないが、廿五番に始めて出てからまだ二年にもならない中にお花は南京の東家に身受けされ、四五人の抱へ

を置き自分も店を張りつゝ新たに女郎屋を開けたが、チツテから借れるだけ借り倒し一年足らずで破産して仕舞ひ、今度はまた外の東家に仕切られてブキチマ路に贅を盡した妾宅住ひをして居つたが、東家が商用で盤谷に行つてる留守に家財道具を賣り拂ひ、お蔭げで若い燕が學校を卒業しましたから日本歸りを致します。いかいお世話になりましたとシヤ〳〵として花街中を禮廻りして、メールも二等に乘込んで二人イソ〳〵神戸へ歸つて行つて仕舞ふた。

餘りにも其腕の凄さに流石の女將連中もアツとたまげてスグには返事すらも出來なんだそうである。

四年程の間にお花が新嘉坡で卷上げて行つた金は二萬弗を越してゐたに相違ない。殘念にも其情人の名は聞き漏したが首尾好く彼女の仕送りでアングロチヤイニス校を卒業し、神戸の外人商館に勤めつゝ、當時開けたばかりの湊川新公園で女房のお花にハイカラなカツフエを遣らせてゐた。

四十過ぎては流石に昔の面影はないが、今も忘れぬ流暢な英語で、たまにはフラ〳〵と迷ひ込んで來るマドロス相手にありし昔の榮華を思ひ出してか、晴手な笑ひ聲を酒場一杯に漂よはせ、思へば其處にも懷かしい南洋情緒を今も色濃く滲み出してゐたのだつた。メリケンお花、彼女の名も亦何時まで經つても恐らく花街の思ひ出話には忘れられない名の一つであるだらう。（昭和四年一月記）

引揚げて行く一人の娘

熱田で歸つた新嘉坡の娘が十五六人、次ぎの靜岡では三十四五人も歸るだらうと云ふのである。濠南〇〇番にゐたお加代も引揚げて歸る其中の一人だつた。

思へば國を出てからまる十二年、獨逸の石炭船ベンカーに乘せられて口之津を出般したのはまだ十七の春だつた。同村のおつぎと云ふ一つ年上の娘に南洋へ行くからと誘はれてツイ自分も出掛ける氣になつて、着の身着のまゝ口之津へ連れられて行つたのは忘れもせぬ四月の末だつた。

霞む有明灣の沖近く天草の島が水から離れて浮いてる樣に見へてゐた。キラ〳〵と小波打たせて泳いで行く鰯の群が二反近くもあつたらう。隣家の重太さんは朝から內の親爺なんかと一所に漁に出掛けてまだ歸つては居らなんだ。重太さんは其年の暮兵隊にとられて大村へ行つたさうだが達者で歸つて來て、もうお內儀さんもゐやうし子供も出來てる事だらう。

ヒヨンな喧嘩を二人が彼の時せなんだら誰が南洋三界まで飛出す樣な氣分になつたらう、重太さんとの仲は村では知らぬ者がない程だつたのだが、內は貧乏人で先方は少しの田地持ち、おまけに重太さんの男振に隣村の金持ちの娘が惚れ込んで是非共嫁に貰つて呉れと持ち掛けて來たので、親御は何うしても妾と一所になる事を許しては呉れなんだのであつた。

「お加代此處で照る日は他所も照る長崎に二人で逃げ樣か」

とまで最初は云ふて呉れたのだつたが、ヤツ張り妾がだまされてゐたのだつたか、祝言は兵隊から歸つてからにすると の事だつたが、二人は其から宿りに行つたり一所に遊びに行く樣な仲になつてゐた。

それなのに男心は恐ろしいもの妾にばかりは全然噂を嘘言らしく打消して相變らず一所におれる樣な事を繰返しては喜ばせて居るのだつた。然し幾ら馬鹿でも男心の賴りなさをシミ〴〵と味ふては生れ故郷に居るのも痛らかつた。殊には二人が愈々一所に暮して居るのをだまつて見て居る氣にはなれなんだ。妾は全く其爲め思ひ切つて國を自分で飛出して來たのだつた。

口之津を出航の時は同勢八人、ビツコの代書人に脅かされながら暗い船倉にかくれて居る內に、船は夜明けに島原半島を後にして一直線に香港へ向ふて出帆したのだつた。

連れて來たのは中島と云ふ金緣眼鏡を掛けた三十近い男で、一所に船に乘つてる南有馬から來たお松と云ふ年增の女と深間らしく、何かと其女が妾等仲間の世話をやつて呉れるのだつた。

香港に上ると鶴屋と云ふ宿屋に宿つたが、驚いたのは其晩番頭が圖々しくも夜這にやつて來たことで、何も知らずに詐されて來た。年は妾と同年だつたが、まだホンノおぼこだつた藤野と云ふ娘の如き無理無體に女にさせられたので、餘程吃驚したものと見へ其翌日は一日枕も上げ得ぬ病人となつてゐた。

香港からは更に加藤と云ふ男が又二人の娘を連れて乘つて來た。新嘉坡に着いて上げられたのは今では無くなつて居るが馬來の〇〇番だつた。其頃の景氣の好かつた事、宵の口に花客の三四人も取つて十二時過ぎでなければ宿り客は決して上げなんだ。勿論日本人のお客なんかは絶對に取らなんだ、毛唐や南京はチヨイ〳〵小使を呉れるし第一扱ひ好いので勤めは案外樂だつた。

日本人のお客が花街に入込む樣になつたのは護謨山が柔佛に開かれてからである。山の人は隨分最初は好く遊んだものだつた。然し戰爭が始まると軒を列べて店を張つてゐた毛唐の店が追歸される、カキリマに出て客を呼込む事が禁ぜられ、果ては軒燈さへ出す事が出來ぬ樣になつてさしも全盛を極めてゐた日本人の花街も全く火の消へた樣になつて仕舞ふた。そして日本船がドシ〳〵來る、市街の景氣もガラリと變つて日本人は取らないと偉張つてゐた店も何時とはなしに喜んで日本人を揚げる樣になつて終ふた。

勿論妾達でも例へ一夜たりとも國違ひと寢るのは嫌ではあるが、どうも日本人のお客を妾は好きになれなんだ。だから國違ひを五弗で揚げる方が日本人を十五弗で揚げるよりも樂だつた。幾ら通りがゝりのお客だと思ふても日本人同志であつて見れば、ワア〳〵騷いでる中は兎も角もそう內地の女郎衆みたいな薄情な眞似をする氣にもなれないぢやありませんか、日本人のお客は全く恥かしいばかりで詰らない。國違がドン〳〵登樓つて呉れぬとすれば南洋なんかに居るのは馬鹿々々しい。

でも妾も來年はもう三十よ、到底日本へ歸つたつて娼賣は出來ないわ、何うせ半年位は家に置いても呉れ樣けれど、扨其先きはどうなるのだらうと思へば淋しい氣にもなりますさ、中には歸る家だつてない樣な人も居るんでせう。皆一體どうなるんでせう。三十日でスツパり店は閉めたんですけれど遊びにはいらつしやいよ、用事も何んにも無いんですもの麥酒でも拔いて唄ひませうよと云ふてゐた。

船の出るまではまだ一週間近くもあるのである。南洋色に青ざめた其顏を冷たい鏡に寫して見て、かくて寂しく歸つて行く彼等の群れにも待つてる幸ひが何處かにあれかしと記者は祈つて表へ出たのだつた。（大正九年六月記）

南洋情緒

椰子の梢に人待ち顏な光り淋しい廿日月

戀のカトンに千鳥が鳴くよ磯に打つ浪氣にかゝる

戀になるのか浮名のもとが水に流れた影坊子

千鳥鳴く夜に出來たる戀か浪にもまれて消えほそる

沖の漁火波間にゆれて磯は淋しい椰子林

遠く離れて踊の太鼓月に浮かれた戀もあろ

濡れた椰子の葉うなだれ勝に今日も暮れるか雨の音

磯は淚の時雨に濡れて千鳥泣く夜の片男波

雨のカトンに來もせぬ人を待つて淚の寢白粉

時雨なまめく磯茶屋あたり晝を淋しい三下り

雨にふけ行く冷たい磯の椰子もぬれ勝ち泣く千鳥

行つて歸らぬ船ではないが千鳥悲しい夜の雨

月も泣けそな雨季空ふけて歸しともない後ろ影

今更ら未練はない積りだが醉はずに居れない昨日今日

月にうそぶく椰子の葉ぬれてしぶき輝く磯の岩

岬まはれば狂瀾怒濤しぶく巖に風の椰子

カヌーつないで岩蔭げあさる島の乙女をなぶる波

岸の椰子林おぼろに濡れて流すいかだに立つ朝げ

木蔭げ淋しい墓場に唉いて紅も耻かし草いちご
茂げる夏草まつはる蔦とからみながらに唉いた花
椰子の葉蔭げに夕月もれて檐端涼しい月見草

死んだ遊女の面影げとこそ燃ゆる眞紅の花木槿
鹿の子絞りと見立てた木蔭げ眞晝涼しい椰子林
醉うて歸りの自動車らしいびんの後れ毛なぶらせて
醉ふて口說にふかした夜明け朝日まばゆい耻かしさ
暮れりや鳴く虫夕顏白い庭を眺めて飮む麥酒

二〇、護謨事業勃興時代

1、護謨栽培開祖

馬來半島に於ける護謨栽培事業の開祖は當時ペラ州駐劄官であつたサー・ハフロー氏である。氏は行政官として令名あつたのみならず、又植物學者、園藝家としても有名であつた。一八八三年氏は自らペラ州の萬都コーラカンサに護謨樹を栽培し、其成功するや新嘉坡植物園の援助を得て珈琲、茶、煙草等と共に大いに護謨の栽培を奬勵し、更に之を錫倫に移植せんとしたが、當時印度政府はウキクハム氏を英國王立キュ植物園の助力を得ブラジルに派遣し、アマゾン奥

地から最良のパラ護謨種子を採集せしめたので此計畫は實現しなかつたが、氏の馬來に於ける功績は永く史上に特筆さる可きであらうと信ずるのである。尤も氏が初めてコーラカンサに試植した護謨の苗木を何處より得たかは知られてゐないのであるが、新嘉坡には既に一八七七年七本の護謨苗木が植付けられてゐたと云ふから、或はそれを分配され栽培したのかも知れぬと思ふのである。

新嘉坡には一八七七年ムルトン氏初めて七本のパラ護謨樹を得て之を植付け、後一八八〇年カントー氏が現在の植物園創設さるゝに當り其處に移植したのであつた。而して新嘉坡へは其後ウキツクハム氏がブラジルから七萬粒の種子を得て歸り、一八八六年キュー植物園に播種して得た苗木も相當分配されたのである。

然しカントレー氏やハフロー氏の努力で馬來半島が護謨栽培に好適地である事が證明されたのであつた、當時は護謨の用途まだ今日の如く廣凡でなく僅に護謨管、消護謨、防水用及びタイヤ等の製造に限られ、然も其製品に對する需要は微々たるもので、ブラジルの天然護謨だけで十分で、護謨市價も甚だ低廉だつた上、此植物に對する組織的智識無く其上アマゾン地方の如く植付後、十年を經過せねば到底採液不可能と思はれてゐた爲め、ハフロー氏の奬勵も一般世人の注意を惹くに至らずして十餘年を經過して仕舞ふた。然も其間錫倫に於ては內地のベラヂニア植物園に一八八七年初めて護謨樹を移植して以來銳意其栽培せるパラ護謨に就て種々の試驗を行ひ、之を一般に公表し、護謨栽培事業の有望なることを宣傳した。恰も好く同島に栽培されつゝあつた珈琲樹病害のため收獲大減退を來たし、加ふるに珈琲の市價低落して農家が漸く新しい有利な栽培物を物色しつゝあつた折柄であつた爲め、一八九六年以來同島には續々パラ護謨の栽培家現はれ、幾多重要な發見があつたと共に、其栽培の困難も漸次排除さるゝに至り、且つ錫倫產出のパラ護謨が倫敦市場で好評を博し高價に取引されたとの報傳はり、半信半疑の農家に護謨の關心を深からしめ、馬來半島でも一八九五六年頃から錫倫と同一徑路をたどり、政府から分與された護謨種子を珈琲園等の一隅に播種する者現はれたの

で、馬來聯邦州政府も護謨栽培の專門技師を雇聘して專ら其研究に當らしめ、其結果を發表し或は資金を貸與する等、總ゆる方法を講じて護謨栽培を奬勵したので、一八九七年には馬來聯邦內に三百四十英反の護謨栽培地を見るに至つたのである。

2、護謨事業熱狂期

斯して馬來半島の護謨栽培事業は駸々として發達の趨勢をたどり、翌一八九八年には栽培面積一、七六一英反を算し續て一九〇〇年には五、〇〇〇英反以上に達し、漸く護謨栽培に注意を向はしめつゝあつた時、歐洲では科學の進歩と工業の發達に促されて護謨の需要益々激增し、一九〇五年大騰貴で俄然馬來地方に於ける護謨栽培熱の勃興を促し、一九〇六年十二月末の全英領馬來及び海峽殖民地の護謨栽培面積一躍十萬英反となり、同年の護謨產出量四百三十噸十萬近くの勞働者が此仕事に從事することゝなつて、僅々數年間に馬來の一大重要產業となるに至つたのである。然も護謨栽培事業が眞に資本家の有利投資物と認められ益々此方面に放資さるゝに至つたのは其後の事で、一九〇七年には新植付面積七萬六千英反を增し、一九〇八年倫敦の護謨相場前年の封度五志臺から三志臺に暴落した爲め、同年の植付面積は多少減少したが、それでも五百八千英反に及び續て一九〇九年も同じく五萬六千英反を增した。然も一九〇九年末經濟界の恢復と共に再び九志臺に昂騰。更に一九一〇年五月に至つて遂に未曾有の十二志九片と云ふ奔騰的價格を現出した爲め、護謨栽培熱白熱化し資本が此方面に滔々として流入さるゝに至り、千古斧鉞の音を聞いたことのない森林が續々開墾されて護謨園となり、所謂護謨熱狂時代を招來し邦人も亦益々此方面に資本を投ずる者を增すに至つたのである。一九一〇年の植付面積七萬一千英反、一八九六年以來の護謨栽培面積累計三十六萬一千英反に達して其產額六千五百四噸、實に馬來半島は一變して護謨園となつたのであつた。

然も此發展趨勢は其後愈々猛烈となり、翌一九一一年十一萬八千英反、一二年八萬三千英反、一三年六萬六千英反、一四年四萬二千英反の各植付面積を增加し、歐洲大戰に到る迄に、馬來の護謨栽培地六十七萬英反を算し、其勞働者二十六萬六千五百三十八人、年產額五萬四百四噸價格一千百七十萬千八百八磅に達した。斯くて一九一四年歐洲大戰勃發各國の經濟組織は忽ちにして戰時狀態に變り、經濟界の動搖に連れ護謨價も同年六月前後非常な暴落を見、一時一志六片臺に落込んだが、又直ちに漸騰歩調に戻り一九一五年末三志六片臺、續いて一六年初めには四志臺まで擡頭したので護謨栽培依然として冷めず、一九一七年末の全馬來、海峽殖民地護謨植付面積九十六萬九百餘英反に達し、產額十三萬噸に及び、面積に於て世界護謨栽培總面積の約半分、生產額に於ても同樣半分を占むるに至つた。

如上の如く英領馬來の護謨栽培事業は漸次發展の趨勢を辿り、遂に今日の護謨王國を爲すに至つたのである。而して其後の發速も亦非常なものであつたが、一九一七年七月護謨栽培土地拂下げ禁止され、舊拂下げ土地の開墾依然として盛んに行はれたが、新しく護謨栽培のため土地を拂下げる事が出來ぬ樣になつて熱狂的護謨栽培も愈々沸騰點に達した感があつた。然も一九一九年九月土地拂下げ禁止令撤廢され、五百英反以上の土地賣買解禁されたるも一時に多數の拂下げ出願あり、到底急速にその整理をなす能はず加ふるに食糧米、勞働者不足に加へて投機を目的とする者多かりし等に依り、僅か一箇月後の十一月再び土地拂下げ新出願受付けを中止して仕舞ふた。然も一九二〇年三月頃より世界的不況殊に米國財界動搖の影響を受けて護謨價漸次低落を續け、年初一弗十仙臺を稱へてゐたのが年末には實に三十仙臺を割る慘落を見るに至り、各國人園殆んど生產費を償ふものなく、切りに大合同が提唱され、愈々整理時代に入つたのであつた。一九一九年の馬來半島及び海峽殖民地に於ける護謨栽培面積約百萬英反、年生產量十九萬五千噸、價額四千萬磅、從業勞働者印度人十六萬六百五十七人、支那人六萬千六百六十五人（聯邦分だけ）計廿二萬餘、外に馬來人、爪哇苦力も居るのであるから恐らく其總數は廿五六萬に達してゐたに相違ないのである。

3、邦人栽培業の先覺

邦人護謨栽培の開祖は笠田、中川兩氏であるが、邦人が馬來の護謨事業に手を染め出したのは一九〇六年明治卅六年のことで、新嘉坡でも同年東境せい、中野光三、蔦田繩理氏等がテッコン島に獨逸人の經營してゐた護謨園を買收する、吉隆坡では小川とし云ふ婦人が初年四月スタツパに五英反の護謨栽培を始める。ネグリスミラン州でも笠田、大隅氏の外ゴモローに立松安五郎氏が十二英反の護謨園を持つたのである。愛久澤直哉氏の三五公司が柔佛河沿岸のペンゲランに土地を拂下げて護謨栽培に着手し、內地資本輸入の先驅をなしたのも亦同年十月の事であつたのであるから、誰が早いと今更ら穿鑿する必要はないであらうと思ふのである。

然も笠田氏、中川氏等が齋藤領事に勸められて始めて珈琲栽培に着手したのは日淸戰爭直後の話であるから、兩氏が日本人の馬來半島に土地的起業の端を開いた嚆矢であると云ふ事は間違ひない事實であるのである。處が珈琲は元來アラビヤ、亞弗利加が原産地で、アビモニヤには現に其野生樹が澤山あると云はれ、和蘭人が南洋に跋扈し始めた一六〇〇年代、珈琲樹を亞剌比亞より取寄せ之を總督官邸內に試植し効果を得て以來、爪哇一般に其栽培が奬勵され、歐洲に爪哇珈琲の名が喧傳されたのであつたが、旣にして西印度諸島や中部亞米利加への珈琲移植が成功し、ヴエネジユラの如き革命的內訌と珈琲の外に名を外國に稱せらる物なしと謂ふに至り、特に南米のブラジルが大々的に其栽培を行ふて以來、世界需要の大部分を充たす勢ひで世界の珈琲相場を轉落せしめ、南洋では政府事業である爪哇珈琲を除き、殆んど壓倒されて仕舞ひ、笠田氏等は漸く珈琲の植付を終つて間もなくかゝる市況に遭遇し、齋藤領事折角の勸誘も偶々其適從者を苦心慘憺の境遇に追込むと一般であると嗤はれたのであつたが、恰も好し諸氏の運命が一轉する機會は一八九六年我明治廿九年、馬來聯邦成立し、英國の半島拓植政策が一層潑剌となつた結果として到來したのである。

蓋し英國が從來其保護下に在つた馬來諸州を聯邦たらしめ、之を海峽殖民地政府に隷屬せしめて以來錫倫政府が切りにパラ護謨の栽培を奬勵せるに做ひ、馬來半島にも護謨林業を起さんとの方針を決し、護謨植付助成資金の貸下げを開始するや豪放にして些事に拘泥せざる英人氣質を遺憾なく發揮し、卽ち彼等は半島拓植政策が護謨林を作るに在りと決定するや其林業者の何國人たるを問はず之を保護する方針に出で、日本人たる笠田、中川氏等も亦助成資金を借受くる恩澤に浴し得たのであつて、其珈琲を拔捨て護謨を植付け、世界市場の成行きに任せ護謨と共に伸縮する外なしとの決心を固めしめ、遂に一九一〇年護謨價十二志臺に昂騰するや、兩氏が苦心經營あらゆる困難と戰ふて來た護謨園も漸く此處に四年目で某英人に卅七萬弗で賣渡す幸運に惠まれる事を得たのであつた。

卽ち一九〇七年八年は未だ邦人の此方面に對する發展を見ず、僅かにネグリスミラン州に五十七英反の一園、セランゴール州に八英反、廿五英反及び七英反の三園計四園九十二英反の拂下げを見たのみであつたが、一九〇八年上半期三志を底値として漸次昂騰同年末には遂に六志に達せんとし、更に九年に入り護謨價は直線的の暴騰を演じ、中頃九志臺の高値を現はし、第一次植付成績判明し來ると相待つて、此處に邦人護謨栽培熱外人方面におとらず翻然として起り、爾來新起栽培に土地の拂下げを出願するもの俄に增加し、同年末邦人の馬來地方に於ける護謨栽培業者新たに十二名を增し、其拂下面積七千百十英反に達した而して護謨價は其後一九一〇年初頭迄多少の低落を見たこともあつたが、其反動として四、五月遂に十二志六片と云ふ新高値を現はした爲め、護謨栽培熱愈猛烈に煽られ、其處へ笠田中川氏の共同園が四十萬弗近くに賣れたこと傳はり、其幸運を羨む者はやがて護謨栽培に走つたのであつて、同年末には更に五十園を增加し、拂下面積二萬五千四百四十五英反となり、將に邦人護謨栽培業の白熱期を思はしめたのであつた。然も此形勢は翌年に持續し一九一一年卽ち明治四十四年更に十八園一萬六千八百六十六英反を增加したのである。

4、邦人栽培業の黎明期

かくて馬來半島に一九〇八年以前既に成立し而して一九一一年末尚存在してゐた邦人護謨園は、柔佛州に於て一九〇六年出來た三五公司のペンゲラン植林地、八三〇〇英反とネグリスミラン州に立松安五郎氏の十二英反、久米庄三郎氏の五十七英反、セランゴール州に高橋音吉氏の八英反、松田三次郎氏の廿英反、小川トシ女の五英反及び古賀長太郎氏の七英反、計八千四百九英反なりしもの一九〇九年より一一年に至る三年間に前記の如く大小會社、個人園八十一園拂下面積七萬五千三百八十四英反に達し、植付面積一萬六千四百五十三英反、之に十一年迄に既存の邦人園を加へ千九百十四年末馬來半島に於ける邦人護謨栽培地拂下總面積は八萬三千七百五十英反に上つてゐたのである。

明治四十四年（一九一一年）新嘉坡領事館管內邦人護謨園調査に據れば四十二年、柔佛州內に新しく生れた主なる邦人園は現在バトバハ第二植林地と稱しつゝある三五公司園二六、〇〇〇英反を始め、

新嘉坡	拂下面積	四四年九月植付	業者名
ロチユカン路	二〇〇英反	—	東境せい、葛田顯理、岡崎英助共同
柔佛州			
ペンゲラン	八、三〇〇	三、〇〇〇	三五公司
バーヤン	一、七〇〇	一、三〇〇	渡邊國重
ラマ	五〇〇	二〇〇	二木多賀次郎
同	一〇〇	五〇	小峰三次
トロスンガイ	五四〇	一五〇	香川助人
同	二五〇	一五〇	福田太一

同	二〇〇	一五〇	西島安吉
カンボン柔佛	五〇	五〇	椎名三藏
同	三〇〇	五〇	渡邊庄七
ラヤー	五〇〇	一五〇	石丸初次郎、山崎榮次郎
ネグリスミラン州			
ガンタム	六〇	六〇	松永麟五郎
四十三年			
柔佛州			
サンテイパンチヨル	四、五〇〇	—	松方幸次郎
同	二、〇〇〇	一、〇〇〇	南洋護謨會社
同	一、〇〇〇	—	同
同	一、〇〇〇	七〇	中野光三、東境せい、小川龜吉
コタテンギ	一、〇〇〇	三〇〇	速水捨三郎
同	一、〇〇〇	四〇〇	鈴木審三
ラヤージヨラ	五、〇〇〇	五〇〇	三井同族
	一、〇〇〇	一〇〇	加藤季彥
ニヨールバトバハラヤースンガイモニテン	一、〇〇〇	三〇〇	大倉信太郎、長田秋誘
	一七〇	一七〇	遠藤隆夫
	六〇〇		
	一、〇〇〇		
同	五〇〇	一〇〇	吉井信照
ユタテンギ	五〇〇	四〇〇	長野實義
柔佛川沿線	七五〇	三〇〇	小野英藏、小西重吉

同	五六〇		
同	四五〇		
同	三〇〇		
同	二〇〇		
同	二〇〇		
同	二〇〇		
同	二〇〇		
同	二〇〇		
同	一〇〇		
ネグリスミラン州			
コーラピラ	一五〇	一五〇	加藤鉦太郎
ゲメラン	九〇	一五〇	城野三次郎
スレンバンムキムラサ	一九七	一〇〇	岡田彌惣次
同	五二		木村大介
同	五七	一五〇	小山芳松
セランゴール州		一五〇	矢ケ部倉吉
コーラ・タボキリン	四八三	一〇〇	多久島權七郎
同	一五〇	三〇	得丸龜次郎
同	一〇五	五〇	木村長太郎
コーラクラブ	一五二	五〇	原口嘉六
同	一〇〇	五〇	井田富太郎
		一五〇	高木鹿太郎、木下重照
		九〇	栗田榮、立松安五郎
		一八七	笠田、松尾、西田共同
		五二	
		五七	大倉參太郎、久米庄三郎共同
	一〇五	二六〇	松田三次郎
	一五二		永田彌八郎
	一〇〇	一〇五	岩田、山下、秋田共同
		一五二	井上勝榮
		一〇〇	元浦慶藏、吉村仁藏

其他百英反以下個人園九、計二百英反

ペラ州			
	二〇〇	一〇〇	市川鐵雄
	一五三	一五三	水上庄太郎、村谷虎吉
其他森方正、中村宅市の五〇英反、一八英反等拂下面積計二百卅四英反			
ケダ州			
	四五〇		
	二二〇	二二〇	彼南護謨栽培組合
			林
四十四年			
柔佛州			
トロスンガイ	六、〇〇〇		
カンポン柔佛	一、〇〇〇		
同	一、〇〇〇		南亞公司
同	一、〇〇〇		渡邊智賴
ブラカン	三、五〇〇		朝日護謨園
同	一、〇〇〇		茂木園
カンポンテンガ	一、〇〇〇		藤田南興園
同	五〇〇		渡邊智賴、菅原清共同
ネグリスシラン州			淺田忠順
コーラピラ	三〇〇	一六〇	大隅直太郎、大平二三郎
スレンバン	一、〇六七		笠田直吉外九名
同	三〇〇		木下彌三郎
同	五〇		西田與太郎

同	古賀、原　田共同	一九五
同	前芝萬太郎	一二五
セランゴール州		
	一〇〇	
	五〇	
	一五	
	米田、木　稻共同	
	永田某女	
	永田	

斯くの如く一九〇九年より馬來半島に於ける邦人護謨事業は異常な活況を呈し、內地資本相續いて投下され在留邦人も競ふてその栽培を企てたるも、元來當時二三年間に護謨栽培事業の非常な發展を見たのは全く一九一〇、一一年護謨價大暴騰に原因するのであつて、其後市價低落するや漸次護謨熱も冷却し、中には無鐵砲に拂下げたる土地の開墾に窮し、既得地を政府に返却し或は賣却する者あり一九一七年には一四年より却つて四、八一五英反を減じ七萬八千九百三十五英反となつてゐたのである。

5、護謨熱稍沈靜

一九一〇年中十二志を突破する暴騰を見せた倫敦護謨相場は一一年末四志二片と約三分一に暴落、一二年末三志臺すら割らんをする形勢に邦人の護謨熱頗る冷却して、同年は新護謨園の創生殆んどなく僅かに柔佛州に秋田護謨園（四一三英反）と田尻才六氏の九六英反買收を見たるのみ、ネグリスミラン州に廿一英反、ペラ州に一九英反の各個人園が一園づゝ出來ただけであつたが、馬來公司が同年トレンガヌに三、一一一英反を買收したのは異彩を放つてゐた。一九一三年五月新嘉坡に日清護謨園（一、四一一英反）創立され、柔佛州では南亞公司文當園二、四九三英反を買收、共外馬來半島で新規栽培を計畫せしもの十二名三七〇英反あつた。翌一四年も引續き沈靜特に歐洲大戰勃發の影響を受けて一志六片の暴落を示し、護謨栽培業救濟問題が持上らんとした程であつた。

然も開戰の翌年一九一五年となると護謨價再び騰貴の趨勢を現はし來つたので、邦人の護謨熱少しく回復し、柔佛州に池田旭氏一一二六英反、河野進氏の來陽園八〇英反、ネブリスミラン州に久米氏一一三英反、副島氏二七五英反、共同園三個二十八英反、セランゴール州コーラクブに長谷川義勇氏の二八二英反を初め外五園二一七英反、ペラ州に一園一五英反、パハン州に三園六九英反、マラツカに一園三十一英反等が新しく出來た。

6、護謨熱再擡頭土地拂下禁止

一九一四年一志六片まで低落した護謨價は歐洲戰爭の擴大が非常に氣附かはれてゐたに拘らず、一五年に入り四志臺に恢復して來た。一方我內地財界は戰爭景氣に連れ益々膨脹活況を呈するに至り、其餘力自然に海外發展を促し來り南洋の護謨栽培事業にも、新たに投資を企て或は新會社を創立する者現はれ、更に既設會社も漸く第一期事業一段落を告げ、財界の好況と相待つて、拂込みの徵收を容易ならしめ、進んで第二段の發展を試みるもの多く此處に內地資本の南下愈々盛んなるものあり。地方に於ける個人栽培家も亦更に事業を擴張し又舊園を賣却して更により大なる護謨園の開墾に着手する者あり。新しい小護謨園も相應出來て、邦人の護謨栽培熱は再度白熱的氣運を迎へんとしつゝあつたのである。卽ち一九一六年柔佛河沿線には二、〇一七英反の蘭砂園、永野園（六六英反）和田勝造氏（五〇英反）及び臺灣拓殖のラヤン〳〵園一、〇五九英反現はれ、ネグリスミラレ州に於ては風岡氏一〇一英反、松藤岡太郎氏三六〇英反、前芝的三氏の三六八英反其他小園五、六開墾され、セランゴール洲では中島茂四郎氏の御嶽、富士山園三六四英反、タンジョンマリンの東鄕園二一七其外七園一五〇英反、ペラ州では田山亮吉氏一八〇英反外十英反乃至四、五十英反のもの八園一四三英反、パハン州小園十二、一六八英反の拂下げあり、殊にそれ迄殆んど邦人の護謨園を見なんだ英

領北ボルネオ方面にも盛んに投資開墾が始められたのであつた。更に一九一七年乃至一九年の間に柔佛州に眞植護謨六〇〇英反、柔佛護謨一、五五九英反、宿大護謨八七五英反が現はれ千田牟婁太郎氏は二千英反の千代田護謨を買收し其他一小園生れ、ネグリスミラン州では朝永誠三氏の一〇六英反及び同氏外十二名共同出資の六六五英反、大貫公光氏の一六二英反、本多甚助氏の四八五英反、朝永松永氏共同園五一八英反を主なるものとし其他大貫、松本、黒木氏の各一〇〇英反外小園一七園八五八英反現はれ、セランゴール州には木下氏の六〇〇英反を初め森川氏一五七英反其他小園十二園三〇一英反、ペラ州五園九四英反、パハン州八園一一〇英反、マラツカ一園三〇英反、彼南二園二三英反其他會社及び個人園の事業地擴張をなすもの多く、一九一九年二月末總領事館調査に依る海峽殖民地及び馬來半島に於ける邦人護謨園拂下げ總面積九萬五千三百六十一英反、採液面積二萬五千三十五英反、年採液量五百八十一萬六千七百七封度に達し、此二年間の新發展は相應目覺ましいものであつたのである。斯くて馬來に於ける邦人護謨栽培事業は益々事業地擴張、新起開業に依り發展せんとしつゝあつたのであるが一九一七年七月、馬來聯邦州に護謨栽培地拂下禁止（五〇英反以上）引續き八月海峽殖民地及び柔佛州にも同樣禁止令發布され、更に半年目に五〇英反以上の護謨栽培地買賣禁止令が發令され、馬來に於ける邦人の護謨事業は既收得地を開墾維持する以上に休戰後新發展をなすことは全く封じられて仕舞ふたのであつた。

7、北ボルネオの邦人栽培事業

英領北ボルネオ及びサラワク、ブルネ王國方面には一九一四、五年頃迄は殆んど護謨乃至椰子栽培事業に邦人の手を染めし者はなかつたのであり、內地資本家も亦ボルネオの富源を全く閑却してゐたのであるが、サラワク王國に鈴木系

の日洲商會が護謨栽培を目的に三、六三五英反を拂下げたのを先頭として、清水傳四郎氏二五〇英反、日洲商會の大關氏三二英反、福島某氏四〇英反合せて四園三、九五七英反、北ボルネオのサンダカンに安藤喜代治氏二一一英反の椰子栽培豫定地があつたゞけであるが、一九一五、六年代馬來に於ける邦人の護謨栽培熱再度活況を呈するや、此處に大々的に投資を企てんとする資本家はボルネオの廣野に遠大の眼を注ぐに至り、一九一六年久原きは且て邦人が一人も目を注がざりし北ボルネオのタワオに事業地を發見し、護謨及び椰子栽培を目的に二萬一千四百四英反の廣大なる土地を拂下げたるを機として、內地方在留邦人も亦之を見做ふ者現はれ、同年脇坂氏七七英反坂市五郎氏三六〇英反を拂下げて椰子栽培を始め、十七年に至り愈々同方面の土地的起業に着目する者を增し、小松佐喜藏氏の三〇〇英反、蘭部椰子園九〇英反、淺野某氏一〇七英反、小澤氏九〇英反等タワオ附近五園六六五英反の拂下げを見、更に十八年乃至十九年バンバール流域に馬來起業の椰子栽培地一、〇〇〇英反を筆頭に富永利吉氏一三〇英反外一〇〇英反以下の小園一二を增加し、タワオ一九園二三、一一一英反に及び、更にサンダカン方面に於ても一九一七年七月ボルネオ植産ビレツ農場一、二一六英反、八月南洋植産一五、〇〇〇英反の拂下げに促され出口金二氏のバトラパン護謨園二〇〇英反を初め同地在留邦人も續々栽培事業に手を染める樣になる。ボルネオ植産農場を除き實に一五、五〇九英反の椰子栽培豫定地を見るに至り非常な發展をなし、殊にサラワクに於ては一九一七年十二月山下汽船が五〇〇英反の既成園買收を始め同年の拂下げ面積、大政修氏一〇〇英反、三星商店七〇英反、前田園三〇英反、一六年に出來た森下園一〇〇英反外三園一五〇英反、更に一八年乃至二〇年に松下園四〇英反、福丸園六〇英反、駒形園四〇英反其他二園二九英反で合計十七園五、〇九〇英反に達したのである。

8、土地拂下禁止後の蘭領發展

領北ボルネオ方面にも盛んに投資開墾が始められたのであつた。更に一九一七年乃至一九年の間に柔佛州に眞植護謨六〇〇英反、柔佛護謨一、五五九英反、宿大護謨八七五英反が現はれ千田半婁太郎氏は二千英反の千代田護謨を買收し其他一小園生れ、ネグリスミラン州では朝永誠三氏の一〇六英反及び同氏外十二名共同出資の六六五英反、大貫公光氏の一一二英反、本多芾助氏の四八五英反、朝永松永氏共同園五一八英反を主なるものとし其他大貫、松本、黒木氏の各一〇〇英反外小園一七園八五八英反現はれ、セランゴール州には木下氏の六〇〇英反を初め森川氏一五七英反其他小園十二園三〇一英反、ペラ州五園九四英反、パハン州八園一一〇英反、マラツカ一園三〇英反、彼南二園二三英反其他會社及び個人園の事業地擴張をなすもの多く、一九一九年二月末總領事館調査に依る海峡殖民地及び馬來半島に於ける邦人護謨園拂下げ總面積九萬五千三百六十一英反、採液面積二萬五千三十五英反、年採液量五百八十一萬六千七百七封度に達し、此二年間の新發展は相應目覺ましいものであつたのである。斯くて馬來に於ける邦人護謨栽培事業は益々事業地擴張、新起開業に依り發展せんとしつゝあつたのであるが一九一七年七月、馬來聯邦州に護謨栽培地拂下禁止（五〇英反以上）引續き八月海峡殖民地及び柔佛州にも同樣禁止令發布され、更に半年目に五〇英反以上の護謨栽培地買賣禁止令が發令され、馬來に於ける邦人の護謨事業は既收得地を開墾維持する以上に休戰後新發展をなすことは全く封じられて仕舞ふたのであつた。

7、北ボルネオの邦人栽培事業

英領北ボルネオ及びサラワク、ブルネ王國方面には一九一四、五年頃迄は殆んど護謨乃至椰子栽培事業に邦人の手を染めし者はなかつたのであり、内地資本家も亦ボルネオの富源を全く閑却してゐたのであるが、サラワク王國に鈴木系

の日洲商會が護謨栽培を目的に三、六三五英反を拂下げたのを先頭として、清水傳四郎氏二五〇英反、日洲商會の大關氏三二英反、福島某氏四〇英反合せて四園三、九五七英反、北ボルネオのサンダカンに安藤喜代治氏二一一英反の椰子栽培豫定地があつたゞけであるが、一九一五、六年代馬來に於ける邦人の護謨栽培熱再度活況を呈するや、此處に大々的に投資を企てんとする資本家はボルネオの廣野に遠大の眼を注ぐに至り、一九一六年久原きは且て邦人が一人も目を注がざりし北ボルネオのタワオに事業地を發見し、護謨及び椰子栽培を目的に二萬一千四百四英反の廣大なる土地を拂下げたるを機として、内地方在留邦人も亦之を見做ふ者現はれ、同年脇坂氏七七英反坂市五郎氏三六〇英反を拂下げて椰子栽培を始め、十七年に至り愈々同方面の土地的起業に着目する者を增し、小松佐喜藏氏の三〇〇英反、薗部椰子園九〇英反、淺野某氏一〇七英反、小澤氏九〇英反等タワオ附近五園六六五英反の拂下げを見、更に十八年乃至十九年バンバール流域に馬來起業の椰子栽培地一、〇〇〇英反を筆頭に富永利吉氏一三〇英反外一〇〇英反以下の小園一二を增加し、タワオ一九園二三、一一一英反に及び、更にサンダカン方面に於ても一九一七年七月ボルネオ植産ビレツ農場一、二一六英反、八月南洋植産一五、〇〇〇英反の拂下げに促され出口金二氏のバトラパン護謨園二〇〇英反を初め同地在留邦人も續々栽培事業に手を染める樣になる。ボルネオ植産農場を除き實に一五、五〇九英反の椰子栽培豫定地を見るに至り非常な發展をなし、殊にサラワクに於ては一九一七年十二月山下汽船が五〇〇英反の既成園買收を始め同年の拂下げ面積、大政修氏一〇〇英反、三星商店七〇英反、前田園三〇英反、一六年に出來た森下園一〇〇英反外三園一五〇英反、更に一八年乃至二〇年に松下園四〇英反、福丸園六〇英反、駒形園四〇英反其他二園二九英反で合計十七園五、〇九〇英反に達したのである。

8、土地拂下禁止後の蘭領發展

一九一七年馬來の土地拂下げ禁止に依つて此處に我大資本は進路を一變して蘭領東印度特にリオ群島とスマトラ島の東海岸州地方に向はさるを得ないこととなつたのである。新嘉坡に最も近いリオ群島には一九一七年迄は僅かに平原文三郎氏のマワイ、モモイ園五〇〇英反と一九一四年拂下げを得た西村竹四郎氏の椰子園があつたゞけであつたが、半島の土地拂下げ禁止に會し折角南洋に目を注がれて來つゝあつた我資本は何處か他に好適の放資地を發見せさる可からず、先づ同年九月古河は目をリオに注ぎロバン島なる所有園を一三、〇〇〇英反に擴張したのだつた。此處に於てかリオに目をつける者續出し一九一八年二月豪灣拓殖一〇、〇〇〇英反を出願、三月田中米雄氏一、四〇〇英反を得て椰子栽培に着手、其後引續き南國護謨四、〇〇〇英反、樫尾七太郎氏二〇、七〇〇英反中一〇、七〇〇英反は直ちに明治製糖に讓渡、殘り一〇、〇〇〇英反で東京度産業を創立、リオ群島の邦人土地拂下げ總面積五萬六百英反に達した。

而して馬來の土地拂下げ禁止は更にスマトラ島メダン附近及びヂヤンビー州への新發展を促したのであつた。メダンなる語は且て同胞婦人への外妾に依つて最も多く紹介されつゝあつたに過ぎなんだのであつたが、一九一八年四月始めて同方面に我內地資本が注入され此處にメダンに對する認識は根本的に一變させられて仕舞ふたのであつた。卽ち一九一八年四月先でスマトラ護謨四、八二六英反を買收し、五月更に明治製糖三、三二五英反、七月南洋護謨二、六五〇英反、九月ボルネオ護謨六、一二五英反の各栽培地を買收し、次で十月古河三一、〇五〇英反の大面積を拂下げ、其後南亞、日新護謨等も亦同方面に其餘力を延ばしスマトラ東海岸の邦人租借地はオイルパーム及び珈琲栽培地を合して十一萬英反に及んだのである。更にジヤンビー州には池田旭氏の八千英反と外に今一ツ八千英反あり、蘭領ボルネオ、バリート平原には東洋拓殖の二四、〇〇〇英反と野村農園の約一〇、〇〇〇英反あり、カツパス流域には川北電氣のスランヂン園四、〇〇〇英反等約四五、〇〇〇英反有り、爪哇には南國興業、小川石井氏等共同園各一萬英反の諸園があつたのである。

斯くて北ボルネオ及サラワク王國を合し邦人が英領南洋に護謨栽培の爲め拂下げた總面積實に十四萬八千六百十一英

反に達し、內九萬三千四百十八英反は既に植付を終り、一箇年護謨生產高千百五十四萬千五百二十封度以上になつたのである。此外に英領北ボルネオニ邦人の椰子園相當あり。而して此十四萬八千餘英反の當方面邦人護謨園に働きつゝある邦人從業者、園主若しくは支配人を除き新嘉坡十五名、マラツカ八名、ネグリスミラン州九十四名、セランゴール州五十二名、ペラ州四十四名、パハン州六名、トレンガヌ五名、ケダ及びペルクス三名、英領北ボルネオ一名、タワオ六十名、同バハンバルー流域九名、サンダカン廿七名、サラワク王國四十四名、計馬來半島七百八十名、英領ボルネオ百四十二名、總計九百廿二名である。而して之に海峽殖民地十三園、柔佛州四十園、ネグリスミラン州三十六園、セランゴール州四十一園、ペラ州五十二園、パハン州廿九園、トレンガヌ六園、ケダ及びペルリス九園、サラワク十七園、英領北ボルネオ廿七園合計二百七十園の園主、支配人を加ふれば其總數一千百九十四名以上となり、更に其家族を合算すれば直接或は間接に護謨栽培事業に關係しつゝある在南邦人の數は實に夥しい數となるのである。尙一九一九年末總領事館調査に據り其投資關係を見るに總額約三千二百七十萬四千四百八十五弗にして

內譯——新嘉坡（A）八十九萬四千弗、（B）二萬弗

マラツカ（B）五萬七千弗

ヂンヂングス（B）二萬三千弗

柔佛州（A）二千四百七十一萬二千百六十三弗、（B）六十九萬四千百五十五弗

ネグリスミラン州（A）八十五萬一千三百七十一弗、（B）百三十八萬五千三百弗

セランゴール州（B）七十六萬四百八十弗

ペラ州（B）四十七萬四千四百二十弗

パハン州（B）十四萬八千四百九十六弗

トレンガヌ州不明
ケダ及ペルリス（B）一萬四千六百弗
サラワク王國（A）七十五萬弗、（B）千五百弗
英領北ボルネオ（A）百萬弗
合計（A）二千九百十九萬七千五百卅四弗、（B）三百五十萬六千九百五十一弗（Aは內地資本、Bは當方面在留邦人の出資）

9、一九一九年末英領馬來邦人護謨園

▼海峽植民地

新嘉坡 名	拂下面積	植付	年採液高	開業又は買收年月
日新護謨	一、四一二英反	九八三英反	二五〇、六四四封度	大正二年五月
千歲園	一九八	一九八	三五、〇〇〇	同三年八月
ブキチマ園	四五	三〇	―	―
遠藤隆夫	五〇	五〇	―	―
大平源四	五〇	五〇	―	―
彼南				
巫文進	四〇	四〇	九、六〇〇	大正九年九月
マラッカ				
ケレマ園	七四〇	七四〇	二四〇、〇〇〇	同

筒井信吉	九四	七一	三、一五〇	同	十月
結城寅之助	三〇	三〇	六、六〇〇	同	一月
ヂンヂンクス					
小野繁之助	五〇	三七	四、九〇〇	同	五年四月
川原石崎合資	二七	二七	―	同	八年五月
川原忠吉	四	四	―	同	七年三月
計	二、六四八	二、二六〇	五四九、八九四		

▼柔佛州

三五公司ペンヂラ植林地	七、八四八	五、九六三	八六八、九〇三	明治三九年十一月	
同 バトバハ第一植林地	四、〇三三	三、三一四	九九五、二一一	同 四一年二月	
同 同 第二植林地	九、六六四	六、四〇四	八一四、七〇〇	同 四十年四月	
大王亞公司トロスンガイ	三、四五八	三、三五四	四〇〇、〇〇〇	大正二年九月	
同 バトバ、ハバナン	二、〇〇八	一、七九五	三五〇、〇〇〇	明治四二年十月	
同 ユタテンギ文當	二、四九三	二、四四二	八〇、〇〇〇	同 四三年十一月	
南興植産	八、八〇七	六、六八四、五	六七〇、七四二	同 四四年十月	
南洋護謨	三、一八〇	三、〇〇〇	六三二、九四二	同 四四年二月	
蘭園 砂園	二、〇一七	二、〇一七	一八〇、〇〇〇	大正五年六月	
柔佛ゴム	一、五五九	一、三三四	二〇〇、〇〇〇	同 六年十二月	
南洋拓殖女羅園	一、〇七〇	八〇〇	九六、〇〇〇	明治四四年一月	
秋田ゴム	五六六	五三八	六〇、〇〇〇	大正二年十一月	
プロブロン新嘉坡ゴム興業バトハ第一	一、〇一九	一、〇一九	八〇、〇〇〇	明治四三年六月	
ニヨール第二	五、五六七	五〇〇	五九、五〇〇	大正九年九月	
小山芳一	四一三	二七〇	四一、七三三	明治四三年四月	

永見徳太郎	四九三	三〇〇	一八、〇〇〇	大正七年九月	
石橋用蔵	一五五	一五五	―	同　六年六月	
高橋忠平	五一一	四三〇	―	明治四三年十月	
山川龜之助	二七一	二〇〇	二六、六六六	同　年七月	
田尻才六	九六	九〇	五、三三三	大正元年六月	
城野昌三	二一四	七〇	二八、八〇〇	明治四四年八月	
速水捨三郎	一、〇〇五	六〇〇	―	同　年三月	
眞植ゴム	二、六〇〇	六〇〇	二、六三〇	大正七年一月	
永野隆三	六六	六六	―	同　五年一月	
田中惣次郎	一五〇	三〇	―	同　六年六月	
千田牟婁太郎	一、九八一	五八五	三六、〇〇〇	同　六年三月	
和田勝造	一五〇	八〇	―	同　五年一月	
大倉ゴム	三、一二八	一、一二八	七〇、〇〇〇	明治四五年五月	
朝日ゴム	一、〇七二	一、〇五〇	二二〇、〇〇〇	同　四四年六月	
臺灣拓植	一、〇五九	七〇〇	六五、一五七	大正五年十月	
山崎勇吉	三三	三三	三、七三三	同　八年九月	
茂木朝	七五	七五	四、八〇〇	同　二年六月	
古河ゴム	二、八〇四	二、八〇四	六〇〇、〇〇〇	明治四五年	
南國ゴム	一、三二六	一九一	八、〇〇〇	大正九年十月	
巴盤ゴム	九、九三七	五、五五二	八五六、四五二	明治四四年一月	
村上得丸共同園	三一六	三一六	四〇、〇〇〇	同	
士乃ゴム	二、一三九	二、〇三七	一一五、九二三	大正七年二月	
鈴木園	二、五一〇	二、〇二〇	四五三、六〇〇	明治四四年十月	

宿大公司	九七九	八六一	二二、〇〇〇	大正七年六月	
第二宿大	一、一三八	四三六	六〇、〇〇〇	同　九年七月	
日東ゴム	一七、二二七	五、五九〇	五四七、三七六	大正八年	
松村磯治郎	三三	五〇	―	同　七年二月	
小山德松	八三	八三	四、五〇〇	明治四五年十月	
南進公司	一、〇〇〇	七〇〇	五〇、〇〇〇	大正六年二月	
宮原兵藏	一一二	一一二	五、三三三	同　七年四月	
計	九六、四四九	六五、九二三	八、七八二、二八六		
外に原口、河本、橋本、三好、小山、三宅、藤堂等約千餘英反の未屆園あり					
▼ネグリスミラン					
スレンバン附近					
馬來公司	二、三二三	二、三二三	三八〇、四三七	大正元年十月	
大貫光公	五六〇	四一五	三三、六〇〇	同　六年	
栗田ゲメランスナリン	四八〇	二四〇	九二、〇〇〇	明治四三年	
吉兼直次郎	二三七	二三二	七四、〇〇〇	同　四四年	
笠田松尾共同園	一八六	一八六	七〇、〇〇〇	同　四三年十二月	
朝永誠三	一四三	一四三	四五、六〇〇	大正五年七月	
風岡由太郎	一四一	一四一	一六、八〇〇	同　四年九月	
石飛須一郎	一二七	一二七	四八、〇〇〇	同　四年	
松永鱗五郎　外二名	一二〇	三七	三六、〇〇〇	同　九年五月	
田中甚吉	一一四	九一	―	同　年一月	
小岩井靖	九一	五〇	三三、六〇〇	同　年五月	
栗秋キミ	八〇		―	同　八年	

矢ケ部、本田共同園	八四	三六、〇〇〇	同　九年十月
犬塚重三郎	五八	三、六〇〇	同　四年十月
細田、松本、福田共同	四九	一九、二〇〇	同　九年十月
平井三郎	三一	一二、〇〇〇	同　八年
大岡、吉兼共同	三〇	―	同　年
徳永助松	一八	七、〇〇〇	同　九年一月
岡部幸次郎	一五	五、五〇〇	同　年三月
コーラピラ附近			
大隅、大平共同	三四八	八〇、〇〇〇	明治四三年五月
松岡藤太郎	一一四	三一、六〇〇	大正九年六月
渡邊槌太郎	一一三	六、〇〇〇	同　七年二月
栗秋キミ	八〇	―	同　八年四月
竹田英一郎	六六	八、〇〇〇	同　六年
松永鱗五郎	六三	二二、〇〇〇	明治四四年十一月
蔭山新五郎	五〇	―	大正八年四月
大平二三郎	五〇		同　六年十一月
横山シヅ	四五	一八、〇〇〇	同　七年十二月
分部勝五郎	二五	四、八〇〇	同　五年九月
富田卯一郎	二二	七、二〇〇	同　八年三月
鶴崎伊一	一七	―	同　七年六月
菊地昴	一一	―	同　六年五月
磯川房吉	八	三、六〇〇	同　八年四月
千田婁太郎	一、六四八	一八〇、〇〇〇	同　九年二月

計	七、三〇三	一、二七三、九三七	
▼セランゴール州			
松田三次郎	六三一	一〇八、二〇〇	明治四四年一月
木下彌三郎	四〇〇	―	大正六年三月
長谷川義男	三〇七	―	同　四年一月
佐竹、佐藤共同	三〇六	―	同　八年十月
山田中平太	二一八	四、八〇〇	明治四三年一月
木稲太郎	二〇三	三九、三七九	同　四四年十二月
森川又五郎	一八四	―	同　四三年十二月
杉山延太郎	一二九	―	同　年六月
石飛順一郎	五一	―	大正四年
滿井善吉	二二五	一〇、五〇〇	同　年二月
中島茂四郎	一二〇	―	同　六年五月
堀口ヤエ	一二〇	一二、〇〇〇	同　三年五月
井本福松	一一四	一八、九七〇	明治四三年
森鶏藏	一一〇	―	大正八年十二月
佐竹、岡本共同園	九七	―	同　九年六月
吉村仁徳	七三	―	同　四年一月
草野龜吉	七二	―	同　七年一月
川口宅馬	六六	―	同　五年十月
佐竹逸藏	五九	一四、四〇〇	同　九年三月
永田伊勢之助	五四	三、五三〇	同　四年十月
矢ケ部倉吉	五〇	―	同　八年三月

村上、矢ケ部 共同	四九	同	四月
池崎關太郎	四七	同	二年三月
江浦桃太郎	三八	同	四年二月
佐藤範二郎	三一	同	八年十二月
小堀健造	三〇	同	九年五月
矢野久五郎	二六	同	年四月
林田ミチオ	二五	同	七年八月
秋本豐一	二一	同	四年二月
村山恒太郎	二〇	同	六年二月
林田シマ	一七	同	八年十二月
龍田清造	一三	七	年八月
橋詰春松	一二	明治四三年一月	
石勢アイ	一〇	大正八年七月	
島内タネ	一〇	同	年七月
宮崎彌作	九	同	七年六月
川原兼吉	九	同	五年
古賀兵太郎	六	明治四年六月	
山崎豐四郎	五	大正九年六月	
松田末次郎	三	同	六年十一月
川野種三郎	三	同	七年十二月
計	四、〇三三		二四九、〇五〇
▼ペラ洲			
一保附近			

水上庄太郎	一五三	同	六、〇〇〇
山田亮吉	九五	同	四年三月
矢ケ部、本田共同園	八四	同	八年十二月
川崎志兎造	八〇	同	九年五月
若木由太郎	五七	同	年四月
白井、長尾 共同園	五三	同	七年八月
岩田カヲ	四六	同	四年二月
沖堀サクノ	四一	同	六年二月
森谷隆平	三七	同	八年十二月
奈良伊太郎	三三	同	年四月
竹内泰平	三〇	同	七年八月
佐藤キク	二四	同	四年二月
中村菊太郎	二三	同	六年二月
中村宅市	二〇	同	八年十二月
原口、林田 共同園	二〇	同	年八月
遠藤良助	二一	大正九年六月	
大町増藏	一六	同	六年十一月
水上、關共同	一二	同	七年十二月
飯島眞太郎	一二	同	年四月
澤本兼治	一一	同	七年八月
草野福太郎	一〇	同	四年二月
錦戸シン	一一	同	六年二月
松尾福市	一〇	同	八年十二月

	一四三	二三、〇〇〇	明治四四年八月
	九五	九、六〇〇	大正四年
	八四	六〇、〇〇〇	同 九年一月
	八〇		同 八年八月
	三五	九、六〇〇	同 年十一月
	五一	四、八〇〇	同 四年十月
	四六	一三、二〇〇	同 九年一月
	四〇		同 五年五月
	二八		同 六年十一月
	三三		同 五年十二月
	二八	六、〇〇〇	同 六年四月
	二三		同 五年六月
	二三	一、七〇〇	同 二年
	二〇	八、五〇〇	明治四四年九月
	二〇	一、五〇〇	大正二年
	二一	五、二〇〇	同 八年二月
	一六	一、二〇〇	同 七年十月
	一二		同 六年
	一〇		同 八年三月
	一一	九、三三三	同 八年七月
	一〇	五、四〇〇	同 元年五月
	一一	三、六〇〇	同 九年一月
	一〇	三、二〇〇	同 七年三月

浦田志徳	一〇	同	七年二月	―	
田中房吉	一〇	同	八年十月	六、〇〇〇	
辻田安五郎	一〇	同	七年六月	四、〇〇〇	
若木兼松	九	同	八年十月	三、〇〇〇	
稿村タケ	八	同	九年十月	一、四〇〇	
中村直一	七	同	九年六月	―	
野村、濱本共同園	七	同	九年三月	三、二〇〇	
山口義憲	六	同	七年十二月	―	
大谷ミツ	五	同	七年二月	―	
原田慶一	五	同	四年五月	―	
高木多次郎	四	同	九年六月	一、八〇〇	
梅本七郎	三	同	九年六月	一、八〇〇	
須賀原モカ	三	同	九年十月	一、二〇〇	
後藤タケ	三	同	九年二月	一、〇〇〇	
吉田藤一郎	三	同	八年十一月	一、八〇〇	
副島ヨネ	三	同	九年七月	二〇〇	
太平附近					
井上義太郎	三〇	同	二年五月	一〇、〇〇〇	
内田、澤田共同	一八	同	四年	七、二〇〇	
芝田留三郎	一六	同	九年二月	六、〇〇〇	
坂井伊代松	一五	同	六年六月	九、〇〇〇	
森川平三郎	一二	同	六年二月	二、五〇〇	
池田伊三郎	九	同	四年三月	一、四四〇	

潮崎卯市	四	同	六年十一月	―	
テランカンソン附近					
鳴海正作	四五	同	六年三月	―	
諸戸末松	一一	明治四三年五月		四、八〇〇	
池田梅吉	一〇	大正七年三月		―	
松尾友市	五	同	五年五月	―	
チツテソン附近					
村上太郎次	三	同	六年八月	二、〇〇〇	
計	一、一七〇			二三三、四七三	
▼バハン洲					
コーラリピス附近					
佐藤	二三	大正五年二月		―	
谷川シヲ	一〇	同	六年	―	
城戸ミツ	九	同	六年	―	
井手上ノイ	九	同	四年	―	
曲マサ	九	同	四年	―	
森尾ヨシノ	五	同	六年二月	―	
ラオブ附近					
井手上秀治	二一	同	九年一月	―	
山本、中村共同	一九	同	五年七月	―	
植村シス	一七	同	五年八月	―	
東甚之助	一五	同	五年五月	―	
吉田正義	一二	同		―	

江上フクヨ	一〇	同五年五月	
登崎トラ	六	同一二年一二月	
中村ミヨ	三	同八年八月	
ベントン附近			
宮崎伊三郎	一四	明治四一年一一月	四、四〇〇
金子ツル	二四	大正四年一月	
酒井カネ	二一	同八年八月	八、四〇〇
濱崎トシ	一七	同五年八月	二、五二〇
西尾唯七	一四	同三年一二月	三、六〇〇
藤川ヨウ	一二	同五年九月	二、一六〇
濱崎マツ	一二	同七年五月	
田中ハツ	六	同六年三月	
大西トモエ	六	同八年八月	
城本ウメ	五	同七年四月	
牧野留市	五	同九年二月	二、四〇〇
青瀬ヨイ	四	明治四四年一二月	一、五〇〇
中村キマ	三	大正五年八月	
宮崎タケ	三	同七年一二月	五四〇
林田カメ	三	同八年一二月	一一〇
計	三二七		二六、六二〇
▲トレンガヌ洲			
馬來ゴム公司	三、一九四	大正六年一〇月	
西垣仙造	一〇〇	同七年九月	
	一〇〇		
	二〇		

松尾翠	五〇	同九年	
大貫公光	一三、〇〇〇	同七年	
石貝邦作	五〇〇		
南洋殖産	四、〇〇〇		
	二〇、（椰子）八四四		
計			
▼ケダ及ペルリス洲			
田邊、及原共同	二二	大正八年一〇月	
千々岩健太郎	八二	同	
荒木竹三	二二	同三年一月	
平野竹三	二二	同六年一〇月	
千々、山輪共同	二〇	同八年一一月	
堀熊吉	一五	同七年一〇月	
岡野シス	一〇五	同九年四月	五、〇〇〇
吉見七九郎	四三	同八年六月	三、〇〇〇
計	三三一		一八、八〇〇
▼サラワク王國			
日洲商會	三、六三五	同六年三月	一一三、八五〇
山下護謨	五五一	同六年一二月	一二〇、〇〇〇
清水傳四郎	一五〇	明治四一年五月	三、六〇〇
大關雄只	三三	大正六年	三、三六〇
松下嘉次郎	四〇	同七年一二月	七、二〇〇
大政修	一〇〇	同六年一〇月	五、〇〇〇
島田微太郎	五三	同五年五月	一、四〇〇

林	吉次郎	八六	
村上	清次郎	七〇	
福丸	安平	六〇	同 八年
福島チョノ		四〇	同 八年
森田、森下	共同	一〇〇	明治四一年 二、六〇〇
前田	初次郎	三〇	大正五年 七五〇
栗原	キサ	一五	同 六年七月
駒形	重市	四〇	同 七年 一、五〇〇
中峯	友吉	一四	同 九年四月
松本	辰藏	一三	同 八年五月 一、二〇〇
計		五、〇九〇	同 五年二月

▼英領ボルネオ（護謨、椰子）

タワオ

久原	農園	二一、四〇四	同 六年
小杉佐喜藏・富永利吉		三〇〇	同 八年
		一三〇	大正八年二月
淺野スミエ		一〇七	同 六年七月 三〇〇
薗部恒三		九〇	同 七年一月 九〇
小澤義道		九〇	同 六年十二月 三五
近藤守次		―	同 年六月 九〇
脇坂定次郎		七八	同 七年六月 七八
齋藤一郎		一三	同 六年七月
仲間源太郎		一二	同 五年六月
仲間徳次		一〇	同 七年四月 三五〇
宮里富吉		一〇	同 九年一月 一〇
前田若松		一〇	同 八年七月 七
池原長松		一〇	同 年二月 一四
池原福助		一〇	

タワオ・バンバルー流域

馬來起業		一、〇〇〇	大正六年七月 一八、〇〇〇
前森倉造		三〇	同 年十二月
田中三造・角尾ナヲ		三〇	同 年八月 六六、〇〇〇
		二七	同 年十月

サンダカン附近

ボルネオ殖産		一〇、二一六	大正六年七月 三七三
出口金二		二〇〇	同 年十二月 二〇〇
南洋殖産		一五、〇〇〇	同 年八月 六六〇
坂本市之助		二六〇	同 年十月 二二〇
安藤喜代治		二一六	同 六年七月 二一六
松尾嘉四郎		五〇	同 七年三月 三五
横田共同園		二二	同 八年九月 二二
ビュフォト			
岩田エン		五〇	大正六年 三六
計	護謨	一〇、四一六	八、九五六
	椰子	三八、九五九	二、二三五
總計	護謨	一四八、六一一	一一、五四一、五二〇
	椰子	三八、九五九	一四八、〇〇〇

10、一九三一年頃の馬來護謨園消長

一九三一年に於ける護謨價はスモークド・シート一等品平均價、倫敦三・一三片、紐育六・〇七仙、新嘉坡九・七八仙で年末三ヶ月は英國金本位停止の影響を受け倫敦、新嘉坡とも多少昂騰を示したが多數の護謨園は經濟的壓迫を受け次第に生産費の低下を實行したが、然しそれは市價の慘落に伴ふことが出來なかつた。故に年末に於て僅少の園のみが收支相償ふに過ぎなかつた。然し此窮狀にも拘らず、年度末までに休採したのは少數の大園だけで、安値に依る生産減少率は極めて尠く大多數は現在の窮狀が生産制限が何等かの形式で實現した曉浮上ることが出來るであらうと期待し乍ら生産を繼續してゐたのである。然も工業界の不況衰微は一般消費の激減を來し、從つて一九三一年の世界ストック量が激增し、護謨の地位は他の商品と同樣最も甚だしい激變を來した。

年次	世界生産額	總消費高	ストック	平均市價
一九二二年	三七九、九二〇噸	三九四、五二七噸	二〇五、八四〇噸	一七・〇〇仙
一九二三	四一二、七七一	四三九、四〇七	一六三、〇九七	五二・二五
一九二四	四二一、二一七	四五八、二五二	一〇八、九五〇	四五・三八
一九二五	五一六、〇七六	五五一、二四四	七六、三八三	一一三・二九
一九二六	六一四、七七八	五三三、九一五	一四九、〇二六	八〇・三一
一九二七	六〇五、一九六	五八九、一二八	一九三、一四六	六四・三一
一九二八	六四九、六七六	六六七、〇二七	二〇二、八二八	三六・八二
一九二九	八六八、四一〇	七八五、四七五	二二八、五七二	三四・七二
一九三〇	八二一、八一五	六八四、九九三	三六六、〇三四	一九・二一
一九三一	七九九、〇〇〇	六七三、〇〇〇	五五六、〇七五	九・七八

馬來の護謨栽培面積と生産高

一九三一年の英領馬來護謨栽培面積は最大見積り三、〇七萬英反であつた。而してその總生産額四三四、八五七噸と見積られ內二三九、四三五噸が百英反以上の園から生産され、一九五、四二二噸はそれ以下の園から生産され、噸當り輸出平均價格二二七弗七五仙、輸出總金額九九、〇三八、六八二弗であつた。

生産內譯

	百英反以上園	同以下
馬來聯邦州	一四一、四五七噸	一〇五、三七八噸
海峽植民地	二四、七六六	二五、三四六
非聯邦州	一七三、二一二	六三、六九九
計	二三九、四三五	一九五、四二二

次に各州別栽培面積を擧ぐれば左の如くである。

一九三一年末各州栽培面積（單位英反）

州別	百英反以上園 採集面積	百英反以下 未採集地	合計
ペラ	二三八、四二〇	三四、七一六	二五〇、一六六
セランゴール	二九四、〇三〇	四七、四三六	一五四、八五四
ネグリスミラン	二一七、〇〇二	五五、〇五一	八一、一四二
パハン	三五、一二二	二三、四七〇	七五、五六二
聯邦州計	七八四、五七四	一六〇、六七四	五六一、七二四
マラッカ	一一〇、二八八	九、八三九	七四、八六〇
合計	五四三、三〇二		四九六、三二一
	三五三、一九五		一三四、一五四
	一、五〇六、九七二		一九四、九八七

プロビンスウエルスレイ		四四、〇五五	六、八三三	一九、八二六
彼	南	一、五八五	二三六	二、三一二
チンチングス		六、七〇〇	一、二二〇	七、六六七
新	嘉坡	二八、〇三三	二、六二八	一二、七八一
海峡植民地計		一九〇、六六一	二〇、七五六	三六、七八一
柔	佛州	三一三、三八五	二四五、六二三	二四一、七四七
ケ	ダ	一九三、三五九	——	一〇二、一二四
ペ	ルリス	二、六三三	——	四、九二六
ケランタン		三三、九九八	——	五八、七八九
トレンガヌ		一〇、〇〇〇	——	二〇、〇〇〇
非聯邦州計		七九八、九九八	——	四二七、五八六

尙一九三一年の新植付面積は、

馬來聯邦州	八、三〇七英反	七〇、七一四	一、三二六、五八四
海峡植民地	八二二	一三一、〇三三	
非聯邦州	不明	一五、五八七	
		四三、四四二	
		三三七、七六二	
		八〇〇、七五五	
		二九五、四八三	
		七、五五九	
		九二、七八七	
		三〇、〇〇〇	
		——	

土地の拂下げは既に一九三〇年から許可しないことになつてゐたから、新植付は以前拂下げた土地に行はれたものである。

護謨園の改良　不況は大多數の園にとつて芽接作業、更新作業、土壤の改良特に肥料の適應如何等に就き錯誤を來たさしめた。多數の例外を除いて各園は頗る良く維持され生産高も低下の徴を聊かも示さず、期待された如く生産費の低下に傾注された特に工場作業に就て節約が考究され就中スモークドシート製作費が非常に低減され、採集費も亦非常に切下げることを得た。一九三〇年には生産費一〇——一二仙と發表されてゐたが三一年は殆んど半減された。然し

如斯く生産費は下つても市價暴落のため利益は少しもなかつた。

數園に於ては從來行つてゐた試驗作業を中止せねばならぬ破目に陷り、新しく試驗を開始する筈であつた施肥試驗の計畫も不可能となつて了ひ、唯試驗作業は Imperial Chemical Industris 及び Malayan Fertilisers linuted だけで續けられることになつた。

包括的項目に就ては Rubber Research Institute の土壤課が次の如く發表してゐる。卽ち普通護謨園にして英反當り四〇〇封度以上を生產する良好な護謨樹に施肥する時は、英反に付二〇〇乃至三〇〇封度の增加を來すことが普通である。

勿論貧弱な葉と惡いバークの護謨樹の場合に施肥を行ふと著しく勢ひよくなるが、生產費の增加は其外觀より遲れるものである。施肥に依て實質的に生產增加を示さず只外觀頗る良好で生產を增加する樣な狀態にある護謨樹が、生產低下した時にのみ必要とするのである。

最も注意を喚起したのは荳科植物及其他の被覆物を栽培して土壤の流失を防ぐことである。護謨樹下に被覆作物を成長せしめることは、續行出來るが然し實際に土壤の流失を防止することと、卽ち他の意味に於て slitpitting として知られてゐることに關しては外園排水或は從來の方法が過去數年間非常な進步を示した。水蝕作用に依る土壤の流失防止に就て園を良く管理して置くことは普通先づ申分ないことである。

ゴム殖林栽培法

同年中興味ある問題の一はパハン州の一護謨園が始めた護謨森林造園法或は護謨森林栽培法と稱せられるものである。此方法の根本主義は護謨樹間に數多のヘヴェア護謨種苗を他の雜木と共に混淆し、これを除去せず自然の成育に放任して置くことで此目的は斯る育成方法を採る時は其主作物を害することなく、表土の水蝕作用による土壤の流出を防止してこれを保存し、地濕を林藪狀態と同樣普通より低濕に保持し又土壤中の有機物の酸化を少

なくする。又此方法に依る時は護謨園に於ける土壌並に護謨樹を著しく改良する。元來護謨は森林木として成育してゐたものであるから、斯る栽培法は明かに適當な處置であるかも知れない。乍併凡ゆる植物が其源は野生植物であつたものが栽培植物に變化されると云ふ議論も論理的ではあるが、護謨の場合は或條件に依て特に影響される要素があると云ふことも指摘されるのである。故に此方法の外他に頗る成育良好な栽培法が出現してこれに代ると云ふ競爭も亦考へられるのである。一般に卓越せる栽培による自然放任法は興味ある發達をしてゐる。然乍ら從來行はれてゐる週期切付の場合其バーク再生の如何が之と關連して論ぜらるべきで、自然林再生に就ては既に一九〇四年フランシス・ワツツ氏が西印度に於てコンア及ライム栽培に指用指摘してゐる。兎に角斯る栽培法の將來に就ては注目に價するものがあるのである。

護謨の芽接

多産母樹の記錄に就ては各園とも之を繼續して居り、護謨試驗所に於ける大部分の實生に之等多産母樹の芽を接いで新馬來クローンの育成に努めてゐる。此種護謨植付面積は左の如くである。

前名	園數	百英反以上園面積
ペラ	三三	七、六六三
セランゴール	四三	一五、六二〇
ネグリスミラン	二九	二三、六六五
パハン	一二	七、七四〇
プロビンスウエルス	一	二六二
ヂンヂン	一	七八七
マラツカ	一一	二、九四四
新嘉坡	―	―

	園數	百英反以下面積
	六一	一、八六一
	六一	一、八九二
	三一	一、〇四一
	一二	五四四
	一一	二三五
	―	―
	一五	二六七
	一	九

ケダ	一四	一九、五七九
柔佛州	四七	三七、一六二
チランタン	一	一、七六三
計	一九二	一一七、一八五

尙芽接護謨採集面積は一四、〇八二英反で同年中芽接用芽及優良種を蘭領東印度其他より輸入せる量は、

芽	六、三〇九	五三四
優良種	五、〇〇〇	一五

此數量は前年に比較し急に減少して居るのであるが、これは馬來に種床が設置されたこと及び馬來クローンの採用が增加した等の爲めである。モノクローン卽ち單クローンの栽培は頗る好適し成績又良好である。

R・R・I試驗場に於て芽接の種々方法、砧の高低試驗等を引續き行つてゐるが、該試驗場及數ケ所の護謨園では是等芽接幼樹試驗切付をなし、該樹が切付年齡に達した時の組織的切付と生產量の相關關係を試驗すべく目論んでゐたのである。

11、護謨製法の進歩

護謨製造に關しては其生產物に驚くべき變化性のあることを示してゐる。ラテツクスを構成する含水炭素（砂糖）の影響に就てR・R・Iの研究に依ると、ラテツキス及其乳漿からQuebracilolを遊離することが出來ると共に又eipirの性質も遊離されることが判つた。工場に於ける機械並に設備の改良に異常な注意を喚起し來り、特にスモークド・シートの設備にそれが拂はれた數園の作業結果に依ると、輕裝シート機械で縱線のものは一時間ドライバー二、〇〇〇——三、〇〇〇封度處理し得る程度に發達し、多くの園で使用されるに至つた。

大園に於ては資本費用の節約並に經費に關して五乃至六個のバッテリー輕裝シート機械を有する小工場で、六、〇〇〇英反乃至より以上の面積に對し充分支へて行くことが出來ると云ふこと、並に種々調査研究された結果非常に考慮されるやうになつた。通風の改良、燻煙室並に燻煙爐の設計等も亦經濟的消費を目的とし從來より早く乾燥し燻されるやうになつた。

薄いクレープの製造費がより高くつく所では、其製品の等位を低下せしむる樣になつた。原因は特別プレミアムは特別製造費を支へるに充分でなくして、且薄クレープの代用物として約三分一の費用で製造し得る薄い空氣乾燥シートの製造法が發見され、且期待されるに至つた爲である。其故重機械を使用する國は極めて少なく等位低下護謨の一〇―一五%に過ぎないであらう。ラテツキスの輸出は引續いて增加して居るが其用途範圍も歐洲及米國で研究され、引續いて起る急速な需要が期待されて居る。

12、小護謨園

小護謨園の生産增加は護謨總生産高に及ぼす重要なる因子として益々注目される問題となつて來た。

	一九三〇年	一九三一年
聯邦洲	一一〇、二〇六噸	一〇五、三七八噸
非聯邦洲	六六、一一三	六三、六九八
海峽植民地	三八、七七〇	二五、三四六

小護謨園の生産高は一九三〇年に比較して、少額の減少を示して居るが最も減少したのは海峽植民地で非聯邦州の減少額はほんの少量であつた。

小護謨園は尙普通部分切付法が行はれ其所有者は着々增加を示してゐる。ダンピングは相變らず持續され且つ過度の

切付も他に生計の資を有せさる彼等には已むを得ないことである。小護謨園の過度切付は常態であると云ふ暗示からして、此點に就て正確な測量を行ふことが提案され、一九三〇年に比し百尺竿頭一歩を進めた感がある。

該提案は小護謨園に於ける切付方法に就き當局が定期檢査を實施するは一九三一年中に具體化され、該目的のために一萬弗の特別補助金が護謨研究所及び擴張基金から支出され、此調査は年末まで充分に行はれ餘り遠くない推定數字を得られたが、其結果は小護謨園に於ける樹皮の消費は豫期したより遙かに少ないものであることが分つた。此材料に依ると樹皮再生に對する樹皮消費率の問題は未だ不明である。尙興味ある問題は小護謨園に於ける植切距離の關係で、卅五園を調査した結果に依ると、最低八呎――十呎、最高十八呎 平方である。

病害

同年中は顯著なる病害はなかつた Mouldy Rot は Aphaeronema fimbristum なる菌に依て生ずるものであるが、非常に優勢を極めたのは雨期中に於ける小園丈であつた。本病の傳播は其感染地から他の護謨園に移る切付苦力に依て仲介されるもので、管理者は特に雨期中充分留意し又 Coditra の悪い時或は切付を休止し得ざる時、充分防腐殺菌劑を施した時でも必要であり、更に農務局の技術官が豫防法を講じた時でも充分注意することが必要である。

同年中農務局は護謨試驗所と協同して同病に對する殺菌劑の試驗を行ひ、各園各種の藥劑を使用し効果あるものを白票に記入し、該病に犯された場合右藥劑を使用する樣指令を發した。Oidium Leveae 菌に依り生ずる葉黴病による護謨葉の落下は餘り大したことはなかつた。それは正常な雨期後不規則的な降雨があつた爲で、硫黄粉末散布に依る同病の驅除調査は行はれなかつた。

根病の中最も留意されたのは Feomes lignosus 及び Gauoderma psendofemeum の二病であつた。同年中R・R・Iより根病に關する特別冊子が發行されたが、其內容は未成熟護謨樹に於ける根病の處理に經濟的立場から多產樹の更新に依る植付地に就てゞある。之等根病は處女林に植付けた護謨樹に限られると考へられ、R・R・Iの病理學者は約

冊年もそれに就て研究してゐるのである。

Fomes lignsus に就て同年中充分研究され、其驅除に關し新發見をした。從來の石灰水に依る土壤の處理は無効なることが分明し、或る殺菌劑を直接菌糸に接觸すると有効なることが判つた。

地虫或はコガネムシの幼虫が非常な損害を一園に與へたとの報告があつたが、其虫害に就て目下調査中である。Helminthos porium heaveae 蟋蟀は幼樹及苗床の苗木に害を與へるが、蟋蟀は幼樹並に芽接樹に非常な損害を與へるものである。この蟋蟀は特に一本のクローンを選んで損害を與へることは興味ある事實である。

結論　英領馬來に於ける護謨事業は過去現在を通じて非常に研究され、最も變化のあつた事業の一であり又將來もそうであらう。

思ひ切つた經費の節減及發展の縮少は斯る狀態では已むを得ぬことであつた。乍然該事業の進展は凡ゆる方別に識別することが出來る。卽ち護謨事業が困難時代を出現するに至つた爲め其生產能率の標準は盛況時代に夢想だもしなかつた偉業を成就することが出來たのである。

13、護謨栽培六十年（ストレート・タイムス）

アマゾンから初めてベア種の種子がキユー植物園へ着いてから六十年になるので、馬來人は今年十月六日をラバー・ジユビリー（六十年）である。と云ふのは第一回積荷として新嘉坡へ來たものは運賃支拂遲延のため苗が枯死し、翌一八七七年に第二回分として着いたのが卽ち馬來護謨栽培の祖先となつたのであるが、錫倫では幸ひにして第一回分が枯死しないでゐたのであつて、其中の一株が今や欝蒼たる巨木となつてパラデニアの植物園に見られるのである。だが錫倫では第一回分が一八七六年九月に着いて居るから八月が將にその六十年目であつた。然し錫倫のみならず東洋の全栽培界は一八七六年を以てその誕生の年と呼んで居り、これはアマゾンから原種がキユーに着いた年である。そし六十年前に於て護謨栽培が可能なるを知りサー・ヘンリー・ウイツクハム氏をアマゾンに派遣したのは實にサー・クレメンツ・マークハム氏であり、猶鑛鑠として健在なることは誠に喜ばしい事である。

今日に於て現在の先入主感は扨置き護謨史のペーヂを繰つて見ることは相應しいことであらう。幸ひにして此國に於ては白耳義に對する國際的抗議を惹起し或はペルーに來國の調査團が派遣されたといふ樣な汚點をもつ暗黑時代はなかつた。事實十九世紀時代にはエステートを管理する勞働局の要網があつたのみで、何等適當な補助制度があつた譯でなく、契約勞働者は園から逃げ出せば警察で捕へて連れ戻してくれたし、恐るべきマラリアの死亡率も今日の發達した時代に比しては割に少いものであつたが、然しその當時は今日も左樣であるが、勞働者を拳骨や長靴で制御することでなしに、人格の力を以て統率して行くことの出來ない樣な栽培業者は容れられなかつた。蓋しエステートは船と同樣お互ひが愉快に滿足しなければよく進みはしないものである。白人もタミール人もその自動車を走らせるために必要なタイヤーを世界に供給するために、各々その人生に於ける職務を盡して來たが馬來はさうしたパイオニア時代の已むを得ぬ粗笨より、複雜な統制々度にある今日迄實に着實なる進歩をなして來た、まだ〳〵改良すべき餘地あり、特にタミール人勞働者の榮養不良、園內學校の不足、苦力小屋に於ける不當に醜惡なる、欝陶しい生活等々研究すべき問題があるが、然し大體に於いて馬來における栽培事業は賞讃さるべきものである。本產業あるがために此世界中でも最も貧弱な國の一つである當領に圖り知れぬ安全辨となつて居り、然も今日に於てはこんなに高率な勞銀を出してゐる樣な事業は世界の何處にもない。財政方面から云へば本事業には多大な恩惠があり、勿論沈欝な時代もあるにはあつたが、一方に

は馬鹿景氣の時代もあつた。

一九一〇年某々會社の如きは護謨四、三一八屯から二十一萬五千磅、卽ち英貨當り五三磅一五といふ純益を得て居り、一年にしてつぎ込んだ資金を取返したのである。愛嬌者のハーベー・ファイアストン氏がスチブンソン制限法實施中反英運動を起した當時に於て、氏は平均して一一七%の配當をなした會社十一社を指摘した位であつた。また戰時利得についても他事業同樣であり、一三八社の平均配當は一九一五年二割、一九一六年二割四分、一九一七年一割六分九厘となつてゐる。

今や護謨六十年祭を迎へんとする吾々にとつてかゝる好景氣は正に昔の夢に過ぎない。何となればそれらは亞米利加人を押へつけて面白い目をしたスチブンソン制限委員と共に、今日の世界護謨栽培面積を二八百萬英反にデッチ上げて了つたからである。兎も角護謨事業は間違つて儲けてゐたものと云ひ得べく、今となつては熱帶亞米利加の護謨栽培を刺激もせず、又人造ゴムが儲かりもせぬ位の値段になつてゐる。然も一九二〇年一切をふくめた封度當り生産費一四片四八であつたのだから、之等のエステートでは封度三片の利得を以て猶配當すら出來るであらう。とすれば人造護謨なんか到底これに打勝ち得るものではないのである。

雨の夕顏

君戀ふと云ふさへ淋し醉ざめの心にも似てうつゝなの今

振返る我が思出の戀幾つ色さめ果てし心にしみて

君乘せて日本へ歸る船戀し白日光にとけし群青

チロ〳〵と夜を鳴く虫に月影の滲むわびし更けしとぼえに

月光に洗はれし如と椰子の葉の輝く凄く冴ゆる虫の音

夕顏に心淋しく歸り來て疲れたる身をかこつ獨り居

鳩寒く濡れたる羽根をつくろへり雨季々雲の空に流れて

西北の風に變りて薄曇る雨季はた〳〵と日のかげる丘

ボウとなる出て行く船のサイレンもわびしく聞ゆ雨季の

暮れ急ぐ南洋の日ぞわびしけれ椰子ぬら〳〵雨今日も降り來て

仇花の黃に咲く裏の胡瓜畑朝は殊更ら露にぬれつゝ

日曜の朝晴れ〳〵と椰子若葉綠輝やく心うれしく

雨蛙淋しき聲に鳴きかはす窓に眞白き夕顏咲きぬ

夕闇に浮く夕顏に眞白なる花を今宵もぬらす雨かな

仇花の黃に散る背戶の胡瓜畑雨にうたれて眞晝淋しく

蝶々の雨にぬれつゝ去りがてに名もなき草の花にこがれて

虫の音もしめり勝なる夜をこめて原稿いそぐ心淋しく

海燕チゝと夜鳴くわびしさよ町新しき川添ひの宿

山を負ふて朧月夜にバトバハの街は眠れる冴ゆる虫の音

海雀いづら低く群れ飛べりニツパ林に映ゆる夕燒け

溝ぎ連れて歸る土人の丸木舟太古の如き川のしゞまも

夕燒くる山の麓の港街うこん裾濃に映ゆる護謨園

燃ゆる焰我が戀かとも疑へり梢まつかに咲ける街路樹

二一、歐洲大戰時代

1、勃發當時の在留邦人

墺國皇儲殿下サラヴエオに於て塞國青年の兇彈に斃れ給ふたとの飛電は世界の隅々にまで異常な衝撃を與へた。墺塞の開戰は俄然佛露をして獨逸に宣戰を布告せしめ、八月四日獨軍潮の如く白耳義の中立を蹂躙して佛國に進入せんとするや英國は猛然として奮起した。慘烈を極むる戰報は悠々たりし南洋の空氣をも震駭して、軍隊も艦船も悉く歐洲に引揚げられ、壯年の男子は森に斧鉞を擲ち、野に鋤鍬を棄て、市にペンを投じて祖國の急に赴かざるを得ざるに至り、歐洲から東洋への進行はハタと止つて、鐵道工事も港灣修築も市區改正も、植民地施設の一切が中止されて英領馬來の

發展は中絶されて仕舞ふた。而して歐洲品輸入不可能を補塡するためにメイド・イン・ジヤパンの商標を張つた商品が潮の如くに押寄せて來たのだつた。然も歐洲大戰開戰當時グダンにあつた日本商社と云へば三井物産と臺灣銀行と乙宗の支店があつたばかりで、二十年も前から船を廻して居た郵船會社すらまだバツターソン・サイモンス商會に代理店を委せてゐたのだつた。況んや所謂下町はまだ花街全盛の夢に醉ふてゐたのだから、女郎屋に寄食しながら護謨栽培に手を出してゐた加藤や西島など云ふ豪傑連が威張つてゐたし、小林千代吉や神戸新などの顏が相應賣れてゐた。

北橋路もミツドル路から東には村上商店と其向ふに賣藥會社の支店があつたゞけで、西には日本商行、副島、鈴木の兩時計店、向ひ側に隆弘藥房、菅原、庄司、富商會、水野ちよと云ふ女主人の店と、大正理髮抔がハリマホールの近所にあり、ズツト行つて今のキヤピトル映畫館の先に古本齒科醫がなし、ミツドル路の博愛藥房は當時まだ遠藤隆夫氏の經營で日本藥房と稱し、近所に白鳥商會と越後屋があつた。それから此處へ來て東洋藥房、東鄕寫眞館、福島、好文館書店、ヴキクトリヤ街を越えて橋ホテル、安藤醫院、京都理髮店、山田洗衣店、川端デンチスト等でセルギー路に小林石鹼屋、ヴキクトリヤの通りには田本酒店、山本齒科醫、中野醫院、吉田商店があり、吉田の隣家に南洋新報社があつた。花街の夜はナンバー入りの軒燈晝をあざむく豪勢振りを訪り、廿餘軒も白人の女郎屋が邦人娼家と軒を列べて盛んに客を呼込んでゐたのだつた。そして料理屋は海岸の星州樓と新喜樂、新京樓、三日月位のもので、要するに歐洲大戰開始の大正三年六月には新嘉坡には內地商社の支店五、女郎屋を除く個人商店其他が三十八軒合せて四十三店あつたに過ぎなんである。

2、金融杜絶と護謨園の借入

大正三年八月一日英國對獨宣戰布告の電報を受けて新嘉坡の官民は全く腰を拔かさんばかりに驚愕して仕舞ふたので

ある。物々しい戒嚴令が布かれると同時に種々の規則が間斷なく發布され、朝令暮改市民は殆んどその去就に迷はざるを得なかつた。殊に防穀令發布は柔佛の栽培業者を面喰はした。銀行預金支拂を禁止し、私債の受授を嚴禁、暗號電報を禁止し、英佛語以外の使用も許さない事になつた。柔佛河畔の護謨園に對する防穀令は栽培協會と領事の斡旋で漸く排除されたが、金融閉息に伴ふ資金窮乏で尙投資時代にあつた我栽培業者は多數の苦力を抱へて途方に暮れざるを得なんだ。漸く領事と臺灣銀行と栽培協會の奔走で邦人栽培業者一年に要する經費約二百四十萬弗を非常時に應ずべく、百六十萬弗に節約すべき考案を立て、八月初旬應急金融策の第一方便として栽培業者は藤井領事を經て四千萬弗三ケ月の償還期限借入方を政廳に交涉して貰ふたが未だ採收期に到達してゐない栽培地に四十萬弗を貸與することは出來ぬ。尤も臺灣銀行をして借主たらしむれば差支ないといふのであつた。卽ち藤井領事は外務省に瀧田臺銀支店長は本店に夫々報告し重要交涉は東京で開かれ、外務省と英國大使館と臺灣銀行と協議の結果臺銀が香港上海銀行橫濱支店に日本貨五十五萬圓を提供、それに對し新嘉坡政廳は臺銀支店に新嘉坡貨四十萬弗（利子年六分）を貸與する事となつたが、交涉約一ケ月の間に情勢著しく變化し、臺銀は敢て政廳より借入れずとも銀行資金を以て融通すると云ひ出し、借款團も三井は脫離し、所要金額も減じ半額で足る事になつたが、非常の場合に於て政廳より資金融通の關係を結んで置くことは政策上甚だ緊要な事であると、兎も角も當初申込んだ四十萬弗を借入れ、十月初旬償還期に先ち完濟したのである。

3、エムデンの跳梁と伊吹、筑摩の出動

日本の對獨宣戰布告によつて邦人に對する英人の態度が著しく謙遜になつた矢先き、青島封鎖に先ち同港を脫出した獨逸輕巡洋艦エムデンが南洋及印度洋に神出鬼沒、猛威を逞しうしたので新嘉坡に於ける日本大明神の輝きは一段強くなつて來た。新嘉坡を始め香港や濠洲から、兵員や軍需品の多數を歐洲に輸送せねばならない大切な秋に交通の要路

である印度ベンガル灣頭で敵艦の脅威を受けては堪つたものでない。昨日も一隻やられた、今日も亦二隻やられたと悲痛な噂が傳へられて新嘉坡はもとより彼南にも蘭貢にもコロンボにも避難の商船益々數を增して來た。

八月末「二三日の中に日本軍艦來る」と切りに噂され、果然某日早曉模糊たる朝霧を破つて伊吹、筑摩が來たのである。然しエムデンは日本軍艦來ると聞いて姿を隱して仕舞ふた。然も伊吹、筑摩が瓜哇方面に出動して新嘉坡に引返して來る間にベングル灣で五隻の英國汽船を擊沈したのである。駐在武官荒城海軍少佐は地團太ふんでくやしがつた。領事館に邦字新聞記者を呼んで「伊吹、筑摩の入港前二日早くも噂の喧傳されてゐた事は遺憾に耐へない。戰時に於ける軍艦の行動が二日も前漏洩しては何うして完全なる作戰が行へよう。今回の如き日英共同作戰に於て敵艦の不意を擊つべく特に快速艦二隻が派遣されたのに、それが香港を出て新嘉坡に急航中早くも行動が漏洩せる爲め作戰全然失敗に歸したのである。吾々は二大戰役を經たる國民として此失敗は英國人に對して洵に面目なき次第である。然も漏洩の不謹愼者は當地に居る日本人である。尤も香港よりの入電を受信者に配達したるは當地電信局の不注意として相當譴責されるであらうが、日本人として之を外間に流布した罪は斷じて輕るくないのである。固より惡意あつて行つたのではなからうが、結果より見て確かに軍機を漏洩し、敵に利便を與へたものである。當人も思慮なき者ではない樣であるから、願くは新聞紙上で警告を與へて貰ひ度い」と相當興奮して語られたのであつた。

斯くてエムデンは彼南港內で露艦ゼムチユクを沈め、佛國驅逐艦外商船數十隻を擊沈し、マドラス港を砲擊し、遂にコーコス島で英艦シドニー以下に追擊され悲壯な最後を遂げたのだつた。

4、帝國軍艦來援と邦人義勇兵募集

大正四年二月十五日夕刻新嘉坡西方郊外のアレキサンダー・バラツクの輕歩兵第五聯隊（將校は英人下士卒はパンガリー種族）叛亂し勢ひ猖獗、白色人種は忽ち青色に化し郊外の住宅より市內に避難し來る者引きも切らず、柔佛から一中隊の援兵（馬來兵）來援直ちに戰鬪部署に就いたが隊長戰亂と同時に潰走し、英人義勇兵非常召集され、馬來巡査も一齊に武裝したが、夜間の危險を恐れて出動を敢てしない。

叛兵は約八百と稱せられたのであるが、馬來人兵士も巡査隊も全然戰鬪能力を缺いて仕舞ふた。只僅かに頼みとなるのは英艦カルモラ號（小砲艦）の陸戰隊九十名と英人陸兵數十名と義勇兵のみ、不安は刻々に迫つて來る。

軍用自動車の來往繁るが如く、流言蜚語道路に湧き、新嘉坡は全く無警察狀態となつたのである。何しろ印度人巡査は敵か味方か全然判明せず、市民の大部分を占めて居るのは何時土匪と早變りするかも知れない支那人なんである。

あはたゞしく總督邸を出入する英官憲の顏色は暗い。

夜十二時藤井領事在留邦人の主なる者廿餘名を召集し、先づ荒城駐在武官の說明あり。

「印度兵八百本日午後四時アレキサンダー・バラツクに於て騷擾を發し、英人將校を射殺したる後一隊は道路に出でゝ折柄通行の自動車を襲ひ英人紳士及び婦人十數名を虐殺し、一隊は俘虜收容所（當時同所にはエムデン乘組員若干を收容しありたり）を襲擊して英人監督將校數名を殺害して俘虜を逃走せしめ、更に兵營に引返して隊伍を整へケツペルハーバー方面に突出せんとす。英水兵義勇兵と共同して之と戰鬪を交へつゝあり。叛兵は充分に兵器彈藥を携帶せるも大砲を有せず、原因一切不明、然も只今迄に電信線及鐵道を破壞せざる點より考察して完全なる指揮者のあらざるを想像し得」云々。

而して藤井領事曰く、

「數時間前總督副官予の官邸に來り事態容易ならざるを告げ、且つヤング總督は明朝迄に日本人を以て二百名の義勇兵を募集されたき旨懇請して來た。玆に於て予は千思萬考の結果、日英の國交に鑑み又現在當地の事態を思ひ荒城少

佐とも相談し出來得べくんば應急の援助を與へ、以て日本男兒の義俠的精神を發揮せん事を切望するのである」と。

此時ヤング總督より領事に電話あり、曰く、

「只今第一線よりの報告に依れば戰況刻々我に非にして到底支ふる能はず。卽ちタウン襲撃は迫れり。願くは今夜中に義勇兵を募集されたし」と。

事態は益々重大となつて來た。義勇兵の募集に關しては何人も異論はなかつた。尤も荒城少佐は同日午後六時總督の請に依り、馬公要港に軍艦來援方を電報したるに、午後八時承諾の返電があつた。軍艦は音羽と對馬、一は十七日夕、一は十八日朝到着の豫定であるから、我義勇兵もそれ迄の任務である。

熟議の結果「市街の警備のみなること。一切の待遇は英人義勇兵と同一なること。日本人將校の指揮下より分離せざること。服務期限は帝國軍艦到着迄なること」等を條件として承諾する事となり、領辨領事は直ちに總督を訪問して之を通告し、その承諾を得たのである。

營に送つた。

應募義勇兵は大多數兵籍を有するもので、直ちに銃器彈丸配布せられ、服裝は雜多なれど流石に帝國の干城だけに步武堂々行動する態度の雄々しさ、どれだけ英國人に信賴の念を起させたか知れないのだ。

斯くて十六日午前八時帝國領事館に參集せる者無慮三百名、鈴木豫備海軍々醫總鑑及荒城少佐その體格及兵役の有無を檢査して有名を採用し、指揮には日新護謨園支配人陸軍豫備中尉農學士和田義正氏を以て當て午前十時海岸義勇隊本

然も隊伍堂々士氣の旺盛なるを見て良軍司令官は領事との約を枉げて之を戰線に送らんとし、パセパンジヤン方面に出動せよとの命令を傳へたのである。時に藤井領事憤然色を爲して直ちに軍司令官リダウト少將を訪ひ、其約に反くを詰つて漸く最初の約束の如くなるを得た。

我義勇隊は馳て十數臺の自動車に分乘して三箇所の警備地に派遣された。此日叛兵の半數は降伏したが尙半數は頑強に戰鬪を試みてゐた。更に百名の日本人義勇兵が募集された。夕方佛國巡洋艦一隻入港直ちに百數十名の陸戰隊を上陸せしめたが、只防戰に努めるのみでリダウト軍司令官も偏すら日本軍艦の來援を待つて居るのであつた。

十七日夕軍艦音羽は入港した旭日の軍艦旗星波港頭に翻々たり。翌朝更に對馬に艦隊司令官土屋光金少將坐乘して入港した。ヤング總督は直ちに陸戰隊の上陸を懇請した。然し土屋司令官は「日英同盟條約は彼我の內亂に關係すべきものでない。强ひて此際帝國の力を藉らんとならば國家的報償條件を附せよ」と一應拒絶したのであるが、當時の形勢甚だ急でそんな交涉をして居る餘裕なく、總督の哀訴嘆願を入れて、遂に土屋少將は援助を承諾するに到つたのである。

十八日午前對馬、音羽二艦より約二百の陸戰隊對馬副長飯田少佐指揮の下に上陸した。而して邦人義勇兵中より兵役に關係あり、且つ地理に精通せる者數名を附屬せしめ用意の軍用自動車にて戰場に向ふた。

其日の正午帝國海軍の陸戰隊は一彈も發射せずして敵の本營アレキサンダー・バラックを占領して仕舞つた。叛兵の一部は降伏し一部はジョホルドル其他へ潰走して仕舞ふた。バンガリー兵は馬來人に向ひ、恨みなき日本兵に何ぞ抵抗せんや、吾々は只英人を憎むのみと云つてゐたそうだ。又彼等は日本兵に降伏せば恐らく殘酷な取扱ひをせざるべしと思ふてゐたのだらう。

斯くて叛亂全く鎭靜し、總督安然地帶を擴延すると共に港外に避難せる婦女小供の歸還を命じ、漸く英人の顏にも赤味が返つて來た。

數日後海岸廣場で佛國陸戰隊の分列式あり。其翌々日同所で更に帝國陸戰隊の分列式が行はれたのであるが、其盛況新嘉坡空前と稱せられ、英人の小供まで手に〳〵日の丸の旗を持つて歡呼したのだつた。

印度兵叛亂の原因に就ては種々の說あり、其後叛兵の裁判に於て種々な陳述と證言があつたが要するに宗教上の關係

より排良思想のありたる事と、歐洲輸送を嫌忌したる事と、多少印度の現狀を解する者が彼等を煽動した結果であらうと結論されたのであつた。叛兵卅餘名は銃殺され、他の大多數は流刑或は懲役に處せられた。

5、印度兵暴動と支那人のボイコット

然し歐洲大戰が無前の好運を日本の南洋發展に招來したには相違ないが、決して開戰と同時に其幸運が在留同胞を見舞ふたのではなかつた。不正分子の大掃蕩で大混亂を極めてゐた日本人街は、更に戰爭勃發に依る極端な市場混亂に惱されてゐた折りから、大正四年二月アレキサンダー・バラックに印度兵の暴動が起り、英國官憲の驚愕と狼狽其極に達し、將に死地に陷らんとする危急の秋に當り、藤井領事や駐在武官荒城二郎少佐等の奔走に依り、任俠精神に燃ゆる一般在留邦人が蹶起して義勇軍を組織し、英領新嘉坡の秩序を好く保持し得たのは、永久に英國官民の忘るゝ能はざる事實であつたらうと信ずるのである。然しさしも一時猖獗を極めた印度兵の騷亂も、間もなく土屋少將の率ひし帝國軍艦對馬音羽の來援に依て鎭靜されたのであるから、當時日本人の肩身の廣かつたことは全く想像以上のものがあつたのである。

然もこの在留同胞の義勇的努力は直ちに酬はれた。それは同年五月日支交涉に憤激した南洋華僑から在留日本人がボイコットを喰はされて、新嘉坡はもとより馬來半島の田舍では其日の生活にさえ困る者を出した程痛烈を極めたのであつたが、英國官憲の峻烈なる保護に依て一たまりも無く支那人の排日運動は掃蕩されて終ふたのであつた。情は人の爲めならず、銃劍を執つて義勇隊を組織し、在留邦人が英人の危急を救ふた行爲は斯くして直ちに、英國當局の斷乎たる邦人救濟手段に依つて酬はれたのであつた。然も人爲の偶發的事件が人間の運命を奔弄するに止まらず、一ツ躓いたが最後災厄は次ぎから次ぎとドン底まで吾々を窮迫の淵へと追込まねば置かなんだ。一般貿易が戰爭開始と共にバッタリ止まつて終ふたのにかゝへて護謨價大暴落で、折角馬來半島の土地に注ぎ込んだ資本は前途怎うなる事かと極度に悲觀せざるを得ざる狀態になつて仕舞ふた。白人の事業が悉く中止された事は勿論、船舶は片ツ端しから徵發され、壯丁の多數が船毎に歐洲に引揚げられ、將に馬來の山河は荒廢に歸せんかとまで、無智な一般國違ひを狼狽させたのだつた。

斯くて古い在留民社會に大革命が招來さるゝと同時に、新たに護謨栽培事業が內地資本家の注意を惹出してゐたので目星しい花街の顏役が命から〳〵諸方を逃げ廻つてる騷ぎをよそにして、面目を一新し內容も充實した堅實なる新しい在留邦人社會は寧ろ痛快を叫んでゐたのだつたが、猛火は更に大洪水を伴ふて果ては共々周章狼狽如何にかして一身を完ふすべく避難せんかに迷はねばならない事になつたのであつた。然も洋々たる曉の光は旣に東雲を破つて輝々たる運命を日本の南洋發展に癡しつゝあつたのである。兎も角も內地資本家の投資に依る護謨山の危急は直ちに臺灣銀行支店の融通承諾に依つて救はれたのであつた。

6、南洋の治安維持と帝國海軍の貢獻

愈々戰時氣分は南洋の隅々まで濃厚に彩られる樣になつて來た。大正三年末獨艦エムデンが波靜かな南洋海上を縱橫に脅威し廻つたのも忘れ、コヽス島に無慘な殘骸をさらす樣になり、當時の名殘をとゞめて彼南港頭には長く露艦チエムユイのいたましい遺跡が殘されてゐた。而して殆んど歐洲に引揚げて終ふた英國軍艦に代つて全亞細亞、濠洲、南阿の警備に任じた、日本艦隊に飜へる堂々たる旭日旗は當方面一帶の安寧秩序を確保して、さしも慘虐を極めた歐洲の戰禍を一毫たりともスエズ以東に侵入せしめなんだのであつた。斯くて同年九月大正天皇御卽位の大典を記念すべく、馬來各地在留邦人の團體を打つて一丸となし、國家的發展を期せざる可からずとの主旨を以て新たに日本人會が創設され、十二日盛大なる發會式が擧げられ、鈴木軍醫總監が初代會長に推薦されたのだつた。更に同年十一月の大正天皇御

即位式には南洋各地思ひ〳〵に出來得る限り盛大な祝賀會を催し、新嘉坡では市公會堂で嚴肅な奉祝會擧行、衣冠束帶おごそこな中野ドクトルが委員長として祝文を朗讀、海岸芝生で大運動會を開催して大いに在留民の元氣を鼓舞したのであつた。

歐洲大戰に日本が聯盟諸國に對し直接貢獻したのは青島の獨逸極東根據地を奪還し、英國艦隊と策應して其東洋艦隊を擊滅し、太平洋上に散在してゐた裏南洋の獨領を悉く占領し、戰爭の後半更に佐藤少將の率ひた驅逐艦隊が地中海に出動して尤も目覺ましい活動をした位のものであつたが。その間接に寄與した處は寧ろより以上に一層重要な意義を有し、且つ非常に功績の顯著なものであつた事を必ず世界が認めて吳れた事だらうと信ずるのである。卽ち新西蘭より軍需品と軍隊を戰場に輸送したのを初めとし、スエズ以東亞細亞と濠洲の海面は擧げて日本艦隊に依つて警備されて居つたのであつて、東はスエズより印度洋、支那海にかけ、南は阿弗利加の尖端ケープタウンから濠洲へかけて、我帝國海軍の保護に委ねられ、其產業の開發と領民の安寧秩序が確保されてゐたのであつた。殊に新嘉坡に於てすら印度兵の騷擾があつた程であつたから、英領印度の大戰中に於ける住民の言動はやゝもすれば爆發せんとする危險極まりなき狀態にあつたのであるが、精銳なる帝國艦隊が嚴に警備の任に當つてゐたので流石獨逸の陰險な魔手も一指を亞細亞の英領に延ばす事が出來なかつたのであつた。

而して大戰の五年間を通じて新嘉坡は實に日本艦隊の策源地となつてゐたのであるから、港頭勇ましい旭日軍艦旗の飜つてゐない事なく、一時に十數隻の帝國軍艦が防波堤外の錨地に舳艫を連らねて居たことすら珍らしくなく、バンガリー騷動に土屋司令官が對馬音羽を率ひて來援して間もなく、財部中將第三艦隊の一部を統率して南洋に來り、次で野間口中將の麾下に南遣艦隊が編成され、爾來、小栗、竹下、千坂各中將が司令官として來任し、更に佐藤少將の驅逐艦隊が遠く地中海に出征し、山路少將の別動隊が南阿から濠洲一帶の海洋に活動してゐたのであつて、休戰後も名を第二

遣外艦隊と改め吉田少將を司令官として大正九年まで、日本軍艦の勇姿が南洋一帶の海洋を壓えてゐたのであつた。

殊に特記すべきは地中海出征艦隊の凱旋と分與された獨逸潛水艇が母艦「關東丸」に護られ、廻航されて來た時であつて在留民が大歡迎會を開催したことは勿論、青年會は潛艇參觀團を作り、更に乘組將校の講演を乞ふて、壯烈なりし地中海に於ける我佐藤艦隊の武勳を故國に先立つて親しく聽く事が出來たのであつた。此間海軍駐在武官は戶奈、保坂、荒木、廣田、倉賀野、三好、大西各少佐と續き陸軍も市瀨騎兵中佐を派遣、戰後馬來語習學のため平岡中尉がスレンバンに二ケ年留學してゐた。

7、在留邦商の大飛躍

更に戰爭開始と共に邦人の渡來する者激增し。大正三年中下町に（ハイ街を含む）新しく開店せるもの食糧品店、雜貨業、齒科醫各一軒、東洋日日新聞も亦同業創刊で其他仲介業二軒、人力車販賣一店、旅館三の十軒に及び、翌四年には十二軒、五年十七軒、六年九軒、七年十一軒と云ふ勢ひで發展し、開戰直後から休戰に至るまでの足掛け五箇年間に下町だけで約五十八軒の日本人商店が殖へたのであつた。而して新嘉坡商業區の心臟である土庫方面に開戰以來內地の銀行會社支店が續々增加せし有樣は一層凄じい勢ひを示し。そぐろに殘留白人の膽を寒からしめたものがあつたのである。卽ち其猛烈なる日本の南洋活躍に先驅したものは大正五年三月新たに支店を開設した川原商店であつた。續いて七月加藤商會、九月正金銀行、十一月村田公司、十二月潮谷商會等が何れも支店を新嘉坡に設け、六年には五月小倉貿易を始めとして七月駒井、池田の兩店、九月鈴木、坂部、十月日蘭貿易、向笠商店、十一月三菱、增田の各支店が出來續いて七年には一月中央物產、二月山下汽船、四月千代田商會、南洋貿易、六月大阪商船、十一月茂木商店支店が新設され、郵船會社も十二月一日を以てバッターソン・サイモンス商會の手を離れ獨立して支店を開設し、其他個人經營の商

店が土庫に店を開けたものに大正五年有阪商會、六年に石原洋行、七年布井商店等あり。大正五年から七年までの三年間に土庫に支店又は個人商店の開店したもの二十有餘に及び、之を下町に出來たものと通算すれば大戰中實に邦人商店の增加約七十八軒、更に其他の中介業等を加ふれば大正七年末に於ける在留邦人の店舖は、約百十餘軒に達し戰前の殆んど三倍となつたのであつた。而して此素晴しい發展の餘勢は休戰後にまで及び、八年以降にも會社支店として新たに開設されたもの華南銀行、南洋倉庫等あり。個人商店も益々增加の趨勢を持續しつゝあつたのであつた。戰時中この異常な活躍を日本人商店が實現し得たのは、我對南洋貿易の大飛躍を物語る何よりの證據であらねばならないのである。而してそれは當時南洋印度一體の市場殆んど歐洲雜貨の輸入杜絶し、洪水の如く船載され來る日本品が至る處で持てはやさるゝ樣になつた爲めであつた。隨つて歐洲と極東間の航路に從事してゐた列強汽船も日に月に影を沒し、獨り日本汽船の活躍に委されてゐた觀あり。日本汽船の歐洲定期航路は七萬噸より廿七萬噸に、印度航路は三十萬噸より四十六萬噸に、南洋航路は三萬噸より十三萬噸に早くも躍進したのであつた。卽ち開戰の一年前である千九百十三年から休戰の年である千九百十八年までの我國對新嘉坡貿易統計は左の如き數字を表示して居るのである。

	日本より輸出	新嘉坡より輸入
一九一三年	一一、五〇三、〇二六弗	五、〇〇五、六五八弗
一四	一〇、六七〇、八四二	三、二一三、九八七
一五	一二、七五二、五七五	六、〇五二、四二七
一六	一九、三八七、九三六	一一、二一八、四六三
一七	二九、九〇二、二八五	一六、七二一、八九二
一八	四四、五三〇、二四二	二五、六七二、一三七

卽ち我國の對新嘉坡貿易は大戰前輸出千百五十萬三千〇二十六弗、輸入五百萬五千六百五十八弗であつたものが、開

戰の影響を受けて大正四年には輸出に於て八十二萬二千百八十四弗、輸入に於て百七十九萬千六百七十弗を減じたに拘らず戰局の長曳くに隨つて爾來却つて躍進を續け、五年目に當る休戰條約の締結された大正七年には開戰前より、輸出に於て約四倍の三千二百九十二萬七千二百十六弗、輸入に於て約五倍の二千〇六十六萬六千四百七十九弗を激增したのであつた。加ふるに戰前には直接輸出入貿易に從事してゐた商店と云へば僅かに三井物産と乙宗支店の二軒に過ぎず、寧ろ支那商の手に依つて日本對南洋の貿易は其大部分を取扱はれてゐたのであつて、一般在留邦商の比較的小資本な者は彼等の店から日本品を卸して貰ふてゐたと云ふ有樣であつたので、石炭、燐寸、鉋塊、ビール等纏まつた輸入品を扱ふてゐたのは三井ばかり、花莚、綿布、綿製品、陶磁器等を乙宗及びハイストリートの大和商會、長井禎商店、中川等が輸入して居たばかりで、邦商小賣店の店頭に列べられてゐたのは、殆んど在留邦人向きの商品ばかりであつたのであつた。隨つて馬來半島及び蘭領のスマトラ、西ボルネオ等新嘉坡に仕入れに來ねばならぬ商人は勢ひ日本品を取扱ふて居る支那商店に行かねばならなんだのであつたが、俄然形勢は一變して土庫に卸店の數が激增したのみならず、相應それまでに基礎の堅まつてゐた下町の邦人商店も反對に支那人、印度人等に何れも卸賣を初める樣になつたのであるから、邦人商店の活躍發展は統計の數字が躍進した以上に內容的に一層猛烈なる勢ひを示し、更に日本內地の製造工業が千歲一遇の機會をとらへて無斷の活況を呈せるに連れて、各種原料を輸入する數量も驚く可き金額に上り、加ふるに日本を經由して米國に輸出さるゝ南洋生產品の數量亦非常なもので、在留邦商の總ては急かに輸出入貿易商ならざるなき盛んな有樣となつたのであつた。

加ふるに寄港邦船の激增は愈々驚異すべき數に上り、郵船八阪丸が地中海に於て敵國潛艇の犧牲となつて以來、數隻の遭難を出したのであるが、太西洋及び地中海方面に活躍せる日本汽船の勢力は眞に日の出の勢ひで、實に亞細亞、歐羅巴及び印度、南洋、亞米利加を連結する航路は、全く日本汽船に依つて獨占するに至つて我貿易業者の活躍は其頂點

に達したのであつた。而して印度、濠洲、蘭領東印度を初め歐米の雜貨を輸入して其生產品と替えつゝあつたこの一帶の地域は、いやでも日本品を使用せざるを得ざるに至つたのであるから、日本商人の發展は何處まで擴張されるか判らない勢ひであつた。南阿の尖端にも邦人商店が開設され、地中海の沿岸至るところ日本の雜貨を輸入せざる處なきに至つたのであるから、新嘉坡は宛然世界戰爭に依つて躍進せる日本の發展活躍を象徵するその表玄關たる盛觀を極めてゐたのであつた。

8、商品陳列所と學生會館の開設

日本の經濟的躍進が內地の資本家に南洋發展を強烈に刺戟した結果が護謨栽培事業の異常な擴張を招來した以上に、前章旣に記述した通り、日本對南洋の貿易額が驚く可き飛躍をなせるに連れ、土庫にも下町にも卸商小賣商店が雨後の筍の如くに續々として開店し、日用百般の雜貨悉く日本品を以て兎も角も補充されたのであるから、何でも店舖を明けさへすれば必ず儲かるに極つて居るもの丶樣に思はれ、運送業や艦船賣込みなぞも非常な勢ひで增加し、隨つて在留邦商一般の景氣に連れ、料理屋の繁昌眼の廻る程で、其全盛期に於ては十七、八軒の料理屋と五十名近い藝者が殆んど奔命に疲れ果てゝ居た程の景氣であつた。何しろ品物が來さへすれば羽根が生へて飛ぶ樣に賣れたのであるから、運賃の暴騰なぞはもとより眼中になく、四十何弗と云ふプレミヤをつけて尙且つ切りに船腹の不足がかこたれた結果、所謂調下町の商店主聯盟の名を以て內地當局に船腹の增加を請願すると云ふまでの勢ひを示したが、其頃から內地朝野の海外發展特に南洋に對する關心は愈々深厚の度を加ふるに至り、大正七年十一月今度は南洋協會の經營で商品陳列所が再度開設される事となり、將來南洋に活動すべき靑年を養成する學生會館も一所に開設する事になり、陳列所長木村法學士に依つて學生會館は九月、陳列所は十一月ブラスバサ路今オリエンタルホテルとなつてる處で開所式を擧げたのであつた。蓋し日本の製造品を南洋に紹介し南洋の工業原料を內地の製造工業家に紹介する事は、差當り尤も緊切なことであつたのである。而して學生の養成に至つては、上海の東亞同文書院が尤も適切な標的であつて、發展も活躍も要するに其人を得ると否とにあるのだから。

斯くて同年更に新嘉坡日本人實業協會が新たに組織されたのであつた。(イ) 取引上必要な信用調査、(ロ) 商工業に關係ある法制の調査、(ハ) 及び時事問題の研究、(ニ) 官廳其他に對する必要な交涉、(ホ) 取引上の紛議仲裁等を引受け、在留邦商の共同の利益を增進すると共に各自の親睦を厚ふするを目的として組織されたもので、木村陳列所長會長に押され殆んど主なる在留邦商を網羅し、將來は日本人商業會議所たらしめんとの抱負を以て生れたのであつた。

9、日本人會と靑年會の發展

遮莫、歐洲大戰開始以來新嘉坡在留邦人の面目一新を尤も力强く表現した、日本人會が愈々堅實な發展をなしつゝあつた事は一般在留邦人の最も快心に堪えざる事實であつたらう。內地大會社の支店が續々設置され相當の資本を下し た護謨園がふへるに隨つて、在留民間に智識階級が益々激增した結果、如何はしい人物が社會の表面に出る樣な事は到底出來ない樣になつて終ふた。加之、日本人會は殆んど內地の役場に等しい仕事をなしつゝあるのであるから、植民地にあり勝の勢力爭ひの渦中に投ぜらるゝ樣な事もなく、純然たる在留民の公共團體として尤も着實なる發展をなし、會長は初代鈴木軍醫總監の歸朝に依つて、江崎臺灣銀行支配人が選擧され、爾來中川兼三氏、三神三井物產支店長、宮下郵船、山崎大阪商船支店長時代に休戰となり、副會長は中川兼三氏引續き數回に亘つて推薦され其歸朝に依つて芝田長井禎商會支配人が就任、書記長は篠崎文學士が創立以來休戰後まで勤續してゐた。更に日本人會は四年十月から小學校の經營を引受け七年七月文部大臣から在外指定學校と認められ、同時に校舍新築の計畫を立て約八萬弗の寄附金を募

り、ウオター街に一萬八千平方呎の敷地を購入し、一九二一年六月十二日盛大な棟上式を擧げたのであつた。尙同時に邦人病院の開設が提唱されてゐたが未だ實現の運びに至らず、タントリセン慈善病院に邦人護謨園から年約二千弗の寄附をなしつゝある外、日本人會から一名の助手通譯を常置し、邦人患者の便宜を計り、備品等をも時々購入しつゝあつたのである。

青年會は日本人會の創立に依つて一時衰運に向ふた傾きがあつたが、在留邦人の激增に連れ青年の渡航も愈々多きを加へ、青年會の刷新と發展を熱望する聲漸く盛んとなりつゝあつた折柄、海津乙宗支配人に代つて大正六年市岡友田合資會社支店長が會長に推薦さるゝに及び、愈々氣運熟し大いに內容も改善され、新たに會員を募集すると共に四千弗近き寄附金を募り、ショト街に事務所を借入れ在留青年の爲め娛樂機關を整へ、特に體育を奬勵し精神修養に資す可く時々寄港の名士に乞ふて講演會を催し、且つ夜學部を設けて英語を教授する等努めて在留同胞の品性趣味を向上せしむる爲めに努力し、柔道部、擊劍部、弓術部、撞球部、庭球部等それ〳〵委員を選んで各部の隆昌を謀り、特に收入增加を計るため春秋二季擧行さるゝ新嘉坡競馬倶樂部の觀覽席の一部を借受け在留民の觀覽に便し、其秩序の維持に任じ經濟的にも斷からぬ援助を得てゐたのである。市岡氏に次で竹內日本貿藥支配人、芝田長井禎商店支店長、長野山下汽船支店長が順次會長に就任し、大戰活躍時代の大發展に斷からざる貢獻をやつてゐたのである。

10、貿易大躍進と南洋配船の激增

開戰當時各國の南洋配船狀態は第一が英國で重量屯二百萬屯、第二和蘭六十五萬屯、第三日本五十萬屯、第四獨逸三十八萬屯、第五佛蘭西及瑞典各十八萬屯、第六米國及諸威の各十萬屯、其他約二十萬屯合計四百五十萬屯と云ふ狀態であつたが、七年には蘭英領近海航路を除き列强の南洋配船はドシ〳〵本國に引上げられ、或は航路途絶に依て姿を沒し二百十萬屯臺にまで激減し、隨つて各國配船順位も非常な激變あり、獨り日本汽船の活躍に委されて居たのである。

卽ち第一日本七十七萬屯、第二英國七十二萬屯、第三和蘭三十六萬屯其他約廿萬屯の順序となり、特に我社外船の活躍顯著なるものあり。山下汽船大正七年二月南洋航路なるものを設け、(イ)新嘉坡、西貢、香港間、(ロ)新嘉坡、甲谷陀、コロンボ、孟買、カラチ、ボートサイド間の三航路を開設し、尙別に同年十二月盤谷新嘉坡及び盤谷香港間の不定期航路を始め五隻計一萬屯を配船し、三菱も亦大正七年八月南洋線を開始し、幹線を神戸、門司、基隆、マニラ、新嘉坡間とし、月一回の定期船を配し、枝線として(イ)新嘉坡、盤谷、西貢、海防香港、仙頭、厦門間(ロ)新嘉坡、サラワク、ラブアン、ゼツセルトン、クーダツ、サンダカン、タワオ、(ハ)基隆、厦門、香港、廣東、マニラ間の三航路を始め、太平洋海運も六年下半期南洋北米線を開始して新嘉坡に寄港し、又日本南洋航路を新設し、神戸、香港、バタビヤ、スマラン、スラバヤ間に月一回の定期船を配置したのだつたが、尙獨逸汽船及び英印汽船が引揚げた爲め、西貢、盤谷、蘭貢等の米出廻期には多數の本邦社外船が南洋に集る事となり、大阪商船も(イ)瓜哇、新嘉坡、盤谷間、新嘉坡メダン、バレンバン間、瓜哇、新嘉坡、甲谷陀間の南洋獨立航路を開始し、既設の臺灣總督府命令航路船、臺灣、英領ボルネオ、瓜哇間の航路と共に米國及び歐洲航路との聯絡を取つたのである。

だから其尤も盛んであつた頃は、鮮紅なる軍艦旗が碧綠の波に映へて、日本の國旗を遙かに南溟に輝かしてゐたのみならず、一月必ず七十隻以上の寄港船があつた上に、日の丸の國旗を堂々翻へしてる四五千屯級以上の遠洋航船が十八隻からタンジョンパカ埠頭に、ずらりと列んで横付けになつてる事さへあつたのであつた。七十隻の寄港船と云へば其の新嘉坡に上陸する船員だけでも四五千人を下らなんだのであらうと思ふのだ。千人からの帝國水兵が一度に上陸して、花街附近の通行人を驚かせて居たのと共に、我が海員が新嘉坡を潤ふした事も蓋し非常なものであつたらうと想像され

るのである。

11、大戰中の新嘉坡貿易

年度	輸入總額	輸出總額	總計
一九一三年	三四一、〇九一、〇五六弗	二五四、二五四、八〇三弗	五九五、三四五、八五九弗
一四	二八〇、四三〇、〇〇一	二二〇、八三五、八六〇	五〇一、二六五、八六一
一五	三二七、一一七、九六二	二九一、九七二、一三九	六一八、八九〇、一〇一
一六	四〇六、五二三、六七〇	三六〇、九四五、六九一	七六七、四六九、三六一
一七	四九四、三一七、〇一五	四六七、九四九、九三九	九六二、二七六、九五四
一八	五三二、三四七、九三七	四八二、八〇五、九五六	一、〇一六、一五三、八九三
一九	六九三、七二五、三二八	七九五、六八八、六六六	一、四八九、四一三、九九四

一九一三年開戰當時の新嘉坡外國貿易五億九千五百三十四萬五千八百五十九弗が翌十四年は戰爭の影響を受け、一時的に九千五百餘萬弗の減退を見たるも、十五年一躍六億一千八百八十九萬弗と一億一千七百六十二餘萬弗の激增を示し、十六年更に一億五千餘萬弗を增し、此傾向は十七年以後に於て一層猛烈に現はれ、同年の增加實に二億萬弗、續いて十八年も亦一億萬弗近い激增を續け、遂に新嘉坡對外貿易は十億弗を突破するに至り、更に休戰後の十九年十四億八千九百餘萬弗戰前の三倍近い發展を示すに至つたのである。更にこの新嘉坡貿易發達の內容を見ると、戰前外國貿易は例年一億萬弗近い入超なりしもの、千九百十五年以來輸出著しく增加し、漸次輸入貿易の壘を摩さんとするに至り、戰時中依然三、四千萬乃至五六千萬弗の入超に終始してゐたのが、遂に千九百十九年には一躍一億一千萬弗餘の出超を實現するに至つたのである。次にこの如く新嘉坡の貿易發達を招來するに至つた重要對手國英本國、英屬領、蘭領東印度、佛領印度支那、遲羅、支那、日本、米國、獨逸等の戰前及び戰時戰後の新嘉坡貿易消長を表示すれば左の如くである。

12、主なる九箇國貿易消長

輸入國別	一九一三年	一九一四年	一九一八年	一九一九年
英本國	三九、四三一、七二九弗	三二、九九〇、二七八弗	四三、八一二、〇二七弗	四六、〇八〇、五一三弗
英屬領	一三八、一〇六、〇七五	一〇二、八八三	二四五、八七九、一八六	二九五、七六四、一五五
蘭領印度	六〇、三九六、三四七	五〇、〇八五、三六四	九二、〇四一、六九〇	一四四、四五九、〇八六
遲羅	三五、四一八、三三五	三五、四一八、五五七	五二、五三六、四一〇	六七、五一二、五九一
佛領印度支那	一四、八八四、五〇六	八四、六一二	一八、二〇五、三七〇	三二、〇八七、〇八二
支那	九、八九八、一四七	一四七	一五、〇六〇、五二六	一九、三一四、三七五
日本	一一、五〇三、〇二六	一一、六七〇、八四二	四四、五三〇、二四二	三三、一九四、〇三九
獨逸	五、三三三、〇一四			
米國	五、九四八、三〇五	四、四七八、一三九	一五、六一五、五一六	二九、〇八三、〇七〇
輸出國別				
英本國	四〇、四〇八、八一六	四一、〇七〇、七一六	二四、二一三、六三六	八一、三一二、三三四
英屬領	八一、一六七、二五二	六五、五二六、四一〇	二二八、七五七、五四八	一五七、六九〇、五九七
蘭領印度	四〇、二二三、八一六	三八、〇一八、九二八	八九、六二八、四七九	七五、九九九、三五一
遲羅	九、六五〇、六九七	九、三三一、四〇九	一一、六五九、一三九	二一、八二五、三二九
佛領印度支那	二、九二八、九一三	二、一八二、一二七	五、一六二、二五一	九、九四九、七八七
支那	二、六〇七、九六七	二、一〇〇、三九三	二、四七一、六一四	七、九一〇、八六五
日本	五、〇〇五、六五八	三、二一三、九八七	五、六七二、一三七	二四、四七七、三四四
獨逸	一二、六〇〇、四四七	九、六〇一、三九一		
米國	三三、八九七、九二五	二八、一八九、二九九	一六一、九〇七、五八八	二六一、二九九、二八一

右の如く獨逸を除く外は英本國を始め英國屬領。蘭印、遲羅、佛領印度支那、支那、日本、米國等何れも非常な激增をなし、就中輸入に於て最も顯著なる發展を見たるは、英國屬領の一億五千七百萬弗を筆頭に蘭印の八千四百萬、遲羅の三千二百萬、米國の二千四百萬、日本の二千二百萬弗等である。英屬領の激增は印度諸港よりの輸入增加と、馬來聯邦州及び英領北ボルネオ、サラワリ方面の開發に連れ土産品たる護謨を初め其他原料品の輸入激增に依るもので、遲羅佛領印度支那は米價の奔騰に主因し日本及び米國の輸入增加は全く獨逸品を始め、中歐大陸諸國よりの輸入殆んど皆無となつた結果で、その代用品として尤も日本品が南洋市場の需要を喚起した爲めであつた。

輸出に於て最も躍進の顯著なるものは米國の二億二千八百萬弗、次で英屬領の七千六百萬弗、英本國の四千百萬弗、蘭印の三千五百萬弗、日本の千九百萬弗、遲羅の千二百萬弗等が主なるもので、米國へのこの驚く可き輸出激增は戰時中米國護謨工業の發展に促され、パラ護謨の需要を激增した爲めであり、我國は大戰前パラ護謨輸入年額二千噸に達せさりしが、開戰後內地護謨工業の發展乃至米國への再輸出目的にて輸入される護謨逐年增加し、千九百十九年には既に八千餘噸、三百萬弗を超ゆる盛況を示してゐた。尚蘭印遲羅への輸出激增は我國及び歐米より輸入された精製品の仲繼輸出增加に基因するのである。

13、日馬貿易發展の內容

我國の新嘉坡貿易に就ては前記第二表の示す如く開戰後の千九百十五年より俄かに激增の兆を現はし、歐羅巴諸國が未曾有の大戰に卷込まれ、國家存亡の危急に當り到底外國貿易等を顧慮する暇なく、國內の工場を擧げて軍需品の製作に忙殺されてゐた爲めであつて、千九百十三年歐洲諸國十二箇國より合計一千八百餘萬弗を新嘉坡に輸入しつゝあつたのが、千九百十五年には千萬弗に激減するに至り、加ふるに戰前南洋地方に多大の信用を博してゐた獨逸品が千九百十四年を名殘として其影を全く英領より消した爲めに、日本商品その代用品として、比較的價格の低廉なる點より益々需要を增加するに至り、戰前から輸入されてゐた物は更に其輸入額を激增したのであつた。

聊か重復の嫌ひはあるが大戰當時の我國對海峽植民地貿易の內容を詳說して、今日との對照の便宜に資し度いと思ふのだ。

年別	輸出	輸入	合計
一九一三	五、四二九、三九〇弗	一二、八九八、〇一一弗	一八、三二七、四〇一弗
一四	三、五一九、一二七	一〇、八六七、九一四	一四、三八六、〇四一
一五	六、〇九〇、二五四	一四、九一八、〇一一	二一、〇〇八、二六五
一六	一一、六八九、二七四	二二、七九一、九四七	三四、四八一、四一九
一七	一七、八五九、三一九	三四、七二四、六二九	五一、五八三、九五八
一八	二六、九四一、四四五	五〇、三九八、七六三	七七、三四〇、二〇八
一九	二五、一一五、六六三	三三、五二四、〇二九	五八、六三九、六九一

年次	輸出	輸入	合計
一九一三	五、〇〇五、六五八弗	一一、五〇三、〇二六弗	一六、五〇八、六八四弗
一四	三、二一三、九八七	一〇、六七〇、八四二	一三、八八四、八二九
一五	六、〇五二、四二六	一七、七五三、五七五	二三、八〇六、〇〇一
一六	一一、二一八、四六三	一九、三八七、九三六	三〇、六〇六、四九九
一七	一六、七二一、八九三	二九、九〇二、二八五	四六、六二四、一七八
一八	二五、六七二、一三七	四四、五三〇、二四二	七〇、二六二、三七九

一九	三三、一九四、〇三九	一四、四七七、三四四	五七、六七一、三八三
彼南			
一九一三	一、三八二、一〇五	一六、一〇三	一、三九八、二〇八
一四	一、三六〇、二五四	四一、七七八	一、四〇二、〇三二
一五	二、〇三〇、七八一	二、〇一六	二、〇三二、七九七
一六	三、二四二、四四五	八九、三九五	三、三三一、八四〇
一七	四、六六六、六一一	二五八、四六三	四、九三五、〇七四
一八	五、七五六、〇四四	八四〇、六七七	六、五九六、七二一
一九	二、四五八、七六六	二八三、六二五	二、七四二、三九一
馬拉加			
一九一三	三、八八〇	三六二	三、八八〇
一四	六〇、八一八	二五、二〇〇	六一、一八〇
一五	一四三、六五五	二一九、二六一	一六八、八五五
一六	一六一、五六六	八七七	三八〇、八二七
一七	一五五、七二三	六〇	一五六、六〇〇
一八	一一二、四七七		二二、五三七
一九	四六、三五五		四六、三五五
ラブアン			
一九一三			
一四			
一五			
一六			
一七			

	一四、四七七、三四四	五七、六七一、三八三	
	一六、一〇三	一、三九八、二〇八	
	四一、七七八	一、四〇二、〇三二	
	二、〇一六	二、〇三二、七九七	
	八九、三九五	三、三三一、八四〇	
	二五八、四六三	四、九三五、〇七四	
	八四〇、六七七	六、五九六、七二一	
	二八三、六二五	二、七四二、三九一	
	三六二	三、八八〇	
	二五、二〇〇	六一、一八〇	
	二一九、二六一	一六八、八五五	
	八七七	三八〇、八二七	
	六〇	一五六、六〇〇	
		二二、五三七	
		四六、三五五	
	六一二	六一二	
	二〇、六五八	二〇、六五八	
	八六、六九〇	八六、六九〇	

一八	一一、四九〇	一一、四九〇	
一九			
クリスマス			
一九一三	四〇七、六二九	四〇七、六二九	
一四	二六三、〇〇〇	二六三、〇〇〇	
一五			
一六			
一七			
一八			
一九			
	一四一、六九五	一四一、六九五	
	七九一、三〇六	七九一、三〇六	
	四二八、五七一	四二八、五七一	
	六二六、八九一	六二六、八九一	

右の如く我國對海峽植民地貿易は千九百十三年一千八百三十二萬弗なりしもの、千九百十八年には七千七百三十四萬弗と戰前の四倍半に達し、戰前英本國、英屬領、佛領印度支那、蘭印、暹羅に次いで六位なりしもの、同年は佛領印度支那を凌駕して五位に進んだ。尙港別では同年新嘉坡は三倍にならなんだが、彼南は五倍、馬拉加は千九百十六年戰前の卅倍となり、ラブアン、クリスマス輸入に於ては我國と直接の交涉を持つてゐなんだが、千九百十五年より本邦汽船が同方面航路を開始し、十六年二萬弗十七年八萬弗の輸出を見るに到り、クリスマスからは戰前獨逸へ七十八萬弗、丁抹へ六十一萬弗、我國へ廿六萬弗、瑞典へ廿四萬弗の燐鑛石を輸出しつゝなりしもの、開戰後歐洲への輸出杜絶し、千九百十七年には我國への輸出七十九萬千三百六萬弗に達したのであつた。斯くの如く我國對馬來貿易は歐洲大戰に依て非常な發達を見たのであつたが、千九百十八年休戰となるや、歐米の輸入激增に壓倒され、再び減退の傾向を現はして來たのであつた。今左に千九百十九年卅萬弗以上の輸入品、十七種同輸出品七種に就き其消長を表示して此項を終る事にする。

輸入の部（單位千弗）

種別	一九一三年	一四年	一五年	一六年	一七年	一八年	一九年
石炭	五、三〇〇	四、九七一	四、四〇四	六、五七八	一一、五二〇	一九、〇〇九	一一、五三三
綿織物	三四六	二〇二	三七四	九五六	一、九八五	一、四八二	三、〇一七
燐寸	八五一	七四五	一、一五二	一、三九七	一、九七五	二、四八八	二、二六八
木製品	二三九	三〇二	七四〇	一、五五一	二、八四九	一、八六六	三、九四五
化學品類	—	七二	二三五	七八四	一、八〇九	六、九二五	一、五九七
莫大小類	六〇六	四二八	六八一	一、一五〇	一、三二三	一、七三七	一、二一三
陶磁器	一九二	一七五	三八七	六二二	八六四	七九七	八九二
絹織物	四六一	二六五	三一七	五二九	三六三	六五五	八八五
鐵器類	—	—	二二八	六六五	—	九一一	七六五
タイヤ	—	—	二五五	四五五	二四三	五四七	六六五
紙文房具	—	—	一、〇三八	三三〇	五八八	一、四九八	六一九
セメント	—	三九	一四〇	三〇二	二四八	八九〇	四五二
硝子器	—	一二	一八〇	六六二	四八〇	五〇六	四九四
機械類	—	二一六	三七七	—	一二九	三一六	四四三
裝飾品玩具	—	—	—	二一九	四二二	四二四	三八六
乾魚	一、一七五	一、一四九	八四	一、一〇四	一、一一六	七六二	三五七
麥酒	五六	九八	一三八	三二五	六五五	九三八	三九六

輸出の部

種別	一九一三年	一四年	一五年	一六年	一七年	一八年	一九年
護謨	一、一四一	九七一	二、五五二	四、九五三	六、三五七	九、四五〇	一二、七二七
金	一、三三七	一、〇一〇	一、二八〇	一、七八三	三、〇〇七	一、九七〇	四、二一二
阿片	—	—	二五六	—	一、三二九	三、六九七	一、八一九
麻布	—	—	—	—	—	—	一、四九八
棉花	九九五	二九一	二七三	七二七	一八〇	五七二	一、一二七
貝類	三九五	二七四	五三六	六五〇	三八九	七三八	六二七
燐酸石炭	四〇八	二六三	—	一四二	七九一	四二九	六二六
籐	—	—	—	—	一六二	三七〇	四一〇
皮革	—	—	—	—	一一	一二三	三一二

希望の朝

金色に東雲映えて朝の海いまだ陽ざゝぬ年を迎へし
漣の輝く見れば朝の海心廣くも新春の氣ぞする
もや晴れてリオの島々中空に浮むが如き朝の海かな
元旦は一切のもの輝けり希望に燃ゆる太陽のごと
鷄の聲殊更ら今朝は勇ましく東雲白む初春の護謨園
初鷄の聲に明け行く椰子の磯朝げするらし煙たなびく
さはやかに晴れたる空よたぎる血の海の初日に踊る朝哉
胸一杯吸込む朝の潮の香にリオ島晴れし澄み切つた空
我運命子等に負はせこの朝もゴムの樹肌を撫でゝ見しかな
正月を幾つ數へて常夏に枯れし血汐をいたむ朝かな

朝の海東雲さけてキラ〳〵と葉末輝やく磯の高椰子
若き日の戀の苦杯にさも似たり思ひ出にがく甘き酒かな
椰子梢高く登りて椰子の實を小猿ちぎれりボルネオの島
手長猿梢はるかに群れて居りブリオンの音こだまする晝
オランウタン狩ると土人等鉦打ち鳴らし角笛吹きて
子供連れて木の實はみ居り赤毛猿伐木林の眞晝靜かに
背中ほす鰐に小猿の物をぢも忘れて近く寄れる哀れさ
白々と護謨の梢の明けそめて初鷄なけり年改まる今朝
初鷄の聲ほがらかや開墾地作業休める宿舍のどかに
山住みの雜煮珍らし三椀を代へて唄へり國の磯節

二二、大戰後の不況時代

1、戰後の慘憺たる反動

頻々たる戰報は寧ろ協商國民の總てを一層不安ならしむるものが多かつた。殊に兇暴な獨逸潛艇の脅威は極度に世界の海洋の殆んど全面に渡つて其慘虐振りを恣にしたのであつたから、我海運界が目覺ましい活躍を招來するに連れて日本汽船が思はざる邊で遭難した等の悲報に接することも度々であつた。殊に郵船の八坂丸や常陸丸を初め、當方面に活躍してゐた汽船の危險に遭遇するものが多かつたゞけに、海洋の脅威に對して特に我々在南邦人は一層痛切に戰禍慘烈なる事實を痛感せずに居られないのであつた。更に中立國である和蘭の南洋に於ける一帶の領土が絶へず非常な壓迫を受けて居たのを、直接見せつけられる事も今更ながら戰爭の暴虐さに戰慄を禁じ得ざらしめた事實であつた。然し要するに殘留の白人が全く生色なかつたのに引替へて日本人がもどかしく思ひ、いら〳〵して居たのはより一層利益を壟斷せん事に焦燥し、まだ〳〵儲けが少いと限りの無い慾の皮を突ツ張らせてゐたに過ぎないのである。南洋貿易市場の心臟である新嘉坡の土庫に廿餘軒も邦人商店が急激に開設された事が、既に齒を喰ひしばつて陰忍しつゝあつた歐洲人に取つて如何に痛烈なる脅威であつたらう、加之、殆んど戰前眼中にも置いてゐなかつた日本商社が開戰以來滔々として侵入し來るものは、何れも內地に堂々たる本店を有し南洋一帶の貿易を專斷せんとするに止まらず、南洋と歐洲、印度と米國、而して南洋と米國の貿易まで一手に獨占せんとする勢ひを以て押掛て來たものであつて、追放された獨逸人の地盤を繼承せんとするのみならず、全然亞細亞を獨り舞臺かの樣に思切つて活躍しつゝあつたのであるから、到底僅に踏み止まつて留守番をしてゐた歐洲人の總てが束になつて立向ふても、太刀打ちが出來なんだのであり、南洋に牢として拔く可からざる經濟的勢力を深く下してゐた華僑すらも、漸く日本人の後塵を拜しそれと提携する事に依つてのみ思はぬ利益を獲得する事が出來たと云ふ有樣であつたのである。だから新嘉坡商業區の中心が片ツ端かつ日本人に依つて占據されたのみならず、堂々たる社宅まで漸次日本人に借入れられて仕舞ふた。皮肉な外人をして限り無き家賃の暴騰を招來したのは全く日本人侵入の結果であると憤慨せしむるに至つたのであつた。

然し日本人の榮華の夢も餘りに果敢ない一場の夢に過ぎなんだ。歐洲人の總てが憧れ祈つてゐた平和克復の曙光は突如として傳へられて來た。一九一八年十一月十一日午前十一時、マルヌに近いルトンド停車場に在つた聯合軍總司令部の置かれてあつた特別列車內で、フオツシユ元帥と獨逸全權エルツベルゲルの間に、休戰條約が愈々調印されたのであつた。

2、好況の絶頂と其一轉

休戰條約が確に締結された事が傳はるや在留歐洲人の歡喜は殆んど其頂點に達した。日本もゝとより協商國の一員であつたから、在留邦人の全部が其盛大を極めた祝賀行列にも全力を傾倒して參加したのであつた。エスペラネードの廣場にしつらはれた祭壇に當時の新嘉坡總督サー・ヤング閣下は駐屯軍司令官ライダウート少將を右に侍せしめ、特に我南遣艦隊司令官千坂中將等を左に立たせて、支那人、印度人、馬來等あらゆる人種を網羅せる幾萬の住民に向ふて歡喜にあふるゝ休戰條約の全文を朗讀し、司令官等に大戰中の感謝を表したのであつた。而して在留四千の同胞も確に此晴れやかな待遇を受けて衷心歡喜の情の溢るゝのを禁じ得なんだのであつた。更にスレンバン、吉隆坡、一保等半島の各地でも夫々盛大なる祝賀會が思ひ〳〵に催され、各地在留同胞は何れも出來る限りに盛大に盛大に歡喜の熱誠を表明し、且つそれに伴ふ待遇を受け得たのであつたが、然も我々日本人には突然掌中の珠玉を落した樣な思ひが果してせなんだであらうか。昨日までも極まる處の無い歡樂に醉ふてゐたのが愈々手を引締めねばならない秋が來たのである。休戰！

如何にこの一語が日本人の心を冷やりとさせた事だつたらう。内地の景氣はバタ〳〵と崩れて來た。成金の沒落、鐵も汽船も一時に暴落して切りに內地經濟界の動搖が傳へられて居たのであるが、事實はそう急激に我が經濟界を混亂せしむる樣な事はなかつたのであつた。

醉倒すべき好景氣の絶頂は旣に昨日の夢となつて仕舞ふたのであつたが、極度にまで達してゐた歐洲の物資缺乏を見越して儲けるのは今である。今の內に儲けなければと云ふ物狂はしい景氣が成金の驕つた心を一杯に煽り立てゝ、生糸五千圓、綿糸四百二十圓、砂糖七十圓と云ふ樣な無前の相場を出現させたのだつた。隨つて戰爭中新嘉坡の三井物產支店が千何百弗の純益を年々上げ得たなどゝ云ふ樣な噂が傳はり、爪哇在留邦人の砂糖に手を出してゐた者ばかりで僅か大正八年だけで確實に一億侑以上の純益を上げ得たとさへ傳へられて居たのである。然も今の內だと云ふあはたゞしい心に沸騰されて熱狂的に釣上げられてゐた景氣の裏にひそむ。暗澹たる潮流が旣に滔々として日本貿易の周圍に押寄せて來つゝあつたのである。而して在南同胞にとつて尤も痛切に其反動を現實に味あはされたものは、巴里の講和會議に於て、愈々山東問題が決定されたと云ふ報道に接して激發された支那人のボヰコットであつたのである。

3、支那人のボイコットと英貨の大暴落

盛んに排貨運動の宣傳が傳へられ、日貨停制の張紙が町々にベタ〳〵と張付けられたに拘らず、開戰初頭、廿一ケ條問題で勃發した支那人の排日運動に對した如き峻烈を極めた英官憲の活動を最早や再び其時は期待する事が出來なんだのであつた。斯くて大正八年六月十九日夜突如新嘉坡の日本人街は支那暴民の襲撃を受け、支那人商店に列べられてゐた日本品は片ツ端から大道に投出され、燒捨てらるゝ慘狀を呈したのだ。直ちに戒嚴令は布かれたが、在留同胞の危險名狀すべからざるものあり、ブラスバサ路の商品陳列所に全在留民避難して數日市內の秩序が恢復されるのを待たねばならぬ程であつたのである。然も新嘉坡の騷擾と損害が表面相應誇大に吹聽された傾きのあつたに比較して、半島各地在留邦人が受けた損害は實質的に一層痛烈なものがあつたのであつた。

而してさしも無上の好景氣に爛醉してゐた日本人の黃金時代も遂に慘憺たる不況襲來の突風にあほられて、見る〳〵凋落の悲運をかこたねばならぬ事になつたのであつた。實に大正九年三月末から內地に起つた恐慌は俄然として輸入の超過を招來し、全盛を極めて居た成金を片ツ端しから薙倒し、地方の農業經濟機構を攪亂し都會の產業を根底から混亂せしめて、銀行の破綻を暴露するもの、堂々たる商事會社の倒產するもの相接して、慘憺たる醜狀を暴露したのであつた。隨つて南洋に急激なる發展を見せた日本の商權も勢ひ甚大な影響を受けないでは居れないのであつた。卽ち一時切りに大膽極まる活躍振りを示してゐた日本汽船の影も漸次に南洋の海面から擊退され、山下、三菱、太平海運等の定期航路はもとより、其臨時船も次第に引上げられて、大阪商船の新嘉坡、メダン、新嘉坡パレンバン等の地方航路が廢止されて仕舞ふし、茂木支店を皮切りとして增田、潮谷、小倉貿易、中央物產、友田、阪部、駒井、日蘭、南洋貿易等堂々たる貿易商の閉店引上げを決行するもの相次ぎ、尙辛うじて支店だけは其儘にして置いて殆んど社員を內地に招還せるものあり。土庫の會社支店からだけでも急に內地に引上げた者が遙かに二百名を越してゐたのである。

殊に戰後英國爲替の慘落が、我が對南洋貿易に打擊を與へられたことは非常なものであつた。戰前日本の一圓が普通新嘉坡の八十仙內外であつたのが、反對に日本の七十五六錢が一弗にまで暴落したのであるから、當然日本よりの輸入品は英貨になをして倍格とならざるを得ず、內地の物價暴騰と相待つて例へ支那人のボヰコットなくとも非常に商買が困難となりつゝあつた處へ、大正九年下半期より護謨價無前の暴落に會ふて、南洋一帶極度に購買力枯渴し、唯さへ悲觀されてゐた對南洋貿易が根本的に行詰つて終ふたのであつて、土庫の卸商が慘憺たる悲況に沈淪したのみでなく、下町の邦商も、馬來半島及びスマトラ、西ボルネオ等に對する賣懸代金の回收が殆んど出來ない事になり、非常な苦境に

突落されたのであつた。

4、新嘉坡の團體的活躍と馬來半島の中心人物

然も部分的に南洋在留同胞社會が極端な悲境のドン底に沈淪してゐたに拘らず、實質的には殆んど戰前とは隔世の感がある程その面目を向上し、内容を充實させて居たのである。襲ひかゝる悲況のたゞ中に在つて、新嘉坡日本人會が小學校の新築工事を急ぎつゝあつた外、青年會は地中海より凱旋せる海軍將校の講演に、在留青年の熱血を沸かさせた以來、ペリーの講和會議を親しく見て來た永井柳太郎、石川半山諸氏を迎へてその熱烈なる雄辯に傾倒し、浮田和民博士の講演會の如き六百に餘る聽衆を集めて感激に耐えない一夜を過したのであつた。更に大正九年十月始めて國勢調査施行さるゝや、青年會は全力を擧げて總領事館、日本人會を助け徹底的に在留邦人の現況を調査したのであつた。續いて同年の天長節には新嘉坡在留邦人室前の大祝賀運動會を海岸練兵場に開催し、二千五百に餘る會衆を集め得て遙かに聖壽の萬歲三唱するの盛況を呈したのであつた。然も極度の不況に襲はれあらゆる經濟的壓迫に耐へつゝ、我在留邦人社會が尚前途に活躍奮闘の希望を捨てず堅忍自重、一難に會ふ毎に更に勇氣を倍加し存外邦人の意氣を示したのは寧ろ悲壯に耐えないものがあつたのである。然も態面の維持も我慢も結局は程度の問題である。悲境を切拔けるには一層經濟組織が完全に整ふて居らねばならなかつた。金融硬塞し資金の回收が益々思はしからぬ樣になつて、愈々痛切に簡易な金融組合の創始が在留民多數から熱望さるるに至つたのは當然の事であつた。新嘉坡では九年一月廢娼問題の決議さるゝと間もなく、華南銀行から多大な援助を得て金融組合が成立し、スレンバンにも大正信用組合が出來て窮迫せる在留民の危急を救ふ事一方ならざるものあり。更にバトバンには其以前から火曜會を中心とせる金融機關が兎に角あつたのである。卽ちスレンバンには笠田直吉、朝永誠三氏ありコーラクブに松永麟五郎、大隈氏、吉隆坡に佐竹日本人會長、竹

中副會長、松田、木稻兩氏を始めカランに桑山ドクトル、コーラクブに長谷川義勇氏、一保に水上、奈良、下山、澤本諸氏、太平に内田、佐藤、ケダに田邊吾一氏、バトバハに西成伍、佐々木亦二及び安田氏等あり。其他柔佛バルに野村明坂、彼南に岡庭、長田の正副會長、馬拉加に筒井、石井、彦坂諸氏が居たのであつて確ツかりした中心中物が居つた處はどうにかして、この不況を切拔けんとあらゆる方面に奔走して、將に壞滅せんとしつゝあつた地方在留邦人の元氣を支へてゐたのであつた。更にスレンバンは吉隆坡から、タンジョンマリン方面までを包括して、聯合馬來護謨會社を創立して柔佛河沿線の小護謨園を糾合して第一合同護謨を作つて底なき護謨價の低落に備へたのであつた。

5、東宮殿下御寄港

大正十年三月十八日朝、御渡英の東宮殿下御召艦香取にめされ小栗司令官坐乘の供奉艦鹿島を隨へさせ給ひ御寄港あり。在留民一千餘名奉迎船明地丸に乘込み手に手に小國旗を打振り、御召艦錨地に奉迎聲の限り萬歲を三唱し、山崎日本人會長以下在留民代表卅餘名特別ランチで御召艦香取に伺向し、珍田伯傅を通じて御安着のお喜びを言上、英國支那艦隊旗艦ホーキンス及び濠洲艦隊旗艦ブリスベン座乘のダフ中將及びグランド少將も御召艦に伺候、ギルマード總督も十時過ぎ取扱へず鼠色モーニングの略裝で御安着の御喜びを申上げ、御碇舶中のスケジュルを打合せ退艦更に午後四時半總督は禮裝を整へ、軍司令官フオラー少將以下主なる文武官四千餘名を從へ御召艦香取を公式訪問、東宮殿下に謁見を給はつたのであつた。

十九日午前九時東宮殿下には閑院宮、珍田伯、入江侍從長、奈良武官長以下供奉員を隨へさせられ、政廳より差廻せるランチにてピオ棧橋に御上陸あり。ギルマード總督の御案內にて四臺の自動車を連らね、パセルパンジヤンより植物園、總督官邸、水源地を經て日新護謨園にお成りあり、熱心に係り員の御說明をお聽取りあり。正午過ぎ御歸艦、同夜

總督邸に於て公式に開催された夜會には閑院元帥宮が御名代として御參列遊ばされた。更に廿日は日曜であつたに拘らず、總督の御先導にて、午前九時政廳棧橋に御上陸前日同樣各供奉員を隨へ給ひ、スタンフオド路なる博物館に御成りあり、約一時間に亘り南洋の生産物、風俗等を尤も詳細に御見學あり、御歸路特に在留邦人の比較的多數居住せる地域を御巡視あり度き旨仰せ出され、急にベンクーレン街よりミモドル路に出られ馬來、海南街及び北ノースリッヂ橋路等、殆んど軒並に國旗の飜つて居る盛觀を親しく御覽あり。ビーチ路を經て政廳棧橋より御歸艦遊ばされ在留民何れも非常な感激に打たれたのであつた。

斯くて廿日午後日本人小學校生徒に御召艦の拜觀が許され、親しく殿下の御前にて君ケ代を合唱し御菓子を給はり、艦内を案内され、殿下のお部屋まで見せて頂き子供等の喜びは非常なものであつた。而して同日午後三時より旗艦鹿島に於て小栗司令官主催のアットホーム開催、出席者二百五十名に及び態々出星した各地代表も參列の光榮に浴したのであつた。殿下には當日海軍少佐の白服に大勳位副章一個を御佩用遊ばされ、金緣眼鏡のいとも清楚な御出立ちにて在留民と一所に水兵の角力を御覽あり。食堂開始前特に山崎商船支店長夫妻、小栗郵船支店長、前田正金支店長、木村商品陳列所長、仁瓶栽培協會長代理、鹽田三井支店長代理夫妻、服部三菱支店長夫妻及び山崎總領事代理夫人、市瀨陸軍、三好海軍兩駐在武官に拜謁を給ひ、食堂開始後は正面に御着席あり。小栗司令官の發聲にて天皇、皇后兩陛下並に皇太子殿下の萬歳を三唱した折りには、閑院宮殿下と御一所に御起立あり。並々と日本酒を滿たせるグラスを高く捧げ給ひ一息に乾杯遊ばした御勇ましい御英姿を間近に拜した在留民は、とても内地にありては夢にだも願ふ事の出來ない光榮よと感泣せぬものはなかつたのであつた。

更に廿一日は午前八時總督の御案内にて政廳ヨツト、シーベル號にめされ新嘉坡島御一周あり。タンジョンルーよりカトン一帶の海岸に繁茂せる椰子林の眺めを御賞美あり、波靜かなる油繪の如き柔佛海峽を御通過遊ばされ午後四時過ぎ御歸艦の趣き拜承したのであつた。尚同日午後五時より新嘉坡在留の外字新聞記者を御引見あり。更に八時より御召艦に於て盛大なる晩餐會が開かれ總督、司令長官以下主なる文武官を御招待あり。海岸の義勇兵練兵場で見事な煙花を打上げ、一層の興を添へたのであつた。

尚山崎日本人會長は星崎、竹内兩理事及び篠崎書記長を隨へ在留民が心を込めた献上品を御召艦に持參し、小松侯爵の手を經て滯りなく献納の儀を濟ませた。

献上品目錄

南洋全地圖　一軸
柔佛州地圖（邦人護謨園分布一覽）　一軸
馬來半島寫眞帳　二冊
栽培護謨標本　一組
極樂鳥剝製　一對
熱帶植物　十鉢
南洋果物　二籠

かくて廿二日午前九時供奉艦隊は濛々たる黑煙を吐きつゝ愈々印度洋に向ふて新嘉坡を拔錨したのであつた。主なる在留民の代表五十餘名は二隻のランチに分乘して親しく御召艦に伺候して長途御航海の安全を祈り、更に一般在留民は一戸一人の割りで日本人會より奉送のランチ十數隻を仕立て、港外數哩沖まで艦隊を送つて萬歳々々を絶叫したのだつた。

而して東宮殿下には英、佛、白、蘭、伊太利諸國の元首を親しく御訪問あり、至る處熱狂的歡迎を受けさせ給ひ非常な成果を收めて御歸朝の途、八月十八日再度新嘉坡に御寄港なり。尤も其時は御碇船僅かに四時間に過ぎず。御上陸遊

ばされなんだのであるが、山崎日本人會長以下廿餘名の代表香取に伺候し、目出度き御歸朝を祝し歡迎一番並に果物五籠を献上し、更に一般會員約四百、十八隻のランチの船列を整へ、御召艦隊の入港を迎へ特に殿下のお言葉により奉迎者全部上甲板に召され、政廳より民政長官、軍司令官等亦御召艦に伺候し御機嫌を奉仕し、郵便物等の積込みを終り、午後二時勇壯なる軍樂を奏しつゝ御召艦隊は奉送船の萬歳聲裡に愈々故國に向ふて新嘉坡を解纜したのであつた。

6、ボイコット回顧

支那人の排日ボイコットは辰丸事件が最初であつた。然も當時南洋に於ける在留邦人の勢力は云ふに足らず。特に商業的には殆んど其存在すら認められてはゐなんだのであるから、恐らくボイコットの對象と目差さるゝ迄には至らなんだのであらうと察するのである。隨つて在南邦人が本當にボイコットに直面し其痛烈な慘害を體驗したのは、歐洲大戰開始後間もなき大正四年春加藤内閣に依つて締結された所謂廿一ケ條問題に刺戟されて勃發したボイコットからであつたらうと思ふのである。然し廿一ケ條問題の時は新嘉坡は大戰中の戒嚴令下にあり、英國政廳の日本海軍に賴る處深かつた爲めに直ちに彈壓されて、其勢ひの猛烈なりし割合に新嘉坡ではそれ程の損害も受けなんだのであつたが、大戰後巴里平和會議の結果として、青島と濟南迄の鐵道が讓渡と決定されたのに憤慨して惹起された時のボイコットは始めて目の當り、支那人が唯一の屈辱報復に對する武器としてのボイコットの威力を、相當慘烈に味された感があつたのであつた。蓋し大戰の好況に惠まれ歐洲品の代用としてあらゆる方面に日本品が需要され、在留邦人の勢力漸く侮り難きものあり。英人も亦聊か戰爭のために日本勢力の浸潤甚だしきに過ぎたことを悔むの情なしとせず、直接邦人の生命財産に危害を及ぼさゞる限り、邦品不買や支那人間だけの問題には强ひて彈壓する如き態度に出なんだ傾きあり、遂に邦人商店の破壞されたもの一二箇所あり。數名の負傷者を出すに至つたのであつて、在留民全部當時バラスバサ路にあつた

商品陳列所に立籠り悲壯な思ひをしたのであつて、支那人街では日本雜貨を悉く街路に投出し、盛んに燒捨てつゝあり。夜の土庫やバンダ方面の不氣味はいはん方なきものがあつたのである。

殊に柔佛河沿線の護謨園は支那船のボイコットで食糧の運搬不可能となり、非常に成行き憂慮されたのであつたが餘りに其兇暴甚だしきものあり、英官憲も默視して居る事が出來ない樣になつて漸く市内の暴行は鎭靜に歸したが、馬來半島及び蘭領の田舍には二三年も其尖つた感情が拭洗されず、商業上に非常な打擊を受けたのみならず醫師、齒科醫、寫眞、散髮業等は云ふ可からざる苦痛をなめさせられたのであつた。

斯くて在南邦人は打續く不景氣とボイコットの上に護謨價無前の暴落にさいなまれ、全く生色なきに至つたのであつたが、大正十一年十月始めて護謨生産制限令馬來半島に實施され、封度廿五仙まで低落してゐた護謨價一躍卅五仙に上騰したが期待した効果は必ずしも急激に來らず、漸次恢復の曙光を現はし十二年一月六十四仙となり、爾來ジリ押しに上騰を續け六月初め一弗十一仙を稱へ七月廿日一弗七十三仙と躍進、十一月一日には遂に一弗八十二仙半の高値を現はすに至つた。卽ち一九二四年の護謨輸出高約廿五萬噸二億一千萬弗なりしもの、翌二五年は一躍卅一萬噸七億五千萬弗に上り量に於て二割四分價格に於て實に廿五割を增加し、爲めに一九二四年の輸出總額七億二千萬弗なりしもの、一九二五年には十二億八千萬弗に達し約八割の增加を見たのであつた。

護謨好況に蘇生した馬來の輸出貿易盛況は更に護謨園に於ける各種生產設備、交通、通信機關等の擴張を促したのみならず、生產增加のため護謨園從業員亦增加し（一九二五年は前年に比し約十四萬人を增せり）之が收容設備と共に、食料品並に日用品の需要を增加し、從業員賃銀の昂騰は一般勞銀と共に諸物價の騰貴を招來し、加之輸出貿易殷盛の結果は一般の購買力を增進し、一九二五年に於ける輸入貿易また九億六千萬弗と前年に比し、三億一千萬弗卽ち約五割の激增を示し、農具建築材料、食料品、日用雜貨、綿布、自動車、軌條、電線等を主なるものとし、之に亞ぎ絹

製品、化粧品、酒、煙草の如き贅澤品、嗜好品に於て最も高率な輸入增加を見たのであつた。隨つて海運關係も亦其好影響を受くること一方ならざるものあり。政廳海事部發表に依ると一九二五年の新嘉坡寄港船七、一五〇隻一二、〇一四、七六七噸、前年に比し六四九隻一、〇三四、四七七噸、約九歩の增加を示し特に一隻當り輸送量の激增を見たのであつた。

7、歐洲大戰後の日馬貿易

大戰の好況に有頂天になつてゐた我が南洋貿易の躍進も全く樺花一朝の夢に過ぎなんだ。大正九年財界を襲ふた颱風に敢なく慘めな最後を遂げるもの續出、幸ひ壞滅を免れ得たるも其半數にも及ばず、當時の黃金時代と對比して轉た感慨に堪へないものがあつたのであるが、然も我南洋貿易躍進の絶頂時である大正七年の最高レコードと雖も、對日馬貿易總額約八千萬弗、輸入僅かに五千萬弗、輸出三千萬弗の少額に過ぎず。之を英領馬來の貿易總額十億七千萬弗に比較對照すれば尙且つ一割にだも相當してはゐなんだのであつた。然も戰時中其潑剌たる活躍振りを發揮する能はざりし歐米諸國は國を擧げ參戰の渦中にありながら尙其地盤維持に努め、戰後掩土重來の勢ひを以て一時奪掠されてゐた地盤の恢復に奮進して來たのである。

一九二五年の英領馬來貿易總額は廿三億萬弗、輸入九億六千五百六十八萬八千三百二十弗、輸出十二億七千八百二十四萬六千五百七十九弗輸出超過實に三億一千三百萬弗に達してゐた。十年前の一九一六年の貿易額八億萬弗と對比すれば、十四億三千萬弗の激增であつたのである。

次に十箇年の輸出入貿易高を掲げ馬來貿易の趨勢を示す。

年次　輸入　輸出

年次	輸入	輸出
一九一六年	一九、三八七、九三六弗	三七七、九四九、五一八弗
一七	二九、九〇二、二八五	四九一、八四四、八四九
一八	四四、五三〇、二四二	四九六、六三六、八七八
一九	三三、一九四、〇三九	七二〇、三四七、二一一
二〇	四四、〇五一、五七三	七二四、二七〇、六一四
二一	二二、五一九、六八七	四一四、〇〇五、五〇七
二二	一八、〇五二、五四九	四七二、五〇一、四六四
二三	一五、三〇七、四七四	六一六、〇八七、四二〇
二四	一七、四〇〇、一五三	七二五、〇七五、〇八五
二五	二一、一八、四六四弗	一、二七八、二四六、五七九

翻つて我邦輸入の最高記錄は一九一八年並に一九二〇年の兩年度の四千四百萬弗臺を除き、他は漸く二千萬弗內外に止つてゐたのであり、一方輸出は一九二五年の三千三百萬弗がレコードとして殘されてゐたに過ぎなんだ。

十年間の日馬貿易

年次	輸入	輸出
一九一六年	一九、三八七、九三六弗	三七七、九四九、五一八弗
一七	二九、九〇二、二八五	四九一、八四四、八四九
一八	四四、五三〇、二四二	四九六、六三六、八七八
一九	三三、一九四、〇三九	七二〇、三四七、二一一
二〇	四四、〇五一、五七三	七二四、二七〇、六一四
二一	二二、五一九、六八七	四一四、〇〇五、五〇七
二二	一八、〇五二、五四九	四七二、五〇一、四六四
二三	一五、三〇七、四七四	六一六、〇八七、四二〇
二四	一七、四〇〇、一五三	七二五、〇七五、〇八五
二五	二一、一八、四六四弗	一、二七八、二四六、五七九

二三	一八、〇八四、三三三
二四	一六、四四四、四二六
二五	二九、八二五、五六〇

次に貿易上より觀たる各國の地位を窺ふに米國の發展一頭角を抜き、一九二五年の對米貿易は總額の三割に相當し、六億八千三百萬弗、英國之に亞ぎ三億一千萬弗、我邦は僅かに六千五百萬弗であつて、馬來總貿易額の三分にしか過ぎなかつた。然も輸入貿易額から見ると英國は總額の一割五分を占め、之に反し米國は僅かに一千八百萬弗であつて、其大部分は輸出の四割就中護謨が其大宗を占めて居るのである。

一九二五年と十年前の一九一六年の貿易額を左の三箇國に分ちて各國の地位を示す。

國別	一九二五年	一九一六年
英國	三一一、四一二千弗	四七〇、三一〇千弗
米國	六八二、八九三	一四九、二〇〇
日本	六五、四六九	三、四二五

更に詳細に各國當時の勢力を比較せんが爲め左の一表を掲ぐ。

一九一六年度輸出入國別表

國別	輸入	輸出
英國	一〇、八一〇、三四五弗	三六、二〇二、六七七弗
ペラ	三〇、二五〇、三八六	一一、九二二、〇三九
ビルマ	一四、〇六七、二六四	一、四五八、七八三
香港	一三、四一二、五一〇	六、一〇〇、〇五三
羅遥	一二、九六八、二七八	四、〇一六、三四一
セラルゴール	五、七六四、三六四	五、三一八、五六五
マデラス	四、一五七、九六五	六五三、四二七
ケダ	七、一二一、〇一八	三、〇四四、七九六
スマトラ	三、八〇四、八九六	七、八九八、六二三
蘭領	三、五八四、六三六	二、三九四、〇六八
日本	三、二四二、四四五	八三、三九五
瓜哇	二、二九〇、五七七	七、八九八、六二三
支那	二、八三〇、二七九	三一、一九九
米國	一、七六〇、七四八	一三、一六〇、三六七
カルカツタ	三、一四九、四五四	二、四五九、八三七

一九二四年貿易國別表

國別	輸入	輸出
英國	九〇、九〇五、二四三弗	九四、八九三、七九五弗
スマトラ	九九、三八一、一七六	三九、一八八、〇一四
シヤム	七二、〇七〇、四四七	二四、八一九、七二五
印度	六八、九八五、六八二	三二、五〇四、七八七
ボルネオ	四六、五七三、一一三	四、〇四八、四六六
バンカー	三八、三九六、七三四	五、七八三、四二二
瓜哇	三九、〇七六、七五二	二二、一七二、一七一
支那	二七、〇四三、二〇九	九、二二八、五四八
米國	二二、八八四、七一六	二九八、五五四、九七二
サラワク	二二、六一八、八七七	七、一五七、〇〇二
日本	一六、五五五、五二六	二六、四八六、六八二

佛領　一五、一九五、六二六
濠洲　一五、〇九二、二三四
アフリカ　六、四九三、〇〇二
蘭領ボルネオ　三、九〇一、七八九
ビルマ　一、〇九三、〇八四
セイロン　一、九〇三、八九八
ベルギー　二、六三九、四二九
佛國　六、五八三、二四一
獨逸　五、七六三、九九八
伊太利　五、四三九、八〇六
和蘭　五、四三〇、六九七
諾威　一、〇二三、五五二
佛領印度　二、四六五、一一四
ロンボク　二、九五四、二三六
セレベス　二、二八二、六五三
蘭領　二、九八八、九一五
比律賓　一、〇〇四、七八八

8、廢娼の結果と半島在留邦人

廢娼問題は各地在留邦人の自發的決議に依つて兎も角も大正九年中に斷行された筈であつた。恐らく山崎領事はそれを何よりの土産にして東京へ歸つたのであつたらう。然し新嘉坡には女郎屋は無くなつたが、怪しい女の數は爾來ふへこそすれ少しも減つた樣には見えなんだ。況んや馬來各地は事實に於てまだ公然店を張つてゐた。モアの二軒七人とコ

七、一〇六、〇七一
七、八〇三、四七三
一、七二一、一〇一
一三、〇六一、九四一
三二、五〇四、八七八
三、一五七、九一三
一、五〇七、四七〇
二九、八四二、五一一
一二、五三三、八二六
一二、六四七、二二九
一七、一七一、三〇二
一九六、二四六
七、一〇六、〇七六
二八六、九八〇
四、一八二、五〇二
一、〇六〇、九一二
二、三一三、九三一

ーラピラの三軒は或は遠らず方づくかも知れぬが、一時閉塞してゐたらしかつたスレンベンは更に氣勢を盛返し、南京女郎屋と入れまぢつて此處をせんどと孤軍奮闘を續けてゐた。

吉隆坡には七軒の娼家にまだ三十何人の娘子軍が殘つてゐた。おまけにバト路なぞの怪しげなホテルに巢喰ふ素足の國違ひや、南京苦力まで呼込んでる闇に唉く花もあつたとか。カランは四番の西依事件でスツカリ總領事館が味噌をつけた處だけに女郎屋の鼻息すばらしく、タツタ一軒九番が廢業したゞけ、スイテンハムにはタンジョンマリンの護謨園主が到底山では食つて行けないと、新たに女郎屋を開業すべく家を借込み娘を募集中。ユラクブにもまだ女郎屋三軒あり。テレクアンソンは四軒十四人、滑稽なのは娼買を廢めさせ山へ連れて行つたのは好かつたが、日々のマケツ代にも事缺くみぢめさ、却つて娘共が盛んにこぼしてると云ふんだから面白い。殊に一保は更に二軒も女郎屋が增へたと云ふので非常に視察者を驚かしてゐた。田舍の一軒か二軒あつたのが無くなつたのなんか驚くに足らない。一保には兎に角まだ卅六七人も娘がゐて年も若く玉が揃ふてると云ふ評判であつた。然し折角の廢娼問題がかくも無慘な失敗に終つたのは人の罪と云ふより、天の時を得なんだ結果である。支那人の排日貨ボイコットでつまづいたのが不吉のつき初めで、九年春の內地財界大動搖の影響を受けて金融は止つて終ふ。其處へ護謨價無前の大暴落と來たのであるから、廢娼問題が容易に所期の成果を得られなんだのも全く餘儀ない事であつたのである。

9、半島金融問題と新嘉坡の無盡講

東宮殿下の御寄港を迎へ馬來半島各地在留邦人夫々代表を出星せしめ、旗艦のアットホームに招待され無上の光榮に浴したのであつたが、愈々廿二日御發艦を奉送し、各地代表が斯くも集まる機會は中々ないのであるから、差迫る在留邦人の金融問題に關し何等か應急處置を講ずるに非ずんば、半島在留邦人全滅の慘狀に陷るなきを保し得ないのだと、

山崎領事の斡旋で銀行家側にも了解を得て歸り度いと、各地代表、彼南の岡庭、馬拉加の彦坂、吉隆坡の佐竹、中島、芙蓉の笠田、朝永、コーラビラの松永、大隅、一保の水上、下山、ケダの田邊、バトバハの諫川、パハンの古賀、ジョホルバルの明坂、トレンシンの鳴海諸氏が數回打合せ會を開き慘憺たる各地の實情を詳びらかにし、充分認識を遂げた結果、此際各地別々に金融組合等を作り一時を糊塗せんとしても到底追付かないのである。殊に窮迫せる現狀は例へ、吉隆坡に十弗掛の信用組合、一保に廿五弗の物等を作り、それで銀行から融通を得んとしても恐らくそんな現金を出し得る餘裕は何處にもないだらう。一層の事此危急の際に當り、積極的に在留民の經濟的基礎を確定せしむる爲め、日支合辨の地方銀行を作る事に銀行家が援助を與へられん事を望むとの決議をなし、尙此金融問題が方づくまで山崎領事の留任を懇願すると云ふのであつたが、領事が臥込んで仕舞ふ。銀行家側では此際如何に立派な擔保があつたとしても到底地方に資金を融通する樣な事は絶對に出來ない。若しも華南銀行が果してそれに對して特別な援助を內諾した樣な事があつたら、華南銀行其物が信用されぬいかさま銀行であると思はるゝだらうと極論する向きさへあり、漸く臺銀が兎も角も差迫つて各州別に必要缺く可からざる金額だけを聽取し置き、本店に眞狀を訴へ、出來る限りの盡力をなすとの申出をせめての土產として各代表は歸つたのであつた。

然も新嘉坡では賴母子無盡が愈々行詰りどうにもならない現狀にあつた。山口が倒れる、スラマが投出す、丸ト、丸十が愈々店を閉める樣になつてどうにも手の出し樣なく、殆んど下町諸倒れの危急に迫り、混亂名狀すべからざるものあり。三月十四日青年會樓上で舊無盡關係者大會なるものが、賴母子講共濟組合幹部の名で召集されたが何等纏まつた結果も得られなかつた。然し到底其儘放つて置く事が出來ないのであるから、山崎總領事代理、日本人會長華南銀行に最後の裁斷を一任することゝなり、更に卅日夜改めて舊無盡關係者大會が召集され、領事から其經過が尤も親切に報告されたのであつた。卽ち其當時新嘉坡にあつた賴母子講共濟組合を除き四十六本、加入者約三百人四十二萬九百二十弗

に上り、掛金平均八十五弗餘、殆んど七萬八千弗の掛金が每月在留民間に融通されつゝあるのである。而して尤も大口で何とか此際整理をせねばならない債務者八名十三萬四千七百四十弗あり。更に掛金滯納者五十六名一萬八千五百四十二弗に上り、一般無盡は味の掛金を四月一日より中止、カラだけを引續き二分一だけ從前通り納める事とし、賴母子講共濟組合が盛立て來たものだけ續行を許し、一切新規の物は許さない事とし、山崎日本人會長、前田正金支店長、小栗郵船支店長、佐々木臺銀支店長代理、中島華南次席、實業協會長、鷲尾ドクトル、竹內賣藥、永福虎、古藤日々社長、城野日本商會、田尻才六、江尻弘一郎、鹽崎俊雄、得丸龜三郎の十四名を特別整理委員に擧げ、下町の經濟的混亂を漸く危い處で喰ひ止め得たのであつた。

10、此間九年相立ち申候（再來の初印象）

馬來の山、馬來の海、舊態依然としてほゝゑむが如くに九年振でまた歸つて來た僕を迎へて呉れたのだ。朝霧にかすむペンゲランの山、墨繪の如くほのかに浮むリオの島々、やつ張り僕は歸つて來て好かつたと泌々、思はざるを得なんだのであつた。然も愈々船が新嘉坡に近づいて手に取る如く壯麗な市街を指呼し得るに至つて、日本に歸つてゐた九年の距たりを今更らの如く追懷せずには居られなんだのであつた。聖アンドリユス寺院の尖塔とタウンホールの時計臺が僅かに新嘉坡を第一に印象づけて居たに過ぎなんだ。出庫あたりからエスペラネードルにかけての眺望はユニオンビルや郵便局や市役所の宏壯な新建築に寧ろ壓されて、新綠したゝるノンビリとしたジョンブルの植民地風景をドン〳〵破壞して、如何にも弗の亞米利加氣質を象徵するかに見へる殺風景な、鐵筋コンクリートの都會たらんとしつゝあるのである。底拔けの護謨市況が何物よりも雄辯に此間の事實を說明しつゝあるのみならず、斯くして太陽沒することなき、大英國の領土にすら弗の威力がドシ〳〵浸入しつゝあることを驚嘆せずに居られないのだつた。

何事も世界的と云はねば承知出來ない時勢をむごたらしくも脅威する不景氣の深刻味、何しろ上海では日本金の一圓が兩換して一元七十仙、一圓で仕入れた內地の品物を二元に賣つても尙且つ利益を見られぬので、其商賣の仕憎い事は想像に難くなかつた。然も不景氣には全く閉古垂れますが、まあこれでも內地よりはましでせうと多數の店で開かされて流石に海外發展人の意氣盛んなのを喜ばずに居れなんだ。而して從來は殆んど新嘉坡と違はなんだ。香港貨が昨今では一圓出して一弗五十仙にもなるのである。然も壯麗を誇るオフィスに悠然たる上班にカラ元氣なきに拘らず、兎も角も邦人商店の多數がどうにか遣つて行けるのは、まだ日本色の艶々した姉さん連が特に目立つて殖えた結果ではないであらうか。恰度船が着いた日は金比羅樣のお祭だと云ふので千歲に藝妓芝居が催されてゐた。而して滿員大入りの盛況にも增して僕を最も喜ばせたのは、比較的若い娘の非常に多いと云ふ事實でなければならなんだ。例へワンチヤイに僅かに殘る三四軒の日本娼家に殆んど昔の面影を偲ぶよすがは無くなつてゐたとしても、怪しげな壽司屋、そば屋の類に到るまで其處に必ず五六人の艶めかしい日本娘を見ることが出來るのだからむべなる哉と思ふたのであつた。

日本の海外發展が島原、天草の姉さん連に追隨して居た事實は、恐らく十年前の夢物語りとなつたらう。然も日本娘の活躍するところ其處に日本雜貨を商ふ店が出來ねばならないのだ。特に南洋の至る處に今日の成功を招來した根底を此處に發生せざりしもの果して幾軒かあるだらう。一等國民としての態面も大事だが、此不景氣にはとても外見ばかりに浮見をやつしては居れないのだ。新嘉坡上陸早々聞かされたことは、折角の競馬に邦人スタンドの使用が謝絕されたと云ふことであつた。僕は興味的期待が悉く裏切られたのを殘念に思ふばかりではないのである。競馬の收入なくして日本人倶樂部はどうして遣つて行くだらう。何しろ此不景氣だ。七八置いて競馬に行く樣な馬鹿げた事實が無くなつたかも知れぬが、然も競馬の馬券を買ふことは內地でも公然と許されて居るのである。況やそれが邦人間ばかりの取引である以上、損しても儲けても大局に於て何の影響があるだらう。少くとも現在の如き不景氣時代に地方商店として一日

に數萬弗も動く事が競馬以外に果して何處にあるだらう。引合はないのは生產者と取引商店ばかりではないのである。不景氣を最も色濃く彩るものは一般の消費力減退でなければならないのだ。と云つて勿論僕は今更競馬や熱い氷の出現を渴仰せんとするのではないけれど、それより一層人心の退嬰萎縮、やゝもすれば消極的に流れんとするのを恐れざるを得ぬのである。兎も角も故國を後にして三千浬、自ら海外發展のパイオニアを以て任ずる者が尙且つ重箱の隅をほぢくる如き人のあることを悲しまざるを得ぬのである。

まだ來たばかりで幾人にも逢はず通つた町とて數ふるに過ぎないけれど、ハイストリートに孟買商人の店が著しく增加したには感慨なきを得なかつた。或は支那以上に動搖してるかも知れない印度がどをして新嘉坡に斯くまで發展し得たであらうか。うるさい支那人の人力車は尙相應居る樣だが、可愛い爪哇馬に曳かせてゐた辻馬車が殆んど見へなくなつて、赤と黃の小型乘合自動車がひつ切りなしに大通りを走つて居る。其上無軌道電車と大型バスとそして自家用からハイヤーに至るまで、此處にもスピート時代を象徵するモトカの猛威は相應テクシー黨を惱ましつゝあるらしい。のみならず靴工、縫工のストライキ以來めつきり工賃があがつて白服一着二弗五十仙、靴一足二、三弗と云つた流石に安易な南洋生活も今では昔の夢物語となつて仕舞ふて居る。隨つて日本人漁夫の活躍に依つて、マケツに生魚の供給幾層倍豐富になつてるであらうが、一般在留民の勝手向きは決して樂にはなつて居ないのだ。而して人絹の驚異的增進に次いで綿布綿製品は勿論のこと、一般雜貨も大局的に見てボチ〳〵しながら、最近聊か荷動きが見へて來たと云はれるに拘らず、新嘉坡殊に在留邦人商店には仲々景氣恢復の曙光が何處へ行つても見へないのだ。寧ろ慘烈を極むる內地不況の影響は、愈々今後襲來するであらうとすら豫想されて居たのである。何しろ靴下等二十番手以下の日本糸で作られる上海、香港から來る低廉なメリヤス製品に對しては、如何に粗製濫造のメード・イン・ジヤパンも兜をぬがざるを得ないのだ。それから支那繻詰の多くなつたこと、一體に陶磁器等を始めとして、支那の工業的覺醒がボイコツトを段階と

して、とても日本人をしてヂッとして居れない程に、日覺ましい躍進振りを示しつゝある事實を驚かないでは居れなんだ。

郵便局は大正十一年の暮愈々僕が歸ると云ふ頃既に基礎工事に着手して居たのである。そしてユニオンビルやフラートンビル、市役所や上海香港銀行等土庫界隈に、壯麗を誇る新建築が續々落成し、或は落成せんとしつゝあるのみならず、ビクトリヤ街とミツドル路の交叉點に頑張つて居たユナイテツド鐵工所が取拂はれて、卵色の壯麗な四階建のアパートとなり、其他住み古された軒の低い見るから不潔な棟割長屋がドシ〳〵建替へられつゝあるのである。九年の變化を餘りに過大に豫想して來た爲めであらうか。外見的には依然として懷しい昔の新嘉坡其儘の思ひ出にしか浸れない處も多いのである。勿論外見的變化と雖も中心市街よりも一層近き郊外に於て驚異すべきものがあるに相違ない。ヂヤンベツサーやゲーラン路やスラングン路と云つた方面の發展は、確かに再來者の眼をそばだゝしむるに充分であつた。殊にまだ行つては見ないが海軍根據建設工事の進捗に伴ふて、セレタ方面一帶の光景が全然面目を一新しつゝあるに相違ないであらう。平和な常夏の海上を悠々快翔する海軍飛行機のけたゝましい爆音を耳にしても、目まぐるしい東京の生活、殊には大震災の洗禮を受けて根底的に改造された大東京の餘りにも甚だしい變化にもまれて來たものには、何處へ行つても少しも驚くだけの神經が殆んど消耗され盡してるのかも知れないが、それにしてもノンビリした南洋の生活と、やツぱりそれに相應した變化だけしか此處には求める事が出來ないのではあるまいか。單に市街の改造なら上海に於て新嘉坡以上更に華々しい變化が其處にはドシ〳〵實現されつゝあるのを、僕は今度親しく見て來たのだ。然も見違へる程壯麗となりつゝあつた上海の市街以上に、支那の精神的覺醒は更に一層スピードを昂めつゝあらねばならないのだ。而して印度と印度人の精神にも亦それに劣らぬ動搖が等しくなければならないのだ。にも拘らず銀安と世界的不況に影響されて切りに華橋の沒落が喧傳されつゝあるに反し、孟買人の店舖がドシ〳〵ハイ街に進出して來たのは一體何

事を我等に物語つて居るのだらう。僕の同船者に波斯の笠間公使に勸められ初めてテヘランに日本雜貨を賣る店を開かうと行きつゝある一行があつた。だから若し僕が日本に歸つて居た九年間に於ける貿易上の變化の最上を擧げれば、棉花輸入に隨伴する東阿弗利加方面への進展が南洋の廢娼問題の延長に基因し、波斯市場の開拓者が計らず僕と同船の奇緣を結び得た事でなければならなんだ。

寧ろ日本の南洋發展の重要ポイントとしては今日の新嘉坡は或は瓜哇のスラバヤ以下かも知れないのだ。然も瓜哇に例へセレベス、ニユギニアが附隨し或は濠洲との連絡までを計算しても、愈々將來延びねばならない日本の商業的前途に顧みて、到底印度、中央亞細亞を控へ遠く近東、阿弗利加までへも手を延ばされる新嘉坡の重要性に比肩し得べきではないだらう。然も其昔貧賤何の地にか得られざらんやと常夏の島々に行商して、今日の基礎を築いた、所謂一時の成功者にまた昨日の元氣なく、新來者にも亦不毛を開き身を持つて海外發展の先驅たらんの覺悟がなければ、折角の新嘉坡も猫に小判に等しからざるを得ぬのである。下町には尙舊知の顏が餘りに多く殘つて居る。獨身者が妻帶し、子供が出來、或は孫を抱くに至つた人もある程で、移轉等相應店舖の側には變化が多いようであるが、一般的に不景氣の深刻さを聞かされるが、せゝこましい內地の生活に較べて、ノンビリしてる事實は依然として九年以前其儘だ。

然も最近の國勢調査に依つて、新嘉坡在留同胞數が三千八百餘名と豫想程減退してゐない樣に思はれたが、漁夫と女子供がどちらも千名近く居ることを思ふと、其內容には非常な變化があつたと云はねばならないのだ。卽ち女子供と沖繩縣人を引き去つたら、歐洲大戰中好景氣の絕頂時に比較して果して其幾割が今日まで辛うじて殘り得たかを想像するに難くないであらうと思ふのである。殊に當時に於ては女も亦男に敗けない稼ぎ手であり、相應日本雜貨の購買者と宣傳係を勤めて居たのだつたが、今日に於ては大いに內助の功の認むべきものはあるであらうが、商業的にも事業的にも直接の活動家に非ずして僅かに微力なる浪費者たるに過ぎないのだから、實際南洋に於て奮闘しつゝある同胞數が一層

激減してる事實を今更の如く痛感せずには居られないのである。在留同胞の減少は卽ち發展内容の萎縮である。然も此間に於て目立つてふへたものは、マッサーヂと國違ひ相手の如何はしいホテルに過ぎないのである。

比較的に所謂下町の商店數は減つて居ないとしても、其衰退振りは相應再來者の胸にこたへざるを得ぬのである。殊に哀れを催すのは昔の花街界隈で、紅燈はなやかなりし面影今果して何處に求め得るだらう。御料理の看板は新喜樂、月廼家、玉川とまだ三軒に艶めかしく掲げられて居るけれど、九年を距てゝやつて來た僕の顏馴染が五人も女中に居るようでは、其處の空氣が舊體依然として如何に沈滯し切つて居るかを想像し得るだらう。外にアルカフ・ガーデンに喜樂が出來、日本式庭園に一層の情趣を添へ家族連れの清遊や寄港名士を案内するには、甚だ都合が好くなつたであらうが、體裁に於て向上し文化的に或は世相の表面的に俗惡なりし風習が非常に淨化されたと言ふ事實の反面、痛快なりし當年の南洋豪傑連の壯遊を追應して多少の感慨なきを得ぬのである。若い女の渡航を特に取締るのは好いが、在留民を して退嬰的ならしむる如き、一切の現象に對して嚴に戒心せねばならないのだ。尠くとも今日の不景氣は政府の緊縮政策が一般國民を精神的に畏縮せしめた結果であることを、其原因の幾割かに勘定せねばならないことを忘れてはならないのだ。海外發展そのものが國民の外に溢るゝ元氣である。新天地を開拓し千里の異鄕に發展せんとするものが大禮服や羽織袴ばかりで居られるものではない。アルコール的一時の昂奮や魔性の女にうつゝを抜かす如き愚劣極まる事實は努めて抑制せねばならないが、緊張し過ぎると狂氣染み聖人振る人に限つて一層怪しい事が多いのだ。須らく元氣を出して我々は此不況時を切り抜けなければならない。然も護謨も錫も南洋の天産物市況は何時回復するのか、到底豫想が難しい。眞に在留邦人が協力一致して戰はなければならないのだ。總領事館、日本人會は餘りに宣教師的態度を固持せぬ樣、銀行會社の支店は其取立を緩和し出來得るだけ金融方面でも仕入れに關しても、及ぶだけの便宜を與へて欲しいと思ふのだ。土庫は首くゝりの足を引張る樣な眞似をせず、下町は自棄を起さず一生懸命齒を喰ひしばつて奮闘を續

けんことを祈らないでは居られないのである。（昭和四年十一月記）

11、英領馬來の貿易衰退

一九三〇年度海峽植民地年報に依れば、同年の小賣相場指數は一九二三年を百とし、新嘉坡一〇五より九一（卽ち三三・五減少）へ彼南一二四より一〇五（一五・三%減少）へ馬拉加一一九より一〇五（一一・七%減少）へと夫々低下を示して居る。新嘉坡市價を基礎とする食料品物價指數は一九一四年の百及一九二九年の一四〇に對し、三〇年は一二六であつた。一九三〇年の家賃は前年に比し新嘉坡八パーセント、彼南六・六パーセント、馬拉加三・三パーセント夫々低下して居る。

一九一四年以來家賃が一般に高騰したが、馬拉加のみは今尙家賃は低下しない。年末現象としてコールド・ストレーヂの食料品が幾分騰貴した以外、綿絹布及び燈火用石油價は幾分下落を示して居る。

英領馬來（ラブアン及びクリスマス島を除く）の貿易額は一九二九年の十八億二千五百萬弗に對し、一九三〇年度は金塊及金貨をも含み、十三億八千四百萬弗で實に二四・二パーセントの減少である。此內海峽植民地の直接貿易額は一九二九年の十五億六千八百萬弗に對し、一九三〇年度は十二億九百萬弗で、輸入七億一千六百萬弗輸出六億六千八百萬弗、卽ち四千八百萬弗の入超であつた。尙對英國貿易額は一億八千四百萬弗（十三パーセント）對英領諸國二億四千萬弗（十八パーセント）其他九億六千萬弗（六十九パーセント）の割合であつた。

英領馬來の主要貿易國は米國、英國、蘭領印度、暹羅、印度及び支那である。

輸入商品中首位占めるはベンヂン一億三百萬弗で、次は米の八千八百萬弗、護謨四千二百萬弗、錫鑛四千百萬弗、煙草二千二百萬弗、綿布類二千百萬弗等である。輸出商品中價格に於て首位を占むるものは護謨の二億四千萬弗、次は錫

の一億二千四百萬弗、ベンヂン八千三百萬弗、コプラ二千六百萬弗、米二千三百萬弗等である。

一九三〇年度護謨輸入數量は一三五、八六二噸四千二百三萬八千弗で、前年度は一六一、五九四噸八千百二十八萬五千弗過去五年間の平均輸入數量は一五六、〇〇〇噸となつて居る。大部分は蘭領印度、サラワク、遲羅、佛領印度支那、英領北ボルネオ及びビルマ諸國から輸入されて居る。護謨（ラテックスを含む）の輸出は五八一、〇〇〇噸より五五七、〇〇〇噸に價格に於ても四三五、三一五、〇〇〇弗より二四一、七九七、〇〇〇弗に減少した。其六割は米國二割一歩は英國、一割三歩歐洲諸國、五歩日本、一歩英領各地其他極少量が諸國へ輸出されて居る。ラテックスの輸出數量は一、七〇八、五二九ガロン價格一、九一〇、〇〇〇弗より八一五、四八六ガロン八六一、〇〇〇弗に減少して居る。

錫鑛の輸入は四八、八〇〇噸六千三百萬弗より四七、二〇〇噸四千百萬弗に減少、是は主とし蘭領印度より輸入されたものである。錫の輸出量は一〇二、〇〇〇噸一億八千二百萬弗より九七、〇〇〇噸一億二千四百萬弗に減少して居る。其主なる仕向地は米國及英國である。綿布類の輸入は一億六千七百萬碼三千九百萬弗より一億一千八百萬碼二千百萬弗に減少した。尙同品の再輸出も四千萬碼九百三十三萬五千弗より三千三百萬碼六百三十四萬二千弗に減少。

ペインナップル罐詰輸出は五八、六九二噸九、二三四、〇〇〇弗より五七、九五九噸七、八五九、〇〇〇弗に減少、其他數量に於て增加せる輸入商品はコプラ、ベンヂン、胡椒、石油、サゴ等であつた。

輸出品で增加を示せるはベンヂン、胡椒、石油米及サゴ等であつた。

二三、戰爭氣分に救はれた

1、日本國民の惑溺と悲慘な在南同胞の姿

實際の事を云へば內地の、殊に青年の思想は餘りにも最近頽廢的に流れ過ぎて居た。行詰つた資本主義の或はそれ

が當然の歸趨であつたかも知れぬが、折角學校は出ても道に溢れる就職難の憂鬱極まる嘆聲を目の當りにしては考へざるを得ないのだ。斯くて考へ得る頭を持つた者は當然今日の社會組織の缺陷を一層明確に意識する。然も社會科學の研究に興味を持つてる生徒を學校當局は蛇蝎の如く恐れて、遠慮容謝もあらばこそ直ちにブラックリストにのせるのであるから、彼等は勢ひ益々左傾せざるを得ぬのである。だから怎うかして學校は青年の此逸り過ぎる心を他へ轉換せしめんと一生懸命でスポーツの奬勵に浮身をやつして居るのである。だが選ばれてチヤンピョンたり得る者は極く少數に過ぎないのだ。選手生活は全く人生の華であり、早、慶、明の大選手たり、オリムピックの檜舞臺に送らるゝ者は眞に當世の英雄であるに相違ないが、必ずしも一般ファンは選手と等しく何時までも昂奮と緊張味を持續して居られるものでない。壯烈極まる競技を見て居る間こそ勿論左傾も右傾もない。唯熱狂の渦に卷込まれて若い頰をほてらせて居るのだが、扨グラウンドを出て歸る彼等の逸る心には一層うつろの樣な空虛が出來て居る。カツフエへダンス場へ斯くて所謂ファンの多數はなだれ込まずに居れないのだ。だが然し運動競技の昂奮にあほられ赤い灯、青い灯にジヤズの輕快なリズムを慕ふ學生はまだ學校當局に取つて始末が好いのである。恐ろしいのは青白い顏をしてともすれば實際運動にそれんとするマルクスボーイのそれである。だから明治神宮外苑の競技場が且て國費の四割近くも奪取して居た。國防費華やかなりし思ひ出でに比較して更に一層壯麗で、カツフエとレヴュが春の花よりも華やかに秋の紅葉よりも猶濃艶に盛つて居るのである。

事實に於て日本の地方費は殆んど七割を學校費に取られて居りながら、其生徒の思想惡化をどうすることも出來ずに居る。學校は出たが食ふて行くことが出來ないから、無用な學校は燒いて仕舞へと母校に火をつけた秀才だつた小學校の卒業生すらあつたのである。スポーツと享樂と如何に海外發展を叫んでも、ほんの少數の選手以外が將來の生活を約束して貰へぬ現狀では到底浮々しては居れないのだ。日本內地の生活は確かに目標を見失ふた船の如くに、大洋の眞只

中に漂ふて居るのであつた。感激もなければ純眞さも失ふて唯利那的享樂に惑溺してるに過ぎなんだ。然も日本に國家としての指命があり、二千五百年の國史が眞に無意義に書かれたものでなかつたとすれば、必ず電撃の如くに全國民のしびれた魂を、一瞬にして緊張せしむるに足る可き事變が起らねばならぬ處まで來て居たのだ。而して九月十八日の眞夜中、奉天近郊の滿鐵線路爆破に依つて惹起された獨立守備隊と第二師團活躍の號外が、全く電撃の如くに日本全國民の眠れる魂を呼び醒して吳れたのだつた。驚嘆すべき此事實を見てやツ張り日本國民は眞に好戰國民だと世界では惡罵する國もあらうが、吾等は神國日本に對する天惠の餘りにもいやさかなるを、今更らの如く感激せずに居られないのであつた。今日若しも全國民が電撃的に呼醒され、勇躍我を忘れて國家の爲め身命を投出さんと願ふ戰爭氣分に浸るに非ずんば、或は日本の惑溺は永久に醒むることなき陷穽であつたかも知れなんだ。

殊に對手が支那だけであり、滿洲ばかりに局限された事件であつたなら激し易く醒め易い日本人は、何んだ詰らないと再び高鼾で寢込んで仕舞ふたかも知れなんだが、國際聯盟が飛出し、米國が割込んで來たので勃然として日本の勇猛心は高潮されざるを得なかつた。米國何物ぞ、場合に依つては世界を相手としても堂々たる我主張を貫徹せずんば世界の正義が地上に踏みにぢられて仕舞ふのである。打算的に勝敗を考へて居られる場合でない。起てよと誰もが命令はなんだが、擧國一齊に敢然として熾烈極まる戰爭氣分に卷込まれて仕舞ふたのだ。全く之が日本國民の本當の姿である誠心であつたのだ。口先きばかりなら蔣介石も、五十年間の破産的狀態を覺悟で日本と一戰を交へざる可からずと叫んだ。然も猛りたつた支那學生團の開戰決議が蔣介石から「乞ふ卿等先づ義勇軍に投じて討日軍の先鋒たれ」と脅かされて青くなつて逃出したのとは根本的に譯が違ふのだ。日本の怒れる姿はさはらば火花が散るのである。國を賭して守らねばならぬ我權益の前には、千萬人と雖も我行かんの勇猛心が燃えて居るのである。斯の如くにして日本の民心は全く底なき惑溺から救はれんとしつゝある。然も故國を距つる三千浬、南溟の瘴癘に漂浪ふて居る同胞には到底それ程の感

激がない。ボイコツトには遺切れない。萬一の場合、僅か四千の在留民では到底四十萬の支那人には勝てつこないと云ふ觀念ばかりが先きに立つ。眞逆か在南同胞の總てがそんな意氣地なしばかりではないとしても、還境の相違が內地の如く一齊に燃え立つまでに至らないのは全く事情餘儀ないことでもあらうと思ふのだ。それにしても場合に依つては世界を相手としてゞも戰爭仕樣と云ふ意氣に燃えてる日本人としては、我等の姿は餘りに悲慘に過ぎはせぬか。故國は空高く晴れて馬肥ゆる秋である。不景氣も爲替の騰落もボイコツトも總てを忘れて、唯感激に浸る其一瞬を我々は仰望せないで居られないのである。

2、南洋發展と小賣商人

大戰景氣で有頂天となつてゐた當時の出超合計十四億八百四萬六千圓、ヤレ資金の事業化だ。對外投資だと百圓札をマッチ代りにしたなんて云ふ成金振りも眞に權花一朝の夢に過ぎなんだ、大正八年休戰と同時に景氣はがらりと一變して、爾來入超又入超本年三月までに累計實に三十一億七千九百七十八萬一千圓、世界の一等國になりすました積りで自惚れ切つてゐた財布の底はとくの昔カラ〳〵となつて、寧ろ十七億七千百七十三萬五千圓と云ふ巨額の入超となつたのであつた。隨つて日本の對外債權債務狀勢は債權並に投資總額、政府民間合せて廿一億三千八百餘萬圓、債務及び外國人投資總額廿一億三千百餘萬圓で、猶七百餘萬圓の債權超過である如く思はれるが、其債權並に投資の大部分を占むる所謂支那關係十六億九千八百萬圓の約半額以上が空證文に等しく、利子すら殆んど取立てる見込みなく、舊露國政府發行大藏省證券二億二千百六十六萬圓と、共軍需品債權一億二千八百三十四萬圓に至つては、全く溝泥に捨てたも同然なんだから、滿鐵投資の七八億圓を除いては實に一億近い南洋事業に投下された物だけが、日本にとつて生きてる債權なんである。

勿論支那に對する債權が甚だ不良であつたにした處で、滿洲關係の六億二千八百四十萬圓以外でも上海、青島、漢口方面の紡績、工業及び鑛山等に投下された六億六千九百萬圓と云ふ巨額なる資金が固定されてるのみならず、日本の對支輸出年額四億四千萬圓と六萬を越ゆる在留邦人が、支那本部各地に散在して居るのであるから、其動亂の經過が我財界に甚大な影響を及ぼす可きは、餘りに當然過ぎる事實であらねばならないのである。だから支那に對する日本の神經が常に尤も尖銳であるのは少しも不思議では無いのである。暗膽たる現前の時局に直面して、日本の眼はどうしても今少しく南へ擴大されねばならないと僕等は眞實痛烈に思はざるを得ぬのである。

南洋事業の大宗である護謨市況が慘膽たる結果、內地資本家に對する南洋發展の論議は寧ろ苦笑の種たるに過ぎないかも知れないが、大正八年輸出一億一萬一千萬圓輸入二億六千萬圓計三億七千萬圓が十年急轉直下、輸出九千七百萬圓輸入一億四千百萬圓計二億三千八百萬圓に我對南洋貿易額は減退したのだつたが、十四年には又輸出入計四億に上つた棉花、ゴム、砂糖、ガンニー及米等所謂出先商賣、南洋外國間一億六千七百萬圓、瓜哇國內千八百萬圓、印度外國間一億六千七百十萬圓と、つまり昭和元年度我國出商賣取引概算六億七千萬圓の殆んど半額に近い數字を南洋と印度で稼いで居るのである。

更に邦船の外國間貨物輸送運賃收入額大正十五年度五千六百八萬圓の中で、支那南洋間四百六十七萬圓、支那、比律賓、濠洲間五十七萬圓、瓜哇、印度間三十萬圓及び支那印度間六百三十六萬圓と約五分一弱に過ぎなんだが。地勢上これは決して閑却すべきものに非ず。特に我南洋印度に對する貿易關係が棉花、砂糖、米、鈴及び石油と重要物資であり、常に少からざる輸入超過となつて居るのであるから、一層南洋方面に邦人の活躍奮鬪せんことを祈願せずに居られないのである。卽ち印度の棉花三億圓、蘭貢、西貢及遲羅の米一億圓、瓜哇の砂糖七千萬圓、護謨三千萬圓、石油同原油及バラフイン蠟千五百萬圓、鐵鑛及銑鐵千三百萬圓、我國が現に南洋印度より年々輸入しつゝあるそれ等尤も重要な

數種の原料だけでさへ旣に五億數千萬圓に達するのに、同方面に對する我輸出額が戰時好況の絶頂ですら猶三億七千七百廿四萬三千餘圓に過ぎなんだのであつた。然も印度三億六千萬、蘭領東印度四千九百三十五萬、佛領印度支那千九百七十萬、比律賓千百萬、遲羅九百七十萬、海峽植民地及馬來半島三百四十二萬と云ふ殆んど支那に匹敵する人口を有して居るのであり。其年々の輸入額も印度廿五億留比、海峽植民地及馬來九億六千五百六十八萬八千弗、佛領印度支那十三億八千萬法、比律賓二億三千九百四十六萬ペソ、遲羅一億〇六百二十五萬銖、合計大約五十億圓に近いのであるから二割としても十億、單に貿易關係だけでも邦商の努力如何に依て、現在の二倍や三倍たらしむる位決して難事ではなからうと信ぜざるを得ぬのである。

況んや南洋至る處猶未開の沃土が邦人の來り開拓せんことを待つて居るのである。更に有望なる新事業が幾らもあるのであるから、現時一億の投資を更に數倍して、年々一億以上の利益を內地に齎らすことも敢て痴人夢を說くものでは決して無い筈である。支那、滿洲の鐵道、鑛山、紡績、工業海運業等に投下されてる日本の資金總額八億五千六百萬圓で、年々の收益額四千九百萬圓六分弱、露領關係の水產及鑛山への投資額四千八百八十萬圓、年收益六百二十萬圓約一割二分に當るのであつて、南洋投資一億千四百五十萬圓に對する年收益九百五十萬圓は必ずしも悲觀すべき現狀だとは云へないだらうと思ふのだ。

唯然し現時の我南洋投資が殆んど護謨栽培に限られ、且其市價の騰落が餘りに甚だしい結果、堅實なる事業家を招來するに難く、殊に英領馬來に於ては護謨市況が直ちに一般市況を左右しつゝある有樣であるから、今の樣に護謨が慘落してゐては當然投資も思はしからざるべく、一層南洋發展の影を薄からしめて居る譯である。加之、南洋の商權が大半華僑の手に掌握されてる結果、支那時局の影響を受くること甚だしく對日感情の向背が常に色濃く商賣に反影するのは特に迷惑千萬ならざるを得ぬのである。華僑の根底は確に強く、第一南洋各地を通じては五百萬も入込んで居ると

云ふのであるから、とても急に怎うしようもないであらうが、眞劍になつて日本が南洋發展を遣らふと云ふには少くとも邦品の賣捌だけは同胞の手に回收せねば駄目であるだらう。要するにブローカまかせの土庫の取引だけでは到底南洋市場に思ふ樣に活躍することは出來ないのである。印度及びアラブの商人とも今少し緊密なる取引關係を結ばねばならないのだ。邏羅や佛領印度支那に對しては或は華僑の敵ではないかも知れぬが、彼等の活動舞臺は中央亞細亞から近東、阿弗利加にまで達して居るのである。而して眞に南洋の隅々まで我商品を賣廣めんとするには、地方の小賣店を助け、其活躍奮闘を充分期待せねばならないのだ。金融施設の確立や取引關係の改善等根本的に研究せねばならぬことが澤山あらうが、第一各地に出來得る限り同胞を入込ませ、地方在留卸商の面目を一變せしめ、直接日本の輸出品を邦人の手で土人に賣捌かす樣大いに努力せねば僞言だと思ふのである。地方の雜貨店は須らく支那人にならうと同時に、土人の物産を買入れ、場合に依ては少規模の土地的起業なぞもやれるだけに、資金の融通がして貰へる樣にならねばならぬのである。又決して行商なるものを閑却してはならないのだ。大汽船會社は多額の航路補助金を貰ひ、大貿易商は金融關係等で非常な利便を得て居るのであつて、有力な商店に依て組織されつゝある所謂旅商團にすら年々政府は少なからざる補助金を支出しながら、貿易戰線の第一線に立つてる在外邦商のみが少しも國家から顧みられぬ樣な有樣では、怎して眞の海外發展が期待されるだらう。結局海外に於ける新市場の開拓は無名の冒險兒が活躍に待たねばならないのだ。南洋發展を忘れては日本の食糧問題對策は無い筈だ。而して單に資本家や役人の古手に椅子と利益を壟斷せしむる樣なことをせず、眞實國民が思ふさまこの常夏の極樂淨土に活躍することの出來る日の一日も速かに來らんことを僕等は心から祈らないでは居られないのである。

3、歸朝者に懷かしい南洋情緒

シト〳〵と降る春の雨、ふくらみかけた櫻の蕾もホンノリ色づきそめて來た。今日は日比谷公園の花祭にでも出掛けようかと思ふてゐたのであるが仕方がない。一人淋しく机に向ふて原稿でも書くとせう。冬の寒い間は常夏の南洋生活がそゞろに思ひ出され、燃ゆる樣な綠の梢、ムク〳〵と湧立つ雲の峰など、なきさに茂る椰子の風情と共に切りに懷しがられた物だつたが、花咲く春はやつ張り日本に限る樣だ。此頃は耳も痛い程高鳴く雲雀に、朝々起されて居るのである。玉川べりの田の畔や畦道にはお天氣ならば嫁菜か土筆でも摘むのだらう。町の娘であるらしい晴手な着物が朧の春を彩つて更に氣も心も浮立つ樣に華麗かならしめずには置かないのだ。

濕谷の道玄坂に箱根土地の經營で新淺草と銘打つた馬鹿にハイカラな百軒店が出現した。青や赤や眼ぐるましい電飾に春の夜を一層華麗ならしめてケバ〳〵しく裝ふた男女の群を盛に吸集しつゝあるのである。そして其所に南洋館と云ふ椰子の葉やニユギニヤ美人で飾られた一軒の瀟洒な店が開かれた。近く松原晩香氏が持つて來た瓜哇演劇の參考品も陳列されると云ふ事だ。見世物扱ひでも人が珍らしがつて錢を出す中は結構だが更にそれが實用的にも研究され、趣味の皷吹にまで引摺り込まれねば眞實に南洋宣傳の目的を達したとは云はれないだらう。僕は當局者が邦人に南洋を紹介しつゝある現在の態度に對して、非常な不滿を感ぜざるを得ないのだがマアそれも仕方がない。海軍省や遞信省の云ふ南洋とは裏南洋、つまり日本の委任統治をやつてる舊獨逸領の一部を云ふらしいが、外務省や農商務省の云ふ南洋は表南洋で和蘭、英國の屬領、つまり讀者諸君が活動しつゝある一滯を指すのである。更に一派の人々は未だに南洋を邦人への眼にローマンチツクに珍奇に思はせたいらしいのだ。虎や鰐や食人種や乃至惚藥なぞを擔ぎ出してセイ々神秘境たらしめんと努めつゝある人々すら居るのだから厄介である。然もそれら雜多な南洋紹介すら全然統一されては居ないのだ。尤も有望なる投資地として或は工業原料の生產地として、特に日本の經濟界が今少し接近せねばならない方面だと、外務省や農商務省あたりでは相應紹介に努力して居るらしいが、所謂お役人仕事でさつ張り効果の無いところ

へ持つて来て南洋を種に悪どい金儲けを仕様と云ふ連中が手を變へてお粗末千萬な南洋の宣傳を遣るから耐らない。

サロンと水牛の角細工とワヤンの紙人形が決して南洋土産の總てゞは無い筈だ。素朴な未開人の藝術を珍重するとしても、ボルネオにもスマトラに爪哇にもまだ〳〵面白い物が澤山ある事を僕は知つて居る。だから新嘉坡に廣く南洋土産を集めて賣る店を一軒でも好いから誰かやらないかと常て勸めて見たのだつた。然しそんな事は要するに末の末、藥種香料等手近な南洋の工業原料及び建築材料等をも少し廣く紹介して貰ひ度い。廣漠たる南洋の未墾地に栽培して、將來尤も有望だと思はるゝ物を教へて貰ひ度い。更に太陽の恩寵尤も厚い熱帶の産業が如何に日本の農耕地と較べて惠まれて居るかを徹底的に日本の農民に理解させて貰ひ度いと僕は願ふのだ。

更に趣味的に南洋を日本に親しませるには、爪哇の舞樂の紹介も結好だが、何故帝室博物館は和蘭女皇に願ふて修築中のブナンバハン殿堂のかけらの數塊と、古代日本美術品との交換を遣らないかと怪しまざるを得ぬのである。僕は親しく此事は松本前巴威總領事に吳々も勸めて置いたのだつたが、今に其實現せぬのを殘念で耐らないと思ふて居るのである。爪哇を初め畫家の南洋に行つた人は比較的多いが然る可き案內者が無い爲めと、畫家にも亦南洋に對する理解が無い爲めにさツ張り之はと思はるゝ畫題を捕へ得た人が、是迄なかつた事を殘念に思はずに居られなんだ。

古い爪哇音樂は特に日本の音樂家が今の中に調査研究して置く必要があるだらう。西洋人の南洋に對する考へは唯も う利用更生の一途で、其趣味藝術を少しでも保護し愛好しようとする樣な態度は無かつたのだ。けれども日本人の新たに南洋に對する態度はそんな淺薄なものであつてはならないのだ。佛教を通じての印度との關係乃至古い〳〵我々の祖先を追懷する方面から考へても日本の南洋研究は、更に〳〵眞劍で且つ親切であらねばならないだらうと信ずるのだ。日本の宗教家は在留民の喜捨を貪る事ばかりに熱心で有つてはならないのだ。大谷光瑞さんは尤も偉大な南洋紹介者として僕の一番敬服しつゝある所だが、餘り其方面には趣味を持つて居られない樣だから、何處かの本山が奮發して南洋

佛教の研究家を一人位派遣しても好いだらうと思ふのだ。美術團體乃至古美術愛好者も眞に南洋を書ける樣な畫家を年々二三人づゝ位送つても好いだらう。

更に文明東漸史研究の爲めに、帝國大學は是非とも研究者を南洋に送らねば駄目である。天草亂の勃發を豫言して歸つたフランツ・ザビエルがマラツカに殘して行つた隨從の日本人の後はどうなつたらう。シーボルドが日本から移植した茶樹は殆んど枯死したそうだが、今日爪哇茶の海外輸出が猶相應の位置を保つて居る元はと云へば、彼が日本土産の一つであつたのである。其他歷史的に日本と南洋との關係を探れば、邦人をして更に南洋に親しましむる思ひ出は猶幾らでも出て來るに相違ないのである。日本の活動寫眞も僕の言を聞いて資本を出すなり、南洋を舞臺として時代物でも現代物でも必ず世界的に相應見られる寫眞を幾つだつて作つて、眞實に南洋紹介をするのにと數年前から云ふて居るのである。

春雨に降り込められて靜かな机にもたれつゝ、懷しい南洋の思ひ出と更にそれからそれと空想を追ふて行けば何處まで筆が走るか判らない。マングローブの根をひた〳〵と洗ふさゞ波、ニツパのそよぐ河口には網ほす漁家に黑瞳の可愛い娘が今でも無心で遊んで居る事だらう。汀の岩にもたれて聳え立つ椰子の濡れ葉に洗はれて、キラ〳〵冴ゆる月の光に今でも物思はするジヨゲの鐘が更けるに連れて一層腸を掻きむしる樣に響きつゝあるであらう、夏の夜の星の如く散り敷けるリオリンガーの島々に取り圍まれながら、馬來半島の尖端に橫たはる新嘉坡に大英國の强大な海軍根據地が築造さるゝ事は、勞働黨內閣の英斷に依つて暫く延期されたとはいへ、我々はどうして新嘉坡の位置と景勝を瞬時と雖も忘れる事が出來るだらう。願ふは軍國的に新嘉坡を海國日本の脅威たらしめない事のみではないのである。例へ數億の金貨を捨てゝ如何に新嘉坡が堅固に裝れても、それは必ずしも帝國日本に取つて夢魔たり、惡鬼となつて我等の行手を壓迫し得るものではないだらうが、若しも日本の商權が其處で悉く蹂躙され驅逐されたら、其結果は果してどう

だらう。新嘉坡軍港の築造は寧ろ見様に依つては、英國の極東政策が香港から其處まで退却せざるを得ざる趨勢にある事を物語つて居るものかも知れないのだ。同時に日本の商權は新嘉坡を根據地として普く回教國一帶へ侵入せねばならない運命を持つて居るのである。天を摩する無線電信の大鐵塔や、飛行機格納庫や或は潛水艦の根據地としてのあらゆる設備が着々其處に完成されたら、定めし偉觀ではあるだらう。

だがジヨホルバルの海峽に聳え立つ殿堂、そのミナレットから曉雲を破つて打鳴らされる聖跡の音に誘はれて、いそ〳〵と眞白な大理石のドームに集ふ會衆の敬虔な禮拜を、果してそれらの恐る可き偉力がどれ程掻き亂し得るかは大なる疑問であらねばならないのだ。カランやコーラカンサがサルタンの壯嚴な殿堂には、或は却つて純眞にして剛健な宗教的精神が日に消磨されつゝあるかも知れぬが、村落のアタップ葺きの會堂には火の如きイスラム魂が猶今日盛んに燃えつゝあるに相違ない。僕等の南洋を憧憬するのは卽ち其處である。印度と濠洲に對する英人の戰略的杞憂を出來るだけ日本人は尊重したいと思ふのだ。隨つて新嘉坡を武裝する事に對して、僕等は大した痛痒を感ずるもので無い事を了解させて遣つても好いのである。隨つて日本商人の活躍に對して餘りに神經過敏で無い樣に願ひ度いと思ふのだ。もとより英國は自由貿易の國だから、新嘉坡に於て現に日本の商人は何等束縛されては居ないだらう。日本の南洋發展が寧ろ退嬰しつゝあるのは日本それ自身の心掛けが惡いからである。世界的の不景氣は勿論在留民諸君の生活を少からず脅威しつゝあるに相違ない。けれども日本の輸出品が若しも安價にして實用的であるならば、果して是程までに諸君は苦しめられる事は無かつたらう。更に工業原料の乏しい日本は何故もつと〳〵南洋の豐富にして低廉な原料を買込むことが出來ぬだらう。日本と南洋を經濟的に緊密ならしむ可き方策がだから、窮迫のドン底に投げ込まれて居る在留民諸君に依つて更に聲高く提唱されねばならないだらうと思ふのだ。辛いカレーでも食つて先づ諸君は胃袋をウンと刺戟せねば駄目である。櫻咲く日本の春は物憂く切りに眠けを催すが、頭のテツペンから照りつける直射日光を全身に浴び、

燃ゆる樣な鳳凰樹の眞赤な花を見つめながら、額からジク〳〵流るゝ汗にまみれてゐたら、もはやボン槍眠つては居られまい。燒け爛れた樣な新嘉坡郊外の鐵色の道路もそゞろに懷しい樣に思はれて仕樣がないのである。（大正十三年四月八日東京にて）

4、昭和六年を送る

烏兎匆々昭和六年も亦暮れて行く。顧みれば今年は實に財界にとつて多事多難な年であつた。殊に後半期に於て少くとも世界の歷史に記錄さるべき幾つかの大事件が一度に重なつて來たのであるから、全く驚かされざるを得なかつた。先づ奧國財界の危急に端を發して獨逸も遂に破產狀態を暴露するに至り、フーバー米國大統領のモラトリアム聲明となり世界は蘇つたように歡呼の聲を擧げたのであつたが、それも束の間不景氣の深刻化は、更に一層急テンポで世界の隅々までを吹き荒して、太陽沒する事なき領土の廣大を誇り榮華の春とこしえにほゝゑむかに思はれてゐた大英帝國をして、遂に金本位停止の餘儀なきに至らしめたのであつた。

日本にとつても更に殆んど時を同じふして滿洲事變の突發あり、萬寶山問題から朝鮮に於ける支那襲擊となり、中村大尉慘殺等風雲漸くたゞならさるものあるを思はせ、ボイコットの聲またしても喧傳されんとしつゝあつた折柄、九月十八日夜奉天北大營に近き柳條溝滿鐵線路爆發で形勢俄然急轉、一夜にして全滿洲は我軍の手に占領されて仕舞ふたのであつた。爾來南嶺の苦戰ノンニー工橋の激戰等白旗を揭げて我軍を僞り、協定を無視して急襲を試みる等、蟷螂の龍車に向ふに等しい愚を幾度繰返すと雖も、一度壞敗して統制を失ふた支那軍は、要するに烏合の衆に過ぎないのであつて、馬占山チヽハルに蟠居し、切りに偉そうなことを吹立て支那全國民を喜ばして居たが、愈々多門師團の總攻撃に逢ふて一たまりもなく壞滅し、馬占山眞先に逃出したのであるから、流石に日本軍の眞價を知らず、物の道理の判らない

支那人と雖も、到底武力を以て日本に向ふことの不可能である事實だけは飲込めたに相違なからうと思ふのである。だから蔣介石自身の北上説が傳へられ、暴風の如く猛り立つ學生團の狂熱的主戰論が沸立つても、事實は容易に其敵本主義に外ならないことを容易に觀取することが出來たのである。然るに國際聯盟と云ふ剽輕者あり、支那代表の辨口に動かされ小さかしき日本、近頃聊か逆上て居るから此處らで一つ冷水をぶつかけてやる必要があらうと、十三對一の決議で撤兵を日本に要求したのだつたが、どつこい事情も何も知らない、オツサン達の出る幕じや無いと大見得を切られ、今度は日本の提案を聞いて實情調査委員の派遣と云ふことに決定して、兎も角も聯盟の面目を保持する事が出來たのであつた。世界を向ふに廻して極東の日本が——日清戰爭頃は露、佛、獨三國の干渉にすら震へ上つてゐた日本が——敢然として云ふだけのことを云ひ切り得たといふのは、何としても驚異すべき事實であると歐洲人には思はれたに相違ないだらう。

酷寒零下三十餘度の荒涼たる滿洲の野に奮戰しつゝある我將兵の勇烈鬼神を泣かしむるに足る困苦と、ジユネーブから引續き花の巴里で聯盟理事會席上、國家の重責を雙肩に擔ふて奮戰した我全權諸氏の度胸と手腕に依つて、これはかち得た功績であつたらうが、根本に於て我國の實力が、本庄司令官を存分に活躍せしめ、芳澤全權を思ふさま踊らせることが出來るまでに充實した結果であらねばならなんだ。然も顧みて此偉大なる日本國民、殊に海外發展の急先鋒を以て任ずる我々在南同胞の現狀を凝視する秋、これはまたなんと慘憺たる事實ばかりを、至る處で發見せねばならないのか。窮乏のドン底にあえいで居るのは決して我々ばかりではないかも知れない。大英帝國すら或は萬年景氣を誇つた弗の亞米利加すら、今年に入り十月までに破綻を暴露した銀行千七百行、支拂停止を喰つた預金が九億一千萬弗に上つたと云ふのであるから、何處も同じ秋の空、袖を冷たい時雨に濡らす思ひはサマ〳〵であらうが、何にしてもこれでは到底やり切れない。今年の一月二日はまだ護謨市場は十二仙八分七を保つてゐた。然もそれがヂリ〳〵下る一方で、六月

廿二日フーバー大統領のモラトリアム聲明で九仙八分の五と一寸はね上つたが、それも全く線香花火も同然で、九月には遂に七仙四分一まで落込んで仕舞ひ、漸く英國の金本位停止で四月廿四日八仙八分の二まで引戻し、爾來制限協定可能の聲にあほられて十二月始めは十仙八分五を保つてゐたが、日本爲替は正月が百十二圓四分の一で十二月八日は七十六圓二分一、實質に於て正月の十二仙八分七から十仙八分五に下つた、以上に爲替の低落三割何分を加ふれば、殆んど半額以下に暴落したのであつたのだ。然し此慘憺たる事實は十二月十一日若槻內閣總辭職、犬養內閣成立、金輸出再禁止の斷行で形勢はまたガラリと變つて仕舞ふたのであつた。更に支那も蔣介石下野の噂が傳はり、面喰ひ續けであるのは銀行の支配人ばかりではなかつたのである。土庫の卸店も亞米利加爲替の不安定で商賣が出來ず、おまけにボイコツトと極端な購賣力枯渇で下町も半島も、スツカリ頭を滅茶々々に掻き廻されて仕舞ふたのだから、前途果してどうなるのか、若し此際確然たることを云ひ切る人があつたら、恐らくそれは醉餘の寢言に過ぎなかつたらう。去れよあはたゞしい昭和六年、何事も新規蒔き直しだ。裸一貫で飛出して來た昔の元氣さへ消磨し盡して居らないなら、必ず再び盛返へす事が出來るに相違ない。常夏の國、其處には特に太陽の恩寵が永久に濃厚に惠まれて居るのである。來らんとする一九三二年は果して如何なる希望を世界にもたらすか、風吹かば吹け、雨降らば降れ、日本と日本人の力が斯くて愈々世界に試さるゝ秋が來たのである。

南洋情緒

月に磯唄すなどる舟が滲む浮島椰子のかげ
寄せちや又引く汀の月にされる振りして波がしら
すねて寢た夜の肩寒むゝ〳〵と夜風身にしむ虫の聲
夜明け冷めたい白地の蚊帳に獨り寢て聞く鐘の音
糸の三ケ月恥かしそうに椰子の梢を覗く宵
雨の晴れまをまたゝく星に初夜を淋しく鳴く蚓蚯

出船時雨る〳〵千鳥の聲に闇を淋しい波の音

濡る〳〵袂の五月雨すぎて晴れぬ思ひに泣かされる

椰子にかゝつた繪のよな月を艷にぼかした馬來唄

椰子の梢に宿かる蘭の月夜おぼろに滲む花

晴る〳〵ともない野分の雨に虫の聲さへ亂れ勝ち

雨に夜寒むの夜を鳴く虫の聲も細々ふけて行く

護謨の若葉がしよんぼり濡れてしめり勝なる雨季の空

濡れてしほ〳〵親呼ぶひよ子日暮れわびしい雨季の庭

椰子の葉越しにこつそりのぞく雨季の晴れ間の四日月

バサ〳〵と裂けた芭蕉の廣葉がぬれて實るバナヽにやどる露

芭蕉巻葉にキラ〳〵光る雨のしづくに滲む唄

雨に葉すれのさわめく椰子の林わびしい風の音

軒端たばしる飛沫にぬれて親をたづねる犬の聲

捨てられた兒犬だらうが此降る雨に聲も枯れ〳〵鳴いて居る

ジヨゲの太皷の調子もふけて虫も淋しく冴ゆる鉦

調子はやめる踊の太皷胸に迫つた戀もあろ

雨に急かれて師走の懸金のよらぬ恨みを泣く鐘か

月に滲んだラヽンの葉末ふけて露おく開墾地

海を距てゝ山燒く煙り眞黒くもつた空の色

晴るゝともない野分の雨に虫の聲さへ亂れ勝ち

月の砧に磯うつ波を聞て旅情をそゝる椰子

夕陽いろどる椰子林の空日本で見られぬ雲の峰

羊朝日に草はむ牧場椰子のなぎさを見下して

笛に合せて印度の牧歌羊集めて歸る子等

羊追ふ子も時雨れて街の師走わびしい片廂

月の小窓にすく椰子の影カトン好いとこ千鳥鳴く

風がゆさぶる簾をもれて意氣な音締の主憎や

朧滲んだ葉越の月にぬれて艷ます椰子若葉

誰を松虫草家にすだく更けてわびしい椰子の影

何と夕顏來もせぬ人に恨みがましい小糠雨

巻葉涼しい芭蕉に冴ゆる月にキラ〳〵露の玉

二四、滿洲事變と金輸再禁で

一陽來の在留邦商

英國金本位停止と滿洲事變の突發、而して民政黨內閣瓦解、犬養內閣成立で再び日本は金輸出禁止を斷行し、あはたゞしく昭和七年は明けて上海事件、テロ橫行非常時日本の色彩は愈々濃厚の度を加へて遂に政友民政を基礎とした齋藤非常時內閣の出現を見たのである。然も混亂動搖の極にあつた國內の人心は必ずしも鎭靜した譯でもなかつたが、リツトン調査團を迎ふる前、滿洲國は旣に成立し、上海の支那軍亦廿キロ以外に掃蕩され、軍國日本の熱狂は政界の不安と財政窮乏を忘れて、只管ら皇軍の華々しい奮戰に、感謝と昂奮の至情を披瀝することの足らざらんことをのみ憂ひてゐたのである。斯くて上海出征軍は天長節祝賀會席上、白川司令官以下野村艦隊司令長官植田九師團長、重光公使等災禍に見舞はれ異常なセンセーションを全國民に與へたのであつたが、全軍赫々たる偉勳を樹てゝ續々凱旋し、滿洲國承認を樓機として、日本も愈々堂々自主的外交への第一步を踏出した臨時議會が二回も召集され、六月は內閣交迭に依るものであつたが、第二回臨時議會は所謂時局來の一億二千萬圓より十億圓に擴張、三、關稅改正、四、滯貨生糸處分を決し、八月下旬の第三回臨時議會は所謂時局匡救政策の大綱を決したもので、農山漁村と都市中小商工業者の窮乏を救濟すべく、產業組合、中央金庫特別融資及損失補償法、不動產融資、金錢債務調停法、市町村立小學校費、臨時國庫補助法、農村救濟土木事業、農業重要產業の統制、米穀法改正、製糸業法を可決し、農村の自力更生に資せんとしたのである。斯くて愈々インフレーション政策の實現により爲替は急激なる低落を來し、輸出旺盛、軍事工業の盛況と相待つて工業都市に異常な景氣を招來し、海運亦久し振りで船腹不足の活況を呈するに到つたのであるが、必然的結果として昭和八年度豫算は廿三億圓に膨脹し、特に軍事費の增加著しきものあり。加ふるにリツトン報告審査の國際聯盟理事會開催され、形勢甚だ重大を傳へられ、對米爲替は遂に廿弗臺をすら割るに至つたのである。然も英國はオツタワで帝國經濟會議を開き、統制經濟の根本策を確立し益々關稅障壁を高うして輸入の防遏に備へんとするあり。米國大統領選擧を終りルーズベルト優勝して民主黨の天下

となつたのであつた。隨つて日米の極端に悪化してゐた對立關係緩和されるであらうと豫想さるゝに至つた。

然も國際聯盟の雲行き如何では果してどうなるか、形勢容易に逆賭すべからざるものあり。更に問題を當方面のみに局限してこの一年を回顧して見ても、日本爲替低落に伴ふ悲喜劇は非常に在留邦人の心情を焦燥せしめずんばやまないものあり。ローザンヌ會議の成功に依つて護謨價も奔騰し、一時景氣好轉の兆顯著なるものがあつたのであつたが、米國の戰債支拂延期拒絶で形勢再び逆轉、磅の急落によつて聊か日本爲替の反騰を見たのであるが、市場尙混沌として容易に前途の豫斷を許さず。然も日本商品の輸入は、此爲替安とボイコット緩和が拍車を懸けて眞に物凄い盛況を示し、印度、蘭印、馬來半島一齊に關稅を引上げ、特にキヤンバス靴に對して、馬來は一足五十仙の禁止稅に等しい稅率を決定したのであつた。然も爲替の落調更に急にして、到底關稅の增徵もその滔々たる襲來を防ぐ能はず、支那人、印度人等競ふて日本品の輸入に狂奔し出したのであるから、流石に內地の工場も殺到する新規の注文に應ずる能はず、船腹不足をすら訴へさるを得ない盛況を呈するに至つたのであるが、一般在留邦人商店の經營は必ずしも此日本商品の輸入旺盛に比例して決して惠まれはしなかつた。爲替關係で殆んど日本品は半額近くに低落した。隨つて幾ら賣れてもさつ張り金高が上らない。然も店の經費は其割に節減する餘地はないのであつた。

特に蘭領に於て日本品の賣行きは旺盛であつた。殆んど支那人商店を壓倒して、在留邦人商店が繁昌したのであつたが、馬來半島に於ては到底同一事情とは行かなんだ。蘭領は土人の數が絶對に多く、支那人がボイコツトして我商品を賣らねば却つて日本人の店は賑はふてゐたのであるが、馬來には土人の產業として殆んど見るべき物がない。護謨園、錫鑛の苦力が最大の顧客であるから、極端な市價暴落に依つて其賃銀は辛うじて飢をしのぐに過ぎず、購買力全く枯渴し盡してゐたのである。隨つて馬來半島在留邦人は非常な窮境に突落されざるを得なかつた。新嘉坡の卸店も田舍の懸金が集らず品物が捌けないではやり切れないのである。

1、圓安の渦紋が生んだ輸出貿易の大躍進

爲替暴落は秋の日の釣瓶落し同樣急調子底なしで、對米廿弗八分の五、新嘉坡百八十四圓五十錢と云ふ慘落振りを示したので、この爲替安に幸ひされグン〳〵と素晴らしい景氣を出したのが國產品の輸出である。日本工業の發達もさることながら、何しろこの無茶な圓安の潮に乘り日本品を買はずんばあるべからずと、內地の輸出商は世界の隅々からの注文に次ぐ注文殺到で輸出計數はグン〳〵上昇、輸出商は「この際爲替に上られちや大變だ」と「暴落禮讃」の大變な鼻息、長い間船腹がらあきで惱んでゐた船會社も漸々蘇生の息を吹返した。商工省貿易局發表に依ると、先づ綿糸の如き昭和七年九月が前年の八十萬斤七十八萬圓が、二百七十萬斤二百三十七萬圓と三倍以上、十月末までの累計前年より千百二十萬圓增の千八百萬圓といふ增加振り、其他人絹織物前年九月三百萬圓が同年九月は五百二十五萬圓、綿布も同千八百萬圓が二千九百萬圓に、玩具は同九十萬圓が百四十七萬圓といふ有樣で、雜品の名の下に一括されてゐる電球、ランプ、護謨靴ブラツシ、帽子、鉛筆、インキ、時計、花むしろ、セルロイド製品、化粧品、ペイント、殺虫粉、マツチ、自轉車、ボタン、敷布、綿タオル等が九月だけでも前年四月より一千萬圓增の三千三百二十萬圓で、手工業的の小さな工業を賑はしてゐた譯だ。更にこれを販路別にして見ると、新市場總なめの形で前年九月と同年九月の比較は印度が關稅引上をやつたばかりなのに、九百萬圓が二倍の千九百萬圓、蘭領東印度が五百七十萬圓が九百七十萬圓で益々好調、トルコは輸入制限で各國からの輸入商品に割當額をきめて居るのに二十九萬圓に對し四十三萬圓、アルゼンチンが四十萬圓に對し七十八萬圓といふ回復ぶり、埃及は百六十萬圓から三百萬圓、東亞弗利加が五十八萬圓が百四十四萬圓といふ非常な好調、濠洲も二百二十八萬圓が三百八十六萬圓へと增進をたどり、亞弗利加、濠洲を始め日貨排斥猛烈な支那を含む亞細亞だけで同年九月は前年同月より二千萬圓增の六千四百萬圓といふ有樣で、販路の變化を示しつゝ好況

を續けつゝあり。之を船腹から見れば歐洲航路と孟買航路は往航毎船荷物が多すぎて滿腹の盛況、歐洲航路では江海沿岸、近東地方行綿布、東阿への護謨靴、歐洲一般への日本產葉煙草、またそれまでは輸入品だつた鐵管の逆輸出等工業發達よりも明かに爲替關係で、それ等の貨物積込みで神戸出帆は大抵豫定より一日遲れる有樣、一萬噸級は船腹の八割から八割五分まで神戸で積込んで仕舞ふので、途中寄港地の香港、新嘉坡では割込めなくて困つてゐるといふ好況、又孟買航路も定期船は常に船腹一杯で郵船は毎年十月から臨時船を出すのを、同年は六月からずつと毎月臨時船を一杯宛出して居り、更に亞米利加へ肥料やソーダを逆輸出するのも明かに圓安の關係、唯往航は毎船滿腹だが歸り荷がなく郵船なども全體としては前年より一割減で樂歡を許さないが、收入の八割は外貨建であるから却つて安い圓爲替樣々である。隨つて內地はインフレーション景氣で株が騰る。輸出旺盛で仲々品物が手に入らず、おまけに船腹不足で臨時船が仕立てられると云ふ活況を呈して居たのであるが、果して地方農村救濟法案の實施で、どの程度に實際救はれることが出來たであらうか。北海道は大洪水、關東も亦時を過ぎた大暴風雨に襲はれ、東京の浸水家屋四萬戶。

米國の大統領選擧も濟んだ。護謨も愈々最惡時代を通過して、或は來春は需給トン〳〵と云ふことになるかも知れない。錫も騰る。コプラやサゴも大分出るやうになつた。仕入れた商品が着くまでに卸値がヂリ〳〵騰りで爲替は反對にドン〳〵下るのであるから、輸入商は何れも此處ぞと競ふて仕入に馬力を掛けて居る。だが此インフレション景氣で國民の多數は果して實際朗かに醉ふことが出來るであらうか。昭和八年度豫算廿二億の內八億の軍事費と、爲替値下り差損見積りとそれに滿洲事件費が這入つて居る。近年にない大豫算も國家の生產的施設は結局切詰めた上にも切詰めなければ追付かない現狀。幾ら永井拓務大臣が口をへの字に曲て怒鳴つて見たつて、海外發展の助勢なんかに使ふ資金は一文だつて出處が無いのである。護謨會社の大合同、南洋への集團移民だなぞと騷いだところで政府としては、到底そんな方面に直接力を入れる餘裕などは全然ないのだつた。

海外發展は何處までも表面的には、國民の奮鬪努力に待つて政府は其もとに培ひ、間接に其勢ひを助成するやう努めなければならないと中々文句だけは立派だが餘りに中味がからツぽ過ぎるのである。臺灣總督府の助成金等も寧ろ誤解を招くやうな場合すら無いとは云へなからう。臺灣銀行がさツ張り融通して呉れず、華南銀行が設立當初の意氣込みを失ひ、おまけに東洋拓殖が外債利子の支拂ひでヘタバツて仕舞ふて居るのでは、全く南洋發展が手も足も出ないのが當然である。根本的には興業銀行の資金を海外にまで使ふことの出來るやうに法律を改正すべしである。折角の低利金も今の樣では先づ興銀に二分の手數料を取られ、それが東拓乃至臺銀に廻つて又二分の手數料を取られるのだ。結局六分の資金も現業地に來る時には一割以上の高利にならねばならないのだ。此世界的低金利時代に日本の南洋事業だけが、一割といふ高い利子を支拂ふ資金を使ふて居るのでは、到底太刀打の出來ないことは餘りに明瞭に過ぎた事實である。

政府のなすべき事は先づ低利資金を海外事業に融通する方法を講ずること、それから今の樣な臺銀や東拓のこげ付き狀態を一日も速かに矯正し、出來るだけ金融を圓滑にして大いに在留邦商の活躍を助けなければならないのだ。臺灣銀行を片輪にしたのは決して南洋、南支の在留民ではなかつたのだ。鈴木商店を始め、大戰景氣に有頂天になつた內地の成金連中に滅茶々々に掻き廻された結果であつたのだ。護謨山の資金は兎も角も擔保物件たる土地も產業も、ちやんと現存して居るのであり、在留民の破產引揚げなんかは問題にならない程少額なものに過ぎなかつたのだ。然も利用する處少くしてこんなに長く甚だしい損害を負擔させられたのでは、南洋發展は到底やり切れない。政府に或は內地の資本家に我々は頭を下げて今更ら哀願するのでは決してないかも知れない。英領でも蘭領でも本國の犧牲となつて、如何に其領民が泣かされて居るかを、我々は親しく目の前に見つゝあるのである。

乍然、日本の海外發展が虐待されつゝある事實は餘りに甚だしい。金融的に財閥破產の尻拭ひをさせられ、外交的

に對し政策の影響を受けて全然關係のない我々は、幾度熾烈を極めたボイコットにさいなまれなければならんだであらうか。然も此爲替低落、輸出旺盛の絶好機會を前にして、金融の道なく茫然としてチヤンスを見逃らねばならない殘念さを、政府も內地の資本家も全然顧みぬとは餘りに無情に過ぐるだらうと思ふのである。東拓は南洋發展を聲明して實に一億近い資金を募集して居りながら、豪銀の護謨山資金を肩代りしたばかりで、實際南洋に持つて來て使ふた金と云つたら幾らも無いのである。

南洋在留邦人の汗水垂らして稼いだ金が、斯くて內地の政府に惡用され、果ては今日のテロ時代、ギヤング橫行のいたましい世相を招來することに幾分か使はれたであらうと思ふと、我々は腹が立つて仕樣がないのである。飢へた農村の悲痛な叫びも、日本の軍國的熱狂と子供だましの自力更生の聲に掻き消されて、百姓の生活は愈々顚落の一路をたどるばかりであるだらう。生糸が騰り、米が豐作でも日本の農村はさツ張り救はれない。クリスマスが來る。年の瀨がやつて來る。チープセルの赤旗雨にしほれて、南洋の町々は旣に雨季に入らんとして居るのである。ドリヤンの臭がそろ〳〵鼻につき、街の灯が艶々しさを加へて來たが、在留邦人多數の顏は寧ろ悲痛にゆがめられて居る。せめて競馬でもと祈つたことさへ遂に空頼みとなつて終ふたのだ。

2、低物價輸入制限と思想惡化

爲替の低落で潮の如く日本商品が南洋市場に侵入して來たのは、實に昭和七年三月以降のことである。然も蘭領印度に於ては一九二九年其輸入國順位和蘭、亞米利加、英國日本であつたものが、一九三一年は一變して日本、和蘭、新嘉坡と云ふ風になつたのだ。これは英國の金本位放棄に追從して、日本も亦昭和六年十二月金の輸出を禁止した當然の結果であつて、更に七年春以來日本爲替が愈々急激なる低落を續け、英國の金本位停止で一時七十幾圓と却つて逆に圓が

高かつたことすらあつたのが、三月頃は百三十圓となり、遂に九月百七十三四圓まで落込んで、愈々輸入激增の勢ひを盛んならしめ、殆んど或種の品目に於ては日本商品が獨占的優位を占むるに至つたのも情勢全く餘儀ない次第であつたのである。然もこの形勢は獨り蘭領に限らず、英領に於ても相應猛烈に觀取され、オツタワ會議協定の發表と相俟つて遂に思切つた關稅增徵を以て對抗せざれば、到底日本商品の侵入跋扈を防止することが出來ないと見らるゝに至つたのであつた、何しろランカツシヤで碼十三仙の製產費を要する綿布が、日本では七仙で出來ると云ふのであるから問題にならないのだ。

百六十圓と云ふ爲替は全くあらゆる方面から、日本商品の輸入を愈々旺盛ならしめないでは置かなかつた。或は四割の關稅で漸く英國品と日本品が公平に太刀打ち出來るのだと云ふやうな見方も、爲替の實狀から見て餘儀ないことであつたかも知れなかつた。日本の海外輸出は、實に歐洲大戰で一躍世界的レベルにまで引揚げられたのであつた。それまでは生糸、海產物、石炭以外は全く特種な物が幾らかあつたと云ふに過ぎなんだ。日露戰爭の大勝利に浮かされ、勃然として海外發展熱が高唱され、急に新嘉坡にも日本人の雜貨店が開店し、南洋の至る處に同胞の行商が入込んだ時代もあつたが、當時は賣藥を主として安價なメリヤス類か玩具に等しい低級な模造雜貨以外に、日本商品として商品物がなかつたのであるから全く隔世の感なきを得ぬのである。然も歐洲大戰で歐羅巴の商品が殆んど來ぬやうになり、好いも惡いも、高いも安いもない。日本品でなければ何も來ぬので實に好く賣れた。雨後の筍の如くに輸入商小賣店と軒を列べて開店したが、來る程の船が如何に日本品を滿載して來ても、それでも到底需要の急に應ずることが出來なかつたのであるから、銀行、船會社、商店の總てが有頂天になつたのも無理からぬことであつたらうが、何を云ふても無理に一時的膨脹を强ひられたのであるから、粗製を受けねばならなんだのは當然であつたかも知れなんだ。隨つて歐米人は此日本の膨脹を以て全く一時的の現象に過ぎないと見て安心して居たのであつた。然も富の膨脹は總ての產業設備を根本

的に改善せしめ技術的にも最早一歩も歐洲品に讓らぬ優秀精巧な商品を、日本が賣出すやうになつたのであるから、歐洲人は目を丸くして驚かざるを得ざるに至つた。況んや戰後の大負擔に彼等は惱んで居るのである。とても日本と製産費では競爭が出來ぬやうになつたのだ。

元々白人と東洋人では生活費が違ふ。其處へ持つて來て歐洲品から、到底優秀にして低廉な日本品とは競爭することが出來ないやうになつたのは當然の成行きで、詰らぬ大戰などをやつた罰だと諦めねばならないかも知れぬが、全然何等の責任を負ふ必要もない東洋人までが、唯その領民と云ふだけで、此不當な負擔を分けられると云ふのは餘りに可憐そうである。殖民地の開發には莫大な資本が注込まれ、相當な苦心が拂はれたに相違ない。然も東洋にある歐洲列强の殖民地の大部分は、寧ろ投資以上の利益を既に充二分に本國から搾られて居るのである。殊に其領民に至つてはより以上の搾取に久しい間泣かされて來たのであつて今日、本國の疲弊に依る負擔過重以上に日用必要品までも無理に關稅で釣上げられた物しか買へぬやうに仕向けられるのは、餘りに非道に過ぎはせぬかと思ふのである。三四十仙ではき馴れた日本製護謨靴に五十仙の關稅をかけ、どうしても七八仙はする英國品を買はせようとすることは、折角裸足の生活を改めて護謨靴を履くまでになつたものを、再び昔の裸足に歸へす樣なものである。然も今は極端に不況で牧入は殆んど其日の生活をすら支ふるに足らないのであるから、此不當に高價な英國品を買はされることは更にそれだけの減給に等しく、一般住民の生活をどれだけ脅やかすか知れないのだ。勿論それも護謨、錫コプラ等一切の生產物が其爲めに漸次値が上り、ドンドン輸出されるやうになりさへすれば我慢も出來やうが、却つて市況を不振ならしめ、一層輸出の減退を招來するのでは一體馬來の住民はどうなるのであるか。更に物價騰貴に依る當然の勞銀値上げに馬來の產業が應じ得るだけの餘裕ありと思ふ人があるのであらうか。虐げられる者に餘りにもつらい世間を泣かずに居られないのである。

3、日本の聯盟脫退と其日の新嘉坡

昭和八年三月廿七日午後、樞密院本會議で愈々國際聯盟脫退を滿場一致で可決し、直ちに其旨諚府へ電達したとの新聞の號外があはたゞしく出庫方面に配達されつゝあつた。總領事館にも何か公電が來てゐないかと思ふて行つて見たが、まだ何も來てゐない樣であつた。明けはなされた窓からは涼しい風がそよ〳〵と吹き入つて、紺碧に晴れた沖には長閑に伊太利軍艦が碇舶してるのが見へてゐた。

カラリと晴れた南洋らしい光線の强い日で、街には至る處に外字新聞の日本聯盟脫退の張紙が、インクの色も艷々しく張り出されてゐるのだつた。然し日本の聯盟脫退は既定の事實として、今更ら誰もそんなものを後振り返つて見るだけの興味すら持つてはゐないかの如くに、サツサと往來の人は皆無關心に過ぎ去つて行くのだつた。

市場には勿論何等の影響も與へなんだ。支那人も流石に聯盟には既に愛想を盡かしてゐるらしく、日本が脫退しようとしまいと全く我關せず矣、と澄まし込んで振向ふともせぬのである。新聞がヂヤン〳〵はやし立てる熱河戰況にもすつかり熱がさめて仕舞ふて居る。それよりも問題は馬來の特惠關稅だ。目前に襲ひかゝる貿易衰退の事實に脅かされて到底チツとしては居られないのである。護謨市場は依然として慘憺たる密雲に覆はれて居る。錫は六割の生產制限を續けながら少しも市價を回復することが出來ない。和蘭側に又々護謨生產制限の悲鳴が擧げられて居るが、錫の現狀に見ても甚だ制限の效果は疑はざるを得ぬのである。寧ろ前年八九月七仙臺を割つて以來ずつと底値が續いて居れば、弱少園の大部分は採液を中止し、土人園も餘程放棄されてゐたに相違ないのだが、適々八仙九仙と騰つて來るので不良園の整理が何時までたつても出來ず、南洋の護謨栽培事業は底なき不安の淵に投込まれて居らねばならないのである。然も馬來の購買力は彼等苦力の食費を拂ふた殘りの極く僅少な賃銀に過ぎないのであつて、到底過酷な特惠關稅に依て保護

されねば競爭の出來ない樣な高價な英國品を買ふ餘裕などはないのである。加之、比較的餘裕ありと見られて居るサラリーマン階級にしても、減俸また減俸で、一仙でも低廉な實用品以外は買ひ度くも買ふことの出來ない現狀に突落されて居るのである。國産愛用も結構、國家の産業を保護せよとのスローガンも確かに承知はして居るが、此不景氣な深刻で商買は益々不振に陷つて來つゝある。況んや自國の製産品ばかりでは、到底今日の生活を支へて行くことの出來ない支那人、何れは他國の製産品に依存せねばならないのであり、又それを販賣することに依て營業を續けて居るものが、最も低廉な日本品をボイコットして、結局自滅するより外はないのである。愛國運動と云つても餘程考へて見ねばならない。或種の問屋は自分等だけで日本品を買占め、ボイコットを口實に不當な利益を壟斷しつゝある者すらゐたのである。

滿洲、熱河なんてどんな處だか知りもしない地方のカド〳〵で、自分等の商賣まで立行かない樣にされては耐つたものでない。張學良が沒落しようが、蔣介石がなんと云はふが、一體全體自分等の家鄕である廣東、福建の政情すらどうなつて居るのかサッ張り判らない人だから、とても商賣そつちのけにして馬鹿々々しい愛國運動などに熱狂しては居られないと云ふのが、醒めて華僑多數の僞らざる本心であるだらう。兎に角護謨がも少しどうにかならないことには、南洋はとても遣切れないのである。コプラ、サゴ、胡椒等あらゆる生産物が極端に暴落してる上に、折角汗を流して働いても、數日の收獲が全然賣れない場合もあるのであるから、せめて子供等だけに米の飯を喰はせてやり度いと思ふてもそれすら出來ない處が多いのである。然も特惠關稅で低廉な日本品を買ふことが出來ない樣にされては、多數の民衆は最惡の今日の生活をすら續けて行くことが出來ない樣になるのである。

護謨價の騰落は最も亞米利加の景氣に影響されるのであり、一般生産物の極端な暴落も世界不景氣の結果であるから仕方がないと云つても、英領そのもの〻生活費がそれに追從して低下されねば、領民は生て行くことが出來ないやうになるのである。殖民地は本國の資本に依て開發されたものに相違ないであらうが、果して生て行くことの出來ないまでに搾られねばならない義務を負ふべきものであらうか。本國の窮乏を救ひ投下資本の利潤を擁護すべく、領民は當然或る程度の苦痛に耐えねばならぬかも知れぬが、何れはそれが餘儀なく獨立を決心せしめ、反抗心をそゝる動機となることは餘りに歷史が明瞭に教へて居るのである。英領と蘭領と佛領と何れが領民の生活が樂であり、統治者が無理をしてるかを此處で比較しようと云ふのではないが、今少し親切に眞面目に南洋殖民地の將來が考へられないと、常夏の無風帶にも沛然たるスコールが來るのである。

4、下町邦商の繁昌

賣藥店も書籍店も護謨の仲買ばかりをやつてゐた商社の支店まですが、在留邦商は何處でも一般雜貨、玩具、金物、綿布類を輸入販賣する樣になつた、何しろ降誕祭とコアサアビスの仕入れ時を控へて日本品が羽根がはえて飛ぶ樣に賣れて行くのであるから、默言つて見ては居れないと誰もが手を出して見る氣になるのだらう。半島から邦人もボツ〳〵仕入れに出て來出した。殊に支那人、印度人は南遲の連中、馬來半島東海岸スマトラ、ボルネオ等々遠方からの仕入れ客が相應現金を懷中にして安い物、眼新しい物と邦人商店を一生懸命物色してるのみならず、市內の小賣商もこれ迄の取引先きばかり賴つて居らず、支那人問屋、邦人商店と一々卸値を聞き合せ親しく品物を比較して、出來るだけ有利に仕入れなければとても猛熱を極むる販賣戰に伍してその營業を續けて行く譯に行かないのである。隨つて卸店の方でも安閑としては居られない。白人商館のセールスマンが新着品のサンプル携帶で、實にこまめに支那人、印度人の店を廻つて居る熱心さには感心せざるを得ぬのである。ポカンと坐つてゐてもドシ〳〵品物が賣れて行つた時代とは時世が違ふて來たのである。

尤も北橋路、中央街の邦人商店は荷物が着いた時など一杯の仕入客で、とても廣告や宣傳などしてゐる暇がないと云ふ繁昌振りであるが、より以上邦品の宣傳廣告が上手に行屆いたら、更に販路を擴張し、賣行きを增大するであらうことは疑ふ餘地なき事實である。卸商としては目に立つ街頭の廣告以上に、取次販賣店を選ばなければならないに相違ないが、新市場への進出と販路の擴張には、どうしても目立つ宣傳が必要である。ブローカまかせの商賣には必ず危險が伴ふのだ。隨つて邦人商店大活躍の一面に賣掛代金の回收難や思惑はづれで、とんでもない大失敗をしてる處もある樣に聞く。某々商店の破產問題はまだ完全に解決してゐない。最も力を入れ殆んど世間からは其處の取次販賣人かの如く見られ、爾餘の取引先は寧ろ背後の勢力を信用して貸した樣なものであるから、責任を負ふて自己の債權を放棄し、小さい處の迷惑を出來るだけ輕減してやる樣にしてやるのが本當だ。

三井が社會事業に三千萬圓投出したと云ふが、此處の支店が果してその本店の主旨に添ふやう下町邦商を援助し、一般在留民社會のために貢獻せんと努めつゝあるか否かは、甚だ疑問なきを得ぬのである。三井から見れば三千萬圓は鼻糞位の金かも知れぬが、兎も角時勢の變化に促され、人心の險惡化を緩和せねばならぬと認めて居るのに、手足たる各地支店がそれを裏切る樣な態度を改めねば三千萬圓はドブへ捨てるも同然となるのである。三井の相當思ひ切つた社會奉仕に刺戟されて、三菱も住友も恐らく追隨せないで居られないだらう。然し幾ら本店が目立つ樣に大金を投出しても、その事業と支店網が至る處で、國民から恨まれる樣な惡どい事を繰返してゐては、幹部の生命は幾つあつても足らないのだ。サラリーマンは唯目前の成績さへ擧げれば好い。幹部の生命なんか構ふて居られるかと云ふ樣な薄情であつてはならない。月給の上ること、ボーナスの多少を心配する以上に國家を思ひ、國民全體の利益幸福を考へる義務があらうと信ずるのである。

ネルソンはトラフアルガーの海戰に旗艦の檣高く國家に對する各員の義務を遂行せんことを祈る、との信號旗を揭げ

させた非常時々々と幾ら口先きばかりで騷ぎ廻つても糞の役にも立たないのである。非常時とは全國民に自己の利益と安全を振棄てゝ一意邦家のため奮起せんことを要求する時代のことである。日本は今や至る處で關稅引上と輸入制限で貿易發展を阻止されんとしつゝあるのである。生命線の確保すらも侵略行爲と猜疑され、世界總スカンの代名詞となつて何んでもかんでも押潰さんとのし掛かられて居るのである。國民たるものこれぢや到底自己の懷中勘定にばかり沒頭してなど居られる場合でないのである。況んや遠く國を離れて海外に奮鬪して居るお互であるから、どうしても助けあはなければならないのだ。殊に日本は國が狹くて原料がないから、輸出工業の發展に依らねば年々八十萬も增加する人口を養ふては行けないのだ。出來ることなら一人でも多く海外に呼寄せ、夫々生業を與へなければならないのだ。それを折角裸一貫で出て來て漸々今日までに土臺を築き上げた者を、赤子の手をねぢる樣なむごい事をする如きは言語同斷である。

儲からない。遣切れませんと口癖になつてるから、何處へ行つても愚痴ばかり聞かされるが、護謨、錫價の騰貴による購買力の恢復は潮の如く舶載され來る邦品輸入高の增加と、邦人商店の繁昌が最も雄辯に立證しつゝあるのである。昔の樣なボロイ儲けを夢見ることは勿論出來ないだらう。極端に薄利多賣の餘儀なきに至つて居るのであらうが、賣れさへすれば山がその內に儲かることもあるのである。邦人商店の飾付は大體に於て同じ樣だが、あれも夫々特長はあるのである。

安い大阪物を主としてる店、東京の比較的高級品を列べてる處等々仕入れに來る方がちやんと知つて居るから、何處も相應繁昌して行くのである。土庫の會社支店とは自ら商賣の遣方が違ふから邪魔されたり、折角賣込んでる物をさらはれさへせねば下町の邦商は相應儲けて行けるのだ。唯下町は商賣が小さいからそれ程あせる必要はないが、土庫はウンと賣らねば經費倒れとなるから、無理な貸越しをしてとんだ失敗をするのであり、その尻が一般小賣店をいぢめる

結果となるのである。

世の中は持ちつ持たれつでなければならない。ましねばならないのだ。何時までも不景氣を口實にして消極的にばかり遣つては行けないに相違ない。努めて先輩の指導を受け、廣く世間を知つて居ないと詰らぬ失敗をせねばならないのだ。爲替關係等はどうしても土庫に聞かねばならないが、實際どんな物が良く賣れるかは却つて下町の方が詳しいかも知れないのだ。其處に卽ち協力一致の必要が大いにあるであらうと信ずるのである。

最頑强な金物商と泥沼式取引關係

ボイコツト中最も頑强な態度を持續してゐたのは金物商であつた。尤も金物類は餘りこれまで日本から輸入されず、英獨品ばかりで、然も仕拂が非常に滯り、急に改變することが出來ない狀態にあつたのである。處が爲替安で値段が驚く程安く上等な金物類で日本からダン〳〵來る樣になつて、とても歐洲品は競爭することが出來ない樣になつたが、支那人の大きな店は外國商館との取引關係上、日本物を扱ふことが出來ないため一層ボイコツト熱を煽り立てゝ、其取引を妨害してゐたのである。然し中小以下の支那人商店はそんなことを云つては居られない。賣れる物を店に置かねば商賣が立行かないのだ。だから組合を脫退してまで日本品を賣つてるのがあつた程であつた。處が愈々ボイコツトも解消したから、これからだと邦人商店では喜んでゐたのであつたが、豈はからんやガスリー、ボーステツド等々外人商館が大概大々的に釘、トタン、針金等の日本品を賣る樣になつて仕舞ふたのだ。然し其値段がとても安い。恐らく內地の仕入値が日本人より安いのだらうと思はざるを得ない程なんだ。日本人同志、殊に遠く海外に奮鬪してる同胞よりも、外國商人に對して安く卸すなんて甚だ奇怪千萬であると思ふが、由來內地の卸問屋、製造家はこんな沒義道なことを平氣でやるのである。品質檢査や價格維持等非常に在外邦商に對する輸出品にはそれが嚴重に勵行されるが、少し纏まつた外商の注文となると大概の事は易々諾々として應じつゝあるのである

から耐まらないのである。

大會社の海外支店の商賣が又殆んどそれと同一である。地の邦人商店に對しては全く賣つてやると云ふ態度でとても勘定など喧ましいが、國違ひの店に對しては下にも置かぬ挨拶振りでお世辭たら〳〵頭を下げつゝ、巧なブローカに引懸つてボロリ〳〵と大きな損害を蒙りつゝあるのである。由來我輩ケ關外交は軟弱そのもゝ、代表であるかの如く云はれてゐたのである。然も最も對外的に直接その衝に當る貿易商の態度が、これでは獨り外交官の屈辱的態度を攻撃することは出來ないのである。「蔭辨慶の外つぼかり」これが鎖國日本の解放されて、初めて世間に突出された時の姿であつた。官僚は內國民に偉張つてばかりゐて、外人の前には唯その意に逆らはざらんことを、之努むる醜態を暴露して少しも恥としなかつた。學者は唯何々博士曰くと外人の說を列べて得々たり。資本家は歐米の流行にさへ隨へばそれが卽ち成功であると信じてゐた。だから東洋的はなんでも舊式、西洋流でなければ到底立身出世は出來ないと思込むで育つた結果、敎育程度の高い者ほど外人崇拜の念がしみ込んでゐたのも、餘儀ないことであつたかも知れなんだ。然し歐米の科學文明に學んで日本は今日の實力を地位を獲得することが出來たのであるが、先生だから自ら容しふして有らゆる物を捧げなければならないと云ふ法はない筈である。自分の爲めに學んだのであつて、決して先生のために勉强したのではないのである。

頑迷な新嘉坡の華僑金物商でも最初から必ずしも今日の樣に、拔差しならない延べ取引の泥沼にはまり込んでゐたのではなかつたのだ。英蘭佛に市場を壟斷され遲れて東洋に進出して來た獨逸が、延取引で自分の商品を賣込むことを始めた爲めであつた。最初は三月のサイドだつたが半年となり果ては九箇月で、まだ二週間の猶豫と云ふ樣なことにまでなつてゐた。仕方がないから英國商館も餘儀なく、或點までそれに追從して行つた結果は支拂の延滯である。然も歐洲大戰中無理に取引關係をつないで置かふとした夥しい賣掛代金を一擧に整理せんとして、幾度かのボイコツトを利用

したことが益々深身に追込んだのであつた。此狀態は到底思切つた大手術を斷行せねばどうにもすることの出來ない處まで進んでゐたのである。其處へ無前の世界不況と上海事變と爲替の大變動と問題が相次いで起つて來たのである。

貸越し過ぎて居るのが注文に應ぜねばこれまでの滯りが取れないと云ふ取引關係が、愈々この上もう貸すことも出來ず又支拂ふことも出來ないと云ふ狀態になつた時、果して其處に出て來るものは何んであるか、破産まで此頃華橋の間には種々な變化が生じて來て居る。突然店を閉める樣なことをせず債權者を集め兎も角も債務の一二割を拂ふて後は出世拂ひ、投出されては困るから商買だけは續けさせ債權の維持を確保しようと云ふのである。だから開店休業銀行の手形で商買してるに等しい危險極まる狀態が卽ち彼等華橋の現狀である。

とてもこれでは現金賣買でなければ彼等と取引は出來ないのだ。詰り大きな店、古い店程困つて居るのであるから新しく活躍せんとする邦商は、須らく其中小以下、實際店賣をやつてる者を面倒でも多數相手に現金取引をやる樣にせねばならないのだ。處が大會社の支店は非常に信用調査と云ふことに重きを置いて居るのであるが、一體こんな處でどうして確かな調査が出來るだらう。或る程度彼等の系統や取引關係を知つて置く必要は確かにある。然し要するにそれまでのことで出來るだけ小賣を儲けさせてやる以外に卸問屋の秘訣はないのである。もう大概外人崇拜思想から解放されても好いだらうと思ふが、事實は中々そう行かない「日本品は日本人の手で」と喧ましく叫ばれて居りながら何時まで經つても地の邦人商店を認めず、引立てる處か寧ろいぢめて然も國違ひから好い加減馬鹿にされて居るのである。自主的外交と共に自主的貿易の强調を我々は遙かに內地の問屋と大會社の幹部に希望してやまないものであるのである。

5、英貨低落とボイコットの脅威

英國政府が緊急閣議で金本位制一部停止を發表する。日本は滿洲の爭亂で奉天、長春を占領したと云ふ騷ぎ、其處へ

もつて來て東京大地震の電報を受取り、廿一日は流石に銀行の支配人も茫然自失たらざるを得なかつた、然も爲替の動搖容易に鎭靜せず、肝心な紐育商電が來ないので全く商買上つたりの混沌たる光景を呈してゐた。何しろ圓爲替は九十二圓、三圓、六圓、八十五圓と猫の目以上に騰落し、英米クロースは廿五日兎も角も三弗八十仙と落付いて夢から醒めたやうにぼんやりした眼をこすりながら、デスクに向ふたが世界がひつくり返つたようでまだ眞劍に算盤を持つ氣になれないには閉口した。

ボイコット勃發の形勢は廿三日の國耻紀念日がクライマックスであつたが、其筋の警戒嚴重で幸ひ平穩無事に經過したのでヤレ〳〵と胸を撫で下した。狙て者の陶磁器商組合だけはボイコット斷行の決議をしたが、此不景氣にそんな無茶をやられては一家路頭に迷はねばならぬと、仲々署名を頑强に拒んで居る組合員が相當多いそうである。それから引續き總商會で全華僑代表大會があつたが、南京政府に對し激勵電報を發送する一項を決議したばかりで、何等全體的に纏まつた方策を確定するに至らなんだので、氣の荒い十七組合は斷然ボイコットを決定すべしと聲明書を發表したと傳へられて居る。

何しろ號外々々で僞言八百を並べ立て、これでもかと支那新聞一齊に筆を揃へて煽動誘發に努めつゝあるのであるから、一般的に支那人の邦人の顏をのぞく眼付が非常に違ふて來た。マーケットなぞでも賣らないとは云はないが三割位高く吹掛け、嫌なら强いてお買ひ下さいとは申しませんと憎らしい程澄まし込んで居るのである。然し醫院、散髮店、寫眞業等に相應ボイコットが實行されてるのみで、一般的にはまだそれ程表面的には現はれて居ない、殊に今度は車夫を始め勞働階級が比較的冷靜な態度を持して居るに拘らず、寧ろギヤ〳〵騷ぎ廻つて居るのはインテリ階級であることに注意を要する。だから愈々全體的ボイコットが指令されたとして恐らく暴動化する如きことなく、唯經濟的に在留邦人を苦しむると云ふ方策に出るのだらうと思はれる、經濟斷行の苦痛は在留邦人全部が等しくなめねばならない苦業で

はあるが、直接影響の慘烈さは土庫の卸商に比し一層下町乃至地方商店に於て激甚である事實を、特に內地當局の考慮されんことを祈らずに居られない。ボイコットの損害に對して日本政府はこれまで餘りに無關心に過ぎて來た。然も折角芽を出そうとすればボイコットで叩きつけられる我南洋發展の現狀に對しては特に何等かの方策を講じて置いて貰はねば到底遣切れないのである。

現在は華僑の排貨運動以上に英貨低落の影響が實際にはこたえて居る、殆んど百十三圓八分の一と釘付のように動かなんだ對日爲替が俄然九十三圓、八十五圓と暴落したのであるから各商店は如何にして此爲替の損害を輕減すべきかに狼狽し切つて居る。賣藥は取敢へず二割の値上げを通告したが、朝日麥酒は一箱につき一弗の値上げをなさんとしたが本社が許さなんだ。爲替の値下りが二割何分であるから當然輸入品はそれだけ値段を上げねばならない譯だが此處は決してあはてる場合でない、英貨の低落に依つて確かに英國の輸出が非常に有利となり、隨つてそれだけ邦品の輸入は歩が悪くなるのであるから、特に出先き商店は考へて貰はねばならない。事實に於て綿布綿製品は旣に一割の値下げを斷行し、東京の米の小賣値段さへ一基七厘低落した、卽ち對英爲替の變動に依る影響を原價と運賃と商店手數料の輕減を以て補ひ、英國品に對抗するに非ずんば當方面に於ける日本の輸出貿易は非常な打擊を受けねばならないのである。然も內地の卸値が下り、運賃が下つても當地商店が目前の損害に狼狽し價格を引上げて、日本品は高いと一般に思ひ込ませて仕舞ふたら折角の苦心が悉く水の泡に歸せねばならないのだ。英米クロスが果してどの程度に落着くかゞ問題であつて、徒らに思惑の犧牲となり、傀儡の如く操られて居つてはならないのである。さらでだに一方ボイコットの脅威を受けながら此際邦品の値段を一擧に上げたら其實行きに甚大な影響を招來するであらうことは餘りに明瞭に過ぐる事實である。商店は値段を上げると同時に店員の給料を上げたであらうか、當然一般的に物價が上る結果として護謨山にはクリー苦力賃に對する重大な問題が控へて居るのである。圓で給料を貰ふ、增給されたと等しい土庫の人々を標準として急

に正札を書變へられては多數の在留邦人が遣り切れないのである。商店あつての顧客でなくして顧客あつての商店なんだから。

6、熾烈なボイコットと華僑商店の內狀

滿洲事件から日貨不買と對日經濟斷行に入つた新嘉坡華僑の內幕は果してどんなものであらうか、近年彼等の宿痾的となつて潛行的に活動を阻止しつゝある「實業資本の逃避と遍在」と「不動產評價の低下」が非常に極端となり、必ずしも在南華僑のみならず世界的に產業立國の癌となつてゐるが、今日商工業を問はず華僑商店が營業頗る消極的となり金融亦一般に梗塞を告げたのは一九二八年以來の世界的不況の影響なる事勿論だが、裏面に打續く不況に資本家の自衞手段としての投資回收とその心理的影響と萎縮が重大な役割を演じてゐることを忘れてはならない。玆兩三年彼等の本蠶食資本回收され著しく逃避偏在の形式を辿り、彼等輓近の營業は勢ひ退嬰萎靡を來たし甚しくその金融を拘束した。元々資本移民でない華僑は合辨乃至合資組織に依るもの多く、これが近年不況深刻と共に組織の改變、併合、整理等離合集散が多くなつたことが雄辯に此間の消息を物語るものである。不況深刻に從ひ一般殖民地信用取引の極度額」レベルが低下した結果、スペキユレーション漸次影を沒し彼等商店は資金回轉上、相互融通力を喪ひ膨脹性のない所謂「握つた丈の資金」で營業を營まねばならぬ時勢となり一大恐慌を感ずるに到つたのである。漸進的で急激に來た爲替問題の樣に矢釜敷く騷ぎ立てぬが、インヴイシヴルである丈實際影響は大きいのである。此現象は當地邦人實業界にも見受けるが、國籍の違つた商人が雜居營業する殖民地の常として信用取引層は平時に於ても割合稀薄で、如何に護謨が上らうと一定のリミットを出ぬ當地では護謨の好況時代でも邦友は餘り無茶な伸張發展をしてゐなかつたので、之が今となつては幸ひして當面は華僑が當面せる程深刻なものでない。これが地震の搖り返しの樣に過去幾回となく繰返された排

日ボイコットに對し邦商がこれ迄敵陣に屍を曝す事なく敢然耐えて來た原因であるのである。普遍的に經營困難に當面せる當領幾千の華僑商店を觀よ、推定對日輸入貿易額の約六割、年額千三、四百萬弗の日本商品を賣捌いてゐた華僑が今十萬弗の商品取扱ひをも肯じない排日貨の看板の下に自ら困惑する彼等の姿を、此代表的姿の一例はハイストリートに見る。日本綿布雜貨を百%米櫃とする彼等華僑は滿洲事件に憤激九月廿三日漢字新聞に排日共同聲明をなし、他組合に率先して自發的日貨不買の擧に出でたが、扨荷受猶預期間の十月廿日が過ぎると樽比したこれ等卸小賣商の店頭は全く火の消えた樣な淋しさ、平常の顧客の姿は半減し、地方送りの三箱四箱程度の商品を箱詰する物音すら廣々とした店內に反響して寂寥をそゝる、邦人はもとより一人も出入せず、親爺は合はぬ算盤を購買力の極減を卿ち爲替資金の心配をする有樣、數人乃至十數人の店員は所在なさゝうに排日新聞を讀み耽ると云ふ恰好で氣味の惡ひ程寂寞、そぞろ商家の冬籠を思はしめる。然も九月廿日英國金本位制停止のため對日爲替逆鞘となり輸入品は爲替契約なければ何品も全然採算不能に陷つた處へ、丁度滿洲事變勃發の電報を受取りボツと逆せ上つて「どうせ算盤がとれん商賣なら排日を敢行して」と捨鉢氣分が彼等の間に動いた事は爭はれない。又事實かくしてこの英國金本位停止に依る採算不出合が間接にその動機となり、果然これを助成したと見られる。月對く其三百弗乃至五百弗の家賃を出してる各商家は今日此頃の賣上は半減處の騷ぎでなく兩三年前、一日二、三千弗の賣上を誇つた店も慘落實に百弗に充たぬ狀態である。他は押して知るべく日本品をブリスクに回轉、二歩あれば利喰、轉賣應變荷動き花々しい商賣を持續し、其實火の車に金融回轉を策して來た商店は悉く舵機を流失した船舶或は神經中樞を一擊された人間の如く、一切のコントロールと活動は急停止した、十月末來華僑商店は滿洲問題の雲行き容易に解決平和克服の曙光を認められない狀勢を見越し、持久戰乃至爲替と排日の落付く迄手持品の値上賣處分と補充買方針で籠城の覺悟を定めたもの丶如く、時局長引くとの想見で東聲等の店は自發的に閉店した樣であつた。此疾風迅雷的バニックの犧牲となつたものは今日迄のところ公安泰が一軒で、

其他の大多數は經濟的困憊にあり、暖簾と大黑柱を絶食同盟に似た排日貨の旗幟下維持すべく手持品の處分に地方賣掛金の回收に或は輸入手形の支拂對策に狂奔してるのが其赤裸々な姿である。今度の排日は錦州の爆彈投下等でさなきだに第一報以來悲憤激昂してゐた彼等の排日熱に油を注いだ結果となり、從來の如き單なる排日貨のみならず、一時は上海、香港等に見受けた如き暴動勃發の憂もあつて在留邦人を不安ならしめた位、その反日感情は在馬百七十萬華僑の心底に激越な漢字新聞を通じて相當深刻に銘記された關係上、彼等にも多少利害を離れた國家的意識が擡頭し、愛國精神から自己の營業を犧牲にして排日貨の旗幟を掲げたものが、日貨を米櫃とする華僑中にも其數尠くなかつたのである。排日貨、爲替逆鞘、購買減退の三重奏に惱まされるのは豈邦商のみでない、或意味では華僑が爲替關係を除けば一半の胎因を提供したとも云へるだけ、結局最大の打擊を受けたのは矢張り華僑それ自身であらねばならない。殊に前述の理由で華僑實業界の現狀は存外資力的に逼迫を告げてゐるから、彼等の內容が濟南事件當時に比し少く共二倍惡くなつてゐる事を考慮に入るれば時局好轉するが、藉口すべき理由見當り次第何等かの方法にて前回の如く漸次裏面取引が可能となり、排日の表看板も有名無實となるではなからうかと見られてゐる。前回の濟南事件の時も第一に此奧の手を利用し自衞策を講じたのはハイ街の薄商であつたのである。

7、自繩自縛の南洋華僑

南洋華僑の經濟情勢は一九三二年來急角度に凋落し南京政府もその對策を頭痛に病み、近く改訂交涉を進めんとしてゐる對米、對英通商條約中に僑民地位の向上問題を改訂條項中の一カ點として研究されてゐる。從來支那の輸入超過が在外華僑の送金に依つて少からずカバーされて來たのであつたが、最近その送金の激減と共に華僑の歸國者遙かに出國者を凌駕し、それ等華僑が疲弊せる國內產業と破綻の農村經濟の中に歸還して失業軍に投じ、特別な地方問題として社

會不安を激成し、華僑問題は今や支那國內問題として重大化するに至つた。華僑聯合會の調査では一九三三年の在外華僑總數一千廿七萬八千人、在外商社百十九、僑民學校五百八十三校を數へてゐるが、各地華僑數は（單位千人）

臺灣	三、〇〇〇	暹羅	二、〇〇〇
馬來半島	一、八〇〇	蘭印	一、二〇〇
香港	六〇〇	佛領印度支那	四二〇
ビルマ	三〇〇	西比利亞	二五〇
ボルネオ	一〇〇	澳門	八〇
米國	八〇	ペルー	五〇
濠洲	五〇	日本（朝鮮含み）	八〇
ホノルル	三〇	ブラジル	二八
パナマ	二〇	メキシコ	二〇
キユバ	二〇		

となつてゐる。然し出稼地の經濟不況のため華僑の歸國者數は南京僑務委員會年度報告によれば出國者十三萬二千人に對し廿七萬八千人に上つてゐる。華僑の產地たる廣東省潮海地方に就て見るに仙頭經由のものだけを比較すると一九三二年に於て、

出國者	三六、八〇〇人	暹羅	一三、〇〇〇人
歸國者	七八、〇〇〇		二四、〇〇〇

といふ狀況で、從來これ等華僑の送金は民信局の取扱ひ額だけでも優に一億元以上で、仙頭のみでも全盛期には四千五百萬元を下らなかつた。其他暹羅、安南、スマトラ、彼南から民國十八年には二千五百萬元の送金があつたのに對し廿年は一千七百八十萬弗に下り、僑務委員會の報告では昨年度本國への送金は九割方の激減で支那の對外貿易貸借決濟に

少からぬ支障を來して國內金融梗塞の一原因となつた。以上の如き華僑の衰落情況は居住地に於ける排斥運動と日貨排斥による華僑の失業が二大原因に數へられてゐる。卽ち新嘉坡では國內失業防止の見地から支那人の入國制限を行つて入國稅及び人頭稅を徵收し、暹羅では一九二七年移民入國條例を施行して入國稅七銖五十を徵收、一九三一年十銖に引上げ手數料を合して十五銖となり、其他卅銖の居住稅を支拂はねばならぬ上、最近は入國稅と居住稅を合して百銖まで增加される形勢だといはれてゐる。メキシコに至つては直接排斥運動法を採用して公々然と支那人排斥をやつてる有樣で、華僑聯合會總幹事黃建中等が率先して關係國との通商條約等でこれ等華民に對する差別待遇撤廢を實現しようと奔走してゐる。南洋市場に對する支那の輸出額は全輸出貿易の約五パーセントを占めるのみで、同市場を獨占してゐる八十パーセントの日貨を取扱つて來た華僑が日貨排斥の運動に卷込まれて商賣が出來なくなり、自繩自縛の悲況に陷つたといふのが南洋華僑今日の凋勢をたどつた原因である。南京政府實業部はこの南洋華僑衰落情勢に鑑み全國各開港に南洋貿易調査所を設置して國際貿易局直轄の下に南洋市場開拓に資せんとしてゐる外、近く同局長何炳賢の肝入りで各關係方面の會合を催し、南洋貿易振興策を協議せんとしてゐる。その方針として

（一）通商條約による僑民地位の確立
（二）南洋市場に對する特別調査機關の設置
（三）南洋華僑と國內工商界間の連絡關係の促進
（四）國內工商界に對し南洋向け商品製造販賣の助成等

が擧げられてゐる。一方歸國華僑に對して福建南部の思明、同安、海澄、樟浦、晉江、龍溪、安溪、興化、永春等十縣を畫し歸國華僑の自治區を建設しようとする運動が、黃建中等によつて目論まれ、目下各方面に對して猛運動が開始されてあるは興味ある問題である。

8、我南洋發展の內容的變化

椰子卽ち常夏の南洋を想像させたものであつたが、昭和七年度我委任統治諸島産椰子の實一億三千六百四十一萬六千個、價額約六千萬圓で全く輸入の必要を見ず立派に自給自足の域に到達した。臺灣領有以來我精糖事業の躍進は相當目覺ましいものがあつたが、それでも我國の瓜哇糖買付けは對支輸出の旺盛と相待つて年々在留邦商の勢力を加へ、大正十年前後は全く瓜哇の砂糖相場は日本人に依つて左右されてゐたのである。然も臺灣の砂糖生産額激增と支那輸出の停頓で、殆んど我砂糖商の瓜哇に於ける活躍は昔の面影をとゞめぬ樣になつて仕舞ふた。

南京米と稱して蘭貢、西貢から年々三百萬石からの外米を日本は嘗て輸入しつゝあつたのである。隨つて食糧問題と云ふ點から南洋貿易なるものは相當深く我國民の腦裡に刻み込まれてゐたのであつたが、朝鮮米の增産と臺灣に蓬萊米が出來る樣になつて米は今では寧ろ過剩の觀すらあるようになつたのである。護謨栽培は最も安全且つ有利な海外投資の對象として盛んに宣傳されてゐたのであつたが、今日の如き市價暴落では何時になつたら果して配當を貰へるか殆んど當のないものとなつて仕舞ふた。然も徒手空拳額に流るゝ汗を資本の行商から築き上げた成功の標的であつた護謨開墾の夢、跡方もなく消え失せたが今日日本への護謨輸出四五千噸、世界消費の七割を占めつゝある米國が月瀕く二萬五六千噸の輸入に過ぎなくなつた事實と對比し、我々の護謨に對する認識は相當訂正を要する事となつたのである。或は護謨ばかりでなく南洋發展そのものに對して、我々は根本的に考へ直さねばならない時機に到達したのかも知れないのである。嘗て我々は米と砂糖を中心として對南洋活躍を論議してゐたのであつた。

昔は三井の新嘉坡に來る石炭船が歸り荷としてボルネオ材を積取り、九洲の炭鑛に賣込んで盛んに同地方の抗木に南洋材が使用されてゐた時代もあつたのだ。其後瓜哇の砂糖、印度蘭貢の棉花と米を積取りに來る船舶を利用して、その

往航荷物として日本雜貨は大概當方面へ輸出されてゐた。然も今日では瓜哇からの砂糖は激減し、南京米の輸入が無くなつたに拘らず爲替安に煽られてとても積切れない程盛んに輸入されつゝあるのである。印度航路も亦往航も綿布、雜貨を滿載して途中の荷物を甚だ歡迎せぬ樣になつて仕舞ふた。今日では鐵と護謨と重油を積んで歸る船が恰度新嘉坡への輸入雜貨の容積を持つて居るのかも知れないのだ。如斯取引關係や船腹關係の違ふて來た處にも新嘉坡そのものゝ地位や貿易狀態の非常な變化が何時となくあつた事實を在留邦商は忘れてはならないのである。嘗て新嘉坡支店は全南洋印度までを總括した位置と實力を握つてゐた。然も今日では印度はもとより瓜哇支店にも其營業成績は恐らく追付かぬ樣になつて仕舞ふて居るだらう。之は最近の目覺ましい我南洋發展が總論から各論に進み、直接各地に根底深い土臺を築き上げた結果であつて、新嘉坡には氣の毒だが寧ろ國家的に見て非常に欣快に堪えない事實であらうと思ふのである。新嘉坡そのものは馬來半島とスマトラ、ボルネオの半面を控へて居るに過ぎないのであつて、對象たる人口總數六七百萬に過ぎず、日本からの輸入だけではとても此先き大した期待を此處に繼なく澤に行かないのである。然し新嘉坡の價値は寧ろバックの市場を對手の輸入よりも歐羅巴と極東、印度と亞米利加、濠洲、極東と阿弗利加と云つた仲繼貿易の要衝たるその世界的位置の上に据えられた輸出取引に土臺を築き上げねばならないのではないかと思ふのである。尤も輸出或は仲繼貿易に將來此處の在留邦人が主眼を置かねばならないとしても、それは大資本を擁する會社支店の話で一般個人商店はどうなるのであるかと問ふ人が必ずあるであらうと思ふのだ。卽ち記者の云はんとするのは其處であつて、我南洋貿易は今迄の樣に唯雜貨を店頭に列べて客の來るのを待つて居るのでは、折角猛烈なボイコットを耐え忍んで占め得た今日の地位も馳て再びまた華僑の手に奪還さるべきは必然のことである。地方特に蘭領に於て生活必需品を賣ると同時に土人の生産物を買ふてやることにせねば、本當に南洋に日本の商權を確立し得たとは云へないのである。卽ち日本の綿布、雜貨を賣込むばかりでなく土地の物産を買込みその輸出にまで手を擴げなければならないのだ。

土庫の邦人商社支店が進んで多方面の輸出貿易に躍進してさへ呉れゝば、一般地方在留同胞の活躍發展はどれ程勢ひを得て其成績が擧がるか知れないのである。土人の持つて來る物産を買ふてやりそして店の品物を賣付けることの如何に利益が多いかを知らない者は一人もない。折角物産を買込んでもそれを新嘉坡に出して支那人、印度人の手で輸出するのでは儲けは全部彼等に取られて仕舞ふのみならず却つて危險性が非常に多ひのである、どうしても輸出方面に進出するには世界的であると同時に、南洋各地の局部的取引に最も深く、喰込む必要が大いにあるのである。從來全然日本に行かず、日本人の扱はなんだ物でも悉く賣捌くことが出來る様にならねば本當に南洋貿易で儲けることは出來ないのだ。瓜哇と暹羅、佛領印度支那、印度と蘭印と云つた取引にどし〳〵邦人が進出して行つて始めて日本の南洋發展が確乎たる地盤を固め得るのである。

9、支那人問屋續々倒産

ハイストクートで最も盛大に日本品の卸問屋をやつてゐた謙和も遂に表戸を閉めて仕舞ふた、ボイコツト前までは綿布だけでも月卅萬弗から輸入してゐたのであつたが、事變勃發以來全然仕入れをすることが出來ず、各地へ卸した賣懸代金の回收がバツタリ止まつて愈々ボイコツトも緩和されたと再興の意氣に燃えつゝ一時店を開けて見たのであつたがもうどうする事も出來なんだ、同系のケンワリヨンと云ふ小さい店を三四軒先きに殘して、哀れ本店の表戸にはベタリと貸家札が張付けられたのであつた。北支停戰と同時に確かにボイコツトは事實上殆んど解消したのである。新聞にも日本の惡口や煽動的記事は一切のせない様になつたのだ。ツイ先頃大阪貿易館から英文日本產業紹介號を漢譯したのを陳列所に送つて來たので、態々主要華僑を選んで配達させたのであつたが手にとる處か振り向いて見ようともせなんだのに、今度は是非弊店にも一冊と先を爭ふて貰ひに來るやうになつたのである。何しろ日本品を扱はないことには商賣

の出來ない彼等が、久しい重壓から解放され忽然日本品を仕入れることが出來る様になつたのであるから、眞に釜中の魚が蘇生したかの喜悅を感じたのであつたが、今更の如く馬鹿々々しい排日貨運動の跡を振返り周邊を顧りみて見ると驚いた事には事態が殆んど一變して仕舞ふて居る。これ迄のボイコツト後はその廣汎にして堅固な商業網と強大な資金力を以て、比較的容易に舊勢力を挽回し得たのであつたが今度は債權の回收全く不可能となり、上海等に投下してゐた資金が跡方もなく兵火に燒盡されて仕舞ふた今日では、彼等に再び起つ餘力は殆んど何處にもないのである。神戸、横濱で廿數年も海產物の輸出をやつてゐた有力な支那商の番頭が、最近當方面の事狀を親しく視察して到底これでは舊勢力を挽回することは不可能である。直接日本內地の生產者、卸問屋と緊密な關係を結んで進出して日本商店が、ドシドシ地方市場に侵入して確つかり需要者、小賣業者と手を握つて仕舞ふた以上、とても華僑が今更割込んで競爭しても全然見込みはないと云ふのである。然もこの事實は決して海產物に限つたことでなく一般雜貨殊に商賣の大きい綿布類に於て一層その變化の顯著なるに驚かされざるを得ぬのである。貧乏のドン底に投込まれて居る農民、勞働者の生活は辛うじて實質的に低廉な日本品の供給されることに依つて支へられて直接日本人の手で供給される様になつては、華僑の生命は寸斷されたも同然でなければならないのだ。昔は支那人から日本の雜貨を卸して貰ふて同胞は重い吹矢の道具を荷なひつゝ、田舍を次ぎから次ぎと廻つてゐた。處が今度は地方の支那人が、悉く日本人商店から仕入れぬことには商賣をすることが出來ないやうになつて仕舞ふたのだ。物に依つては關稅等の關係で尙歐米品を扱ふ方が有利な物もあるにはある。然し大體に於て日本品が低廉で且つ品質も優良であること は出來ないのである。何しろ爲替が百八十何圓では到底他國品は値段で競爭することは出來ないのである。馬來半島は市場も小さく購買力が無いから問題にならないが、それでも吉隆坡や芙蓉では着々邦人商店がデパートを蹴飛ばして目覺しい發展振りを示して居る、東海岸でも漸次邦人商店が支那人に取つて代つて勢力を占めつゝある。瓜哇に於ける邦人發展の素晴しさ

は餘りにも顯著な事實であるのである。隨つて蘭印一帶今や日本品全盛で聊かオバーストツクの傾きすらありとさへ傳へられて居るのである。メダンでは和蘭商館が直接日本からあらゆる商品を輸入し、その强固な販賣網を利用して盛んに活躍してるのには一寸齒が立たないが、それでも邦人商店の面目一新し殊に南洋商行支店や池田商店等の發展振り人目を惹きつゝありと云はれ、パレンバンでも完全に邦人商店が支那人を押へて、ボイコツト猛威を振るふてゐた最中すらグウの音も出させなんだのだ。然し幾度も云ふ事だが邦人商店は雜貨を賣るだけで、土人の生産物を買はないから深く地方に入込み根をおろすことが出來ない。昭和八年の六月から三井物産がパレンバンに出張所を出したが、所謂チェンストアの一種との振出しで別に在留邦人店の地盤を侵すと云ふこともなくお互ひ繁昌してるのは結構である。何しろ支那商の買急ぎで新嘉坡の倉庫に山積されてゐた日本品のストツクもボイコツト解消以來グン〳〵引取られて仕舞ふた護謨、錫相場好轉の影響もボツ〳〵出て來るに相違ない、これ迄はボイコツトで儲けてゐた地方邦商が排日貨熱の解消を却つてこぼした樣な例もあつたが、今度は資金枯渴で支那人の勢力回復が甚だ困難となつて居るだけ、邦人にとつてそれは一層發展舞臺の擴張を意味するに外ならないのである。

南洋事業救濟に關する議會の應答

昭和七年八月の第三次臨時議會に代議士津崎尙武氏が提出せる南洋事業救濟に關する質問書と內田外相、永井拓相の答辯書左の如し。

津崎代議士質問主意書

一、南洋方面に於ける邦人の事業は其投資額及事業に從事する邦人の數より見るも我國の海外發展上極めて重要なること多言を要せず、然るに近時世界的不況の餘波を受け各種事業全く行詰りの狀態にありて之を其儘放任せんか邦人多年の苦心努力も水泡に歸する恐れあり、政府はこの窮狀を認むるや、如何して政府は之が救濟の方法を適當に

講ずるの意思ありや如何

一、比律賓群島の馬尼剌麻、馬來半島其他の護謨、椰子等栽培事業を始め之が救濟の方法に關して相當政府の考慮を要すべく現に之等の事業にして今や租稅支拂の能力を失し、而も之を支拂はさらんか其土地を沒收せらるゝ恐れあるもの少なからず、政府は之等の事業に對し低利資金の融通其他適當の方法を樹て速かに救濟の途を講ずることは國家の爲め緊要なりと思惟す政府の所見如何

一、新嘉坡を中心に英領馬來及蘭領爪哇等邦人三萬の居住數を有し投資總額一億圓（內護謨栽培事業七千萬圓）、貿易總額一億五千萬圓と謂ふ、我國際貸借改善上最も寄與する所多き地方に於て數年來の護謨價慘落にかてゝ加へ、滿洲事變、上海事變等の影響より同地方住民の最大多數を占むる華僑の激烈なる排日運動を受け極端なるボイコツトの打擊に依り、同地方一帶の邦商及在留民中重なる人士にして店を閉ぢ、旗を捲ひて歸國の餘儀なきに至れる者相紹ぎ後に殘りたる者は歸國の費用なき切羽詰りたるものすら尠なからずと云ふ、大戰以來十有餘年に亙りて築き得たる帝國の商權は今の所右事情に依り全く破滅に瀕しつゝあり、同地方に對する華僑ボイコツトの深刻なる影響は上海香港地方以上にして加ふるに圓價崩落等の事情より邦商の受けつゝある打擊は一層激甚なり、政府は右に對し卽刻救濟の道を講ずる必要ありと思ふ、政府の所見如何

右質問に對する外相、拓相の答辯書

一、二、南洋方面に於ける麻、護謨、椰子等の栽培事業を始め邦人の各種事業の消長は我國の海外發展上極めて重要なる地位を占むるものなる處、近時世界的不況の影響を受け各種事業特に栽培事業が悲況に陷りつゝあるは事實なり、而して此窮狀を打開するが爲めには夫々各種事業の實狀に應じ諸種の適當なる方法を講ぜしむるの必要ありと認むるを以て目下銳意考究中に屬す

三、南洋方面に於ける華僑排日貨運動の邦商に及ぼす影響は相當甚大なるものあり、と認められ政府に於ては事態の推移に注意を怠らず、該運動の防止に付出先帝國官憲をして臨機適當の措置を講ぜしめつゝあり、邦商の窮狀に付ては充分同情を以て考慮を拂ひつゝある次第なるが、南洋方面は支那に於けると自ら事情を異にするものあるを以て之が對策に關しては目下愼重考究中なり

右及答辯候

10、特惠關稅實施と馬來生活の脅威

英國政府は一九三二年十月十三日夕オツタワ會議協定書を發表した。注目すべきは英本國と屬領間の特惠關稅協定であつて新特惠稅率の適用に依り始めて英國の輸出を蘇らしめんとするのである。倫敦電報の說明に依ると右特惠關稅は海峽植民地及び香港に於ける自動車(自動自轉車を含む)に限定され、罐詰パイナツプルの輸入稅引下は馬來を利するものと豫想され、更に馬來政廳は印度と相互特惠關稅を設定すべく勸說するべく、西印度諸島の果實及び西部阿弗利加の植物油を含む多種熱帶產物が自治領各地より優先關稅を賦課され、印度協定は英聯合王國より輸出さるゝ物の四割の輸入稅引下を協定し、年價格八百萬弗の商品が無稅輸入さるゝ筈で外國よりの肉輸入は漸次制限される事になつて居る。

南阿は外國品に最低特殊輸入稅を賦課するのが英國品は無稅とし、印度は百六十三種類の商品以外に綿布、人絹及反物に一割の特惠關稅を賦課するのであつて、濠洲は一割五分乃至二割の範圍で英國品に優先關稅を附與し、新西蘭は英國品全部の輸入稅を引下げニユフアウンドランドは或種商品に一割の優先關稅を附與すべく、錫倫は或種印度物產に付優先關稅主義の採用を勸說されて居る。

卽ち最近の貿易統計に依り英國は新オツタワ會議の協定に依つて、自治領各地に輸入されつゝある外國品中、優先關稅により五千磅以上の利益を受けんとするもので、自由貿易論者を除き新協定スケヂユルは一般に豫想されてゐた以上に多大な讓步を示し、更に廣範圍の輸入品を網羅しタイムス紙は英聯合帝國及び自治領栽培業者を滅亡より救ひ、アルゼンチン其他諸國の栽培業者を救ふ唯一の方法であると論じてゐた。

馬來政廳が急に輸入稅を增徵して殆んど或種日本品の輸入を不可能ならしめんとしつゝあるが如き事實も、要するに本國政府の此一般的方針に追從せんが爲めに外ならぬであらう。マンチエスターが一碼十三仙以下では到底生產出來ない

い綿布を日本はドシ〳〵七仙で生產しつゝあり、加ふるに爲替の差額が如斯き有樣ではとても幾ら奮張つても叶ふ道理がないのである。八月中日本の二大商社が馬來に輸入した反物百十九萬四千碼、其外更に百七十萬碼からの日本反物が輸入されたのであつて、全然英國品の輸入は問題にならないのである。然もこの特惠關稅の設定に依つて一般馬來の生活がミルク罐詰等に至るまで少額と雖も負擔を增すに過ぎないのであると云ふことが果して一般領民にどんな感想を抱かさしめるに至るかゞ決して輕々には觀過出來ない問題であらうと思ふのである。

11、ドン底の馬來貿易

一九三三年度馬來の輸出總額四億〇二百六十三萬九千弗、輸入三億六千二百〇八萬九千弗、內日馬貿易額輸出三千五百三萬二千弗、輸入二千六百五十九萬弗に過ぎず、日本品殺到、關稅引上、輸入制限と大變な騷ぎに拘らず輸出入共總額から見れば一割にも達せぬ貧弱なもので、然も九百五十四萬二千弗日本圓にして千八百萬圓から出超なんだから、汗みどろになつてる在留邦人の姿がとても氣の毒みたいに思はれて仕樣がないのである。尤も日馬貿易の現狀が數量金額に於て甚だ貧弱、然も少なからざる出超であることは其內容一應餘儀ないことだとうなづける點もあるであらうが、更に邦品輸入に販路擴張に一段の奮勵を全在留邦商に促さなければならないだらうと信ずるのである。輸出の大宗は護謨と鐵鑛と錫で最近內地の護謨工業も非常な勢ひで躍進を續けて居るが、とてもまだ〳〵米國とは比較にならない。然も日本の自動車タイヤが愈々品質の値段の低廉を認められ、支那、南洋、印度、近東、阿弗利加へドシ〳〵輸出される樣になつたらどうなるか知れない。キヤンバス靴や自轉車のタイヤでは知れたものである。鳳梨罐詰輸出卅二年六六、二九二本、七、九一五千弗で馬來としては相當有力な輸出品だが全然日本には見込みがない、何しろ臺灣の罐詰にしてるパイナツプルはサラワクの最優秀種を移植したもので、味が世界一なんだから此邊の物では太刀打ちが出來ない。其外

ロタンやガンビヤ、タピオカ、ダマル等々隨分いろんな物が日本へ行くには行くが高は知れたものである。

扨輸入となると怎しても一番は食糧品、殊に米が其大部分占め次で乾鹽魚卅二年六、三七六千弗、卅一年七、六四萬弗卅年一一、七五四千弗、茶卅二年八九五千弗、卅一年一、九二五千弗、卅年三、二八五千弗、珈琲卅二年二、〇九五千弗、卅一年一、六〇六千弗、卅年二、六一三千弗、生果卅二年二、三五五千弗と來るんだからたまらない。然もこれ等食糧品ですら流石に不況の影響は物凄く一九三〇年と卅二年を比較すると乾鹽魚五、三七八千弗、茶二、三九萬弗、珈琲五一八千弗の激減で加工食糧品も亦卅二年一、二四二千弗と減つて來て居る。

昨年の全馬輸出總額前年に比し三千五百萬弗の增加で輸入は却つて二千二百萬弗も減じて居るのである。然もその最も巨額を占むる食糧品を殆んど外にして、日本が獨り綿布と雜貨だけで昨年は一昨年よりも實に九百五十五萬七千弗も輸入額を激增したのであるから、非常に目立つたのも餘儀ない事であり、一般購買力の減つてる上に日本品の增加に押されて愈々立場を失ひつゝある英本國生產者が騷ぐのも無理からぬ次第ではあるのである。

食料は蘭貢、暹邏、佛領印度支那、濠洲それに蘭印から大分が輸入されるのであつて、本國から來るのは加工品ばかりである。隨つて英本國品としては機械、金物、綿布類が何んと云つても最も主要なもので、ウヰスキーとブランデーはまだ相當來るが麥酒は新嘉坡に工場が二軒も出來、煙草も稅金關係で此處の英米會社の工場で最も賣行きの好い安物がドシ〳〵作られてゐるのである。然も其最も大事な綿布が到底日本品とは競爭が出來ず、釘さへ一樽二弗の開きぢやどうにも仕樣がないのである。だが商人としては何れにしても良く賣れ儲かる物を扱へばそれで良いが、本國の生產者はそんな呑氣な事を云つては居られない。產業の壞滅、失業群氾濫と重大な社會問題を伴ふて局面は愈々紛糾して來るオツタワ會議だけ特惠關稅だと一生懸命政治工作をやつて見るが、結局の處低廉にして優秀な日本品を買はず、高い國

產品を無理に押付け樣とするのは甚だ困難な事である。

關稅引上げ餘儀ないとすれば同時に我々のサラリーも上げてる。然も此不況であらゆる物が生產制限、事業縮少をやつてる場合給料値上等は到底出來ない相談であるが、極端な高關稅で無理に物價を釣上げ樣とすれば結局國民の多數は生て行けない事になる。隨つて如何に腦味噌を絞つて見ても結局安くて良い品物が賣れると云ふことになるのである。此處に於てか問題は市場の廣狹と購買力如何に歸して來る。馬來の總人口四百五十萬、東京市よりも少いのであつて購買力に至つては恐らく半分もないだらう。況んや肝心の食糧目は駄目、常夏の生活が一枚のサロンで年中暮らせると來ては、如何に爲替安の波に乘つて頑張つて見ても此上その發展の見込みはないのである。其處でどうしても一般土產物の賣買に進出し出先き貿易に手を擴げて行かねば延びることが出來ないのだ、何か儲かる物はなからうかと誰もが血眼になつて居るが、かう競爭が激しくては雜貨輸入も行詰りである。特に土庫の商社に出先き商賣を今少し眞劍に研究して貰ひ度ひものだと思ふのである。

12、貿易調査委員會と自由港論の再檢討

九月廿六日（一九三三年）午後二時十五分より立法院會議室に於て海峽殖民地貿易調査委員會開催、政廳側ギブソン委員長、ミラー幼事長約六名、邦商側宇尾商工會議所會頭、下田楢之助氏、小保方三井綿布部主任、郵船古田島、商船太田氏等五氏出席五時過ぎ迄三時間に亘り

華僑ボイコット及び馬來聯邦州並に佛柔州の關稅引上の影響

日本綿布貿易情況

蘭領東印度が輸入港指定實施の場合新嘉坡の蒙る影響

等に就き意見聽取、一般貿易狀況に關し邦人側より將來の希望に對しても述ぶる處あり、尙船會社同盟といふ樣なものゝ必要なきか

當地ハーバーボートのチヤヂが高いと謂はれるがの二問題に對しても研究する處あり。聯邦州の關稅引上で最も影響を受くるは現在斷然他國製品を壓倒して居る日本で勿論綿布がその尤もなるものであると下田氏より詳細に說明、新嘉坡は中間貿易港であるから蘭印政府が輸入港を指定するに至れば相當打擊を蒙るべく、繁榮をバタビヤ等に奪はれはせぬか、ドツク其他のチヤヂが割高なる爲め多數の船舶は自然當地のドツク入りを避け他港に行く傾向ありと腹藏なき意見を吐露したとのことで、右トレード・コムミツションは海峽殖民地貿易策決定に就き決議權なきも、此會議により今後政府が如何なる方針に出るか注目されつゝあり、委員會は今年中或は明春まで繼續調査に從事し、今後邦商側との交涉は統計局を經てなされる由であるが、海峽殖民地の輿論が果してどの程度に本國政府を動かし得るかは別問題として、端的新嘉坡はオツタワ協定の確立に依て今や重大なる岐路に立たされて居るのであり、その重關稅政策は日本の對南洋貿易に最も痛烈なる打擊を與へんとしつゝある以上に、新嘉坡港將來の死命を制せんとして居るのである。自由港政策の放棄は新嘉坡建設者ラフルス卿の意志を蹂躙するものであるとの議論は百年後形勢の非常に變化せる今日、果して尙動かす事の出來ない威力を持つて居るかどうか聊か疑問であるが、地勢上新嘉坡は何處までも中繼貿易港であり歐洲、印度と極東、濠洲をつなぐ要としての價値だけしかない地形上、若しも此處に重關稅の障壁が築かれれば繁榮は蘭印に奪ひ去られるのが必然の勢ひであらねばならないのだ。然も英國は新嘉坡を領有しそこに歐洲極東貿易權の死命を制して居るから印度と濠洲を聯結し、中南部支那に對するその優裁權を確保して居ることが出來るのではないか、然るに一朝新嘉坡の繁榮が爪哇の或る地點に奪取され、加ふるにスマトラのサバン邊に堅固な要塞が構築されスンダ海峽とマラツカ海峽の死命が制せられて仕舞ふとしたら、果

して英國の極東に於ける兵勢は今日の如く晏如たるを得るか否か、新嘉坡が自由港である爲めに護謨、錫、重油を始め南洋各地の生產物が此處に集り米國、歐洲及び日本等へ輸出されつゝあるのである。然も新嘉坡が自由貿易港の看板を撤去した場合、蘭領、暹羅、佛領印度支那等の物資を集め同時にその方面との中繼貿易を尙依然として繼承し得るであらうか。南洋主要產物の最大顧客は米國である。新嘉坡から日本への輸出品として最も重要なものは重油と護謨とである。然もその要する護謨、錫、重油を米國及び日本は必ずしも新嘉坡からでなくとも蘭領から直接買ふことが出來るのである。新嘉坡が自由港であり四方から物資が集るからその繁榮を續けて行くことが出來るのであり、歐亞の關門を扼してその鍵要を誇つて居られるのである。嘗て全南洋否蘭貢方面まで日本雜貨は新嘉坡を經て賣込まれてゐたのである然も今日に於ては直接蘭印への日本の輸入額に遙かに新嘉坡を追越し、印度、暹羅貿易も亦新嘉坡には關係なく異常な發展振を示して居るのである。隨つて大消費地を背後に持つてゐない新嘉坡はさらでだに昔日の榮華を再度呼戻すことの難き事實に焦燥を感じつゝある場合である。況んや此際新嘉坡が自ら進んで自由貿易の權能を放棄せんか、今日の繁榮は悉く他に奪ひ去られ濠洲は忽ち孤立せざるを得ず、印度亦極樂勢力の侵入に對して全然無防禦となり、支那に於ける英國の優越權は殆んど根底から一掃されて仕舞ふ破目に陷らないとも限らないのである。新嘉坡が關稅障壁を高ふし要塞を堅固にして自らの甲羅に立て籠らんとすることは卽ち英國極樂政策の退嬰であり、印度、濠洲をバラ〳〵に切り離す結果をしか招來しないのだ。もと〳〵新嘉坡に大海軍根據地を建設して何時までも蘭印を無防禦の現狀に甘んぜしめんとするのは無理な注文である。新嘉坡が愈々貿易上の優越的特權を棄てゝ兵略上のみの要地たらんとすれば、必ず蘭印もそれに對抗するだけの防備をせないでは居れない樣になるだらう。若しも和蘭が敢てそれをなさず英國にその廣大な領土の安全を擧げて委託せんとすれば極樂、南洋の平和を確保せんが爲めに恐らく第三者が進んで蘭印防禦の一部を勢力均衡を維持するために引受けんとするに至るかも知れないのである。だから眞に英國が極東に於ける其優越權

を確保せんとならば、新嘉坡海軍根據地の建設に力を注ぐと共に、何處までも貿易上の特權を維持することに全力を傾倒せねばならないのだ。馬來の關稅、鐵道、郵便を統一して海峽殖民地總督の權力下に集中せんとするのは、或る程度まで英領南洋の統治力を强化することになるに相違ないが、新嘉坡に關稅障壁を築いてその貿易上の特權を棄てんとするのは愚も亦餘りに甚だしい、ブロック經濟にも除外例は相應もうけなければならないのだ。角をためて牛を殺す如きことを英國の識者がなさゞらん事を我々はトレード・コムミツションの名に於て最も力强く英本國に訴へんことを祈つてやまないものであるのである。

南洋情緒

山のいたゞきはや明けそめて紅のにじんだ雲の帶
霜に白々夜も明けそめて雲間おぼろに滲じむ富士
細る思ひを包んで今朝は雲にかくれた山の肌
雲にかくれて朝恥かしいはげた昨夜の寢白粉
冴ゆる口紅玉虫色に映ゆる雲間の今朝の富士
いやな景氣は早や戌の年禍が亥年を祝ふ屠蘇
亥年氣强く迎へて今朝は力一杯ならす神鈴
春をきをふて出船を祝ふ高い調子の琉球節
やける眞晝の陽に照らされて手ぐるムロ網腕が鳴る
沖にやモーター日の丸立てゝ風げる漁場へ急ぐ唄

ジョヂの太皷で賑はふ磯へなげる海原歸る漁舟
鰺の飛ぶさへ手にとる樣に見へて靜かなジロロ海
晴れて椰子吹く風さへ凉し釣れぬでも好い舟遊び
晴れた夕立もつれた心水にさらりと洗ひ髮
出船氣になるテープが切れてほんに暫しの別れでも
戀がさまよう椰子の葉蔭を月も鹿の子にぢらしてる
月のラヽンの穗が白々と島の娘の蓄音器
門の夕顏誰待つのやら花もほんのり宵化粧
乳を慕ふて泣く猫の聲誰が垣根に捨てたやら
暗夜こつそり來て鳴く千鳥誰に思ひがあるのやら

蚊帳にひやりと秋立つ思ひ夢に未練の殘る雨
宮守啼く音にふと目がさえて寢覺め戀しい國の夢
何處へ流れて行くこの身やら水にまかせて散る木の葉
戀と云ふのか見返る襟にほろり恥かし笹の露
戀を聽くには寄せては返す海に突出た千鳥の間
逢ふた嬉しい夢さへ醒めて頰に未練な亂れ髮
海に突き出た座敷の手摺り沖を日本へ歸る舩
波の音すら淋しい夜更け千鳥泣かせる枕紙
戀の惱みに疼せたは昔思ひ出すのもほろ苦い
曇る夜空に汀の椰子のむせび泣くよな淡い影
心々に解けない思ひ紅葉した枝せぬ梢

輸入割當制實施と護謨生産制限

1、通商調査委員會第一回貿易報告

七月卅日（昭和九年）立法會議に於て總督任命の通商調査委員會報告第一卷の概要が發表された。此報告は馬來の關稅統一可能性延いては新嘉坡の自由貿易拋棄可能に大關係あるものとして一般より多大な關心を持たれてゐた。殊に日本品の市場割込み競爭が盛んとなり、英國商品が日本品に驅逐されつゝある形勢を重大視し、此儘では日本人に依つて馬來市場が壟斷される處れがあると云つて居る「日本の對當領貿易は一九〇七年より一九一一年までは平均二歩七厘を占めてゐたに過ぎないが一九三〇年三歩五厘に增加、三三年には七歩五厘となつた。卽ち一九三〇年の日本品輸入額は二千四百萬弗に過ぎなかつたのが三三年は二千六百六十萬弗に增して居るのである。然もこれ等の日本商品は殆んど全部製造品で、此種商品輸入額から見れば一九三〇年日本は六歩二厘を占め三三年には一割三歩六厘に增加して居るのである。斯く日本商品の目醒ましい進出は主として工業能率の優れたるに由るもので、政府の補助とか助成手段等は第二義である。又支那の排日ボイコツトから日本商品が支那人小賣商の手を通さず盛んに當市場に割込み、其後ボイコツト

燼んでも支那商は以前通り日本品を取扱ひ得ない狀態にある。我々委員は當殖民地の自由貿易主義と對照して外國商品輸入の制限方法を考査せるも、歐洲の生活標準を直ぐ亞細亞人に課する事は德義心が許さない」云々の見解を附して居る（單位百萬弗）

年次	總輸入	日本から	比率
一九三〇年	七〇六二	二四九	六・二
三一	四五三四	一七九	六・四
三二	三七六八	一七〇	七・四
三三	三五〇三	二六六	一三・六

右は小包及び金銀塊輸入を除くもので、特に日本品として輸入增加率の激增せるものは酸素、一九三〇年總輸入の四・一パーセントが三三年五五パーセントに躍進、染色織物同四・一パーセントが三〇・九パーセント激增を見たのであつて割當制の必須を認めざる可からずとし、同時に海峽殖民地の貿易衰退を非常に杞憂して居るのである。

2、全馬來綿布輸入割當實施に對する總督代理の聲明

海峽殖民地總督、馬來聯邦州統監代理カルデコツト民政長官五月七日英國下院でランシマン商相が綿布、人絹及其混織物の英國貿易を保護する爲め外國からの輸入に對しクオターに依る制限を各殖民地に實施せしむるに決定したと發表したに應じ、八日午後左の如きコンミニユケを發表した。

英國政府は各殖民地及保護國政府に對し（實行可能性あり且つ條約義務に差支なき範圍）綿布、人絹布及混織物に於ける日本の競爭に依る英國貿易業の困難を救ふ爲め右の物品に對し輸入割當を制定するやう勸誘するに決定した旨殖民大臣より電文を接受した。

五月七日商相が下院に於て發表せる內容左の如し。

殖民地市場に對しては殖民大臣が各殖民地政府と交涉協議中である。商權保護を必要とする各殖民地及保護國は西阿弗利加を除き一切の外國製綿布、人絹製品輸入を制限するやう要求される筈である。英國は此非常時以前に保持せる是等の市場に於ける立場を挽回せん爲め出來得る限り一九二七年より一九三一年に亘る外國製品の輸入平均を以て今回行はんとするクオターの基準としたい考へである。又右の爲め殖民地が必要とする法律を可及的速かに制定するやう要求し且つ割當制の實施日は割當に對する見越しをなし此保護手段を挫折せしめんとの企てを防止する爲め五月七日に溯るやう法律を以て公布するやう要求される事となつて居る。此クオターを課するは綿布の英國貿易業を保護する爲めであつて英國商が直接的競爭に遭つて居る人絹及其混織等にも適要する事が提議されて居る。此クオター制は全外國に對して設けるを原則とせるもので、一九二七年より一九三一年に亘る平均輸入量を基準としたいと考へて居る。此期間の輸入量が二步五厘に足らない國には今後も輸入數量の二步五厘の輸入を許しても宜い考へである。此豫定は假計畫である差當り一九三四年末までやつて行く事とする考へである。

馬來に此輸入割當制を採用せしむる事は海峽殖民地諸港の中繼貿易を保護するといふ重要件を控へてゐるが爲め、特に困難の伴ふ事は殖相も承知して居るが海峽殖民地も聯邦州及非聯邦州も共に英國に取り斯る重大事に對し協力全力を傾倒して英國の爲め努力せんことを希望せるに相違なからうと信じて居る。日本の競爭問題は殖民地貿易委員會に於ても成行を重大視して居る所であるから、馬來がクオター制を實施し得る滿足な方法を考案し得るものと考へ其實現を希望してゐる。

3、輸入基準數字と邦品の打擊

一九二七年より三一年迄の五箇年間日本より英領馬來輸入綿及び人絹平均數量金額及比率左の如し。

	數量(單位碼)	金額弗	百分率
生綿布	四、五五四、七九八	七〇三、四六八	一一・一〇%
染色綿布	二〇、一四〇、三七三	二、八五七、九三四	三三・七八
捺染綿布	一五、一三六、三二四	二、〇四七、六七四	五三・〇七
絲染綿布	八三、二〇〇	二〇、三二〇	一〇・七三
計	三九、九一四、六九五	五、六二九、三九六	三〇・〇〇
人絹布	七、〇六三、八九〇	二、〇四九、三八六	七三・八一

海峽殖民地及び馬來半島が愈々英本國の要求に隨ひ一九二七年一九三一年の平均輸入量を基準として割當制限を實施する場合、爲替安で輸出激增の日本の一九三一年及び三三年當領輸入平均と比較し、本邦對馬來綿布、人絹、綿人絹サロン貿易に實に三五・九八パーセントの打擊を受けると商品陳列所は發表した。

品種	政府案五箇年平均	最近二年平均	本邦品打擊率
綿布全體	三〇・〇〇%	六二・六一%	三二・六一%
人絹布	七三・八一	九二・四九	一八・六八
綿サロン	〇・八九	四五・〇〇	四四・一一
人絹サロン	一三・九四	六二・四四	四八・五〇
平均	二九・六六	六五・六四	三五・九八

4、日本綿布輸入激增の回顧

安物綿布關稅一ヤール五仙は實に物によつては八割乃至十一、二割にもつく極端な高率であつて英國品の一割とは到底比較にならないハンデキヤツプである。然も我が綿製品はこの鐵壁の如き重關稅を乘越へて尙且つ洪水の如く滔々として輸入され盛んに賣れつゝあつたのである。一九二七年—三一年の五年間輸入總量一九九、五七三、四七五ヤール、年平均三九、九一四、六九五ヤール馬來綿布總輸入量の三割を占めてゐたものが

一九三二年		
生地綿布	二二、四五一、四六三碼	一、九八四、九三七弗
染色綿布	二五、六九〇、七五一	二、一四三、〇三五
捺染綿布	一三、五八七、六六九	二、九五三、六八〇
糸染綿布	三八、六九〇	五、二一四
一九三三年		
生地綿布	二六、五一一、八〇九	二、四〇九、六八三
染色綿布	二六、二〇〇、五〇二	二、六八五、一四九
捺染綿布	四六、四七〇、一九二	三、八二二、七六四
糸染綿布	二八三、三三〇	三四、九六三

實に三三年の合計九九、四六五、八三三ヤール、馬來總輸入量一四五、九〇〇、六〇一碼に對し六八・二パーセントとなつたのであるから恐らく此儘では置かぬだらう、更に關稅を引上げるか或は何か思ひ切つた手段に出はせぬかと密かに杞憂されてゐたのである。處が七日英國下院に於て日本よりの綿布、人絹輸入に對し全英領の割當制限がランシマン商相に依つて果然發表されるに至つたのだ。然も不況深刻のドン底にあつた一九二七年から三一年までの五年間を基準としてと云ふのであるからたまつたものでない。日印通商條約は既に假調印を終り、濠洲のレーサム外相が東京を訪問し大いに親善振りを發揮して居る折柄、殊に加奈陀は小麥、濠洲は羊毛の大顧客である日本に對してオイソレと果して商相の要求に應ずるであらうか、其他の自治領、殖民地とても夫々內部的に相應込入つた事情もあるだらうから、全領土の輸入制限割當と云ふ如き思ひ切つた政策はそんなに簡單には行かないであらうが、兎に角商相が既に議會で言明

した以上原則として必ず全領土にその徹底を期するであらうことは英本國の面目にかけても仕様のない事であらうと思はざるを得ぬのである。

新嘉坡は自由港だ、ラフルス卿の誓言を反古にして今更關稅障壁を設け、輸入割當などゝ濃厚を保護貿易主義を強化せんとすれば、恐らく今日までの繁榮を招來した仲繼貿易の利益は悉く他に奪はれて仕舞ふに相違ない。繁榮去つてセレタ海軍根據地建設の意義何處にありやと云ふやうな事を云ふ人もあるが、事實に於てとくの昔に新嘉坡はフリーポートではなくなつて居るのである。英國そのものが百年の榮華を誇つた自由貿易主義を捨てた以上、どうして其領土だけがそんな古い傳統の鎖に縛られて居られやうかである。極端な關稅引上げは領民の生活を苦しめるだけである。この不況深刻に高級な英國製品を賣付けやうと幾らあせつても、それは結局骨折り損のくたぶれ儲けにしか過ぎないのだ。餘りに無茶な事をやれば羊の如く柔順な土民と雖も、遂に餘儀なく反抗心を燃やすに至るであらうと云ふ如きは全く餘計なオセツカイである。英國の産業はどうしても保護主義でなければ立行かない、全領土が協力一致して大いに本國の窮狀に同情するにあらずんば國家が持てないのだとすれば外から何んと云はふが仕樣がないのである。然も日本も海外輸出貿易の發展に依らねば國家が持てない、年豫算の半ば以上を占める國防費は決して國民が伊達に負擔して居るのでないと詰る處は背後の武力が最後の審判を與へるのであるが、その最後の破裂を一歩手前で何とか然る可く纏めて馬鹿な喧嘩騒ぎにならぬ樣にするのが外交工作なんである。だから國家の重大問題と云つた處で結局緣日商人の懸引と何等選ぶ處がないのであり、武士は食はねど高楊子などゝ高くとまつて居つては到底今日の複雜な國際關係を處理して行くことは出來ないのだ。泣落しでも脅かしでも手段を選ばずぶつかつて行かねばこの世智辛い時代に生きて行くことは出來なからう。英本國の命令を此處にゐて幾らも在留民が騒いだ處が仕樣がない、徒らに神經のたかぶつた病犬を一層ガミガミ吠えさすに過ぎないだらうから、お互ひは特に此際シンチュのパイプでスパリ〳〵と煙草でも吹かしてゐた方がましだらう。日本にだつて外務大臣も大使も居るんである。またしても見越輸入で此上滯荷を山と積まれ更に投賣などされては耐まらない、心配する程のこともないだらう。餘計な苦勞はせぬ事にして商賣大事一碼でも多く賣るべく一層努力奮闘を祈つてやまないものである。

5、馬來織物輸入制限施行細則

六月廿日附官報を以て馬來織物輸入制限法施行細則が發表された、要點左の如し。

一、割當期間　自昭和九年五月七日至同年十二月卅一日

二、該期間日本品馬來輸入許可數量（綿布　巾はシングルとす）

1人	絹　布	四、三六一、二四六碼	
2生	地綿布	二、三六七、八八八	
3染	色綿布	九、七七八、八二三	
6綿	サロン	四九、三九六（二碼一枚）	
4捺	染綿布	五、七一三、四五七碼	
5糸	染綿布	三九、八三一	
計		一七、八九九、九九九碼	
7人	絹サロン	四八、二四二（同）	

三、條件　五月七日以前日本積出直送品は除外す

四、日本以外の國の割當量

	支那	和蘭	蘭領印度
1人	絹　布	六五五、八二六碼	五、二九六碼	八、一七二碼
2生	地綿布	五〇一、〇五九	一、六〇一、〇九〇	三五、二二一
3染	色綿布	六、六一八、一二三	二六七、三二九	六七、九五七
4捺	染綿布	一五四、〇七四	二〇、八七九	七七、七四三
5糸	染綿布	九五七	一一二	四八
6綿	サロン	一九〇	二〇七、六五四	一、九六二、一四六
7人	絹サロン	一、四〇八	七五八	一、〇二六
	伊太利			
1人	絹　布	四三八、四六五碼		
2生	地綿布	九〇、四四二		
3染	色綿布	一、五五一、七二三		
4捺	染綿布	二三四、八二八		
5糸	染綿布	二、一五六		
6綿	サロン	六、四九〇		
7人	絹サロン	七五〇		

其他の國は自一九二七年至一九三一年、平均馬來總輸入數量の三分の二該當數量の二・五パーセント

五、再輸入保管倉庫は

The Goverment Monopolis Premises, Moxwell Road

The Federated Malay States Railway Godown No. 16. Prince Edward Road

六、輸入許可ライセンス下附申請は本年六月卅日正午迄に請願すべし

七、旅客の携帯輸入商品は適當數量と輸出入登錄官が認めれば許可す

小包に依る輸入は同じく適當數量なれば許可す、但し郵便局より受領前登錄官に申告するを要す

八、政府經營再輸出品倉庫料一立方呎

一週間未滿　二五仙、二週間未滿　五〇仙、一ケ月未滿　一弗、七日以上二週間以內は五〇仙、十四日以上は一弗

六箇月以上は二倍、更に六箇月以上後は右の四倍とす開閉時間は午前八時より至午後四時、それ以外は特別許可と

超過料の支拂を要す

倉庫內の荷造、開函、再荷造等を許可し料金は一ケ月一箱幾何と決定す

入庫品に關し政府を相手取り起訴する事を得ず

九、當業者に限り自己の倉庫を再輸出品倉庫として使用方申請する事を得、許可あれば一ケ月百弗未滿の所定料金を

支拂使用爲し得、此種倉庫は錠を掛るものたる事を要し他商品と共入を禁ず、又許可あれば當事者は此種倉庫の新

設をさまたげず、特別許可ある場合を除き夕方六時より朝六時迄開閉を禁ず

個人倉庫被許可者は所定用紙に出入庫品の明細を書込むを要し、毎月五日迄に前月中の出入貨物明細表を提出すべ

し、政府は時々此種倉庫品を檢査する事あるべし

英國原料又は勞銀を製品價格の二割五分以上有する場合は外國製品と認めず

註、第二項の日本品割當量中六、及び七のサロン中にはレスンダン及びカインを含む

一九三五年度綿布輸入割當量

品種別	日本	支那	伊太利	和蘭	蘭印
未晒及晒綿布	四、〇二三、七六四碼	八〇〇、〇五二碼	一五六、〇二六碼	二、四五六、二五〇碼	五六、八四四碼

染色綿布	一四、九九〇、一八四	一〇、一四五、〇七五	二、三七八、六七二	四〇九、七九五	一〇四、一七二
捺染綿布	八、七五八、二九一	二三六、一八四	三五九、九七二	三二、〇〇六	二九、一七五
糸染綿布	六一、〇五七	一、四六八	三、三〇五	一七二	七四
綿サロン・スレンダン及カイン	七五、七二〇	二九二	九、九五〇	三一八、三一七	三、〇〇七、八一八
人絹布	六、六八五、四五五	一、〇〇五、三三二	六七一、一三三	八、一一八	三、五二八
人絹サロン、スレンダン及カイン	七三、九五二	二、一五八	一、一四九	一、一六一	一、五七四
合計	三四、六六八、四二三	一二、一九〇、五五九	三、二三五、八一九	三、三〇一、一八五	

前五箇國以外の諸國の割當許可量は二、九一九、四五五碼とす

6、綿織物輸入制限の打撃とその補塡策

新嘉坡輸入邦品の大宗たる綿布、人絹織物輸入制限實施に依る打撃に就て在留邦商は何れも最も正確に知り度いと思ふて居るであらうが、直接輸入數量の割當に依る減少以外船舶運賃、爲替手數料、ローリー賃に至るまで共影響の及ぶ處頗る廣範であるから、まだ〳〵適確な數字を擧げて全般的に說明をなすまでに至つてゐないのである。然し輸入割當實施の五月七日以後の貿易趨勢を如實に現はして居る筈である六、七月の政廳統計を見ると大體の處が略ぼ推定されるだらうと思ふのだ。卽ち輸入制限の結果急激に減退を示した日本織物の輸入數量は前月に比し、綿布約五百廿萬碼五十萬弗減退（色染綿布のみは六十六萬碼五萬五千弗增加）。人絹布約四十七萬碼五萬三千弗、綿サロン廿三萬枚九萬一千弗を減じ、之を六月に比較すれば綿布三割二歩、人絹二割八歩、綿サロン六割の激減となつて居るが、一方日本雜貨の輸入好勢益々日醒ましいものあり、前月より卅萬弗の增加で結局日本の輸入減退は四十五萬弗餘となつて居るのである。然もこの日本綿布の輸入減少に依つて果して英國品の輸入がそれだけ增加したであらうか、統計の示す處では六、七月の英國綿布輸入は却つて六%の減退で唯マドラス・サロンが七百枚二千五弗を增してるに過ぎないのである。だから低

廉優秀にして最も民度に適合した日本品の輸入を幾ら制限しても、決して英國品の輸入を增加せしむる事は出來ない。唯領民の生活をより脅威する以外の何物でもない事を雄辯に立證するに過ぎないのである。尤も現在に於ては極端な輸入制限に拘らず綿布類はサロンだけが目立つて値上りを見たゞけで一般綿布はさツ張り騰つてゐない。全體としての割當數量は發表されて居るのであるが、各社の實際買ふた數量が判然せずハツ切り消費と供給の工合が判らないので何處でも氣迷ひ姿で、一番好く賣れる物だけを倉庫から受取らうとあせつて居るかに見える節あり、隨つて市場値段と割當數量買手持値段との間に一反（三十碼）卅仙もの開きがあるものすらあるのである。要するに何處でも最も有利に自己の持つてる割當數量を利用しようと機會の來るのを待つて居るのである。然し何れにしても輸入の大宗である綿布が少からぬ打擊を受けたのであるから、邦商はそれだけの補塡をなすべく競ふて新しい物の輸入に全力を注いで居るのである。

兎角英國人は日本品を目の敵の樣に思ひ、喧ましく邦品輸入の激增を問題とし神經を尖らして居るのであるが、馬來の全輸入量から見れば日本品の輸入量は僅かに七分で一割にも達してゐないのであつて製品だけとしても一割三分にしかならず、さながら全市場が日本品に依つて占領されでもするかの如く騷ぎ立てるのが餘りに不思議な樣な氣もするのである。同時に我々邦商としては日本品の活躍範圍が非常に狹められつゝあるに拘らず、織物類を除く以外相當稅金を覺悟すれば尙充分新しい商品をドシ〳〵輸入し、大いに發展する餘地が有ることを力强く思はずに居られないのであるが然も馬來としては聯邦州が何と云つても一番購買力があるのであつて、その二千七百五十平方哩、百七十萬の住民を除いた以外の消費は到底問題にならないのである。處がこの聯邦州の此處四年來の貿易減退振りは實に凄じいもので、一九三〇年の輸入一億六千八百萬弗が卅三年には六千七百萬弗五割九分の激減であつて、輸出も九千四百萬弗四割三分と云ふ減退であつたに拘らず、獨り其間に日本品だけが年々目醒ましい輸入激增を續けて來たゝめ目立つたのであるが、

それも一九三二年我國が金輸出を禁じて以來の事で僅かに此處一、二年に過ぎないのであるから日本品の馬來に於ける活躍は全くこれからだと云はねばならないのである。現在我國より當方面への輸入品種目五十四種中增加しつゝある物卅三品、減少廿一品で、增加の顯著なものは石炭、落花生、コルター、陶磁器、セメント、硫酸、明礬、ペイント、エナメル、カードボート、トランプ、自動車タイヤ、ランプ、香水、莫蘆の十五品、減少せる物十四を掲ぐればバナヽ、釘、ガラス瓶、綿製品、毛織物、綿布、帆布、帽子、綿肌着、自轉車部分品、マツチ、油布、護謨箱、香油である。而して聯邦州に於ける課稅品で日本に關係あるもの廿二商品に及ぶが、尙今迄知られてゐない物で有望なものが相當にあらうと思ふのである。年額一萬弗以上の輸入邦品で現在當方面消費の過半を占めてる物十七、八種、相當外國品と競爭狀態にある物七十二、三種、當領產品と競爭的立場にあるもの四、五種、何の方面に將來最も發展性を認めるかは當業者の大いに研究を要する處だらう、まだ〳〵新しい邦品を輸入すればどれだけでも賣れる餘地が充分有るのである。

7、サラワクとブルネガへ織物輸入割當改正

八月廿八日官報號外を以て本年五月七日より年末迄の外國製織物輸入割當量を改正せる新クオター表が發表された。右クオター數量の增加は僅かであるがサラワクとブルネイにも輸入クオターを採用、之を海峽殖民地の管理下に置く事に決定した爲である。卽ち兩地の織物制限を海峽殖民地の分に入れ、それだけ增した譯であつて日本の染色綿布輸入割當は九百七十七萬八千八百廿二碼が九百九十一萬八千六百六十碼となつたのである。

無地綿布（未晒白布含む）	二、四〇二、七四九碼	染色綿布	九、九一八、六六〇	捺染綿布	五、七九五、一五九
日本	四〇、四〇一	綿サロン（スレニダン）	五〇、一〇三	人絹反物	四、四三三、六一三
支那	九七一		一九三	人絹サロン	四八、九三三
	一五六、三七七		六、七二三、七六三		六六五、二〇四

伊太利	九一、七三五	一、五七三、九一三	四四四、七三五	七六一
和蘭	一、六三、九六六	二七一、一五三	五、三七三	七六九
蘭印	三五、七三五	六八、九二九	一、〇四一	
尚サラワク及ブルネイへ向け日本綿布一九三四年度再輸出數量二一九、七三二碼で英領馬來割當量二二、三五八、八三八碼に加算、サラワクは八月一日よりブルネイは五月七日より實施、船荷證言による積替を除外しサラワク及ブルネイへ向け日本織物は金額にして約三萬弗程度のものである。				
三三八、一八六	三、一八七	六、五六三	四四四、七三五	七六一
三二、一七八	一二四	三一〇、六三三	五、三七三	七六九
七八、八五五	四九	一、九九〇、二〇五	八、二九九	一、〇四一

8、南洋貿易の內容變化と重要性の倍加

馬來の景氣を左右するものはR、T、Cだと云はれてゐる。卽ち護謨と錫とコプラが英領馬來の經濟界に最重要な位置を占めてる事實を物語つて居るのである。然も錫、コプラに比して護謨が特に重大な意義をもつてることは、其價格の騰落が一般馬來市況に以何に痛烈な影響を與へつゝあるかを見れば判るのである。スチムソン制限案で護謨價がメキ〳〵回復し封度一弗八十仙の頂上に達した一九二五年の馬來貿易總額は廿二億弗を越へて居つたが、護謨價四仙の底値をついた一九三一年のそれは實に七億弗にも達せぬ悲慘なものであつたのである。何にしても收入三分一減では人口四百五十萬の馬來の景氣は火の消えたみたいなものたらざるを得ぬのである。隨つて其購買力激減に依て最も痛烈な打撃を受けるものは英米の高級品であり、爲替安の波に乘つた日本品が市場を席捲するのは當然な現象でなければならんだ。一九三一年暮れ日本が金本位を停止して以來、蘭領でも英領でも一般市況の沈衰に反比例して物凄い程日本品は賣れ出して來たのである。日本の護謨靴と雷球には全く英國も米國も匙を投げて仕舞ふたのだ。馬來聯邦州は原價二三十仙のキヤンバス靴に一足五十仙の關稅をかけたが、それでもまだ完全に日本品の輸入を防遏することが出來なんだ。英領馬來への最も重要な輸入邦品を順次擧げれば綿布綿製品、セメント、石炭、人絹陶磁器等であらうが中でも綿布

綿製品は斷然數量も金額も壓倒的で、且つ英國品に對して最大の脅威であると云ふので、二割の關稅を二割或は碼五仙その高い方と規定されたのだつた。ヤード五仙では廿吋卅メートルの捺染地原價二弗廿仙の物に一弗五十仙の關稅が掛けられるのであつて、約八割の重稅につくのである。流石にこれでは日本の綿布も一時取引中絕の姿であつたが、其後行政會議に於て一印度人委員の質問に依れば、馬來の重關稅は驚くべき密輸入の激增を招來せるのみ、却つて關稅收入はそのため非常な減退を示すに至つたのだ。然も馬來六百哩の海岸線は到底この密輸入を防壓することが出來ない現狀に置かれてあると云ふのである。隨つて一部には護謨價回復以來勞働賃銀が上り、借入金を嚴重に督促さるゝに至り、一層金融的に苦痛を訴へて居る向きもないではないが、一般的には邦品賣行きの旺盛に乘じて相應營業狀態を改善し、非常に發展した邦商も少なからぬのである。尤も新嘉坡に於て今や日本品を輸入販賣しつゝあるもの土庫の邦人商社支店を除き、所謂下町の邦商六十軒、白人約卅軒、支那人七十人乃至百人それに印度人六十軒と云ふ多數で、競爭の激甚なること全く想像以上であるから、此點から云つて多數邦商の營業狀態は寧ろ輸入旺盛に反比例して、甚だ困難な立場にさらされてるとも云へるのである。乍然、爲替安と生産費の低廉は或る程度の障害を乘越へて滔々日本品の侵入を悉に放任せざるを得ない狀態にあるのである。從來サーデンは九割方米國から輸入されてゐたのである。然も今や殆んど日本製品に置き替へられて仕舞ふたのだ。其外新たに輸入され其數量金額を激增せる邦品の種類は無數であり、更に今後有望だらうと思はるゝ商品も決して少なくないのである。尚馬來からの內地輸出に關しても相應考へる必要があらうと思ふのである。北部暹羅から輸出されつゝある一種のラック塗料は態々新嘉坡經由印度に持つて行かれ其處から日本へ輸出されつゝあるのである。新嘉坡對日本の貿易關係は日本より輸出二千五六百萬弗、輸入四千二三百萬弗と云ふ現狀で非常な輸入超過であるのである。而して護謨の如き近年漸次輸入數量を增加しつゝあるけれども尚全額四百萬弗內外に過ぎず、輸入の大半を占めつゝあるものは實に重油なんである。隨つて我對南洋貿易の內容も形態も近年非常

な變化を來して居るのであつて、年と共に益々重要性を加へつゝある事實に鑑み一層在留邦商は緊張して、この多難な非常時に對處すべく確乎たる覺悟をチヤンと腹にすえて置いて貰ひ度いと思はざるを得ぬのである。內地朝野に對して要請すべきことも勿論多く、我々は聲を嗄らしてその反省と改善を促して居るのであるが、要は在留邦商の覺醒と奮起に待たねばならない事實が一層多いのである。馬來の行政改革、關稅統一等相應在留邦商に重大な影響を齎らすべき問題が澤山眼前に橫はつて居るのである。シムラ會議はどうなるか、蘭領は今後果して如何なる態度をとるであらうか、斷じて安閑としては居れない秋であるのである。

9、極る處なき値段の切崩しが邦品に對する非難の焦點

九月一杯で本年（昭和十年）度綿布輸入許可量殘高を取上げ整理の上、更に十月早々殘り分を夫々再下附するとの事であるが、契約濟輸送中の物等種々早急解決困難な問題あり、各方面に相應影響を與へないでは置かないだらうと思はれるのである。第一政府は本年始めクオターを決定するに當り五分八十數萬磅を保留し超過の場合に備へてゐたのであるから、到底賣殘り全部を許可される見込みはないのである。隨つて九月一杯に全部賣盡せば一番好いのだが不需要期にこの景氣ではとてもそれは望めない。一流處では何れ十月から年末へかけて需要期品拂底で値段が上ると見越し、却つて賣惜しむかも知れぬが果して思ふような高値が出るかは聊か疑はしい。恐らく九月は飛躍的な輸入高を示すであらうし、比較的資本の薄弱な店は銀行勘定に追はれドシ〳〵品物を賣り急ぐことを餘儀なくされるに相違ない。綿布輸入制限割當の影響が本年上半期貿易統計にどう出てるかはまだ判らないが案外一流綿布商は困つてゐない。量の減つたゞけは充分價格の値上りで補ひ、割當の少ない店はどうせ綿布だけを輸入するのでなく外に本業を持つて居るのであるから面倒だとそツくり貰ふたクオターを其儘賣つてる處もある。何しろ護謨が安くその上蘭領への再輸出が益々難かしくなつて來たので、田舍からの注文がさツ張りなく貸したが最後資金回收が出來ないと、何處へ行つても遣切れませんと不景氣な話ばかり聞かされるのであるが、主に邦品を扱ふてるハイ街華僑の如き中には勿論金融に追はれてる店もあらうが相應荷動きもあり、第一キヤツシでうんと持つてるので案外手堅い商賣をやつて行きつゝあるのである。ボイコツト解消以來華僑の回復相應目覺しいのも確かに邦人商店にはこたえて居るに相違ない。然も半島では又幾らなんでも新しい商品がちつとも來ず何時見ても變つた物がないのでは店のさびれるのが當然である。現金こそないが賣買力が全く枯渇してると云ふのではないから、せめて二三箇月でも卸賃をして貰へればと云つて居る。事實華僑卸店が相應やつてるのが何よりの證據で、綿布を別とし一般雜貨も昔の樣に三箱五箱と云ふ注文こそないが、彼を三打これを五打と詰合した荷物が相應出つゝあるのである。邦商でも輸入割當で最も打擊を受けた筈の綿布商が案外儲けて居るのみならず、雜貨方面でもこぼしながら儲けて行きつゝある店も少なくないのであつて、商賣は全く內輪に這入つて見ねば實際の處は判らないが、兎も角も日本品を扱はなければ店がたつて行かないのだと云ふから愉快である。

最近も半島に歐洲人ばかりの貿易會社が出來て大いに英國品を賣るつもりであつたが重役會議の結果、どうしても八割は日本品を扱はなければ算盤が採れないと云ふ事に決定し、支配人が態々仕入れ旁々日本視察に行つたのがある。唯外人商館が最も苦痛とするのは日本品がドン〳〵値段を切崩して行くので、絕えず非常な損害を受けるのに困り切つて居るのである。例へ昔の樣に三割なんてボロイ儲けはなくとも一割でも一割五分でも、確實に儲かりさへすれば好いのだが値段をドシ〳〵切崩されては耐まらないと云ひ日本品を非常に危險視して居るのである。尤も此値段切崩しに閉口垂れ切つて居るのは邦商自身も同然で、銀行の仕拂に追はれ損と知りつゝ安賣を餘儀なくされる店や、オバーストツクを杞憂し賣急ぐ者等が最も警戒されざるを得ぬのであるから仕方がないのである。お互ひに無理さへせねばも少し樂に商賣が出來る筈だが、懷中勘定でそれが出來ない場合があるのである。

10、邦品激減の割に英品增えず

織物輸入割當細則が廿日公布され、同日以後到着の輸入綿布、人絹布は全部保稅倉庫に入れられライセンスが下るまで再輸出を除き、英領消費に賣出すことが出來ない事になつたのである。のみならずライセンスは多分來月末までには貰へるだらうとの事であるが、何しろ本年一月以降今日までの輸入數量、輸送中のものそれに先物注文まで悉く調査し、個別割當量と對象し、本年度輸入許可量から差引き殘つたぢけのライセンスが下附されるのであるから、最近特に活躍發展の目覺しかつた店は當然もう一杯で今年は輸入ライセンスが貰へないと云ふ譯である。一九二七年から三一年までの輸入不振のドン底を基準に、その四割五分を再輸出品として控除したものを許可するのであるから、一昨年來漸くボイコツト緩和し、少しづゝ護謨價も見直して來て需要激增を見るに至つた日本品にとつては實に非常な大打擊で、事實に於て昨卅三年の輸入數量に對比すれば八割と云ふ極端な輸入制限となるので殊にサロンの如き殆んど全滅の憂目を見ねばならないのである。勿論ストツクがまだ相當あるからスグに商買があがつたりと云ふ譯ではなからうが、もうこれで今年は輸入出來ない處は一體どうすれば好いのであるか。

更紗の如き割當實施を見越し疋二弗近い奔騰を見たが、拙急に價格を釣上げてもそれでは流石に買手がなく、中には また値下げしてコツソリ捨賣りをやる店が出て來てガラリと再び市價の參落を見たが兎に角安い日本品がグンと減るのであるから、馬來の綿布、人絹布値段はいやでも騰らざるを得ぬのである。結局一般の消費階級は遣切れない。護謨制限で少しづゝ苦力賃銀が上つたとしても、生活必需品が如斯にしてグン〳〵釣上げられるのでは、依然として勞働階級は助からないのである。日蘭會商に對する蘭印政府の態度に爪哇土人の反抗心は火の如く燃えつゝある。民衆の生活を脅かしてまで本國產業資本家の保護に汲々たるに至つては、遂に屬領の民心離反は餘儀なき結果であらねばならないのだ。在留邦商はこれでは勢ひ蘭領への再輸出に一層馬力を懸けねばならぬ事になつて來たのであるが、スマトラの土人護謨輸出稅は封度八仙で實質に於て約三分の一に制限されると云ふし、エステートも本年度蘭印輸出量卅五萬餘噸を土人園十五噸、エステート廿二萬五千噸と見積つたのが大きな間違ひで、最初から三分の一に制限するの餘儀なきに至つたと、何が何やらさつ張り判らない狀態でとても蘭領はサロンを買ふ處の騷ぎではないのである。何にしても癪にさはるのは英國の遣方だ、護謨も錫も石油も悉く此處からは買はない。全部蘭領で買ふと力氣んで見ても第一値段が盾の關係で馬鹿に高いし種々事情もあつてそうも行かない點があり、殊にそれでは愈々我々在留民の立つ瀬がなくなる。況んや英蘭は堅く手を握つて日本いぢめを遣つてるんだから始末におえない。然し我外務省も當方面の輸出が此儘放つて置けば全滅し、蘭印七千の在留民と共に英領六千の同胞も亦愈々總退却の餘儀なきに至るのであるから眞逆か見殺しにはせぬだらう。我等は運命を何處までも國家に任せて鯉の如く俎の上にふんぞり返つてゐやうと思ふて居るのである。

11、輸入商激增で邦品滯荷山積

生產制限で兎も角も廿四五仙まで行つてゐた護謨相場が卅五年度第一期減產率二割五分決定と、蘭印土人園統制困難の不安濃厚にヂリ安を續け、十一月廿二日遂に現物廿仙臺を割つて十九仙八分の七に落込んで仕舞ふた。廿七日の國際護謨委員會でこの崩落相場に對し何等かテコ入れの相談があるだらうとの期待もあつたが、來年一期限產率三割期待が裏切られた不安人氣は相當根强いものがあり、亞米利加の買氣が現はれざる限り相場は容易なことでは立直らないだらうと見られて居たのである。一體今度の生產制限は殆んど瀕死の狀態にまで投込まれてゐた護謨會社が漸く息をつく事が出來る樣になつたのに對比して、弱小個人園は甚だ惠まれない狀態に取り殘された感なきを得ない事實が至る處にあるのである。利得の全部を稅金として徵收されて仕舞ふ蘭印土人園程ではないとしても、馬來半島に於ても何かと手續

きが非常に難かしい爲め費用もかゝり小賣漠園はこぼし切つて居るのである。其上久しく滯をつてゐた稅金を完納せねばクーポンが貰へず、ケツテまでが急に喧ましく督促し出すと云ふ有樣で、漸く生産制限氣構へで出かゝつてゐた地方の景氣すら却つて一層逼迫したかの感を抱かせらるゝに至つたのであつた。然も護謨値上りで景氣立直りを豫想した內地の問屋はドン〳〵荷物を送つて來る。綿布に次で雜貨も亦輸入制限が實施されはせぬかといふ不安からの見越輸入がある。惡いと云つても兎に角一頃から思へば餘程金廻りも好くなつて居るのであるから、相應荷物は捌けて行きつゝあるのであるが、何にしても餘りのオーバストツクで、餘儀なく安賣り競爭と來るから耐らないのである。

下町邦商も一般的に取引高がグンと多くなつて來た、商買のスケールが見違へる程擴大されたと云つても三軒も倉庫を持ち、一商店で二三十萬弗の在庫品をかゝえてゐてはどうにもならないのが當然である。陶磁器は卅三年六月から九月に至る月平均輸入額三萬五千七百弗だつたのが卅四年同期は七萬七千五百弗、自轉車部分品は前期四箇月より卅二萬七千弗の輸入增加で卅二年の總輸入額よりまだ四箇月分多いと云ふのだから驚嘆すべきオーバストツクが想像出來よう。ベニヤ函百廿%の增加、琺瑯引其他鐵器前年に四百四十四噸が今年は千四百卅四噸、馬齒蕩の如き卅三年六月から九月迄での月平均輸入量七百四十噸が卅四年同期二千七百噸實に五倍強の增加だから物凄い、鹽干魚、サーデン罐詰、煉乳なんでもかんでもストツクの山である。降誕祭、馬來正月、舊正月と如何に需要期を控へてゐても之ぢやどうにも動きが取れない、關西風水害で少しは息がつけるかと思ふてゐたのも全くの空頼みとなつて仕舞ふた。

最近日本品を輸入するのは支那人、印度商人ばかりでなく、歐洲人商館でも總て邦品を取扱ふてゐない處なく、特に猶太人が非常に力を入れて居るのであるから、この輸入超過的趨勢と云はざるを得ぬのであるが、それも程度の問題でこうストツクが山の如く積上げられ、その上こうと船毎に滿船の勢ひでやつて來られてはたまつたものでないのである。支那人街の消長は新嘉坡の商勢を窺ふのに最も肝要なバロメーターの一であらうと思ふのである。ボイコツト解消で支

那人街が夜の明けたやうに活氣を盛返して來たに拘らず、大きな綿布問屋が軒を列べてゐたチュリヤ街のさびれ方そゞろ物の哀れを誘ふものあり、それに反し古くから日本雜貨を商ふてゐたハイ街の復興は流石に目醒ましいもので、ボイコツトのお蔭で面目を一新しすつかり土臺を固めたカンポン・ヂヤワの印度人商店も、依然として繁昌を續けて居り、間に混つてる支那商も今は日本の人絹で美しく店頭を飾つて盛んに顧客を呼んで居るのである。それから之まで餘り振はなんだニュブリッヂ路方面の高壯な宅家がドシ〳〵ふさがり、新しい店が續々開店しつゝあるのも殆んど全部がこれ迄餘り當方面に來なんだ新しい日本商品を主として扱ふものばかりなんである。だから新嘉坡市場に於ける日本品の賣れ行きは此處二三年來全く隔世の感なきを得ぬ程の發展を見つゝあるのであるが、何にしても輸入商店が餘りに一度に激增したゝめ必然的に激甚なる競爭を餘儀なからしめ、各國人共靑息吐息の商買に骨身を削られる思ひをなしつゝあるのである。隨つて輸出及び販路の統制等と云つた處で到底追着くものではないのである。そしてヂュと來るんだから昔の樣な樂な商賣を夢見て居つたらそれこそ忽ち破產である。面に於ける輸入激增の影に泣かされざるを得ない在留邦商の立場も亦悲慘なる哉である。

12、最も眞劍に英官憲の輸入防壓對策を考究せよ

世界至る處の英國領土が久しい間附近の繁昌を奪ひ素晴しい發展を續けて來たのは、自由貿易主義で共港灣の出入に殆んどわづらはしい稅關の手續き等を要しなかつたのみならず、陸上の取締も非常にゆるやかで餘り窮屈な統治に馴らされてゐない亞細亞人等が至極のんびりと生活し得たと云ふことが、相當大きな原因をなしてゐたであらうと思はれるのである。處が英國は弊履の如くに自由貿易主義を一擲し保護貿易に轉向すると共に、あらゆる方面に努めて小喧しい取締りを始めた樣に思はれて仕樣がないのである。

大道の物賣りを片ツ端から捕へ豚の如くトラックに押込んで警察に引張つて行く如き、餘りに無智で圖々しい小商人も小商人だが、面白半分やつてるんではないかと思はる、巡査の態度にも相當反感を徴發されずに居られない場合が多いのである。車夫などに對する巡査の威張り方も亦餘りに亂暴に過ぎると思はるゝことが少くないのである。市中の衞生、風致上からは勿論或程度それも必要な事ではあらうが、本當に市民の生活を考へ市の發展のためと云ふなら馬來や印度人の巡査に幾ら同じ事を繰返させても恐らく目的を達することは難かしからうと思ふのである。斯くて自由と放任に依つて招來し得た繁榮が結果に於て漸次英領から逃去るの餘儀なきに至るのではないかと人事ながら我等は餘計な心配もさせられて居るのである。輸入割當や關稅引上が此上更に強化擴張されるに相違ない。小役人の云ふ事はもとより信じられぬがライセンス・コートに行くと結局日本品の輸入を絶滅し、在留邦商の擊退を目的にやつて居るのであるから共便宜を計ることなどはとても出來ない、役所の仕事が捌けず困ると云ふから商賣をやめてさツさと引揚げたら好いではないかと公言して居るのである。

政廳では更に充分商賣に經驗あるセールスマンの失業者を七人も雇入れ、驚く程詳密に輸入商品の實情を調査しつゝあるのである。少しでも目立つて最近輸入を激增しつゝある邦品はドシ〳〵防壓手段を取らんと準備しつゝある樣に思はれるのである。過酷な關稅政策に依つて如何に馬來住民の生活が脅かされ、其繁榮が失れつゝあるか等はテンデ考へてもゐないらしいのである。日本品さへ來ねば必ず英國品が賣行きを挽回し得ると彼等は信じて居るかも知れないのである。餘りに馬鹿々々しい事實であるが彼等がそう考へて居る以上、そのつもりで相當の對策を我々も考へて置かねばならないだらうと思ふのである。輸入制限だ關稅引上げだと愈々發令を見てから急に騷ぎ出しても追着かない。怪しいと思ふ物は輸出の統制や値段の釣上げ等で出來るだけ英官憲の警戒を緩和するに努めなければならないだらうと思ふのだ。第一尙依然として旺盛を持續しつゝある輸入邦品にも殆んど一杯ではないかと思はれる物と、尙相應發展の餘地

ある物とがあるのである。寒天の如き日本品が既に市場を占領して仕舞ふて居るのであつて、需要者の增加以外には殆んどもう發展の餘地がないのである。其處へ行くと自轉車部分品の如きは素晴しい勢ひで輸入高を增して居るが、尙發展の餘地が相應殘されて居るのである。又煉乳も最近特に目立つて輸入を激增しつゝある、それに反し英國品が甚だ振はぬのであるが今當方面の市場を席捲しつゝあるものは和蘭、丁抹品で比較的日本品の輸入增加が目立たず、且和蘭品には種々の關係があるのではないかと思はれる節あり、晉々日本品の活躍に非常な好條件となつて居るのである。勿論是等はほんの一例に過ぎないが市場の狀勢を最も詳細に研究し、夫々適應策を事前に講ずる樣にすれば恐らく我輸入貿易に一層堅實性を附與し在留邦商も急に營業に脅威を感ずるが如き事なくして、より安全な發展を期待し得るのではないかと思のである。當領輸入旺盛と相俟つて大いに考へねばならない事は日本人の輸出增進である。我大藏省の統計は新嘉坡で買込む重油を蘭印からの輸入と計上して居るので、當地の輸出統計とは二千九百萬圓の喰違ひあり日馬貿易は双方共輸出超過となつて居るのだが、こんな事實も愈々バーター制など持出される場合には非常に不利な立場となるのであるから、好く考へて置いて貰はねばならぬと思はずに居られないのである。兎に角英官憲が益々ヒステリカルになりつゝあるのであるから、在留邦商は目前さへ繕へば好いと云ふ樣な考へを捨て何處までも眞面目に國家的經濟發展に全勢力を傾注せん事を祈らないでは居られないのである。

13、織物と護謨競爭に關する立法會議に於ける總督の演說

十月廿六日（一九三六年）午前トーマス總督以下スモール民政長官、軍司令官ドビー少將、マクエルウエーン檢事總長、フレッチヤ中佐、彼南理事官グツドマン氏、馬拉加理事官ブライアント氏、ワイスバーク財政部長代理、パーカー土木局長代理、フイツジエラルド醫務局長、モーテン教局長、ジョーダン華民政務司、バロン稅關局長、グリフインス

警視總監代理、エブデン土地局長、各官吏議員並にバグノール、ウイルヤムソン、鄭連德、邱善甫、アブドル・カーダー、ロバートソン、ニユボールド、ウイリアム、ゼンダー少佐、ハシム大尉、リーンレー・ジョンズの各非官吏議員出席、海峽殖民地立法會議豫算會議開會、總督殖民地の財政、國防、敎育、衞生、農工諸問題に就て說明、一九三五年度二七五、七三九弗の黑字を出し歲入超過累計七一、二二九、三七〇弗に達した殖民地財政は明年も約二七萬弗の黑字を見込まれるに至つた。卽ち立法會議に提出された修正歲出入豫算に依れば歲入總額三三、八〇九、五七五弗、歲出三四、五一九、七一九弗であるが、本年度の實成績に徵し充分黑字を出すことは確實である。修正豫算で原案より減少せるものは

利子	一九七、四〇二弗	
土地賣却及讓利息入	八、八二三弗で豫算額より增加せるもの、主なるものは	
裁判費並に特別公務	八一、八二五	
政府財產地代	七七、八六五	
ライセンス、消費稅及入國稅收	五、七三九	

其他計五一四、〇三六弗で差引き三〇七、八一一弗の增加となつてゐる。又歲出修正豫算にて原豫算額に止つたものは土木事業費八二〇、六五九弗を筆頭に敎育費一八一、三四三弗等二、二三二、五二三弗にして原豫算を超過せるもの計八〇三、二七一弗で差引き一、四二九、二五二弗が原豫算より減つてる譯である。

一九三七年度豫算案

歲入	三二、五一四、六一一弗	
特別支出	六、一〇〇、六四二	

特別支出の主なるものは新嘉坡民間飛行場建設費九三七、九三九弗、高等法院建築費七十萬弗等である。

歲出	三〇、一七四、二九五	
不足	三、七六〇、三二六	

尙敎育問題に關し小學校授業料變更の意思なしと說明、一九三五年官立學校及補助學校生徒數八七、七七九名で前年より五、三二〇名の增加である。而して同年私立英語學校生徒數は六、一一五名で前年より二六五の增加であつた。男女別にすれば官立並に補助學校男生徒數は一九三三年から五年まで減少したが三六年は九百名の增加を見、女生徒は不況時代にも減少せず現在七、九六九名である。中等學校の授業料も一九四〇年乃至四一年までは値上する意向はない。現在貧困のため授業料を免除してる生徒數は三、四五一名で全體の一割三分三厘に當ると說明更に貿易問題に關し概要左の如き演說をなした。

貿易全般より見れば殖民地成績は滿足すべきものあり、一九三六年上半期に於て前年下半期に比し顯著なる躍進を示して居るが、之は主として護謨並に錫の景氣恢復によるものである。現行制限案が布かれて居る限りこの躍進が維持されぬといふ理由なく、世界貿易が昔日にかへり諸制限の缺陷が除去されるに至れば主要生產國たる馬來は最先きにその恩惠に浴するに相違ない。幸ひ各國は自給自足政策が無益であることに氣がつき初めた兆候があり、吾人は過去の困難、障害を忘れて進步と繁榮の新時代に入らんとしてゐるものと云へよう。當殖民地は大なる錫生產者ではないが錫產業は殖民地の貿易に重大な關係をもつて居る。御承知の如く國際協定が今年を以て滿期となるため、之が改訂に就き交涉が行はれて居るが、余は交涉がうまく整ひ各國の受諾し得べき基礎を以て制限案が改訂さるべきを信じて居る。外國製織物の輸入統制案は實施以來二年を閱したがその間の經驗に鑑み、その實施には多少困難が伴ひ且缺陷あることも分明した。依て之等の困難を除去すべく最善の途を考究しつゝあるのであるが、余は織物統制は大規模な帝國の方針の一部として實施されたものであつて、現行管理方式を變更するにはある事を申上げたい。然しながら余は織物のみならず護謨貿易に於ける競爭に於ても商業界が現在感得しつゝある想念に對して充分の同情を有する、余はこれらの問題について貿易並に海運方面よりも陳情を受けてゐるが、然し今日この

席上に於ては慎重に研究中であるといふ以外何も云ふことは出來ない。久しきに亘つて圓滿に行はれ來つた殖民地貿易が今や新たなる方式に依て災ひされ、新たなる方向に向へるは覆ふべからざる事實であり、熟々この問題を考へるに今日の種々な困難の一部が果して久しきに亘る慣例を餘りに嚴重に守り來つた事に依るのではないかとの不審を抱かざるを得ぬのである。余は過去に於てその貿易に恩惠を與へ來つた方針を今直ちに放棄せよと云ふのではないが、今日の如き事態に於て猶この方針を持續することが果して可能なりや否やは充分考慮すべき必要があると思ふ、勿論かゝる問題は頗る複雜せるもので、政府が直ちにそのイニシアチーブをとつて動くことも宜しくない、余は殖民地にて通商貿易に携はつてゐる者が衷心協力して吳れるならば、之が解決の途も發見されるものと信ずる、この協力に就て意見があれば余は何時にても各代表を網羅する委員會を任命して應急策を講ずることを躊躇しない、余の上述の言が諸君の贊成を得るや否やは兎も角として、余は殖民地の商社が團結しそれら存立を脅かし始めた危機に備ふべき有力な行動に出づべき要ある事を此處に促すものである。余は殖民地の商人がそれ位の行動をとる能力は持つて居るだらうと信ずるのである政府を代表し此處に政府の爲し得る凡ゆる援助を惜しむものでない事を約束する。此問題に就ては政府が當業者と共同戰線を張ることが肝要であり、殖民地の傳統に照し友誼協力と親善の可能なるを信ずるものである。

14、綿布輸入割當更に入札制

織物輸入割當制限は日本製品の進出に可成りの打擊を與へたことは無論であるが、當初當局が期待してゐたに反し制限割當の結果も何等急激な英國製品の進出增加を齎すに至らず、英國商社並びに綿業者間に悲鳴が擧がるに至り、現行割當制乃至輸入許可制の改正問題が先般來當局に於て具體的研究が進められつゝあり、一部邦人當業者間では或は明年度輸入許可制を入札制度に變更するのではないかと懸念されつゝあつたのであるが、十一月（昭和十一年）十四日政廳當局は突如英本國大臣の意向に基き明年度より、入札制度を施行する方針の下に右法案を立法會議に提出する旨發表した。從つて同法案は遠からず立法會議に上提されるのである。先に海峽殖民地來年度豫算案討議の立法會議に於けるトーマス總督の演說に依つて事態の成行きを比較的樂觀してゐた郡司總領事は右公表により十六日午後本省宛報告すると共に訓令を仰ぐところあり、一方松田領事をして政廳當局の眞意を打診せしめたが、邦人綿織物輸入業者組合でも豫てこの事あるべきを豫想してゐたとは云へ、その影響するところ計り知れないものがあるため「松田領事打診の結果を待つて緊急協議會を開き善後策を講ずる事になつた。入札制度施行に對する政廳當局の方針として公表された處に依ると明年度基準割當は日本製品三千四百萬碼に變更なきも、明年度一月より三月に至る第一・四半期は基準割當量の四分の一に相當する量だけ現在ライセンスを所有する者に對しライセンスを交附し、四月以降十二月に至る九ケ月間殘り四分の三を入札に附し、その入札料收入如何に依つてライセンス料も決定されるのであつて、入札の方法等に就ては未だ發表されてゐないが、現在一律に一軒五弗を徵收されてゐるライセンス料もこの結果或は增加されるのではないかと懸念されてる上、入札制施行の結果は弱小商店に致命的打擊を與へるは無論、大商社と雖も場合に依つては他國人會社に依つて落札された上現品を輸入しないといつた手段に出られる恐れがないとも限らぬので成行き頗る憂慮されて居るのである。

15、勞働黨機關紙商相の火遊びを警告

六月一日から九月九日に至る第一期土人護謨輸出許可量が四七、一八三千キロと決定し、封度八仙の輸出稅を徵收する事になつたので蘭領、特にスマトラの田舍では稅關にも人手が足らず、役人も不馴れと來てさツ張り仕事がはが取らず、土人も亦前途悲觀で働かうとせぬので市場さながら火が消えたやうな無氣味さ、お蔭で邦人商店朝から一人の顧客

さへない有様だとは困つた事である。馬來半島でもモア方面の如き護謨稅金一日二萬弗を突破する勢ひで、我れ先きと制限實施前に賣急ぎ夜に日をついで亂採を競ふた結果、愈々制限實施の今日聊か力拔けの感なしとせず、一般市況何處もヤレ〳〵と云つた有様で第一町へ遊びに出て來る者も少く商勢甚だ振はぬ處へ、今度はまた輸入割當、ライセンスがなくては日本から一切綿布、人絹類輸入まかりならぬとなつたんだから泣面に蜂で寄るとさはると近頃話はそればかりである。

一體どないなるんでせう、一九二七年から三一年迄五年間の日本から平均綿織物輸入數量三九、九一四、六九五碼、五、六二九、三九六弗それを基準として輸入が制限されるとしたら、昨三三年の輸入量九九、四六五、八三三碼、八、九五二、五五九弗に比較し數量は三分の一强金額に於て半減近くになるのである。尤も現在廿數軒に及ぶ綿織物輸入問屋の多數は極最近日本綿布の輸入に手を染めたものであるが、其處へ行くと三井、三菱、下田等邦人商店は何れも相應地盤が確つかりして居る。尤も輸入許可はどう云ふ形式で下附されるかまだ判然しないが、英領でも外土地から最近移轉して來たもの及び店は古くとも日本品を輸入し出したのは此處二、三年と云ふのを除外するとなれば恐らく競爭相手は半減するに相違ない、事實に於て日本より輸入された綿布取扱ひ高一昨年は邦商六割で昨年は三割五分に減じたが、それでも輸入高の激增で邦商の發展は尙且つ相應目立つてゐた。

だから輸入問屋が半減し價格がグツと釣上げられ商賣が樂になれば却つて邦商は儲かる樣になるかも知れぬが、半分以下の輸出に制限される內地の生產者と無理に高價な綿布を買はされる馬來の大衆はたまつたものではないのである。尙新嘉坡の輸入特に邦人商店としてはその六割が更に蘭領等に再輸出されるのであり、再輸出は今度の割當制限から除外されるので以上の數字は相當訂正されねばならない譯だが、日蘭會商の結果がまだ見當もつかない今日では其處にも惱みは深からざるを得ぬのである。だが要するに不況深刻のドン底を基準として漸く世界的に原料の賣れ行きも見直し

殊に制限實施で護謨價が相應恢復して來た今日を律せんとするのは餘りに無理である。低廉優秀な日本品がなければ餘儀なく高價な英國品を買はねばならぬ樣になるだらう。然も斯うして日本綿布の市價まで餘儀なく釣上げられたら、苦力は二割位の賃銀値上げでは助からない、一般サラリーマン階級も亦當然增給要求を叫ばさるを得ないに至るべきは火をみるよりも明かな事實である。況んや英國は斯如して益々國際的感情を尖銳化せしめ、自ら疑心暗鬼に攻められて海軍根據地建設工事の完成を急がなければならなくなりつゝある。だがセレタ根據地の防備力が如何に理想的でもそれは貿易衰兆の加速度的行進を防ぎとめるよすがにはちつともならないのだ。洪水の如く滔々として侵入し來る日本品を眞に或る程度に制限せんとならば、少くとも日本海軍の第二艦隊だけにでも對抗し得る海軍力を極東に急派する必要があるだらう。ランシマン商相の危險な火遊びを警鐘する者は決して勞働黨機關紙だけではない筈だ、日本人は維新この方何時も火のついた薪木を荷なはされてカナンの荒野をさまよはされて來たのである。如何なる困難が前途に橫つてゐやうと今更少しも恐れず、力强く其進軍を續けて行くだけの自信を持つて居るのである。自ら墓穴を掘ることを急ぐ邦家のあがきの何んぞ悲痛なることまである。

16、護謨生產制限六月一日より實施

護謨制限交涉玆に成立し協定全部纏まり、其條件及規定を含む正式協定書一九三四年五月廿九日各代表委員に依り調印された。

一、此協定書は關係國政府へ向け六月一日より實施すべく法律を以て規定を有效ならしむるやう措置する要求を添え承認を仰ぐ事となつて居る

一、國際協定の二主要趣旨は次の如くである